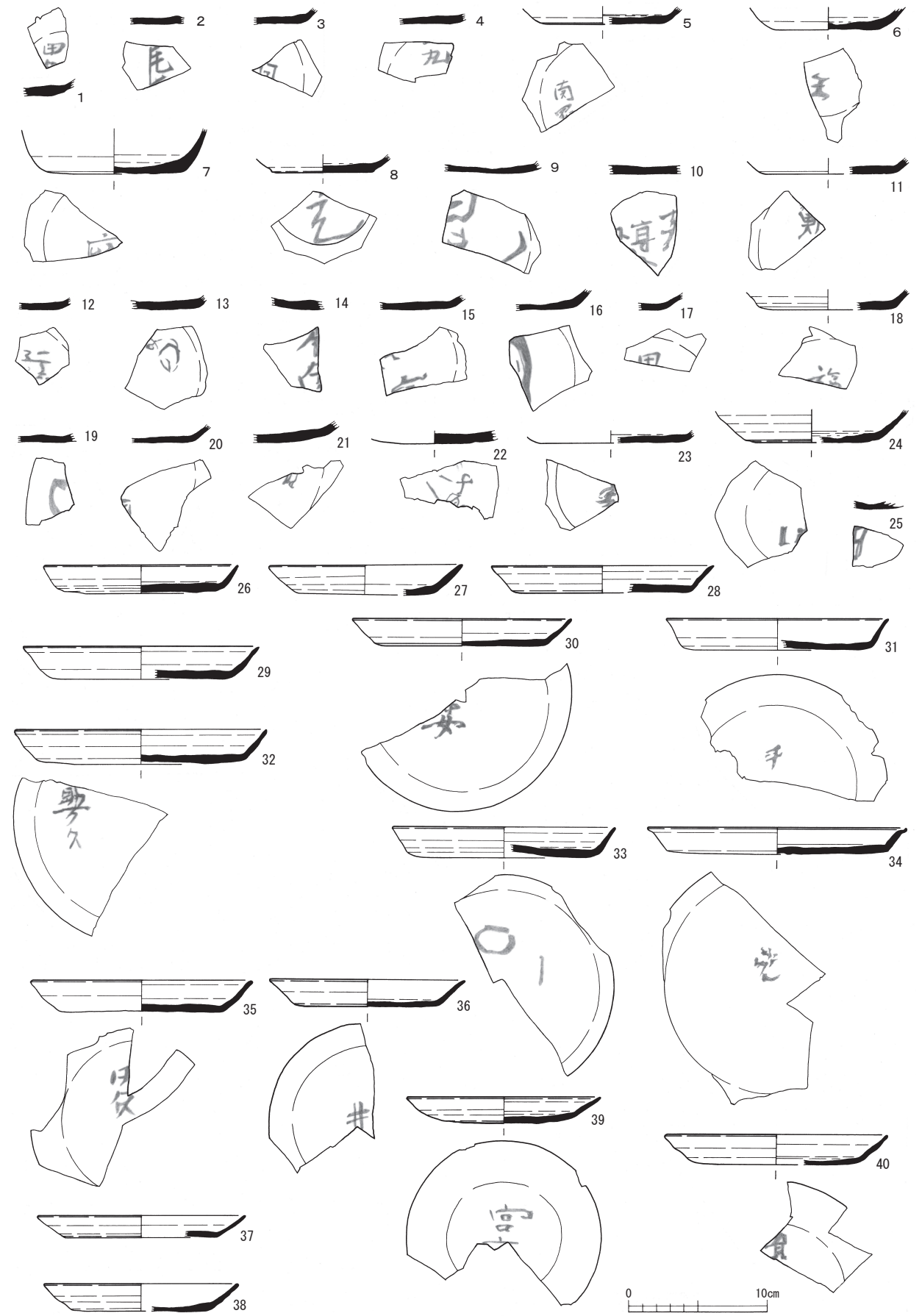
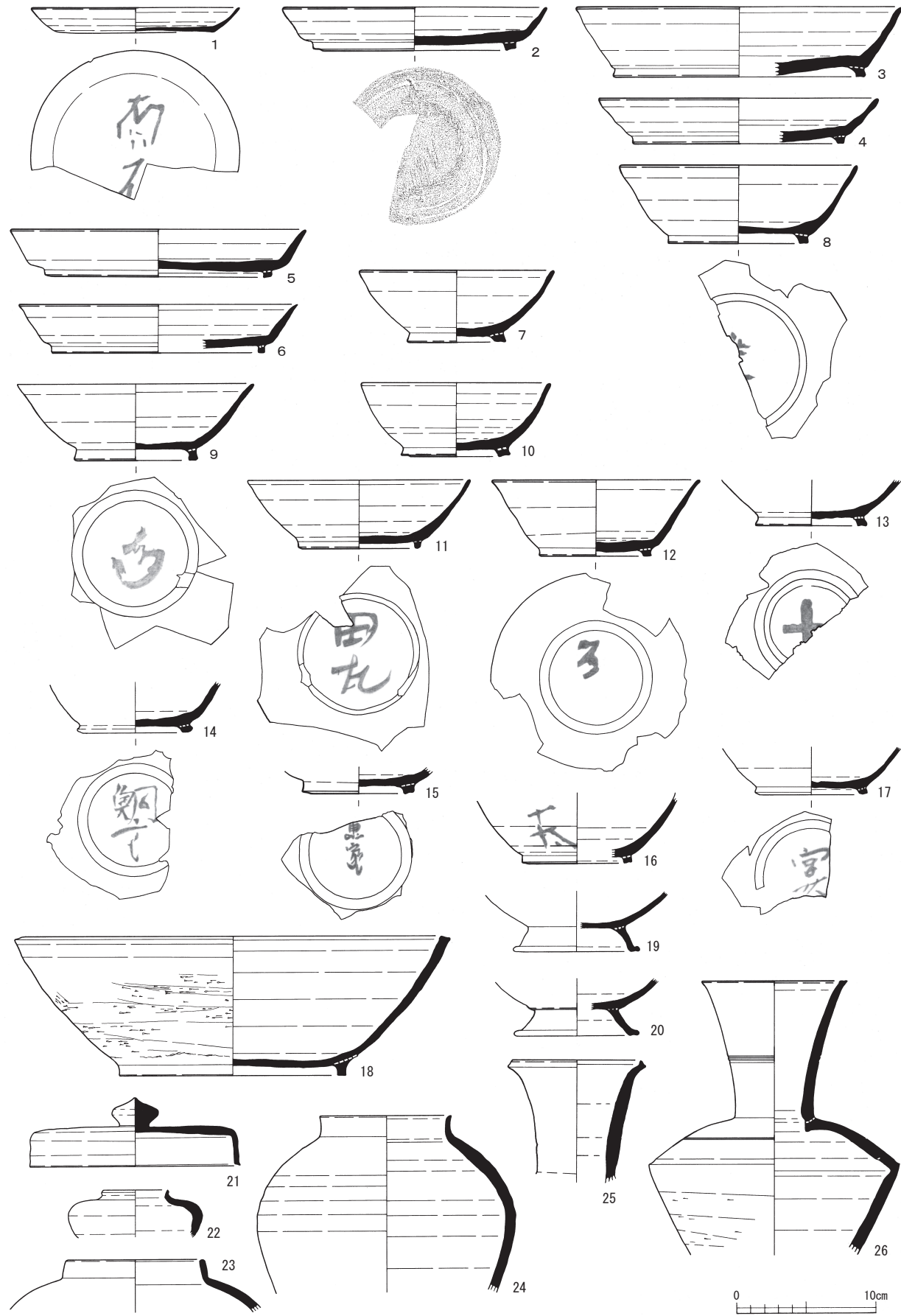


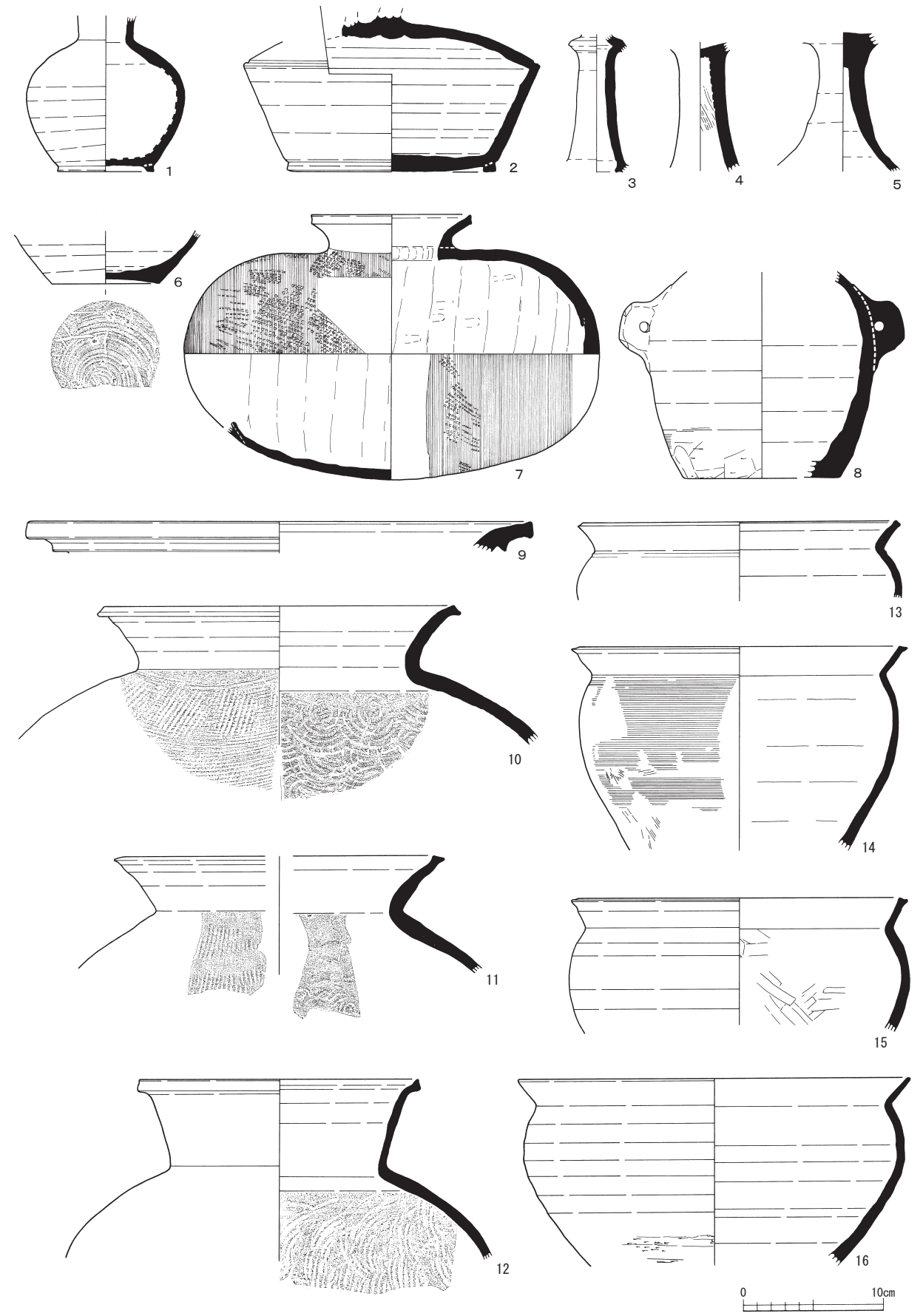
第104図 IV区SR1出土土器実測図-2 (縮尺1/4)



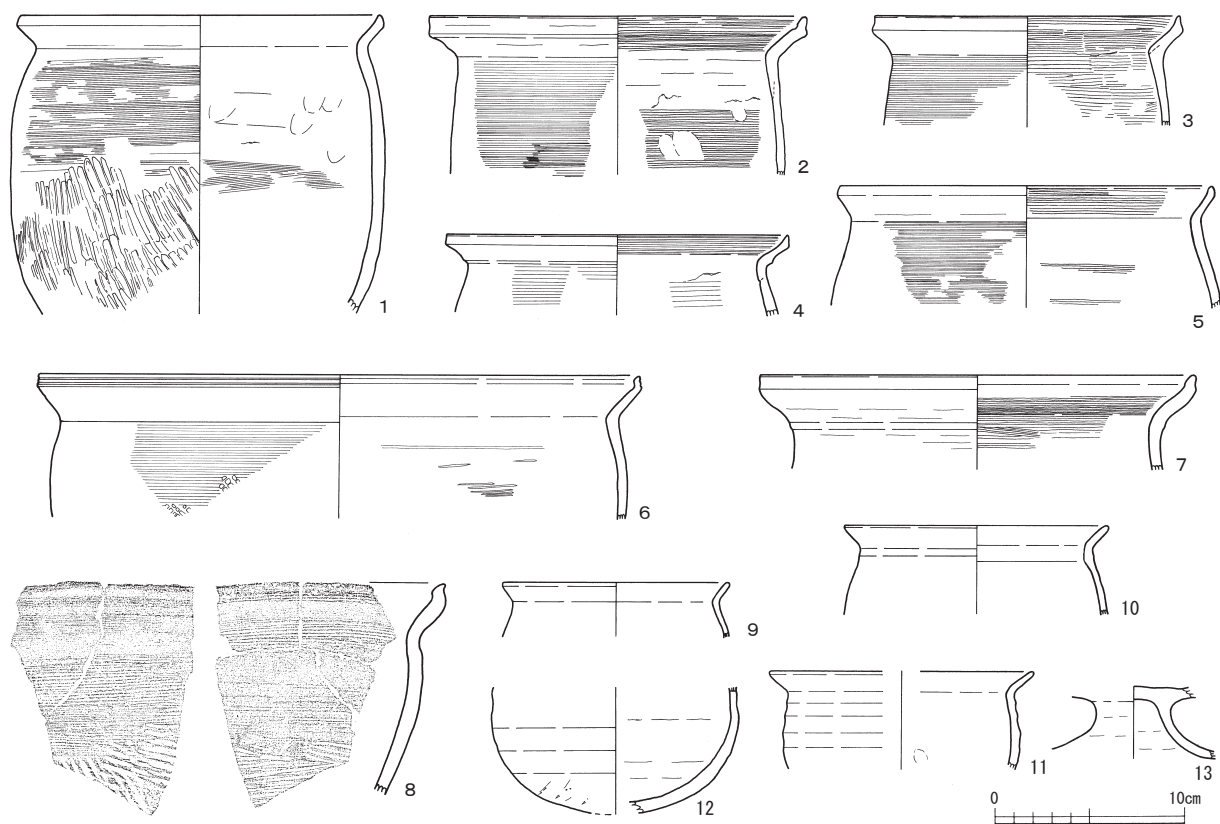
第105図 IV区SR1出土土器実測図-3 (縮尺1/4)



第106図 IV区SR1出土土器実測図-4 (縮尺1/4)



第107図 IV区SR1出土土器実測図-5 (縮尺1/4)



第108図 IV区SR1出土土器実測図-6 (縮尺1/4)

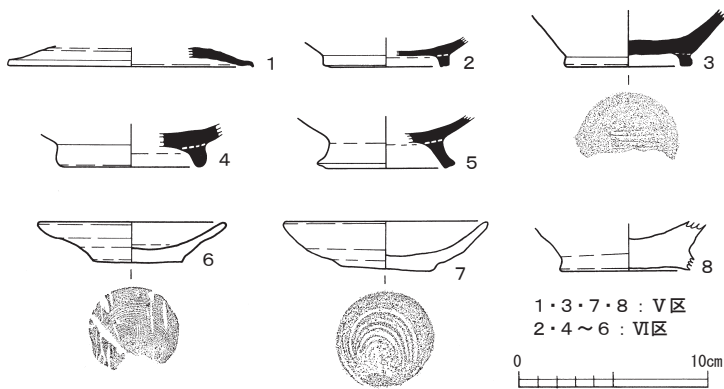
土師器

甕 (第108図1~12) 1~8の頸部の屈曲が緩やかで、内外面はカキ目調整を施す。なお、1・6・8の体部外面にカキ目調整後叩きを施す。9~11は、斜め外方向に短い口縁が伸びる形態を有し、体部はナデ調整を施す。

高坏 (第108図13) 赤彩を施す高坏の脚部。赤彩は内外面に施されている。粒子の細かな胎土で、丁寧に整形されている。

4) V・VI区出土土器 (第109図1~8)

須恵器 (第109図1~5)



第109図 V・VI区出土土器実測図 (縮尺1/4)

1は、坏B蓋で宝珠摘みが欠損している。2~5は、碗Bの高台部である。3は底部外面にヘラ起こし痕が残る。

土師器 (第109図6~8)

6・7は、碗Bで底部外面に回転糸切痕を有する。6は外側に伸びる体部の器形を有し、7はやや内湾する体部を呈する。8は、柱状高台のようなやや厚手の底部を有し、作りはやや粗雑である。明確な器種は不明であるが、鉢類か。

第2表 墨書土器 (須恵器) 积文一覧表

III区

挿図番号	积文	器種	記載場所
98 10	□□□	坏B (身)	底部外面
98 11	西	坏B (身)	底部外面
98 12	□	坏B (身)	底部外面
98 16	□	坏B (身)	底部外面
98 18	[貫or貴カ] □	坏B (身)	底部外面
98 19	□	坏B (身)	底部外面
98 20	□	坏B (身)	底部外面
98 21	[田カ] 奥□	坏B (身)	底部外面
98 31	□	坏A	底部外面
98 32	廿八□	坏A	底部外面
98 33	新承	坏A	底部外面
98 34	[北カ] □□	坏A	底部外面
99 1	奥六十五	坏A	底部外面
99 2	南瓦	坏A	底部外面
99 3	南	坏A	底部外面
99 7	□□	坏A	底部外面
99 8	南瓦	坏A	底部外面
99 9	[瓦カ] 南□	坏A	底部外面
99 10	今□	坏A	底部外面
99 11	□□	坏Aまたは盤A	底部外面
99 17	[継カ] 家□	盤A	底部外面
99 20	佐々尾寺	盤A	底部外面
99 21	□田	盤A	底部外面
99 22	□	盤A	底部外面
99 23	[呂カ] □□	盤A	底部外面
99 24	南瓦	盤A	底部外面
99 25	(記号カ) □	盤A	底部外面
99 26	[宮カ] □	盤A	底部外面
100 1	[万呂カ] □□□	盤A	底部外面
100 3	□	盤A	底部外面
100 5	[数カ] □	盤B	底部外面
100 11	淨	碗B	底部外面
102 3	[十カ] □	坏B	底部外面
102 7	□□	坏A	底部外面

挿図番号	积文	器種	記載場所
102 8	[瓦カ] 南□	坏A	底部外面
102 9	[瓦カ] 南□	坏A	底部外面
102 10	南瓦	坏A	底部外面
102 12	南瓦	坏A	底部外面
102 20	[淨カ] □	坏A	底部外面
102 24	[助カ] □	盤A	底部外面

IV区

挿図番号	积文	器種	記載場所
103 1	□□	坏B (蓋)	頂部外面
103 6	文麻呂	坏B (蓋)	頂部外面
103 7	□□	坏B (蓋)	頂部外面
103 9	□	坏B (蓋)	頂部内面
103 21	酒田	坏B (蓋)	頂部外面
103 23	□	坏B (身)	底部外面
103 25	[廣カ] □	坏B (身)	底部外面
103 26	[瓦カ] □□□	坏B (身)	底部外面
103 28	[家カ] □□	坏B (身)	底部外面
103 34	□	坏B (身)	底部外面
103 36	[三カ] □	坏B (身)	底部外面
103 40	□	坏B (身)	底部外面
104 4	本□	坏A	底部外面
104 5	井	坏A	底部外面
104 6	井	坏A	底部外面
104 7	井	坏A	底部外面
104 8	井	坏A	底部外面
104 9	□	坏A	底部外面
104 10	南	坏A	底部外面
104 11	新	坏A	底部外面
104 12	[瓦カ] □	坏A	底部外面
104 13	[トカ] □	坏A	底部外面
104 14	[前カ] □屋	坏A	底部外面
104 15	□□	坏A	底部外面
104 16	[田カ] □	坏A	底部外面

挿図番号	積文	器種	記載場所
104	21	[勝カ] □	坏A 底部外面
104	22	井	坏A 底部外面
104	23	[井カ] □	坏A 底部外面
104	24	文	坏A 底部外面
104	25	[瓦or久カ] 田□	坏A 底部外面
104	26	文	坏A 底部外面
104	27	[井カ] □	坏または盤 底部外面
104	28	井	坏または盤 底部外面
104	29	井	坏または盤 底部外面
104	30	殿	坏または盤 底部外面
104	31	家	坏または盤 底部外面
104	32	[家カ] □	坏または盤 底部外面
104	33	吉麻	坏または盤 底部外面
105	1	田□	坏または盤 底部内面
105	2	[尾カ] □□	坏または盤 底部外面
105	3	□	坏または盤 底部外面
105	4	□丸	坏または盤 底部外面
105	5	[家カ] 南□	坏A 底部外面
105	6	[王or生カ] □	坏A 底部外面
105	7	□	坏A 底部外面
105	8	瓦	坏A 底部外面
105	9	[田カ][瓦or久カ] □□	坏または盤 底部外面
105	10	□□□	坏または盤 底部外面
105	11	[鯛カ] □	坏A 底部外面
105	12	□	坏または盤 底部外面
105	13	□	坏または盤 底部外面
105	14	[尾南カ] □□	坏または盤 底部外面
105	15	□□	坏または盤 底部外面

挿図番号	積文	器種	記載場所
105	16	(記号カ) □	坏または盤 底部外面
105	17	[田カ] □	坏または盤 底部外面
105	18	[福カ] □	坏A 底部外面
105	19	□	坏または盤 底部外面
105	20	□	坏または盤 底部外面
105	21	□	坏または盤 底部外面
105	22	□	坏または盤 底部外面
105	23	□	坏または盤 底部外面
105	24	□	坏A 底部外面
105	25	□	坏または盤 底部外面
105	30	□女	盤A 底部外面
105	31	[手カ] □	盤A 底部外面
105	32	助万□	盤A 底部外面
105	33	(記号カ) □	盤A 底部外面
105	34	□	盤A 底部外面
105	35	□□	盤A 底部外面
105	36	井	盤A 底部外面
105	39	宮□	盤A 底部外面
105	40	[貝カ] □	盤A 底部外面
106	1	[瓦カ] 南□	盤A 底部外面
106	8	□□	椀B 底部外面
106	9	□	椀B 底部外面
106	11	田瓦	椀B 底部外面
106	12	□	椀B 底部外面
106	13	[十カ] □	椀B 底部外面
106	14	[京or亭カ] 鯛□	椀B 底部外面
106	15	東家	椀B 底部外面
106	16	[太カ] □□	椀B 口縁部外面
106	17	[女カ] 宮□	椀B 底部外面

5) 律令期の出土土器の概要

律令期の土器は、Ⅲ・Ⅳ区の溝および湿地帯から集中して出土し、食膳具や貯蔵具の須恵器が大半を占め、煮炊き具等を含む土師器も一定量の割合で検出されている。出土土器は、概ね8世紀中頃から10世紀初頭までに帰属し、8世紀後半から9世紀代の土器が多く占める。出土した須恵器には、多くの墨書や転用硯があり、うち1点に「佐々尾寺」銘(第99図20)の墨書が確認された。正倉院絵図に記載のある「佐々乎岡」(天平宝字三年絵図)や「佐々尾山」(天平神護二年絵図)との関係性が注目される遺

物である。なお、正倉院絵図にある「佐々乎岡」および「佐々尾山」の場所は、本調査地区の西側山地の位置に該当すると考えられる。ちなみに、現存、調査区の南の山麓の観音堂に平安時代の製作と考えられる重要文化財「木造十一面観音立像」が秘仏として祀られており、これらの関連性を考えるうえでも「佐々尾寺」銘(第99図20)の墨書は貴重なものと考えられる。その他に注目すべき遺物には、漆が土器の内側一面に遺存していた須恵器坏A(第104図17)がある。漆等の分析を行った結果、下地に柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地が認められ、9世紀初頭には塗膜剤として柿渋が利用されていたことが確認された。また、2層の透明漆が観察され、その内容から本品は漆工具として使用されていたことも判明し、当時の漆製品の生産体制の一端を伺わせる遺物である。今回の調査区からは、律令期に伴う建物等の施設に関する遺構の検出はなかったが、調査区の南側には「坊屋敷」・「谷屋敷」の小字地名の場所が存在することや天曆5年(951)の「越前国足羽郡疋牒」の記載による糞置荘の衰退する時期、今回出土した土器も10世紀以降のものはほとんど確認されなかったこと、そして出土した土器の年代幅や内容などから、東大寺領荘園の糞置荘に關係する施設が調査区近辺の山の裾部に展開していたことが推察される。

4 中・近世の土器・陶磁器

1) Ⅳ区出土土器・陶磁器(第110図1～第111図39)

越前焼(第110図1～13)

1～4は、甕で1・2は鎌倉時代後期、3は室町時代、4は江戸時代の時期の所産である。5は、小型品で摺り目のない鉢である。6～12は、摺り目を有する鉢で鎌倉時代後期～幕末までの時期に属する製品である。13は、短頸の器形を有する壺で外面に鉄釉が施されている。江戸時代の所産である。

瓦質土器(第110図14～20)

14～19は、鍋の口縁部および体部上半である。頸部から外側へ屈曲する器形を有する。20は、鍋の体部の一部と考えられる。外面に植物の葉と蔓の一部が施された文様を呈する。

青磁(第110図21・22・27)・白磁(第110図28)

21・22は、青磁碗である。21は無文で口縁部が直立する器形を有する。22は、見込みに印花文を施す。28は、端反皿の白磁か。体部下半欠損。

瀬戸美濃焼(第110図23・24・26・29)

23・24は、体部上半が残存する天目茶碗である。26は、皿で底部に糸切り痕が見られる。ともに中世の所産と考えられる。29は、近世の時期に属する鉢である。

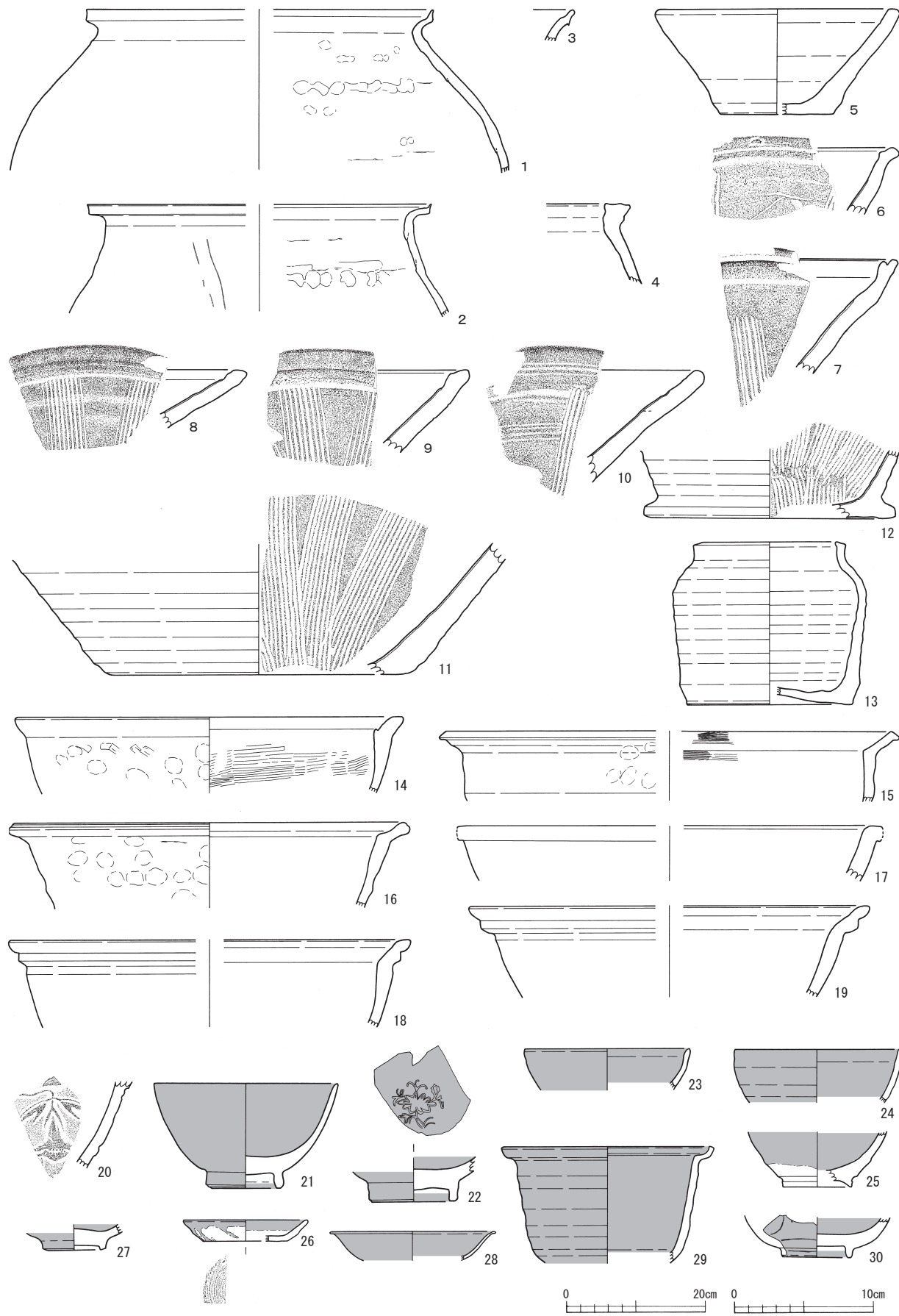
唐津焼(第110図25)・伊万里焼(第110図30)

25は、唐津焼の碗で近世の所産である。30は、外面体部に草花文を描く近世の伊万里焼である。

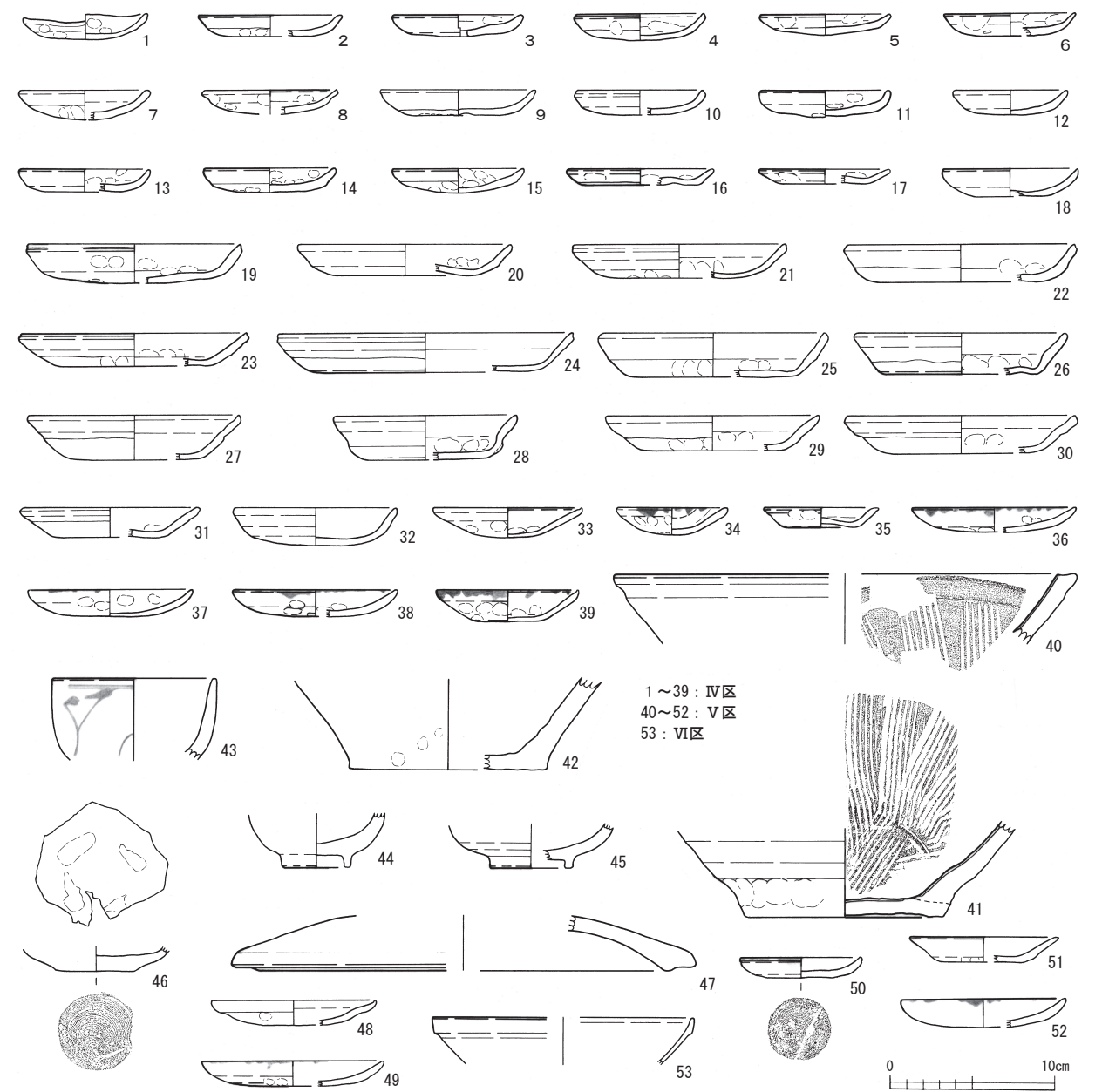
土師質皿(第111図1～39)

1～18は、径約8～9cmの中世の小皿である。1～13は、やや強いナデにより外面腰部に稜を形成して少し緩やかに上方向へ立ち上がる。口端部外面に幅の狭い面を有する。14～18は、やや強いナデにより外面腰部に稜を形成して外反する。口端部外面に幅の狭い面を有する。

19～32は、径約12～13cmの中世の大皿である。19～24は、屈曲部から口縁部にかけてつまみナデ回し、わずかに外反形状を呈するもの。口端部外面に幅の狭い面を有する。25～32は、見込みがやや深く、屈曲部から口縁部にかけてつまみナデ回し、やや立ち気味の形状を呈するもの。28以外は、口端部外面に幅の狭い面を有する。なお、1・2・21・23は、肌理の細かな胎土を有する。33～39は、近世の土師質



第110図 IV区出土土器・陶磁器実測図（縮尺1/8：1～4、縮尺1/4：5～30）



第111図 IV～VI区出土土器・陶磁器実測図（縮尺1/4）

皿である。

2) V・VI区出土土器・陶磁器（第111図40～第111図53）

越前焼（第111図40～42）

40・41は、摺り目を有する鉢である。42は、甕もしくは壺の底部である。40・42は15～16世紀の所産と考えられる。41は近世か。

伊万里焼（第111図43・44）・瀬戸美濃焼（第111図45）・唐津焼（第111図46）

43は、草花文を施す碗である。44・45も碗である。46は、底部に糸切痕を残す皿である。いずれも近世の時期に属する。

土師質蓋（第111図47）・土師質皿（第111図48～52）

47は、土師質の蓋で、内容物が出にくいように口縁端部が凸部を持つ器形を呈する。48～52は、近世

の土師質皿である。50は、底部糸切痕を残す。49・50・52の口縁端部には灯芯油痕が見られる。

白磁（第111図53）

53は、玉縁状口縁を呈する碗である。太宰府分類IV類に相当すると考えられる。

3) 中・近世の土器・陶磁器の概要

中・近世の出土土器・陶磁器は、IV・V・VI区の表土や湿地帯から集中して検出され、現二上町集落内に限定される。おそらく東大寺領糞置荘の廃絶後、鎌倉時代（13世紀代）頃からこの地区に人の営みが垣間見え、一般集落として現在まで存続していると考えられる。

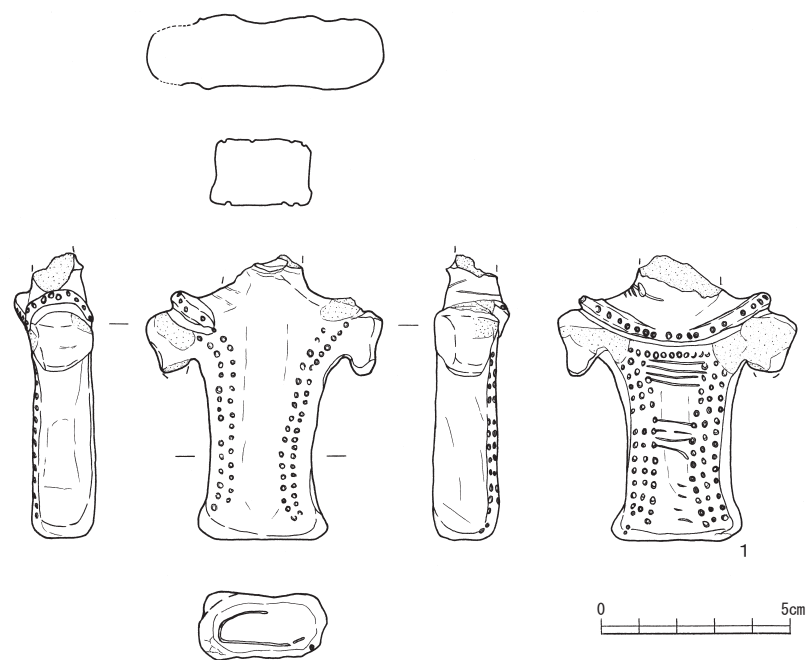
5 土製品（第112図1）

I区SR1の③区から土偶が1点出土している。扁平な板状土偶であり、頭部と左肩の隆帯、右腕端部が欠損し、また薄い剥離が肩を中心にやや目立つが、胴部の全形がほぼ残っている。乳房や正中線を確認できないため、土偶正面の確定ができないが、この時期の他の土偶を見ると、肩の隆帯などの横断する文様が途切れ縦方向に文様が開口している事例が正面であること、また体の傾斜が反り返る傾向にあることから、第112図左側平面図を土偶正面として判断している。

頭部と胴部の境には粘土接合痕があるため、頭部と胴部は別々の粘土塊から成形されたものとする。欠損した頭部の状況は不明であるが、正面側の首先端に弧状の突出部を確認できる。これは顔面の貼付け痕か顔面の輪郭の可能性もある。両腕は肩が強く張り、腕は非常に短い。両手脇は篋状の工具による作り出し痕がある。胴部は両側面に縦方向の指ナゲによって角柱状を作る。胴部下端は両側面に粘土を貼り足して台状をなす。自立可能なほど胴端部面を平坦に成形している。

文様については、正面にも背面にも竹管状工具による刺突列が顕著に施される。正面をみると、胴のラインに沿うように、2列の刺突列が巡り、肩の隆帯につながる。肩の隆帯は肩パッド状に貼り付けられ、隆帯下端には浅い沈線が沿っている。正面の首中央から胴中央にかけては文様がなく、縦方向の指ナゲ調整が行われる。背面をみると、肩においては正面から続く隆帯上の刺突列と隆帯下端の浅い沈線

が横断するが、隆帯そのものは途中で途切れる。背面の胴には3列の刺突列が胴のラインに沿うように展開し、篋描きによる4条沈線2組と刺突列がこの両側の刺突列を接続している。胴部下端の平坦面には篋状工具によって弧状の沈線を描く。土偶の時期は、形態・文様の特徴や出土した場所から、縄文時代晩期後葉と推定する。



第112図 土製品実測図（縮尺1/2）

6 石器・石製品

今回の調査で出土した主な石器・石製品には、石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石類、砥石、玉製作関連遺物、石冠、石棒などがある。多くはI区・II区の河川を中心に出土し、伴出した土器から、縄文時代晩期、弥生時代後期から古墳時代前半に亘るものの他、少なからず古代以降と考えるものもある。以下、調査区ごとおよび器種別に記述する。

1) I区出土石器・石製品（第113図1～第117図4）

打製石鏃（第113図1） I区からは1点出土している。チャート製の有茎鏃である。薄手の剥片を使用し、長身の三角形を呈す。

搔器（第113図2・4） 縁辺に細かな連続した剥離調整を行い刃部とする。2は横長剥片の一边のみに調整を施す。4は刃部を中心に摩耗する。石庖丁としての使用も考えられる。

荒割工程（第113図3） 玉製作に関連する緑色凝灰岩の剥片・破片が4点出土している。その内の3は荒割工程段階のものである。

打製石斧（第113図5～13） 刃部片や基部片の破片も含め48点を確認し、9点を図示した。5は側縁が内湾する撥形を呈す。扁平な板状素材の周縁部のみ調整を加え成形する。刃部は摩耗している。6は撥形を呈する。刃部は自然面の縁辺をそのまま利用し、周縁から基部にかけて調整を加える。7はやや厚みのある板状剥片を素材とする。側縁が湾曲し分銅形となる。刃部は摩耗する。8も板状剥片を素材とする。寸詰まりな撥形を呈し、周縁に調整を加えるが欠損品を再加工した可能性がある。9～12は基部片である。9は直線的に伸び、10は平らな基部端となる。11は側縁を敲打で整形する。12は板状剥片を素材とし、周縁を調整する。13の刃部片は、わずかに摩耗する。

磨製石斧（第114図1～8） 8点確認した。1は大型蛤刃石斧で、II区のJ15区SW1出土の刃部破片と接合した。敲石に転用した可能性がある。2・3は側縁に不明瞭ながらも面を持ち、断面がやや扁平を呈す。2は刃部を欠く。3はSD12からの出土である。4は斧身に厚みがある。5・6は側縁が面を持ち、断面が扁平となる、いわゆる定角式石斧であり、縄文時代に属す可能性がある。7・8は細くすばまる基部片であり、断面は7が円形、8が扁平気味を呈す。

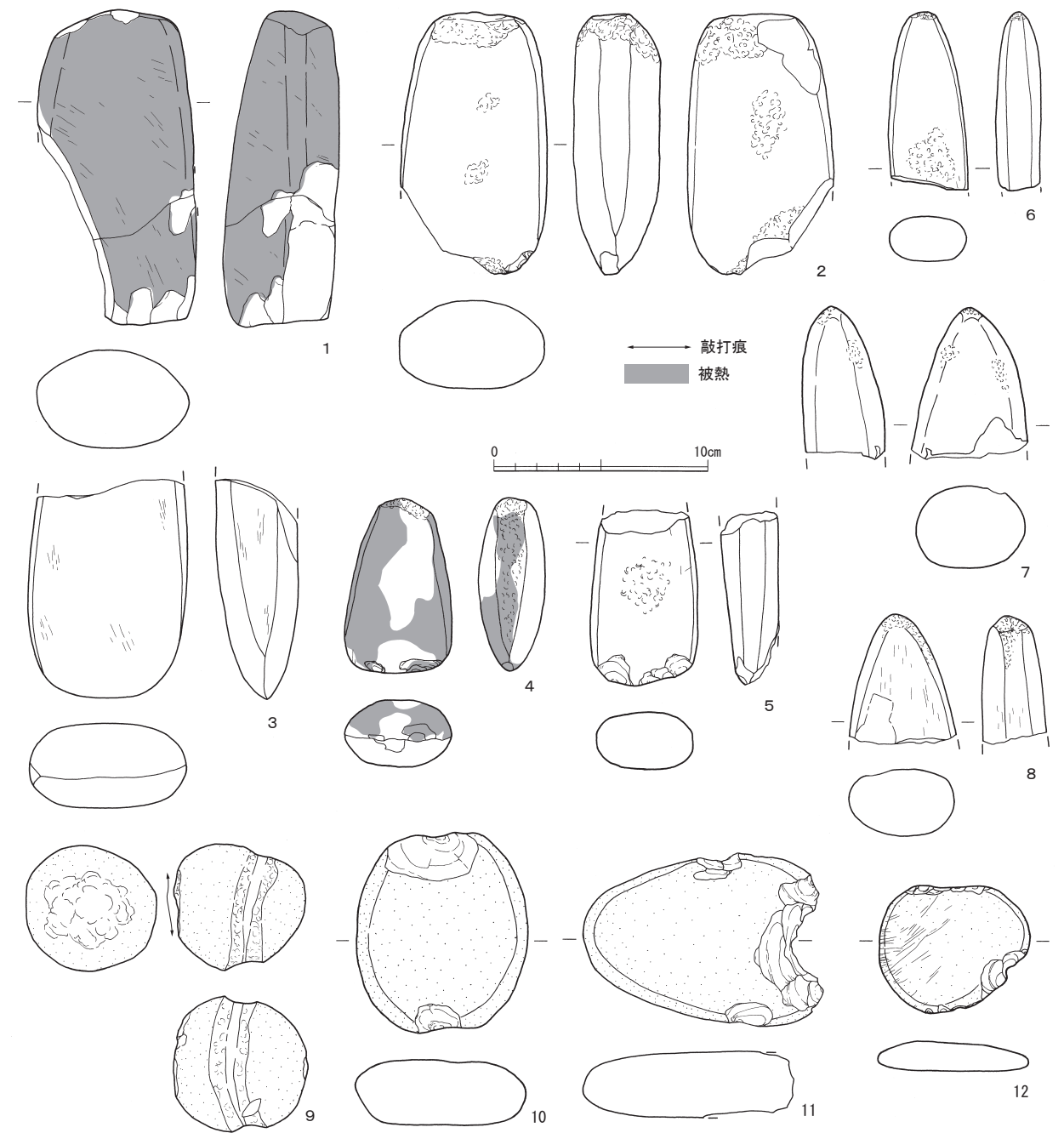
石錘（第114図9～12） 欠損品を含め5点確認し、4点を図示した。9は円礫の周囲を敲打により溝状に凹ませる。一端を敲打し、球面を取り去る。10～12はいわゆる打欠石錘である。11は右側縁が大きく打欠かれる。

磨石類（第115図） 磨石類は14点を確認している。1はやや扁平な楕円礫を素材とする。磨痕・敲打痕・凹部を持つ。2は下端に敲打痕、正面に凹部を有す。3は厚みのある不整形を呈す。周縁の約3/4に敲打痕を有す。正面の敲打痕は疎らであり明瞭な凹部ではない。4は下端に顕著な敲打痕を有す。5は正面に磨痕、周縁に敲打痕を持つ。被熱している。6は周縁に敲打痕を有す。正面の敲打痕は弱く、その周囲に弱い磨痕を持つ。7は下端、左側縁に顕著な敲打痕を有す。8は周縁に敲打痕を有す。正面の敲打痕は分散し、明瞭な凹部とならない。9・10は棒状を呈し、下端に敲打痕を有す。11は球状を呈す。周縁に敲打痕を持つ。12は扁平な円形礫を使用し正裏面に凹部を持つ。磨痕は弱い。

砥石（第116図） 砥石は12点中5点を図示する。1は断面五角形の角柱状を呈す。両端部を除く全周を砥面として使用し、線状痕や並行して長く伸びる浅い溝が認められる。2は角柱状を呈す。端部を除く全周が砥面である。樋状に落ち込む箇所が認められる。3は角柱状を呈す。端部を除く全周を砥面として使用し、角が取れている箇所もある。断面がV字の溝や、樋状の溝、線状痕などが主に3面に確認



第113図 I区出土石器実測図-1 (縮尺2/3: 1~3、縮尺1/3: 4~13)



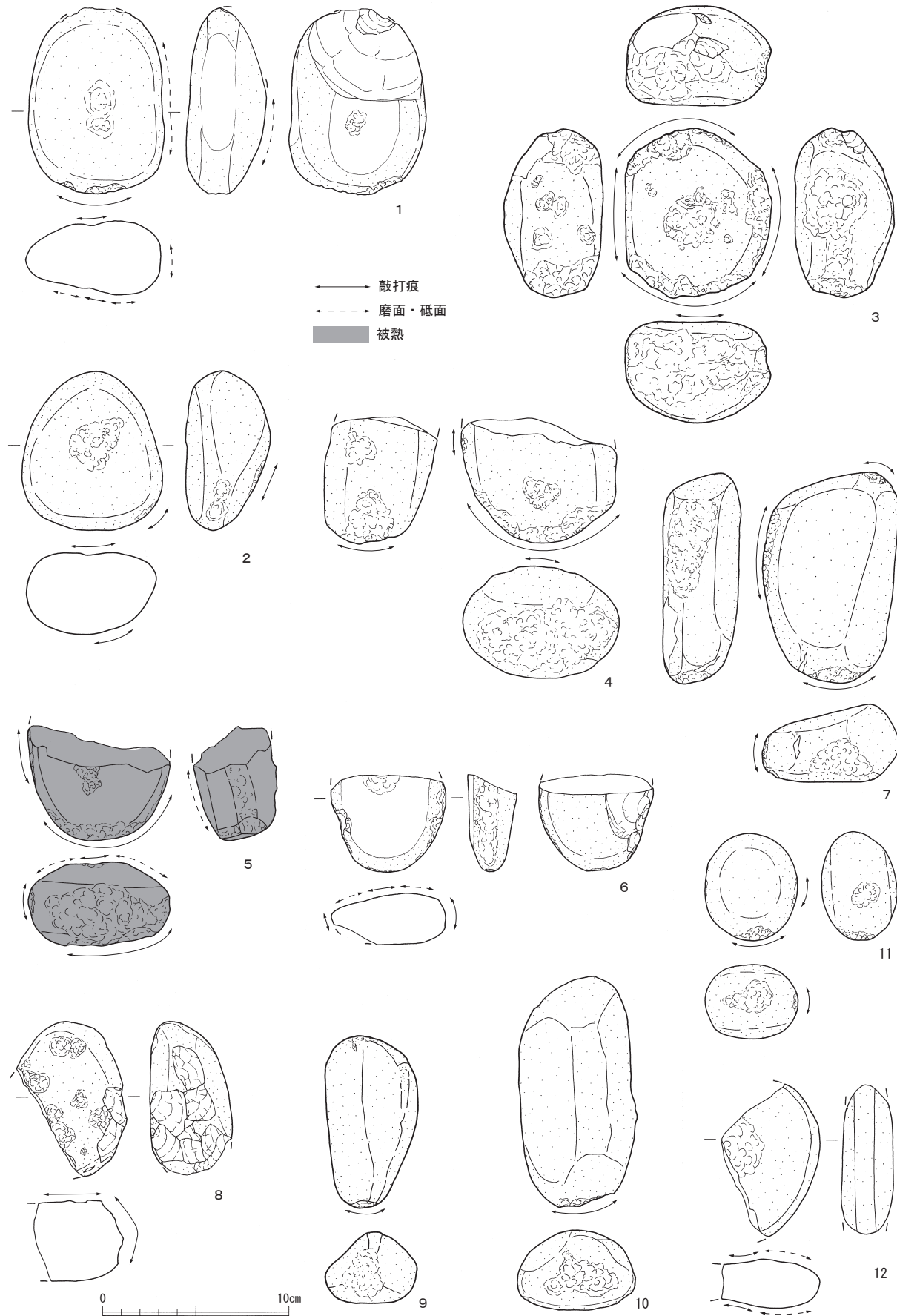
第114図 I区出土石器実測図-2 (縮尺1/3)

できる。線状痕には溝と直交する方向のものもある。4は角柱状を呈す。端部を除く全周が砥面であるが、その内2面は風化のためか顕著な磨面とは言えない、右側面に深さが異なる溝が複数条確認できる。5は立方体を呈する。全6面が砥面として使用される。深さの差はあるが、樋状の浅い溝が4面に確認できる。

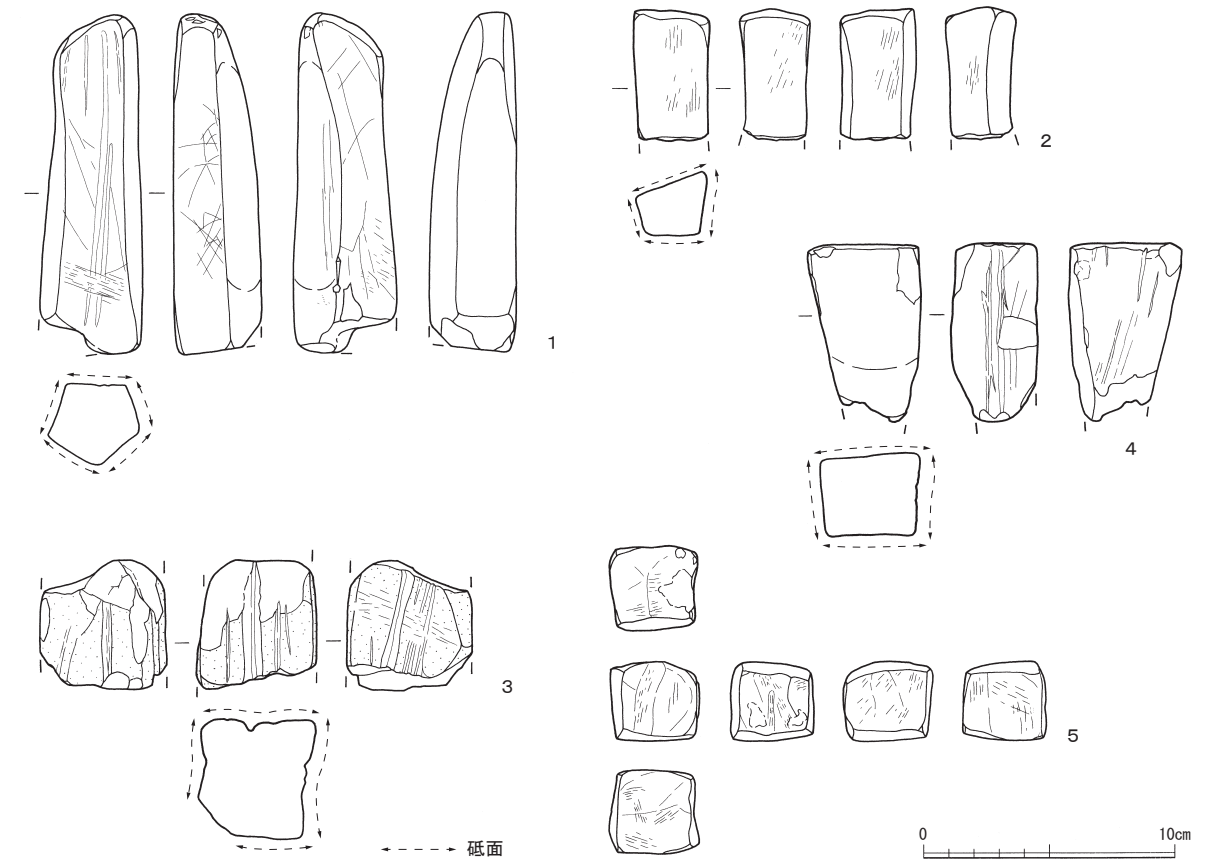
台石・石皿類 (第117図) 破片を含め9点確認している。1は正面に磨痕と敲打による凹部を持ち、裏面および欠損した下端面の一部にも磨痕がある。2は正面に磨痕がある。3・4はSI 1出土である。3は正面に磨痕を持ち、裏面および下端にも磨痕がある。4は正面に磨痕がある。

2) II区出土石器・石製品 (第118図1~第121図2)

打製石斧 (第118図1~6) 刃部片や基部片などの破片も含め29点を確認し、形状の把握できる6点



第115図 I区出土石器実測図-3 (縮尺1/3)



第116図 I区出土石器実測図-4 (縮尺1/3)

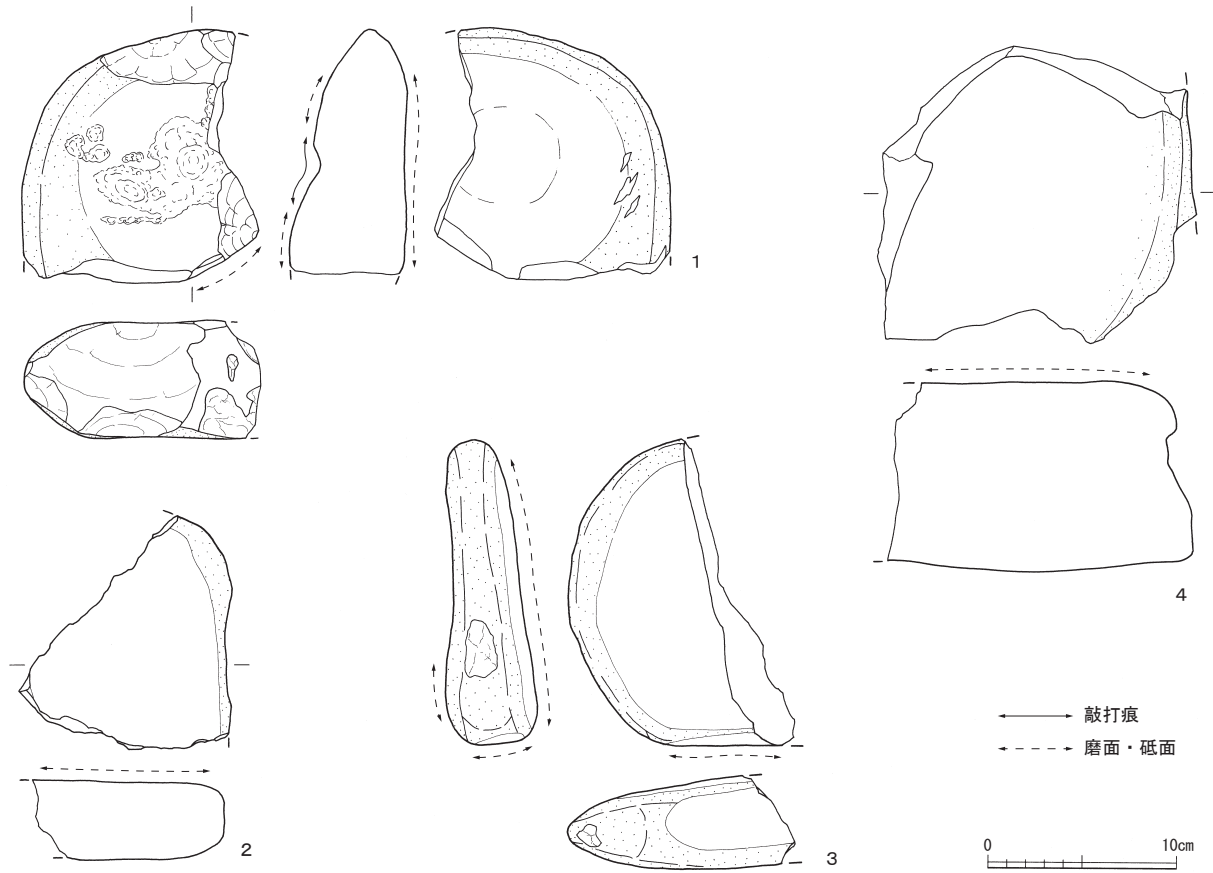
を図示した。1は自然面を残す。風化のため不明瞭だが、側縁は敲打で整形し、摩耗する刃部は素材剥片の縁辺を利用した可能性がある。2は基部にわずかに自然面が残る。基部と刃部の境に段差が認められる。3は撥形を呈す。両側辺は直線的となる。4は板状素材を使用し撥形を呈す。刃部はわずかに摩耗し、右側辺と基部の欠損面を研磨している。5は分銅形を呈す。自然面を残す板状素材を使用し、周縁部のみ調整を加え成形する。刃部は摩耗している。6はわずかに自然面を残す板状素材を使用し、周縁部のみ調整を加え成形する。

磨製石斧 (第118図7) 1点確認した。摩耗した刃部片である。刃部は大きく潰れている。

形割工程 (第118図8) 玉製作に関連する緑色凝灰岩の剥片・小片類が2点出土している。図示できた8は形割工程段階のものである。

磨石類 (第119図) 磨石類は18点を確認し、11点を図示した。1は小振りな円礫を素材とする。周縁に敲打痕を有す。正裏面に小規模な凹部がある。2・3の周縁には敲打部分と磨面部分が、正裏面には磨面と敲打および凹部がある。4は厚みのある円礫を素材とし、磨痕のみ有す。5の周縁は磨面とならない。6は端部、正面を中心に敲打痕・凹部を有す。7は小振りな楕円礫を素材とする。8も楕円礫を素材とし、主に下端部に敲打痕が残る。9は不整形な楕円礫を素材とする。敲打痕は浅い。10・11は乳棒状を呈する。端部に敲打痕が残る。

砥石 (第120図) 砥石は17点中10点を図示する。1は据え置いて使用する大型の砥石である。正面の砥面は大きく傾斜する。平面方形を意図して四周を整形したようである。とくに上下端面から底部にかけては面取り状に整形している。2は残欠であるが、本来は1のような大ぶりの、据え置いて使用する砥石であったと考えられる。線状痕が多数確認できる。砂岩と考える夾雑物の多い素材を使用する。



第117図 I区出土石器実測図-5 (縮尺1/4)

3は不整形な楕円礫を素材とする。砥面は1面である。被熱後に破損している。4は台状を呈する。砥面はわずかに反る。上端面には複数の浅い溝が確認できる。5は角柱状素材を使用する。上端は刃部のように研ぎだされ鋭角となる。斜め方向の細かな線状痕が多数確認できる。各砥面は自然面および敲打痕が残り、素材の面を成形する段階とも受け取れる。6～8は角柱状素材を使用した小型の砥石である。6・8には長軸に対しやや斜交する方向に深く、7は長軸方向に浅い断面V字の溝が確認できる。9・10は角柱状を呈す。正裏側面の4面が砥面となる。線状痕が多数確認できる。9は欠損部の角を研磨で取り除いている。10の右側面は使用により浅い溝状になる箇所がある。

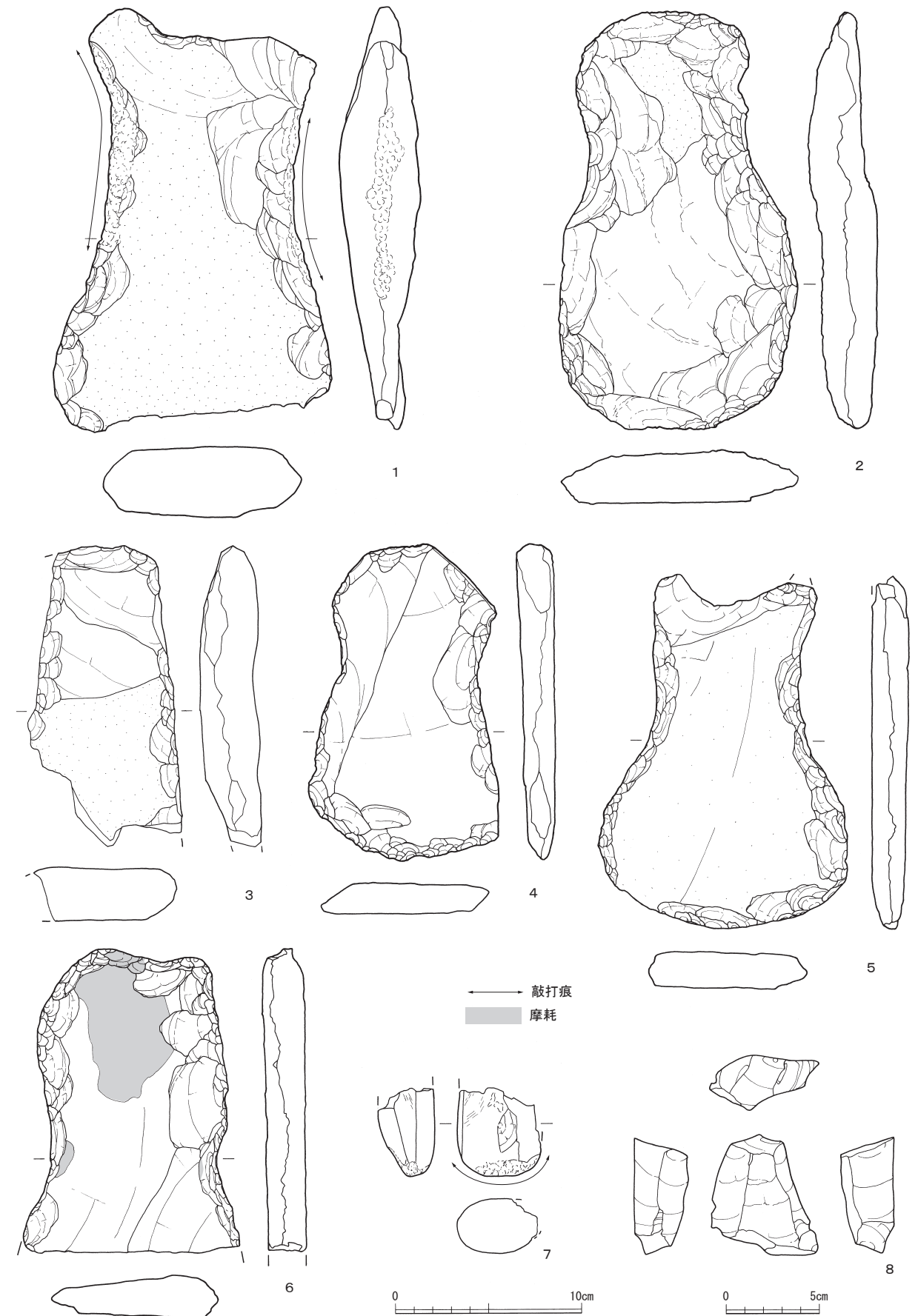
石冠・石棒(第121図) 1は石冠の類と考える。円礫を素材とし、周辺を中心に敲打による成形を行う。敲打後に研磨整形する。研磨は凹凸を除去する程度で、磨き上げてはいない。上部には緩い稜を作り出し、反対の下面は船底状に凹ませる。稜の両端は、一方を尖り気味に、反対の面を曲面とするが、どちらも稜から続く自然な曲線で仕上げている。2は石棒の類と考える。棒状礫を素材とし、形状を大きく変化させてはいないようだが、一部に敲打痕と研磨痕を有し、断面は隅丸方形状を呈す。先端部は敲打により丸く整形する。敲打部分との境を成すように、先端部下に横方向の弱い研磨を施す。これら1・2は縄文時代晩期に属すと考える。

3) III区出土石器・石製品 (第122図1～第123図2)

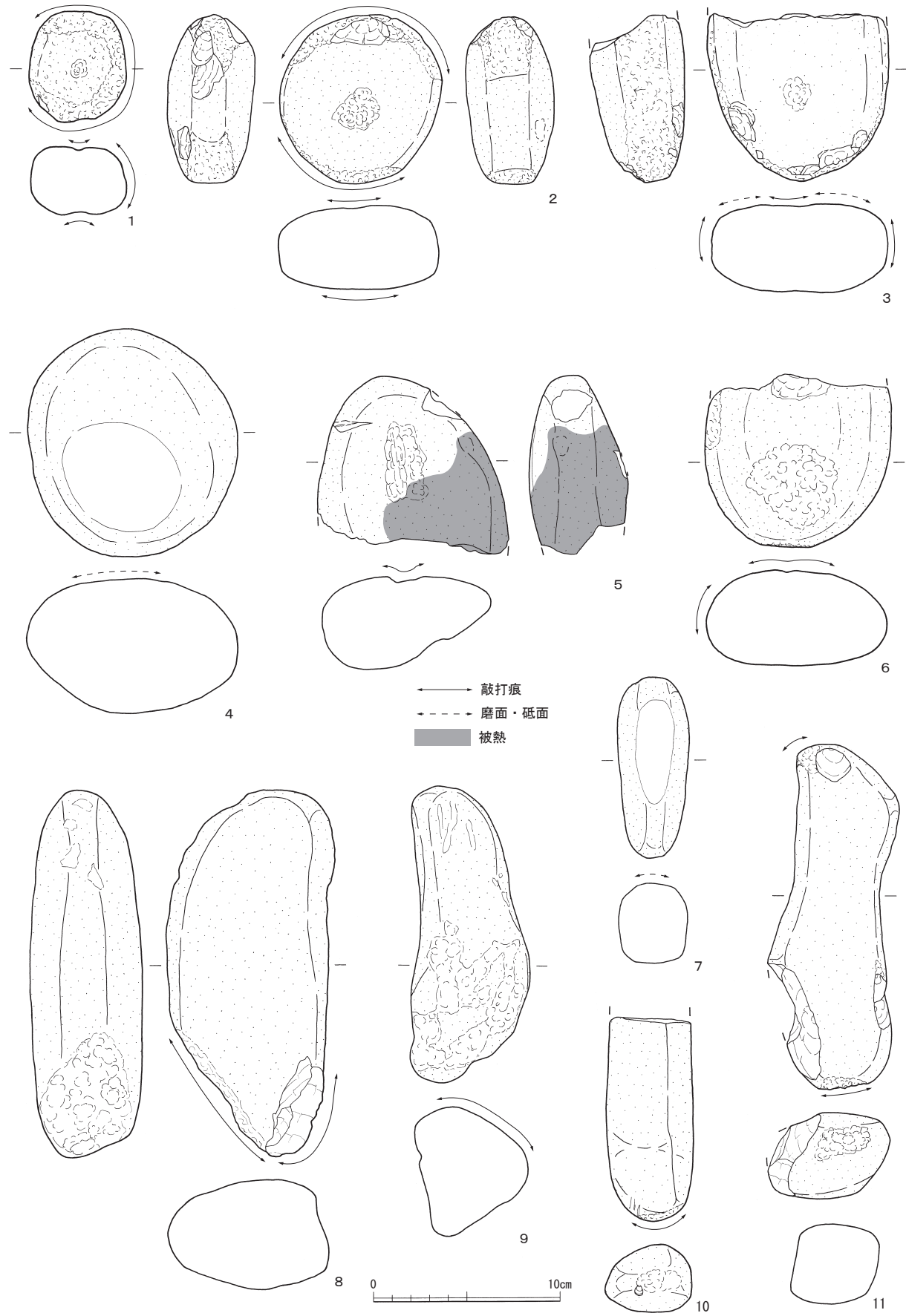
尖頭器(第122図1) 1点のみ確認した。先端部を欠く。全体に摩耗する。

荒割工程(第122図2) 2は玉作り関連遺物の荒割段階のものである。石質は、風化面や軟質、硬質部分が混じり合い良質ではない。

打製石斧(第122図3～5) 刃部片や基部片などの破片9点を確認し、完存品はない。3点図示した。



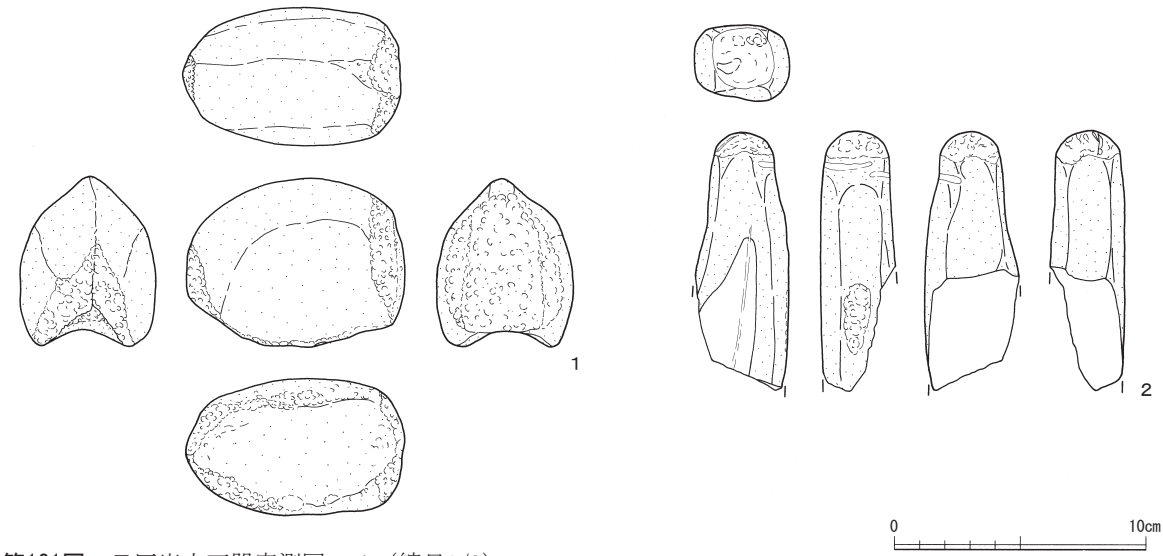
第118図 II区出土石器実測図-1 (縮尺1/3: 1～7、縮尺2/3: 8)



第119図 II区出土石器実測図-2 (縮尺1/3)



第120図 II区出土石器実測図-3 (縮尺1/3)



第121図 II区出土石器実測図-4 (縮尺1/3)

3・4は基部片である。板状剥片を素材とし、周縁を調整する。5は刃部片である。自然面を残す厚みのある素材を用いる。短冊形を呈する可能性がある。刃部は潰れており、摩耗痕が顕著である。正面の自然面や裏面、側辺部にも摩耗痕が確認できる。

磨製石斧 (第122図6・7) 2点確認した。6は大型蛤刃石斧である。刃部が欠損し、敲石に転用または刃部再生の剥離調整途中の可能性がある。7は刃部と基部を欠く。敲石に転用した可能性がある。

砥石 (第122図8) 1点である。本来角柱状を呈していたと考える。線状痕が多数確認できる。

磨石類 (第122図9~11・第123図1・2) 磨石類は5点を確認している。9は厚みのある円礫を素材とし、磨痕、敲打痕、凹みを有す。10は扁平な円礫を、11は厚みのある円礫を素材とし、磨痕、敲打痕を有す。11の磨痕、敲打痕は明瞭ではない。第123図1は棒状礫を、第123図2は大振りな礫を素材とし、両端部と両側縁に敲打痕を残す。1の正裏面にはあまり顕著ではないが磨痕が確認できる。

4) IV区出土石器・石製品 (第123図4・5)

砥石 (第123図4・5) 2点出土した。ともに角柱状素材を使用する。5には線状および溝状の使用痕が多数確認できる。これら砥石の時期はIV区の他の出土遺物を考慮すると古代以降の可能性はある。

5) VI区出土石器・石製品 (第123図3・6)

打製石鏃 (第123図3) VI区では1点出土している。安山岩製の有茎鏃である。

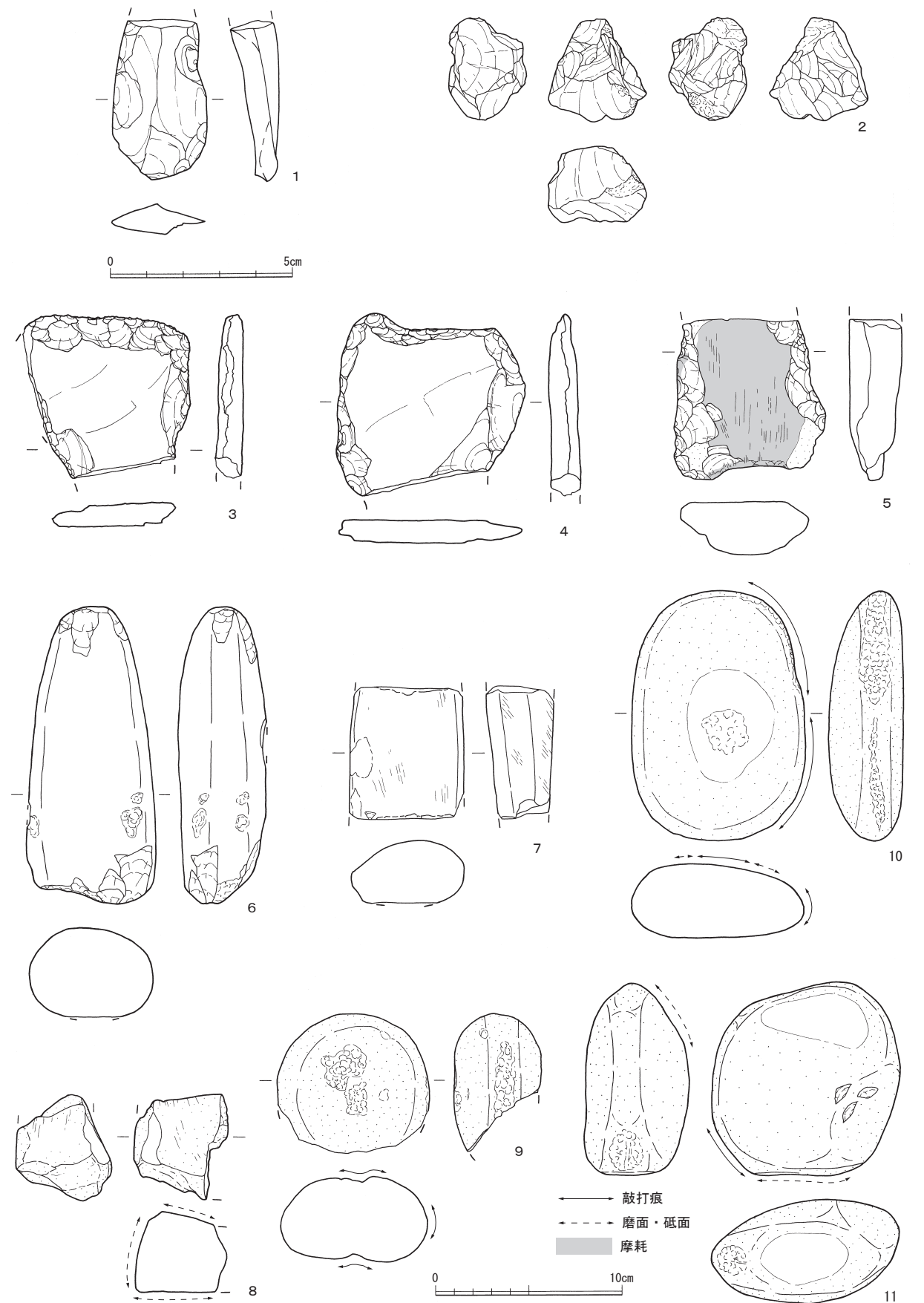
五輪塔 (第123図6) 表土出土の組合せ五輪塔の水輪である。上下面は浅皿状に窪む。

7 木製品

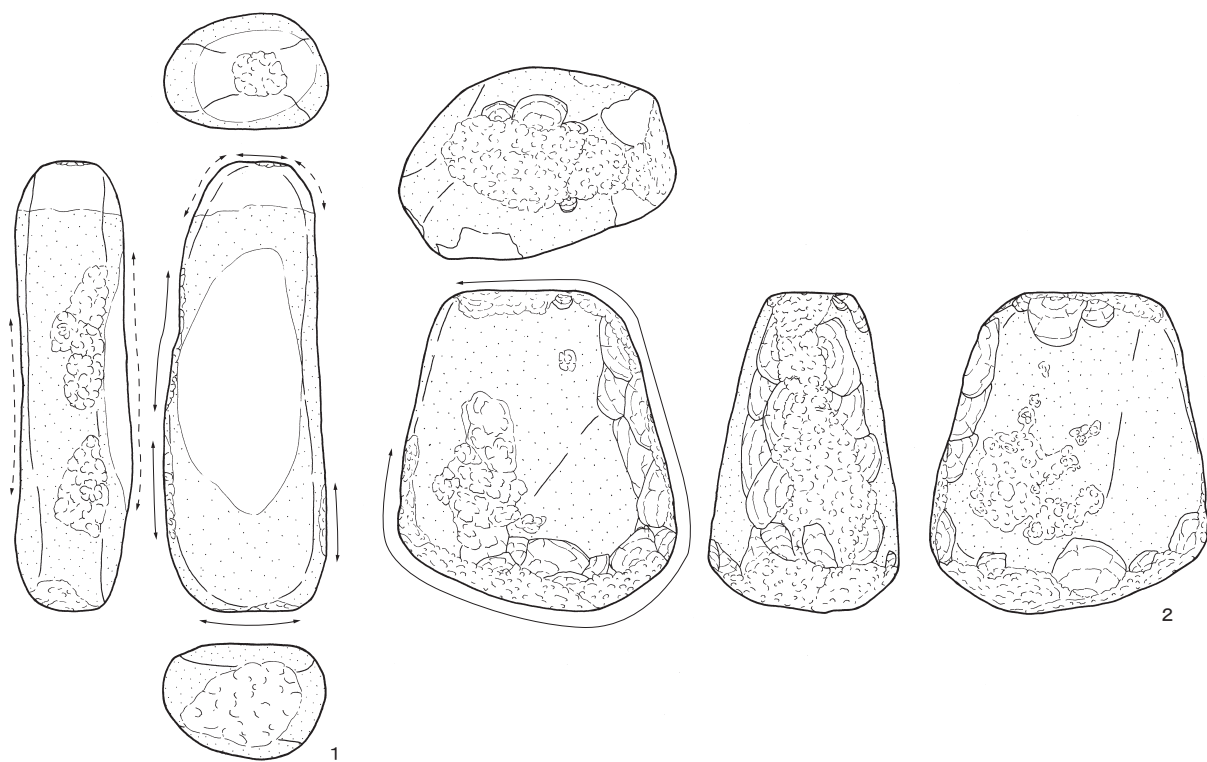
今回の調査ではI区からIV区にかけて、河川を中心に多様な木製品が多く出土した。その中から196点を図示した。伴出した土器から、多くが弥生時代後期から古墳時代前期および平安時代以降の木製品と考える。これら木製品を地区、出土河川、および遺構ごとに分けて記述するが、I区SR1やII区SR1については出土量が多く種類も多岐にわたるため、さらに種別ごとに大別し記述する。

1) I区SR1出土木製品 (第124図1~第133図7)

農工具 (第124図・第125図1~7) 第124図1~3は柄杓平鍬である。1の上端はわずかに山型を呈し、両側縁には小突起を作り出す。隆起部横には泥除装置装置の方形孔を有す。2は頭部を欠く。側縁には小突起を作り出し、刃部に三角形の透かしが入る。3は刃幅が8cm程度の狭鍬である。上端はやや丸み



第122図 III区出土石器実測図-1 (縮尺2/3: 1、縮尺1/3: 2~11)



を帯びる。第124図4は1と近接して出土しており、1に伴う柄の可能性はある。第124図5・6は直柄平鋏の未成品である。2点の刃部幅は近似する。第124図7は一木平鋏の刃部の可能性はある。第124図8は鋤柄の把手と考える。第125図1は田下駄である。足板上には4孔穿たれる。裏面はほぼ割り裂いただけのようである。第125図2～6は木庖丁である。いずれも背は直線的となる。2～5は紐孔を穿つ。2は背部下が段状となり、左側辺に割り込みが入る。3～5は紐孔を結ぶ溝が確認できるが、4の溝は他と比べて深く右側辺部近くまで彫られる。5の溝は紐孔横で終わる。第125図7は堅杵である。握部を欠く同一個体である。搗き部端部の径が最大径となり、握部との境界が不明瞭となるものと推察する。

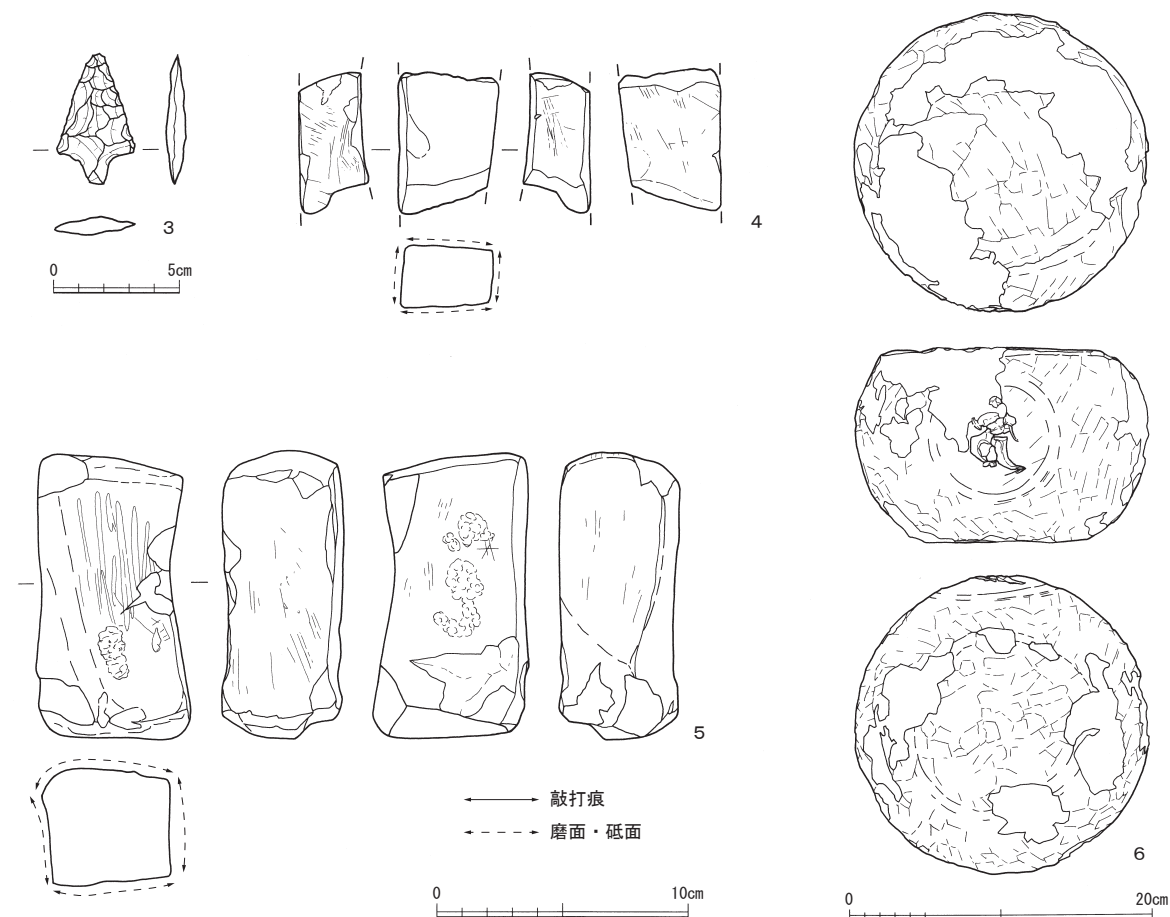
紡織具・雑具 (第125図8～13) 第125図8～11は紡織具である。8・9は杵の腕木である。支え木と柄で結合するもので、柄孔は貫通する。9は側面から木釘を打って支え木と固定する。10は薄い板状の紡錘車である。11は布巻具または経巻具と考える。残存する端部は紐掛け状に削り出される。第125図12・13は雑具とした。第125図12は一木作りの腰掛である。欠損のため座板の平面形は不明である。脚の正面観の形状は逆台形状を呈し、側面はわずかに外側に開く。第125図13は火鑽臼である。側面には溝の切欠きが設けられるが、対応する火鑽穴はわずかに窪み明瞭ではない。

運搬具 (第126図) 第126図1は田舟である。単材の刳舟である。平面形は長方形を呈す。舟底内外面を平坦に削り、断面形は扁平な逆台形を呈す。内面の立ち上がり部分に削り痕を残し、外面の前後には左右の位置に方形の浅い抉りが入る。全体にうっすらと焦げ跡があり、加工処理の可能性はある。

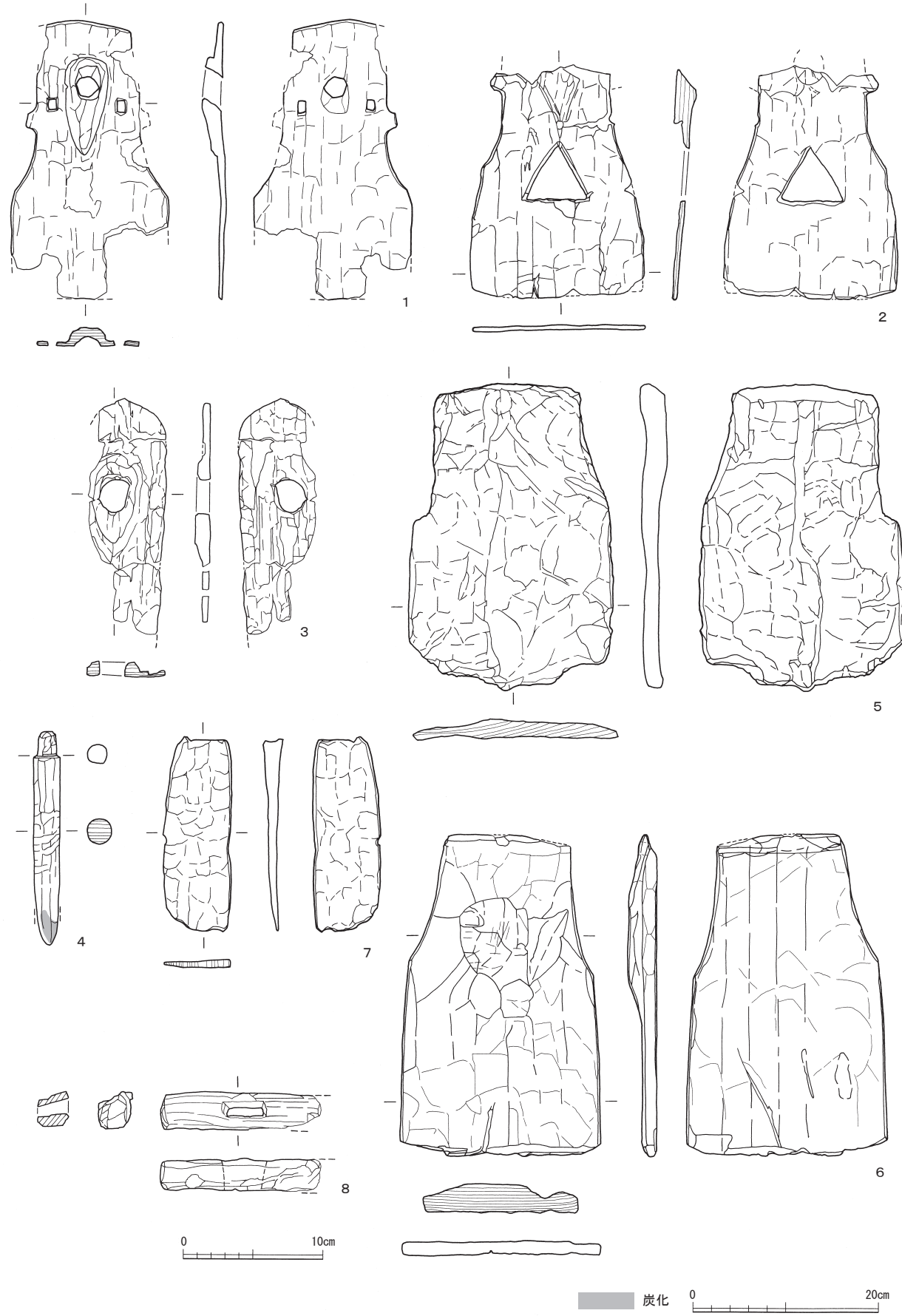
漁労具・武器・武具・祭祀具 (第127図) 第127図1・2は漁労具とした。1は網杵である。末端は紐掛け状に削り出し、間を空けて溝を掘った内側に網を留める孔を穿つ。2も網杵の可能性があるので、外側を削り平坦面としている。1のような穿孔は確認できない。3～11は武器・武具をまとめた。3・4は盾と考える。3の断面はやや内湾する。綴じ合わせのための小孔列があり、赤彩される。4は右側面には曲線的に抉りが入り、組合せ部材の可能性もある。小孔列が2列並行する。5は矢柄である。樹皮が巻かれる。6～8は弓または網杵の未成品と考える。いずれも端部は欠損または未加工であり、小枝の節を除去するも、7は一部に節を残す。弓または網杵の素材として確保されたものかもしれない。6には工具による削られた箇所があり不自然である。9の形状は弓形をしているが、端部を杭状に加工しており、弓を再利用した可能性がある。他の弓とした物よりも節が残る印象を受ける。10・11は弓である。10の残存する弭の形状は、両側面を削り突出部とする。11は上下の弭を欠く。12は祭祀具の武器形である。矢または槍を模したものと考える。

容器類 (第128図) 第128図1は蓋と考える。断面方形の摘みを組み合わせる。2は椀である。挽物の可能性がある。3は底板である。周縁に側板を木釘で固定する段を持つ。木釘位置は推定6箇所である。4～7は刳物桶である。4には紐孔の突起が付く。わずかに赤色顔料が遺存する。5・6は同様の規模だが、同一個体かは不明である。8・9は底板である。9には補修孔と考える小孔がある。10～13は指物容器の部材と考える。10・11は両端部の柄で側板と組み合わせる。下部の孔は紐または木釘で底板と結合したと考える。12は台形状を呈す。13の片面には多数の刃傷が残る。

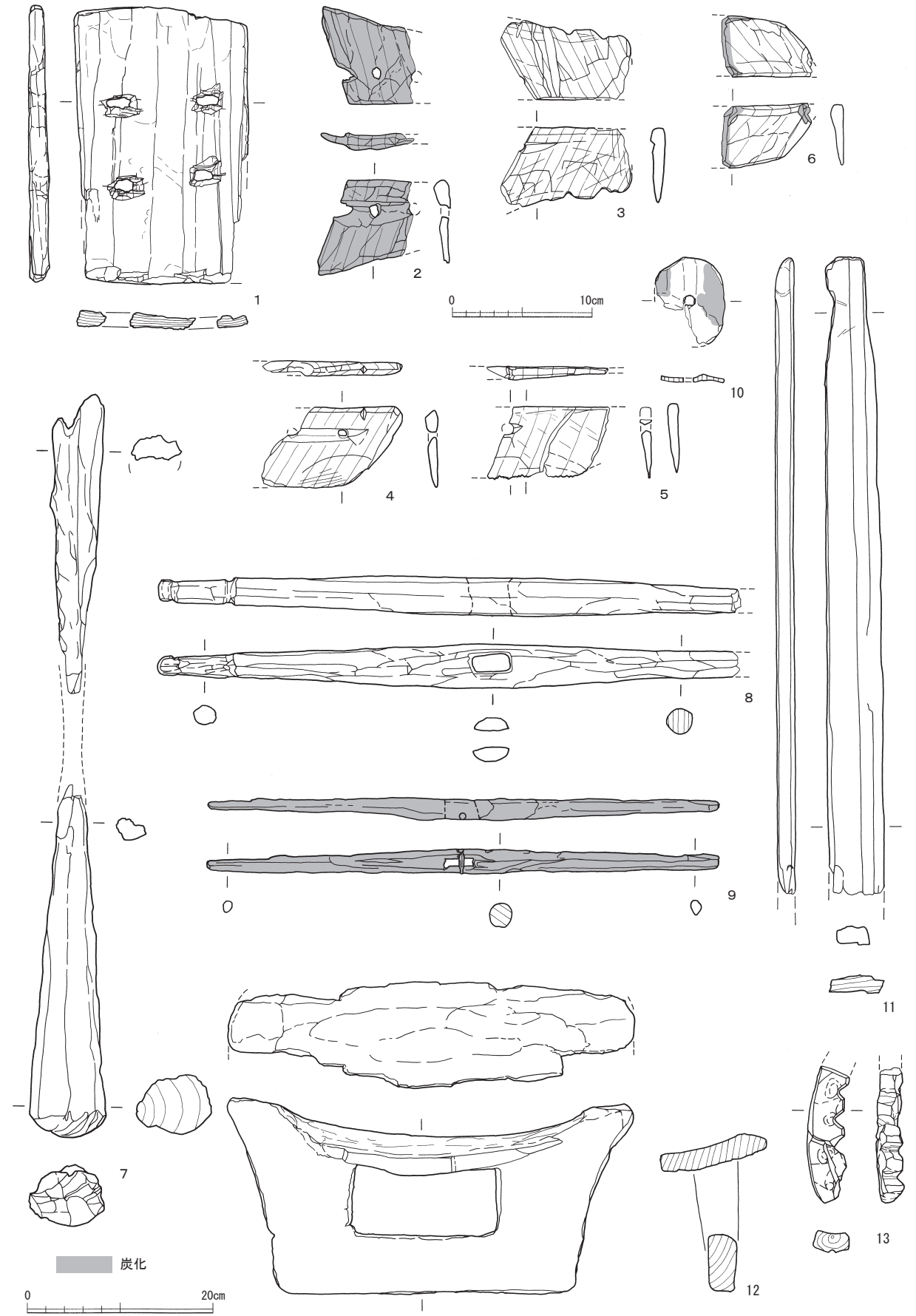
棒材・板材・建築部材 (第129図～第132図) 建築部材を含む、棒状および板状の部材を一括する。第129図1は芯持材を反割りし、端部を紐掛け状にする。第129図2は湾曲した枝材を用いる。表裏面を平坦面とし、両端を紐掛け状にする。第129図3は頭部を多角錐状に削り出し、軸部を設けた部材である。第129図4は法量が第124図8の鋤柄の把手に近似する。中央に平行する線刻が柄孔の位置を示すならば把手の未成品か。あるいは栓とも考えられる。第129図5は端部の形状から柄基部の可能性はある。



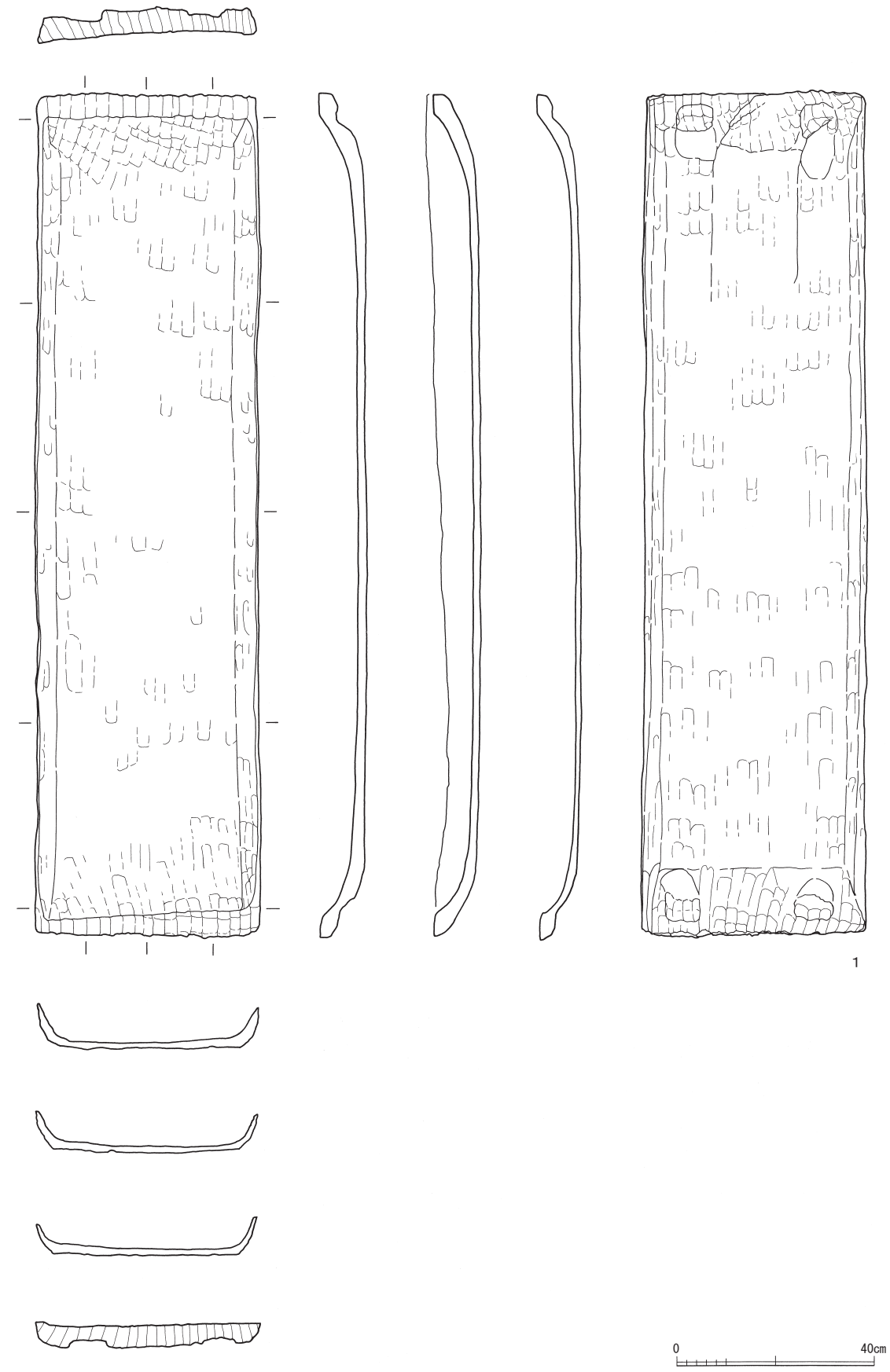
第123図 III・IV・VI区出土石器実測図 (縮尺1/3: 1・2・4・5、縮尺2/3: 3、縮尺1/5: 6)



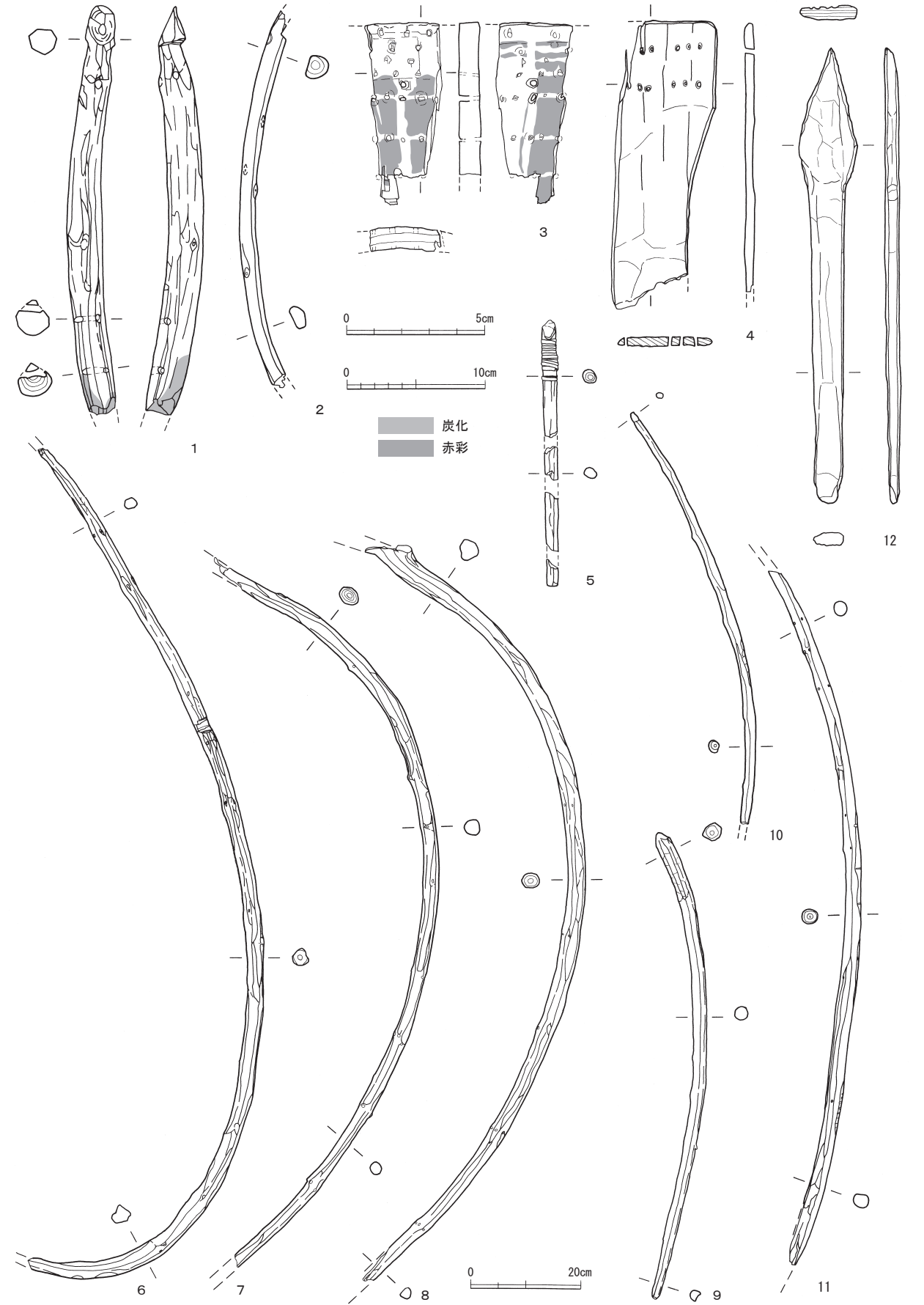
第124図 I区出土木製品実測図-1 (縮尺1/6: 1~7、縮尺1/4: 8)



第125図 I区出土木製品実測図-2 (縮尺1/6: 1・7・12、縮尺1/4: 2~6・8~11・13)



第126図 I区出土木製品実測図-3 (縮尺1/12)



第127図 I区出土木製品実測図-4 (縮尺1/4: 1・2・4・5・12、縮尺1/2: 3、縮尺1/10: 6~11)

第129図6は欠損しており、棒材または板材となる。第129図7は切り欠きのある棒材。第129図8は端部を紐掛け状に削り出す。第129図9は幅2.4cm程度を細く削り段差を付けた棒材である。第129図10・11は浅い柄溝を有す。6・11にはわずかに赤色顔料が遺存する。第129図12は欠損するが、柄溝、穿孔が確認できる。第130図1・2の棒材は一端を丸く収めるように加工する。1は柄の可能性もある。第130図3は一端を削って薄く加工した棒材。第130図4は断面八角形に面取りし、端部を杭状としている。第130図5・11・12は杭状に端部が先細る。第130図6は端部を有頭状に削り出した棒材である。第130図7は両端を斜めに面取りする。第130図8は角材の杭、第130図9は丸太材の杭である。第130図10は上部を紐掛け状に削り出す。第131図1～3・7・8は板材である。7は刃傷が多数付いた板材である。端部を一部柄状に切り欠いている。第131図4は柄状の加工を有す。5はL字状を呈す。端部にかけて斜めに削り、柄孔を設ける。建築部材の可能性はある。第131図6は角材である。一端を求心的に面取りする。第131図9は横断面がやや湾曲する板材である。端材か。赤色顔料が遺存していたが、不鮮明なため範囲は図示し難い。第131図10は切断材である。断面が台形状を呈し、両端部を求心的に削り出している。被熱し、炭化した部分がある。第132図1は梯子である。足掛け部は大きく欠損するが1箇所残存する。裏面は被熱により炭化している。第132図2は角材である。第132図3～6はその法量から建築部材の可能性のある板材および角材である。5は穿孔がされており、片面のみに炭化部分がある。3～5は壁材や床材など、6は垂木の可能性を考える。

その他 (第133図1～7) 第133図1から7は用途不明のもの、および樹皮素材である。1は円柱状の一端に湾曲した腕状のものが付く。腕状の部分は折損しており、円柱部分と接する部分の加工は、一方の面は緩やかで反対の面は鋭角に削り込む。精製品であり、祭祀具であろうか。2は断面形が菱形を呈す。図下部は折損しており、本来は棒状を呈していたと考える。3は円錐状を呈す。小孔列が2段めぐる。4～7は樹皮材である。サクラ属の樹皮である。

2) I区遺構・包含層出土木製品 (第133図8～13)

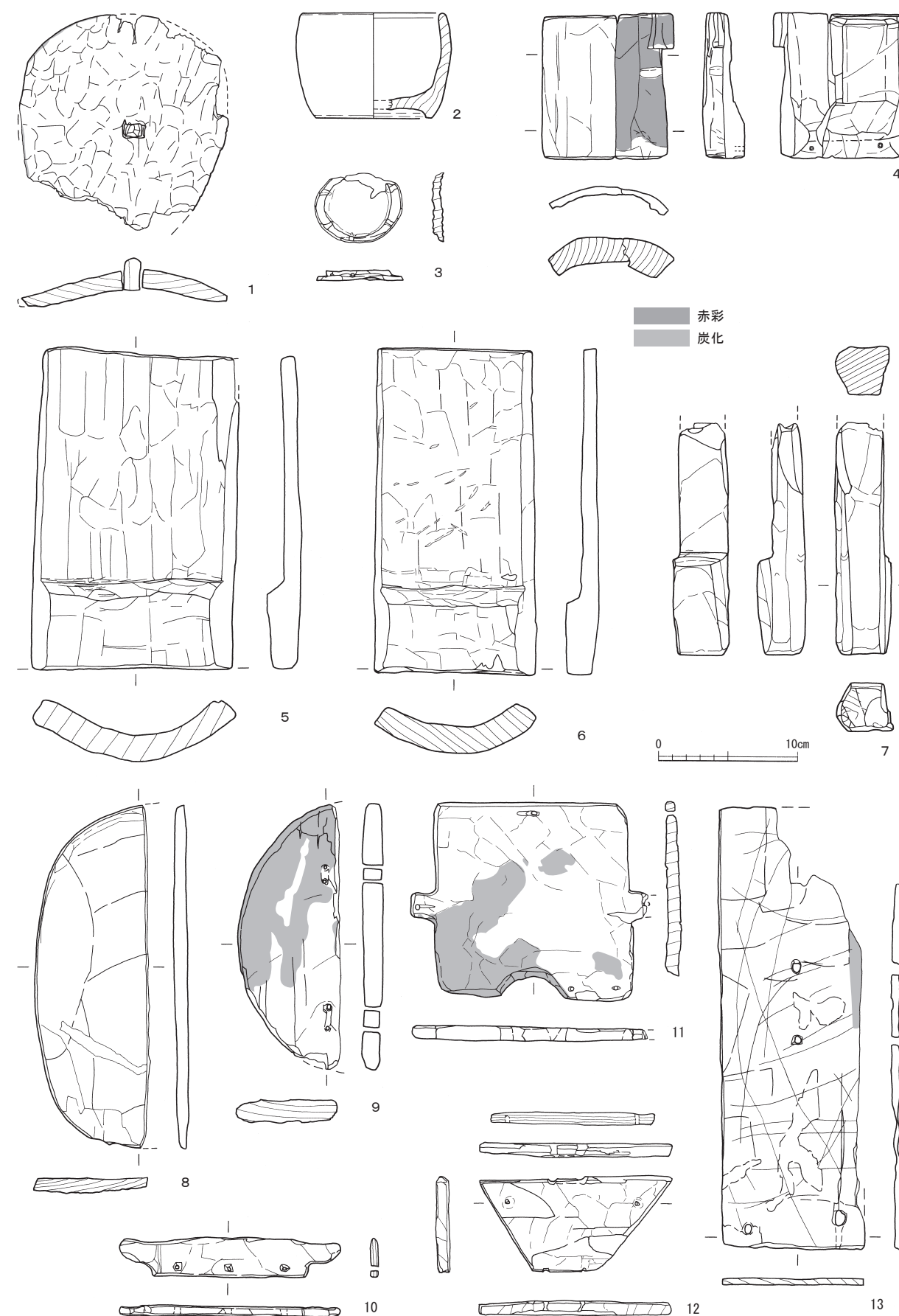
第133図8～10は包含層から出土している。8・9は結合補助材である。全体が非常に丁寧な加工である。頭部は方形に削り出され、軸部断面は長方形を呈す。2点の規格は揃っており、同一部材に対として使用されたと考える。10は剝物桶の破片である。11はSD6から出土した棒状部材である。端部を円錐状に削り出し、側面には4箇所ずつ抉りがある。12は指物容器の部材の可能性はある。13はSI1から出土した腰掛である。SR1出土(第125図12)と同様の形状である。

3) II区SR1出土木製品 (第134図1～第137図5)

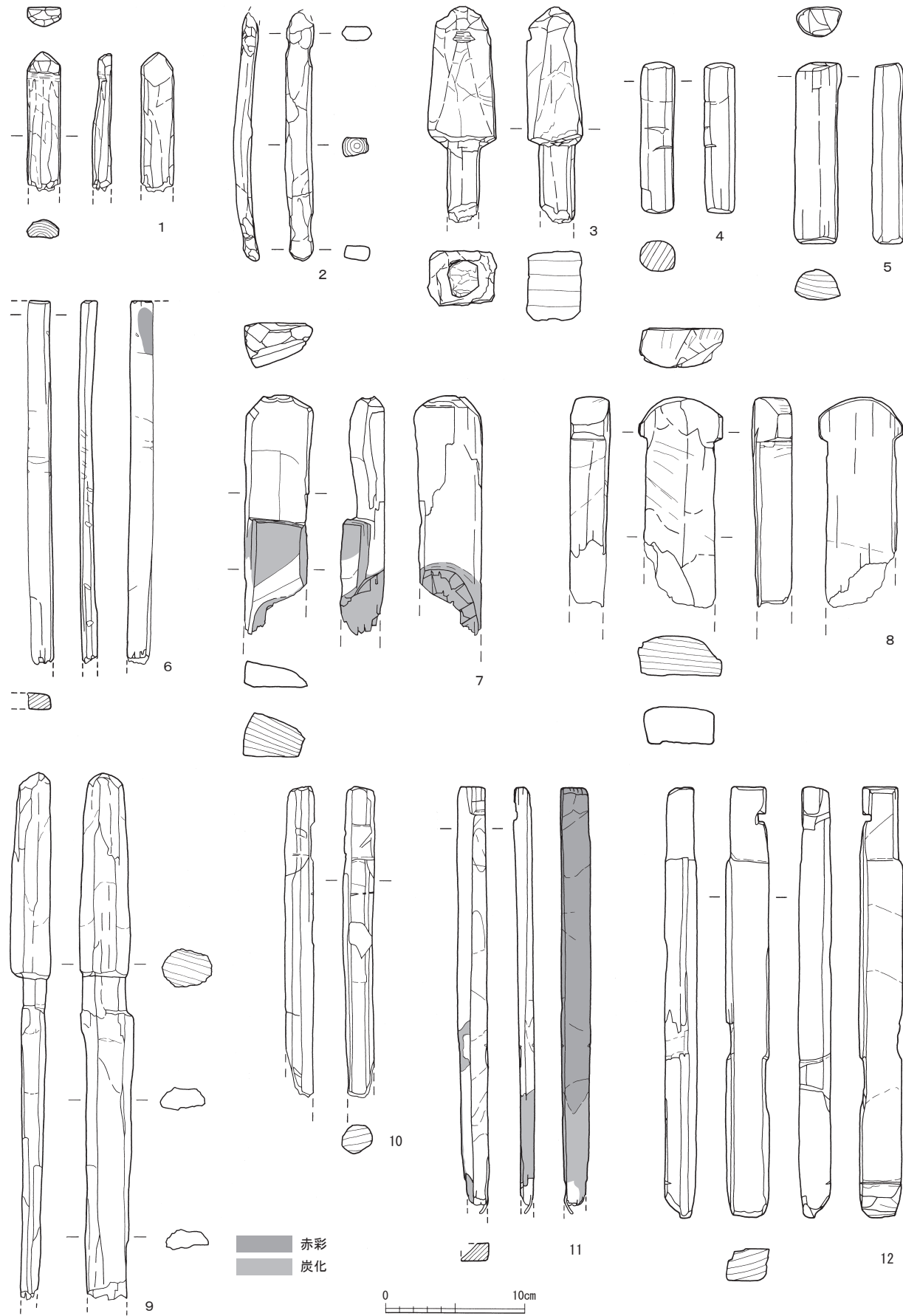
農工具 (第134図) 第134図1・2は、直柄平鋏の柄と身である。2の鋏身には1の柄の一部が着柄した状態で出土した。2の身幅は狭く、隆起部は緩やかに厚みを増す。第134図3は、直柄平鋏の柄穴隆起部である。第134図4は、一木式の木鎌と考える。刃部を欠く。第134図5は、代踏みに用いる杵型田下駄の部材と考える。12個の孔が穿たれており、両端の円形孔は紐掛け用、その他の方形孔は柄孔となり、出土時は一部に欠損した柄が残存していたが現状では外れている。第134図6は、木庖丁である。背は直線的となり、2孔一対の紐孔を穿つ。紐孔を結ぶ溝を有し、左側縁に剝り込みが入る。

紡織具 (第135図1～4) 第135図1～4は紡織具である。第135図1～3は布巻具または経巻具である。第135図4は腰当てと考える。やや湾曲する。

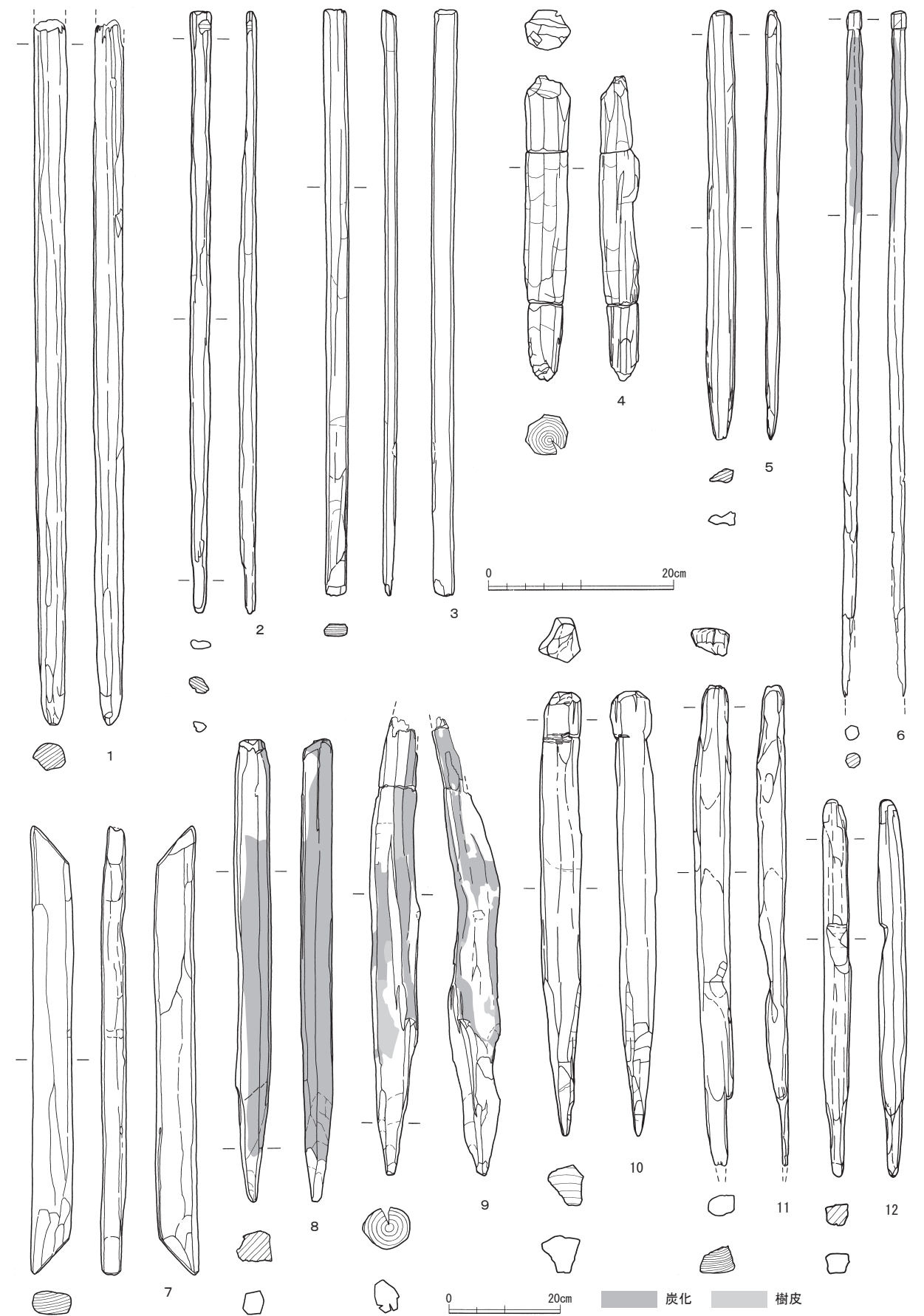
武器・武具 (第135図5・6) 第135図5・6は武器・武具である。第135図5は盾で、表面には赤彩がある。第135図6は弓である。末弭は周囲を細く削り出し、本弭は両側面を削り細くする。



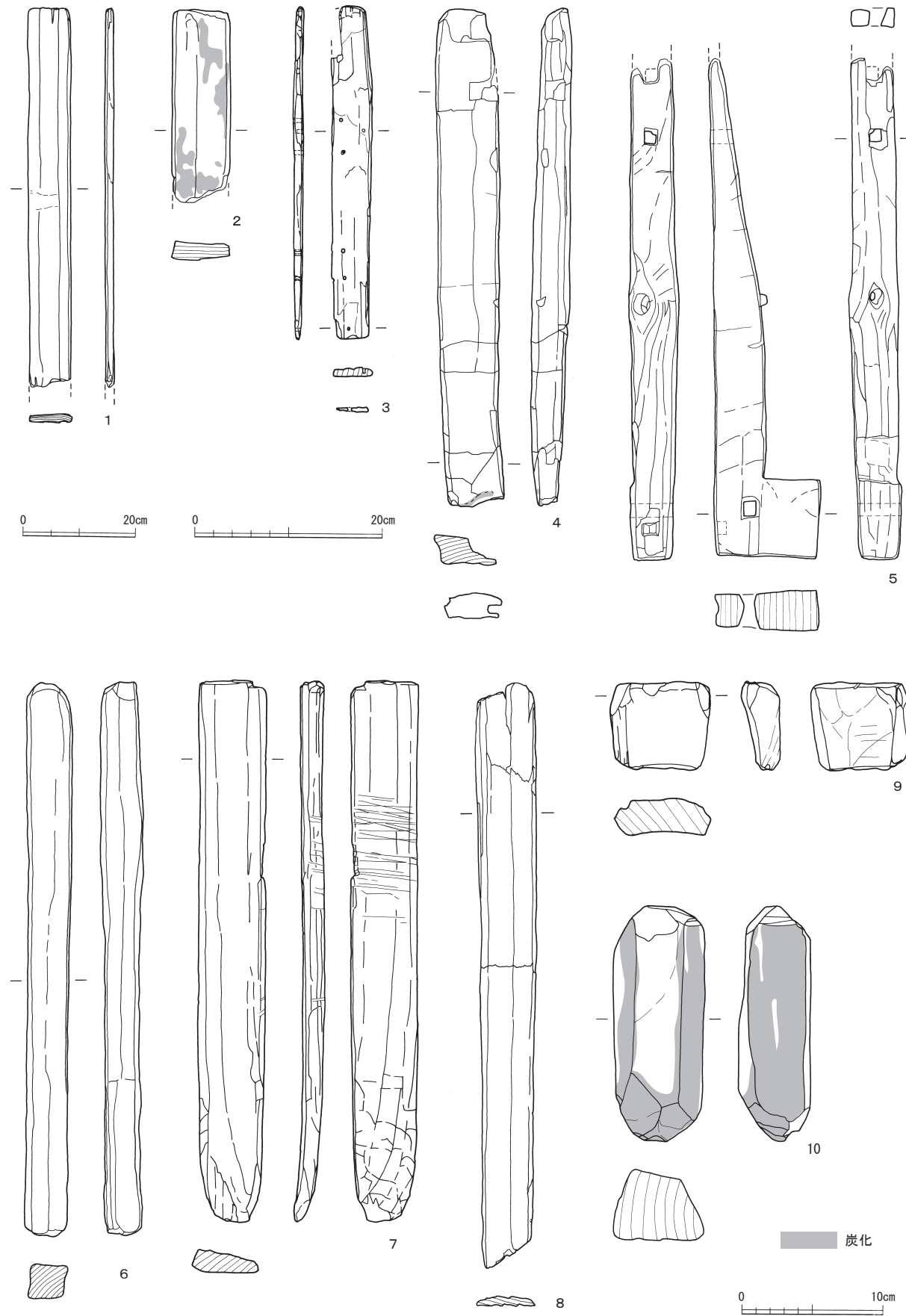
第128図 I区出土木製品実測図-5 (縮尺1/4)



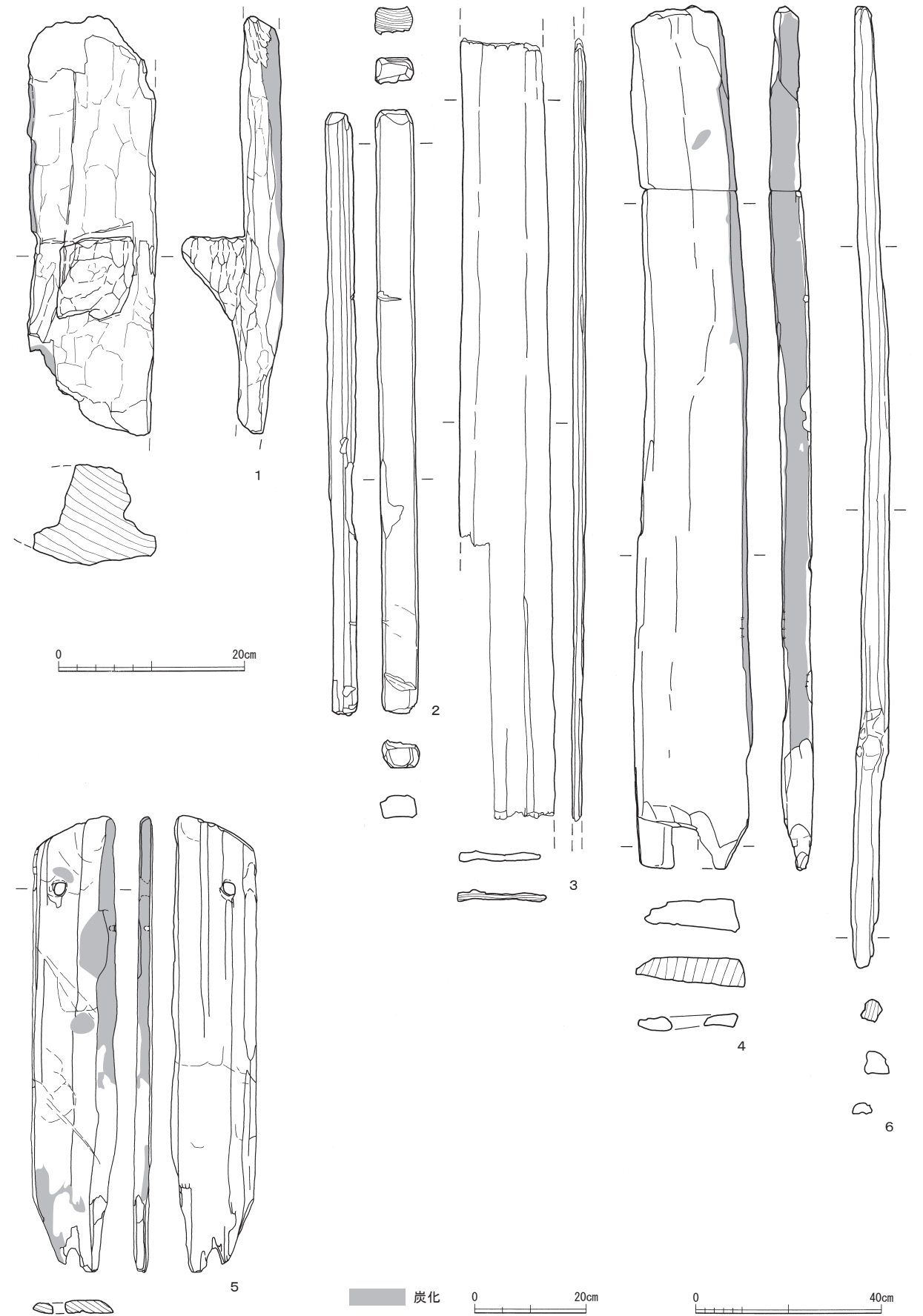
第129図 I区出土木製品実測図-6 (縮尺1/4)



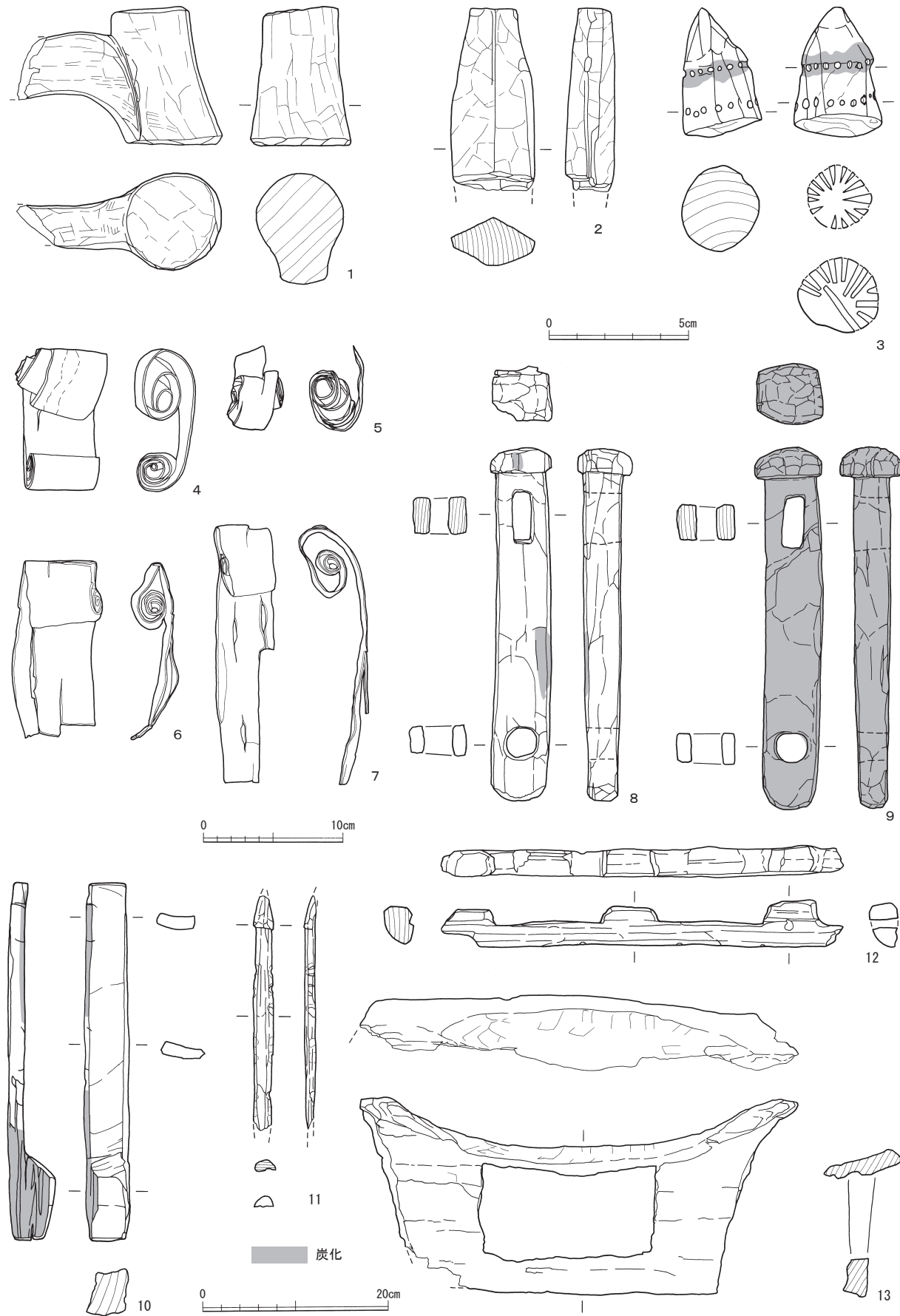
第130図 I区出土木製品実測図-7 (縮尺1/6: 1~6、縮尺1/10: 7~12)



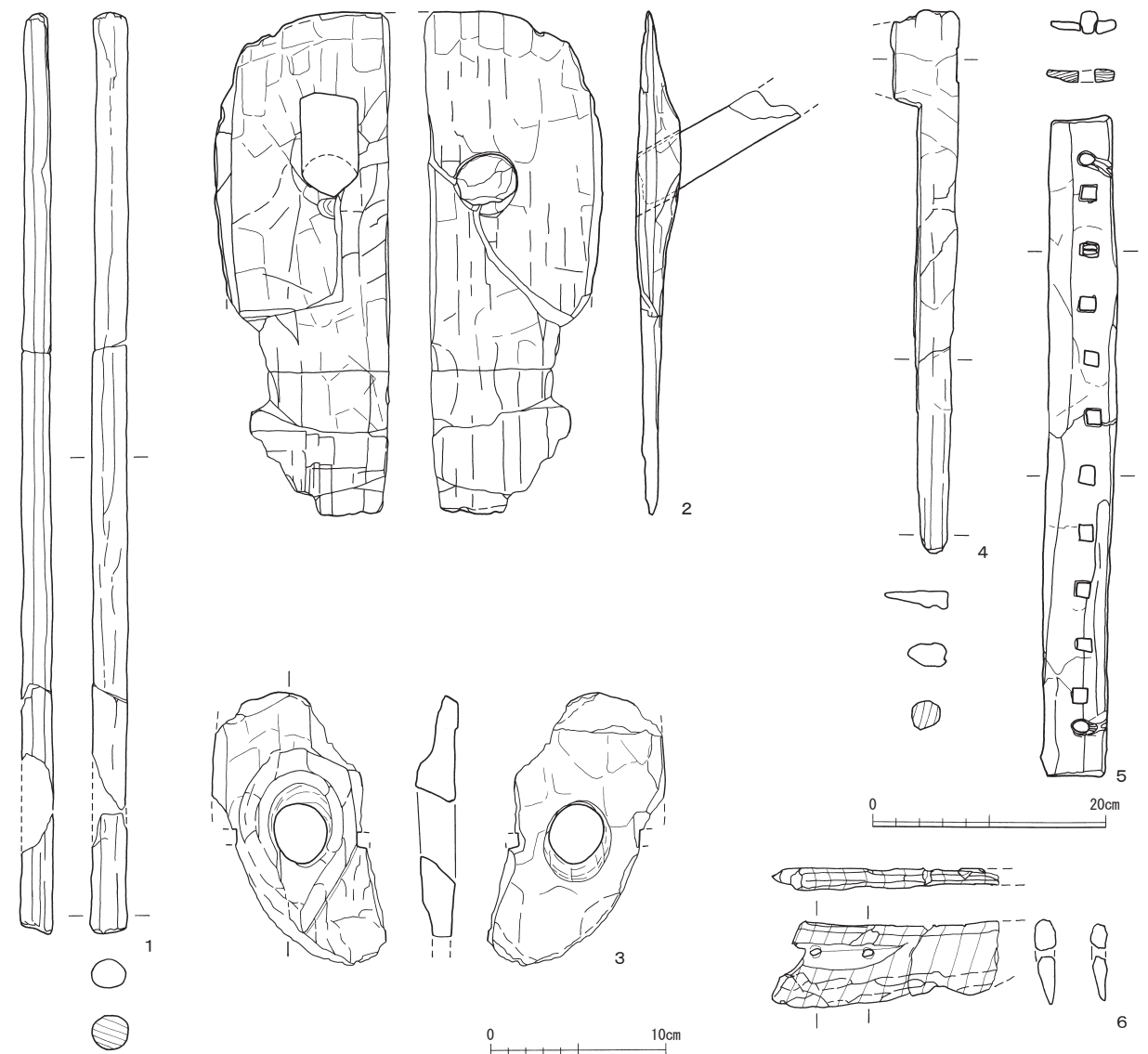
第131図 I区出土木製品実測図-8 (縮尺1/10: 1、縮尺1/6: 2~8、縮尺1/4: 9・10)



第132図 I区出土木製品実測図-9 (縮尺1/6: 1・5、縮尺1/10: 2~4、縮尺1/12: 6)



第133図 I区出土木製品実測図-10 (縮尺1/4: 1・2・6~12、縮尺1/2: 3、縮尺1/6: 13)

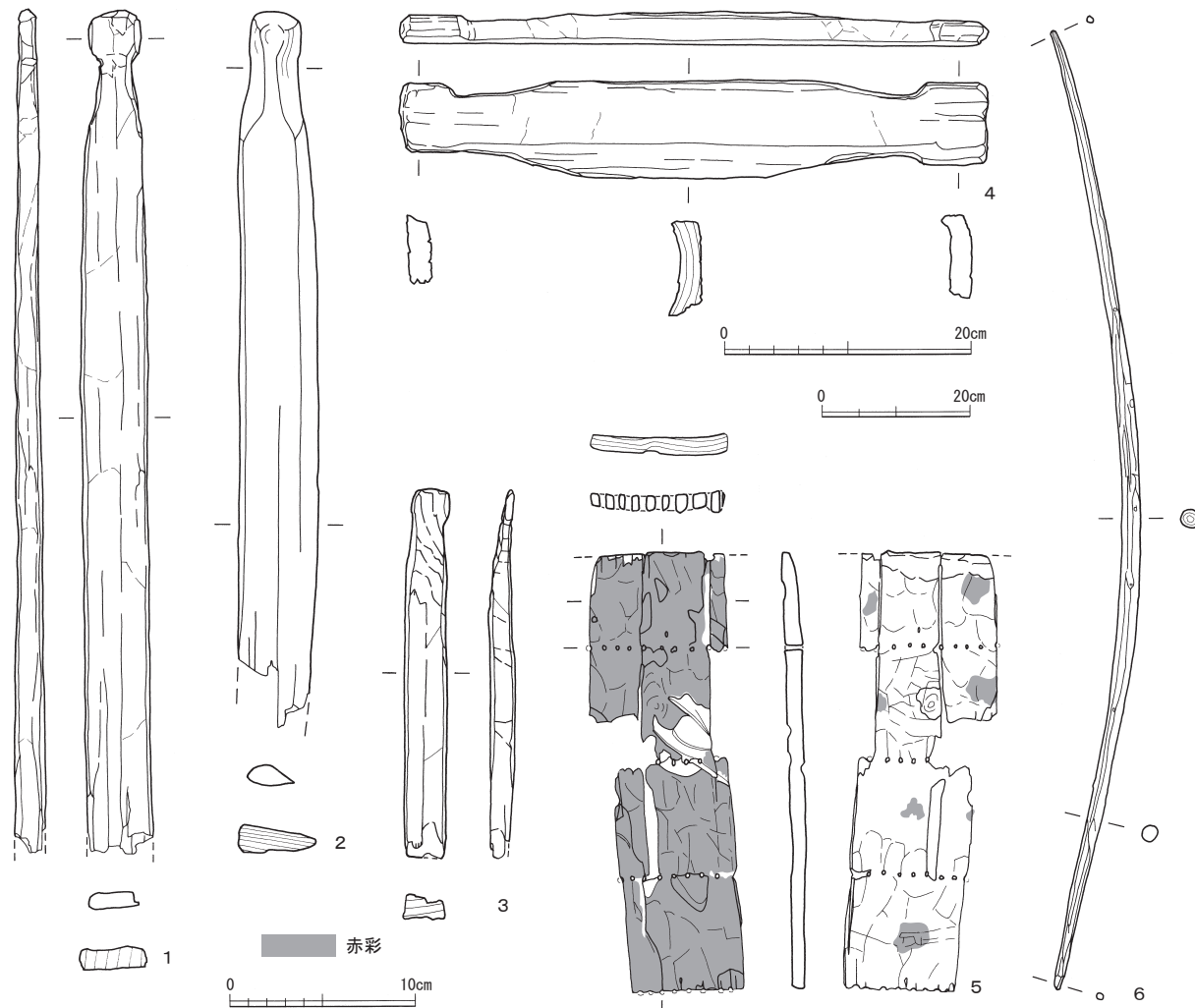


第134図 II区出土木製品実測図-1 (縮尺1/6: 1・5、縮尺1/4: 2~4・6)

棒材・板材・建築部材 (第136図・第137図) 建築部材を含む、棒状および板状の部材を一括する。第136図1は薄く削り出された板材。欠損するが、中央に穿孔が、上下端部には木釘痕を有す。指物部材の可能性も考えられる。第136図2は断面が湾曲し、端部が鋭角的となる。第136図3・4は一端を半円状に削り出した板材。第136図5は端部を切り欠いて紐掛け状にした板材。第136図6は杭状を呈す。第136図7は柄孔を有す板材。第136図8は角材である。第136図9は断面が楕円形を呈す棒材で、柄の可能性もある。第136図10は一端が柄状となる。欠損のため不明だが、布巻具の可能性も考えられる。第136図11の板材は柄孔を有す組合せ部材である。第136図12の板材は3本の楕形が残存する琴の上板のように見受けられるが、朽ちたものと判断した。第136図13は端部を円錐状に丸く収めた棒材。第136図14は板目材を棒状に削り出した柄の可能性もある。第137図1~3は杭である。1・2は辺材を削り出し、3は丸太材の端部を杭状に削り出したものである。第137図4・5は梯子である。ともに下端部分と考え、4は弧状に、5は逆V字に仕上げている。

4) II区SR2出土木製品 (第138図1~8)

第138図はII区SR2出土木製品をまとめた。第138図1は泥除である。上端面は直線的となり、その下

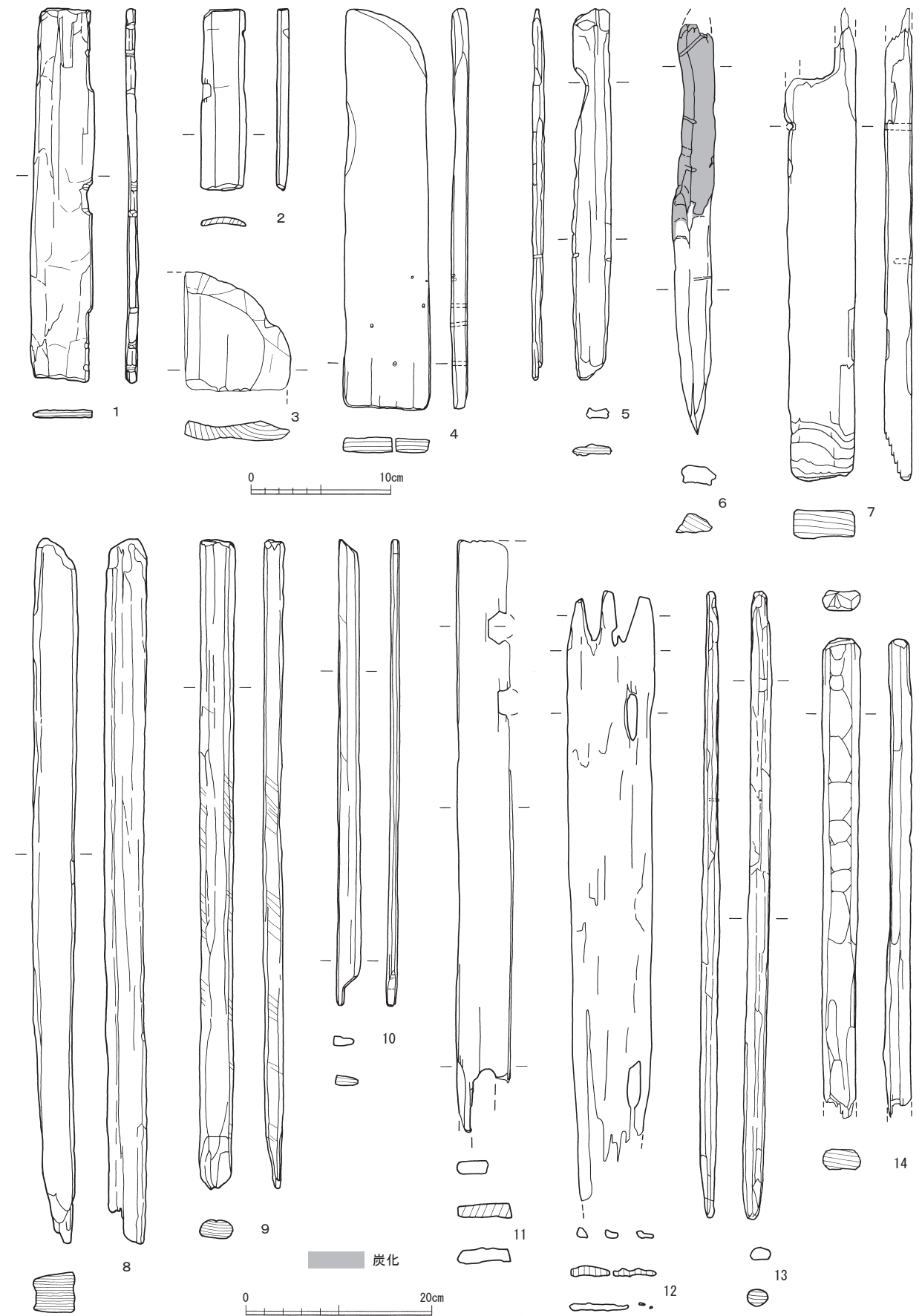


第135図 II区出土木製品実測図-2 (縮尺1/4: 1~3・5、縮尺1/6: 4、縮尺1/10: 6)

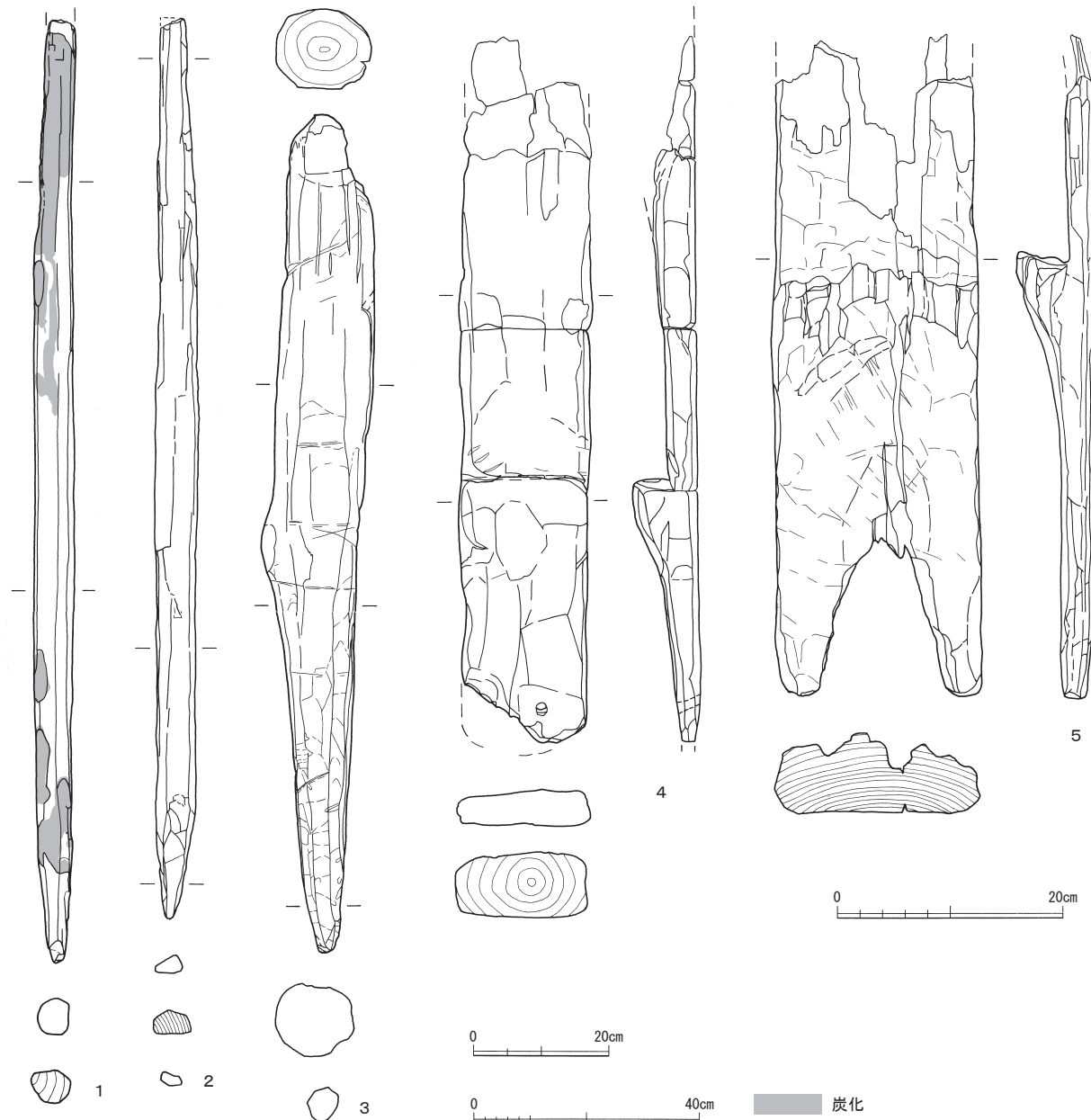
に方孔を穿つ。第138図2は杵型田下駄の部材である。第138図3は不明部材である。図上端は求心的に削り出され、下端は面取りされる。栓の可能性や端材などが考えられる。第138図4・5は祭祀具で、4は平面観を表した鳥形である。5は舟形で、底面は平坦に、内面は浅く削り窪めている。船首には穿孔途中のような窪みがあり、船尾には内外面を貫通する穿孔がある。第138図6~8は部材で、6は3箇所に穿孔があり、側面から斜めに貫通している。対の側面は鋭角に仕上げている。7・8は端部を有頭状に削り出している。7の断面形は三角形を呈す。

5) II区SR3出土木製品 (第139図1~第140図6)

第139図はII区SR3出土の農工具・漁労具・食事具・容器・祭祀具・雑具・不明品をまとめた。第139図1・2は農工具である。1は木鎌の刃部および柄頭部と考える。2は斧の柄と考える。握りの基部断面は円形を、頭部近くは隅丸方形状となる。第139図3は食事具の横杓子である。深めの身の口縁と柄の接続部に段を有し、水平気味の柄の中ほどに穿孔がある。第139図4は容器である。刳物の高坏または脚付きの鉢状を呈す。大きさから一木作りと考える。第139図5は不明部材である。表面に断面が半円状の突帯を4条削り出す。図上面には柄孔を有すが、図下面の窪みは欠損のため、柄孔なのか脚部の削り出しによるものか不明である。精製品であり、組部材の一部であろう。第139図6・7は祭祀具である。6は剣形または槍形である。7は線刻板である。片面のみ2個の同心円状の線刻が切り合うように引か



第136図 II区出土木製品実測図-3 (縮尺1/4: 1~7、縮尺1/6: 8~14)



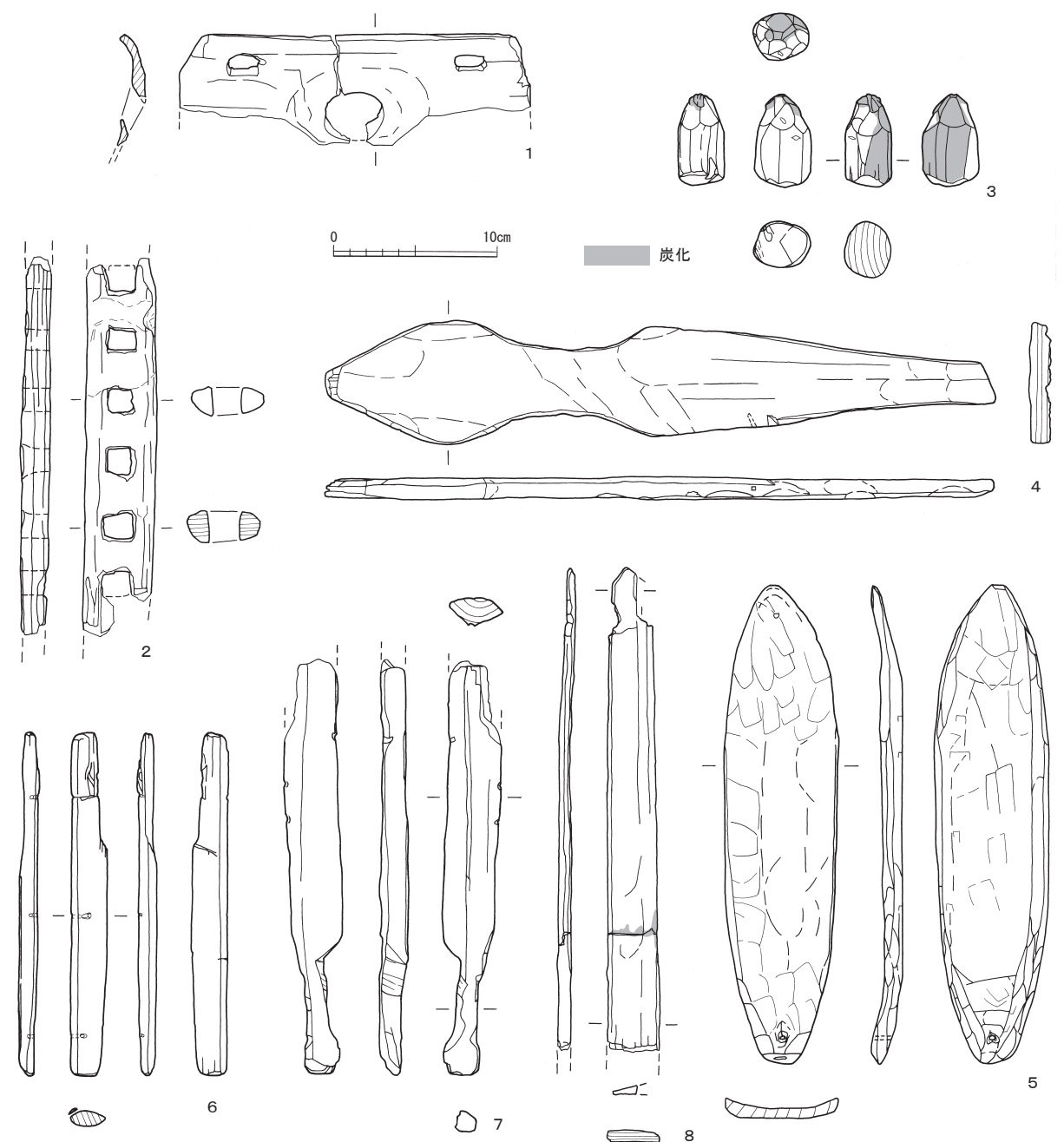
第137図 II区出土木製品実測図-4 (縮尺1/10: 1・2、縮尺1/12: 3、縮尺1/6: 4・5)

れる。図上部の同心円の中央には横方向にも線が引かれる。第139図8～10は雑具である。8は軸部の厚さは薄くなる。9・10は図上端が杭状に削り出され、下端は面取りされる。10は上下方向に穿孔される。8～10は結合補助材としての栓の可能性などが考えられる。第139図11・12は漁労具の網枠である。枝材を利用し、端部は紐掛けを削り出し互いを結束させる構造が考えられる。

第140図1～6は、II区SR3出土の板材・棒材をまとめた。第140図1は穿孔のある板材。第140図2は楕円形を呈す底板と考える。第140図3は端部を紐掛け状に削り出す。第140図4は両端に柄溝を有し、片側の溝内に木釘痕が残る板材である。第140図5は柄孔を有す棒材。第140図6は先細らせた上端部に穿孔し、下端はへら状に薄く削られた棒材である。

6) II区SR4出土木製品 (第140図7～11)

第140図7～11はII区SR4出土の護岸遺構の杭を含む棒材・板材をまとめた。第140図7は棒状を呈す。



第138図 II区出土木製品実測図-5 (縮尺1/4)

端部を欠損する。切り欠き、穿孔を有す。第140図8は断面形が楕円形の棒状を呈す。端部を欠損する。第140図9～11は棒状および板状を呈する杭である。

7) II区SK13出土木製品 (第141図1)

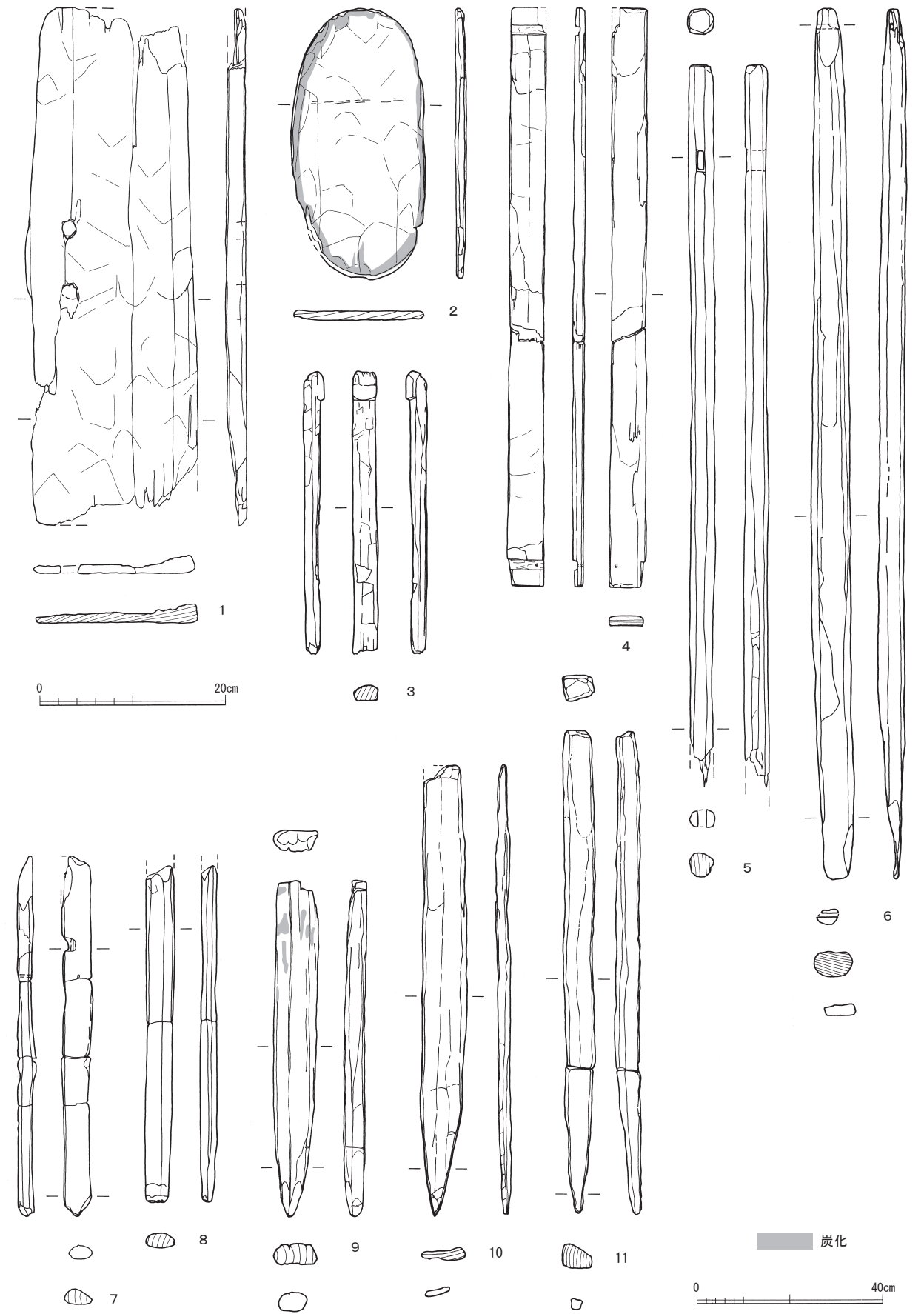
第141図1は刳物の盤と考える。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。内面の彫り込みは浅く、脚はつかない。内外面とも削り痕を消し去っておらず、精製品ではない。

8) III区SR1・SR2出土木製品 (第142図1～8)

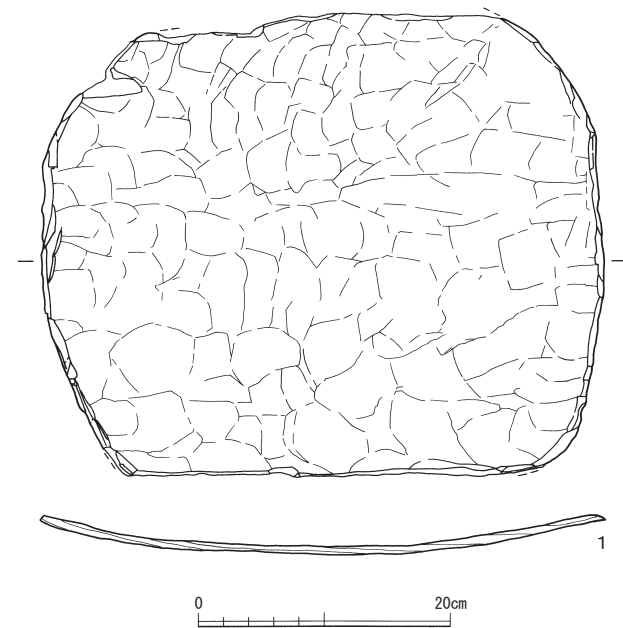
第142図1～8はIII区SR1・SR2出土の木製品をまとめた。第142図1は人形である。頭部は欠損する。左右の足が表現される。第142図2は切り欠きのある板材。第142図3・6・7は穿孔のある板材である。第142図4・5は長方形に切り出された板材である。5の一端は断面三角形の柄状に削り出される。こ



第139図 II区出土木製品実測図-6 (縮尺1/4: 1~10、縮尺1/6: 11・12)



第140図 II区出土木製品実測図-7 (縮尺1/6: 1~8、縮尺1/12: 9~11)



第141図 II区出土木製品実測図-8 (縮尺1/6)

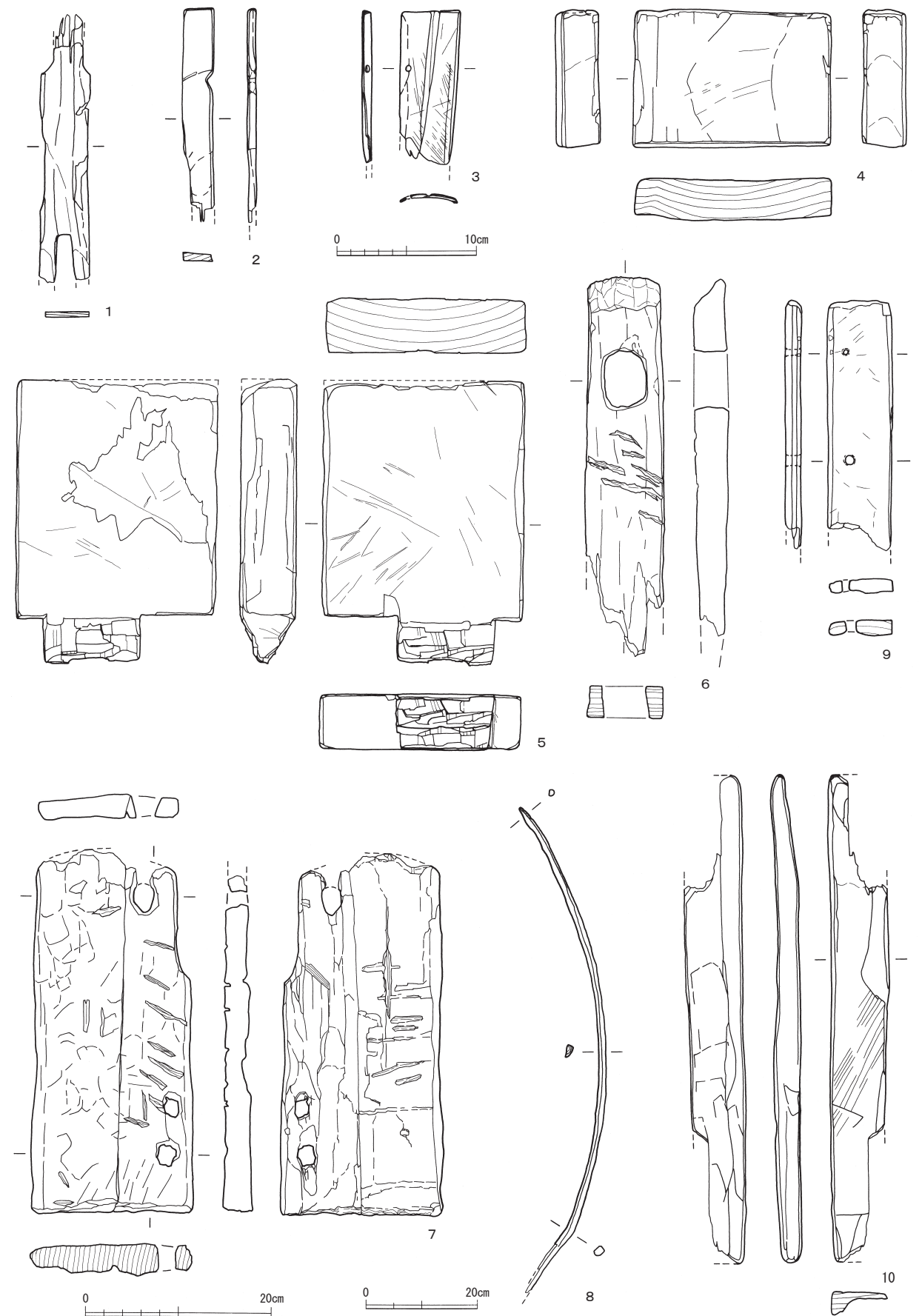
所、浅く削った部分が1箇所ある。側面にはケガキがあり、切り欠く目印の可能性ある。III区SD1出土木製品の時期は平安時代以降に比定される。

10) IV区SR1出土木製品 (第143図11~第144図10)

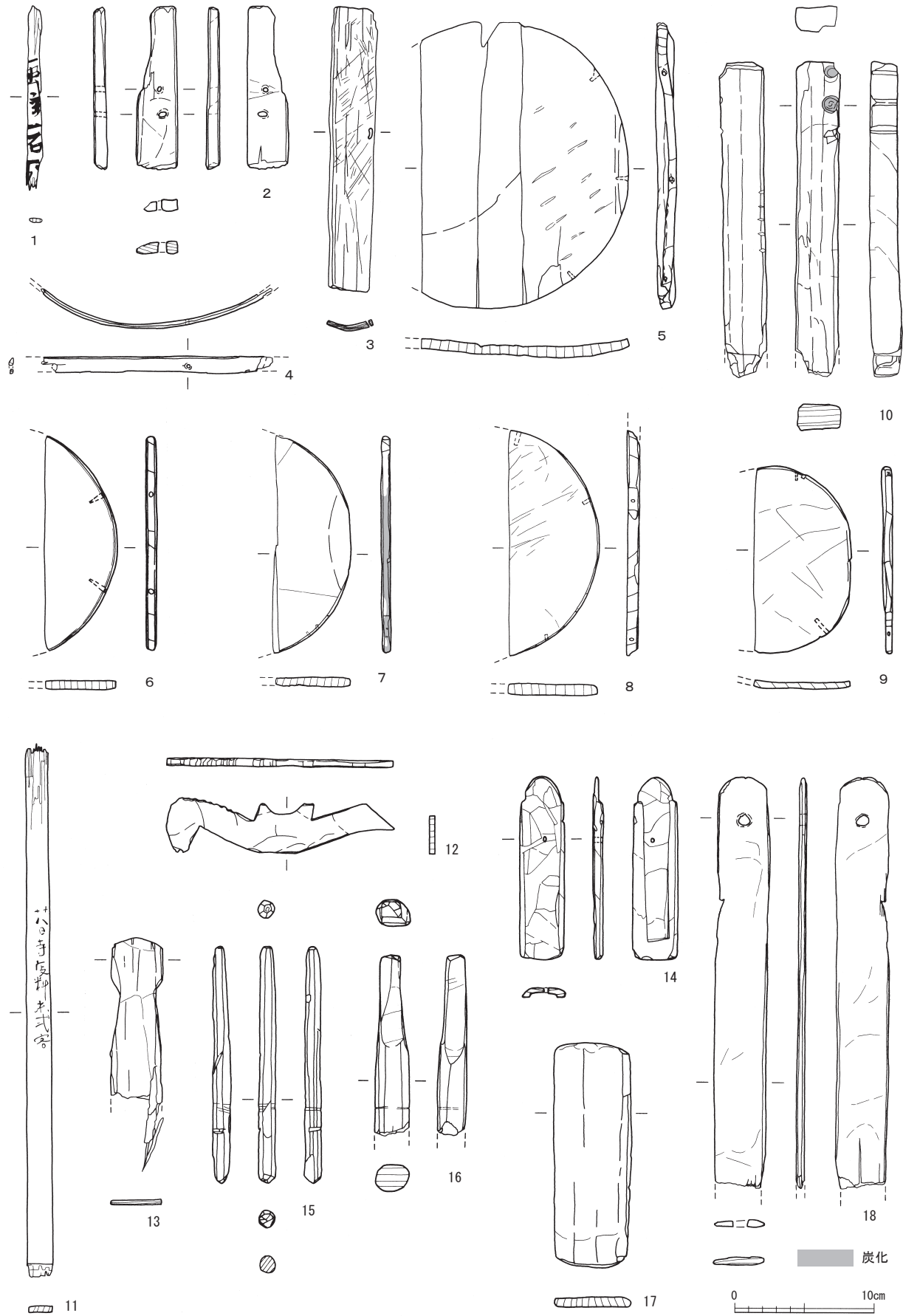
第143図11~18、第144図はIV区SR1出土木製品をまとめた。第143図11は木筒である。『廿八日寺口〔家カ〕料米弍客』と墨書される。第143図12は馬形である。口、たてがみ、鞍が表現される。第143図13は人形の頭部~胴部片である。第143図14は把である。2枚で茎を挟み込む構造であり、把縁は薄く半円形に削り出し、把間には目釘の跡が1箇所ある。第143図15・16は棒状部材である。15の両端は丸く収まり、一方の端部が先細りとなる。16は図上部の断面が方形で柄であろう。第143図17・18は板材である。17は底板の可能性ある。第144図1・2は棒材である。1は柄を作り出す。第144図3~10は板材である。4は先端を杭状に削り尖らせる。5は側面に2箇所の切り欠きがある。これらの内、3・6~10は建築部材と考える。これらIV区SR1出土木製品の時期は平安時代以降に比定されるが、11の木筒は出土層位から中世以降の可能性ある。

引用・参考文献

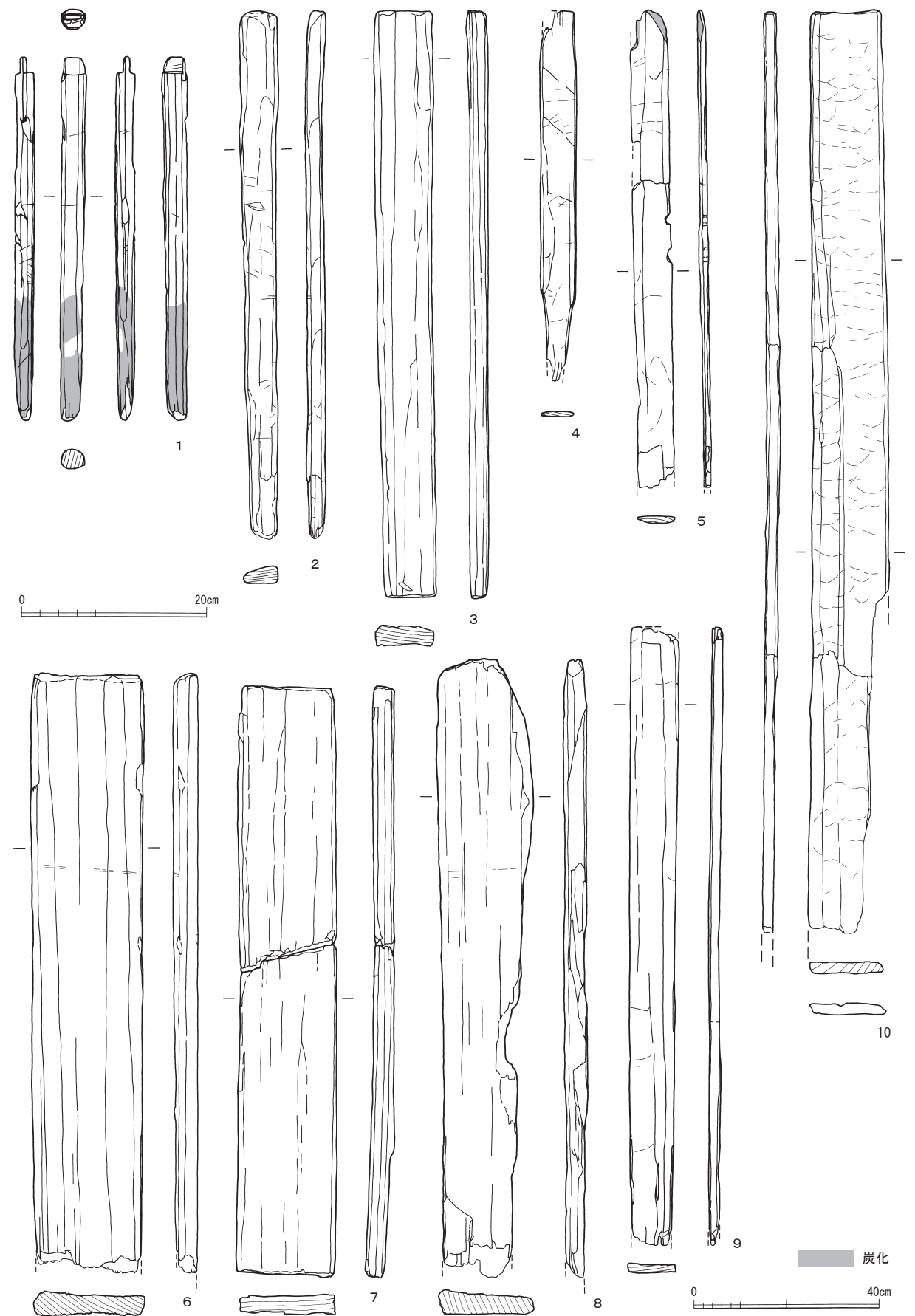
北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題』北陸古代土器研究会
 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録 近畿原始篇(図版)』
 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録 近畿原始篇(解説)』
 仁科章 1998 「福井県における縄文時代の祭祀遺物資料集成(上)」『福井県立博物館紀要』第7号 福井県立博物館
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2009 『林・藤島遺跡泉田地区』第1分冊-本文編- 福井県埋蔵文化財調査報告第106集
 豆谷和之 1994 「糞置式土器について」『文化財学論集』文化財学論集刊行会
 横田賢次郎・森田勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』



第142図 III区出土木製品実測図 (縮尺1/4: 1~3・9、縮尺1/6: 4~7・10、縮尺1/10: 8)



第143図 III・IV区出土木製品実測図 (縮尺1/4)



第144図 IV区出土木製品実測図 (縮尺1/6: 1~8、縮尺1/12: 9・10)

第3表 縄文時代の土器観察表

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
54	1	I	SD5	深鉢	—	—	(2.4)	外)口縁部:刻目突帯文 内)摩耗	②	灰オリーブ色	やや良	
54	2	I	SD5	壺	—	—	(4.9)	外)刺突突帯文・3条隆線集束と三角形抉り内)沈線文1条・指ナデ	①④	浅黄橙色	やや良	
54	3	I	SD5	鉢	—	—	(4.0)	外)口縁部:指ナデ・眼鏡状隆帯文、体部:沈線文2条 内)摩耗	②③	にぶい黄橙色	良	
54	4	I	SD6	鉢	—	—	(5.2)	外)口縁部:隆帯文・眼鏡状隆帯文・横ミガキ、体部:沈線文2条 内)指オサエ	②③	にぶい褐色	良	
54	5	I	SD6/上層	深鉢	—	—	(1.9)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)指オサエ	②③	にぶい黄橙色	良	
54	6	I	SD6	底部	—	(7.8)	(3.9)	外)体部:縦板ナデ、底部:ナデ 内)横板ナデ	②③	灰黄褐色	やや良	
54	7	I	SD12/下層	深鉢	—	—	(4.8)	外)横指ナデ・平行沈線文1条 内)指ナデ	②③	にぶい黄橙色	良	
54	8	I	SD12/下層	深鉢	—	—	(5.7)	外)横指ナデ・縦ケズリ 内)指ナデ	②	にぶい橙色	良	
54	9	I	SD12/下層	深鉢	—	—	(8.5)	外)口~頭部:横条痕・横板ナデ、体部:縦条痕 内)横板ナデ	①④	浅黄橙色	良	
54	10	I	SD12/下層	深鉢	—	—	(4.0)	外)縦板ナデ・横板ナデ・平行沈線文3条 内)指ナデ	②③	にぶい褐色	やや良	
54	11	I	SD12/上層	深鉢	—	—	(6.5)	外)横指ナデ・斜行文 内)指ナデ	②③	にぶい黄橙色	やや良	
54	12	I	SD12/下層	深鉢	—	—	(6.3)	外)口~頭部:横条痕、体部:斜め条痕 内)指ナデ・斜め板ナデ	②③	にぶい褐色	良	
54	13	I	SD12/下層	深鉢	—	—	(4.3)	外)斜め板ナデ 内)横板ナデ	②③	にぶい黄橙色	良	
54	14	I	SD12/上層	深鉢	—	—	(2.5)	口)指頭押圧 外)縦条痕 内)指オサエ	②③	浅黄橙色	良	
54	15	I	SD12	深鉢	—	—	(4.2)	口)指頭押圧か 外)横板ナデ 内)指ナデ	②③	にぶい褐色	良	
54	16	I	SD12/下層	鉢	—	—	(3.8)	口)小波状、口~頭部:横指ナデ 内)横指ナデ	②③	明黄褐色	やや良	
54	17	I	SD12	浅鉢	—	—	(3.6)	口)小波状 外)指ナデ 内)隆帯文・指オサエ・指ナデ	②③	にぶい黄橙色	やや良	
54	18	I	SD12	鉢	—	—	(4.2)	口)小波状 外)格子状の条痕 内)ミガキ	①③	にぶい褐色	良	外面に煤付着
54	19	I	SD12/下層	底部	—	6.5	(3.2)	外)体部:横指ナデ、底部:小石圧痕 内)ナデ・指オサエ	②③	にぶい黄橙色	良	
54	20	I	SD12/上層	底部	—	(7.4)	(2.5)	外)指ナデ・平行沈線文2条、底部:指ナデ 内)ナデ	②③	にぶい黄橙色	良	
55	1	I	SR1/①/中層	深鉢	(31.4)	—	(27.2)	口)刻目文、体部:横条痕 内)指オサエ・斜め板ナデ・縦板ナデ	②③	にぶい黄橙色	やや良	炭化物付着
55	2	I	SR1/①/上下層	深鉢	(29.8)	—	(24.2)	口)刻目文、体部:横条痕 内)斜め指ナデ・横板ナデ・縦板ナデ	①④	灰黄褐色	やや良	煤付着
55	3	I	SR1/①	深鉢	(34.0)	—	(26.7)	口)小波状 外)縦条痕後横条痕 内)斜め指ナデ	②③	にぶい黄橙色	やや良	炭化物付着
55	4	I	SR1/①/中層	深鉢	(18.0)	—	(6.0)	口)波状口縁・指頭押圧 外)斜め指ナデ 内)隆帯文	③	褐色	良	
56	1	I	SR1/②/上下層	深鉢	(28.0)	—	(14.0)	外)口~頭部:斜めナデ(条痕ナデ消し)、体部:縦条痕 内)指ナデ・斜め板ナデ	②③	にぶい黄褐色	やや良	植物圧痕か
56	2	I	SR1/③④/中層	深鉢	—	—	(25.9)	外)口~頭部:横条痕、体部:縦条痕 内)横板ナデ・斜め板ナデ	②⑥	灰黄褐色	やや良	煤付着
56	3	I	SR1/③④	深鉢	(28.0)	—	(20.5)	外)口縁部:刻目文、体部:横条痕 内)頭部:指オサエ、体部:板ナデ	②③	灰黄褐色	やや良	
56	4	I	SR1/③④	底部	—	8.1	(12.8)	外)斜め・縦条痕、底部:指ナデ・小石圧痕 内)指ナデ・斜め・横ケズリ	②④	にぶい黄褐色	良	煤付着
56	5	I	SR1/④/下層	底部	—	7.4	(9.4)	外)縦条痕・指オサエ、底部:小石圧痕・ナデ 内)横指ナデ・指オサエ	②③	灰黄褐色	やや良	
56	6	I	SR1/①/中下層	底部	—	(6.0)	(7.9)	外)縦条痕、底部:指ナデ 内)縦板ナデ	①④	にぶい黄褐色	やや良	炭化物付着
56	7	I	SR1/①/中下層	底部	—	6.0	(9.2)	外)縦条痕・指オサエ、底部:指ナデ 内)横板ナデ・ナデ	①④	にぶい黄褐色	やや良	炭化物付着
56	8	I	SR1/①/中層	底部	—	7.0	(5.7)	外)縦条痕・指オサエ、底部:小石圧痕 内)板ナデ	②③	明黄褐色	良	
56	9	I	SR1/①/中下層	底部	—	8.0	(4.9)	外)縦条痕、底部:小石圧痕・指ナデ 内)斜めナデ	②③	にぶい黄褐色	良	
56	10	I	SR1/①/中下層	底部	—	5.5	(5.1)	外)縦条痕、底部:指ナデ 内)斜め板ナデ・ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	植物圧痕か
56	11	I	SR1/①/中下層	底部	—	7.7	(3.0)	外)縦条痕、底部:指ナデ 内)摩滅	②④	灰黄褐色	良	

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
56	12	I	SR1/①/中層	底部	—	6.0	(5.0)	外)縦条痕・指オサエ、底部:小石圧痕 内)斜め板ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	
56	13	I	SR1/③④/下層	底部	—	5.8	(10.1)	外)縦条痕・ナデ、底部:指ナデ 内)横板ナデ・横指ナデ	②④	にぶい黄褐色	やや良	炭化物付着
56	14	I	SR1/①/中下層	底部	—	(5.7)	(3.3)	外)ナデ、底部:網代痕・ナデ 内)板ナデ・ミガキ	②③	にぶい黄褐色	良	
56	15	I	SR1/①/中下層	底部	—	(6.0)	(3.8)	外)ミガキ・指ナデ、底部:指ナデ 内)縦ナデ・指ナデ	②④	灰白色	やや良	
56	16	I	SR1/①/上層	底部	—	(3.6)	(2.3)	外)縦ミガキ、底部:指ナデ 内)ケズリ	②④	灰黄褐色	良	
56	17	I	SR1/③/下層	底部	—	(3.7)	(3.0)	外)斜め板ナデ・斜めミガキ、底部:指オサエ 内)縦指ナデ	②	褐灰色	良	
56	18	I	SR1/①/中層	底部	—	(3.4)	(1.5)	外)指オサエ・ナデ、底部:ケズリ 内)ナデ	②④	にぶい褐色	やや良	
56	19	I	SR1/③	底部	—	(5.5)	(1.4)	外)平行沈線文2条、底部:指ナデ 内)ケズリ	②③	黄灰色	やや良	
57	1	I	SR1/①/下層	壺	(16.4)	—	(9.2)	口)指頭押圧 外)押圧突帯文・指ナデ 内)斜め指ナデ	①④	灰黄褐色	やや良	
57	2	I	SR1/③/中層	壺	9.9	—	(7.3)	口)刻目文・押圧突帯文・縦板ナデ 内)板ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや良	
57	3	I	SR1/①/中下層	壺	(9.4)	—	(6.8)	口)指頭押圧 外)押圧突帯文・縦ケズリ 内)板ナデ	①②	褐色	良	
57	4	I	SR1/①/中下層	壺	(12.6)	—	(3.9)	口)指頭押圧 外)押圧突帯文・板ナデ 内)斜め指ナデ	②③	にぶい褐色	やや不良	
57	5	I	SR1/①/中下層	壺	(12.7)	—	(6.3)	外)押圧突帯文・斜め板ナデ 内)斜め板ナデ・縦板ナデ	①③	にぶい褐色	やや不良	
57	6	I	SR1/①/下層	壺	(11.4)	—	(8.4)	口)指頭押圧 外)横ケズリ・指オサエ・縦ケズリ 内)指ナデ	①④	にぶい黄褐色	やや良	
57	7	I	SR1/①/中下層	壺	(17.3)	—	(7.2)	口)指頭押圧 外)斜め板ナデ 内)斜め指ナデ	②③	明黄褐色	良	
57	8	I	SR1/①/中下層	壺	(8.6)	—	(5.1)	口)指頭押圧 外)縦板ナデ 内)指オサエ・指ナデ	①③	褐色	やや不良	
57	9	I	SR1/①/上層	壺	(9.3)	—	(5.6)	口)小波状 外)縦板ナデ 内)斜めナデ	①③	明褐灰色	やや不良	
57	10	I	SR1/①/中下層	壺	(8.9)	—	(8.4)	外)縦ケズリ 内)指ナデ・指オサエ	①③	灰白色	やや不良	
57	11	I	SR1/①/中下層	壺	(11.5)	—	(6.4)	外)縦板ナデ 内)指オサエ・指ナデ	①③	にぶい褐色	良	
57	12	I	SR1/③④/中層	壺	—	—	(20.8)	外)横条痕 内)指オサエ・指ナデ	①④	にぶい黄褐色	やや良	
58	1	I	SR1/①/中下層	鉢	30.0	—	(6.1)	外)4条隆線集束と三角形抉り・横指ナデ 内)口縁部:平行沈線文1条 体部:横ケズリ・指オサエ	①④	にぶい黄褐色	やや良	植物圧痕か
58	2	I	SR1/①/中下層	鉢	(32.0)	—	(8.9)	外)隆帯文・4条隆線集束と三角形抉り・ナデ 内)横ナデ	②③	にぶい褐色	やや不良	
58	3	I	SR1/①/中下層	鉢	(28.0)	—	(8.5)	外)口縁部:眼鏡状隆帯文・体部:4条隆線集束と三角形抉り・粗いミガキ 内)横指ナデ・指オサエ	①③	黒褐色	やや良	
58	4	I	SR1/③/中層	鉢	(24.7)	—	(4.5)	外)横ミガキ 内)長楕円形文・横ミガキ	②③	灰黄褐色	やや良	
58	5	I	SR1/③④/中下層	鉢	(27.6)	—	(3.8)	口)指頭押圧 外)沈線文4条・ミガキ 内)横ミガキ	②	灰黄褐色	良	
58	6	I	SR1/①/中下層	鉢	(24.0)	—	(6.8)	口)指頭押圧 外)縦条痕 内)横板ナデ	②	明黄褐色	良	
58	7	I	SR1/①/中下層	鉢	(23.9)	丸底	8.4	外)横ミガキ、底部:条痕 内)横ミガキ	①④	褐灰色	やや良	
58	8	I	SR1/①/下層	鉢	(12.6)	4.8	10.4	口)刻目文 外)縦ケズリ・指オサエ、底部:ナデ 内)指オサエ・ケズリ	②③	黄褐色	良	口縁楕円形状
58	9	I	SR1/③/中層	鉢	(13.3)	—	(8.3)	外)口縁部:突帯文、体部:横指ナデ・斜め板ナデ 内)横・斜め板ナデ	①③	にぶい褐色	やや不良	煤付着
58	10	I	SR1/①/中下層	鉢	(13.6)	5.4	10.5	口)小波状 外)口縁部:横指ナデ、体部:縦条痕、底部:小石圧痕・ナデ 内)横ケズリ・斜め条痕・指オサエ	②③	灰黄褐色	良	
58	11	I	SR1/③/中層	鉢	(15.9)	—	(7.7)	外)平行沈線文4条・三叉状文・斜線文 内)口縁部:突帯文・横ミガキ	②③	にぶい黄褐色	やや良	
58	12	I	SR1/①/中下層	壺	(10.3)	—	(4.2)	口)指頭押圧 外)隆帯文・工字文 内)平行沈線文・横板ナデ・指オサエ	①③	褐色	やや良	
58	13	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(4.3)	外)工字文・横ミガキ 内)板ナデ・指オサエ	①③	にぶい褐色	やや不良	
59	1	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(5.0)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)指オサエ・斜め指ナデ	②	灰黄褐色	やや良	
59	2	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.6)	口)小波状 外)横指ナデ・縦条痕 内)指オサエ・横板ナデ	②③	黄褐色	良	

第4章 遺構と遺物

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
				口径	底径	器高					
59 3	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.4)	外)横板ナデ・平行沈線文1条 内)斜め指ナデ	①	にぶい黄橙色	良	
59 4	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.6)	口)笠押圧 外)横板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)斜め板ナデ	②	黒色	良	
59 5	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.4)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・平行沈線文1条・横ケズリ 内)横ナデ	①	にぶい黄橙色	良	
59 6	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.7)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・平行沈線文1条・横ケズリ 内)横ケズリ	②④	にぶい黄褐色	良	煤付着
59 7	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(6.2)	外)横ケズリ・平行沈線文1条・縦条痕 内)横指ナデ・斜め板ナデ	②③	灰黄褐色	良	
59 8	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(7.8)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)横・斜め条痕	②	黄褐色	良	煤付着
59 9	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.5)	外)横板ナデ・縦条痕 内)横指ナデ・指オサエ	②③	淡黄色	良	煤付着
59 10	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(3.9)	口)小波状 外)横板ナデ・縦条痕 内)横指ナデ・横ケズリ	②	褐灰色	良	
59 11	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(8.3)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・縦板ナデ 内)斜め板ナデ	①④	黄褐色	良	
59 12	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(8.6)	口)小波状 外)横板ナデ・縦条痕 内)横板ナデ・指オサエ	②③	にぶい黄褐色	良	炭化物付着
59 13	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(7.0)	口)刻目文 外)横板ナデ・縦条痕 内)横板ナデ	②③	灰白色	良	
59 14	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(7.2)	口)指頭押圧 外)横指ナデ・縦削り 内)横指ナデ・横条痕	②③	灰白色	良	煤付着
59 15	I	SR1/④/下層	深鉢	—	—	(6.9)	口)小波状 外)横板ナデ・斜めケズリ 内)斜めケズリ	①④	にぶい黄褐色	良	煤付着
59 16	I	SR1/③/下層	深鉢	—	—	(7.3)	口)凹線 外)横板ナデ・段・縦条痕 内)横板ナデ・横ケズリ	②③	明褐灰色	良	
59 17	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(8.4)	口)指頭押圧 外)板ナデ・平行沈線文1条・縦板ナデ 内)斜め板ナデ	①	にぶい黄褐色	良	
59 18	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.4)	口)小波状 外)横指ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)指ナデ	②④	灰黄褐色	良	
59 19	I	SR1/①/下層	深鉢	—	—	(4.2)	外)横ケズリ・平行沈線文2条 内)横板ナデ	②④	褐灰色	良	
59 20	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(3.9)	外)横条痕・縦条痕 内)指オサエ	①③	灰白色	良	煤付着
60 1	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(3.3)	外)横板ナデ後縦条痕 内)横条痕	①	灰黄褐色	良	
60 2	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(2.3)	外)横板ナデ 内)摩耗	①③	明赤褐色	良	
60 3	I	SR1/③/下層	深鉢	—	—	(2.7)	口)刻目文 外)横板条痕 内)指ナデ	②③	灰白色	やや良	
60 4	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.9)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・指オサエ 内)指オサエ・斜め板ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	
60 5	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.7)	口)指頭押圧 外)斜め板ナデ 内)横板ナデ	②③	灰白色	やや良	
60 6	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.2)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)横・斜めケズリ	①	にぶい黄褐色	やや良	
60 7	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.6)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)指オサエ・縦板ナデ	①	にぶい黄褐色	やや良	
60 8	I	SR1/①	深鉢	—	—	(2.8)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)指オサエ・斜めケズリ	②	灰白色	やや良	
60 9	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.0)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)指ナデ・縦板ナデ	①	橙色	良	
60 10	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.6)	口)小波状 外)横板ナデ・縦条痕 内)横指ナデ	①	明黄褐色	良	
60 11	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(5.3)	外)横板ナデ・縦条痕 内)横指ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	炭化物付着
60 12	I	SR1/③/下層	深鉢	—	—	(4.0)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・平行沈線文1条 内)指オサエ・横板ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	
60 13	I	SR1/①	深鉢	—	—	(5.5)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)横板ナデ	①③	灰白色	やや良	
60 14	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(5.6)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)指オサエ・指ナデ	②	浅黄褐色	やや良	
60 15	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.1)	口)小波状 外)横板ナデ 内)横板ナデ	②	明黄褐色	良	
60 16	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(5.9)	口)平行沈線文1条 外)横ケズリ 内)指オサエ・斜めケズリ	②	にぶい橙色	良	
60 17	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(5.6)	外)縦板ナデ 内)斜め・横板ナデ	②	明黄褐色	やや良	
60 18	I	SR1/③/下層	深鉢	—	—	(4.6)	外)横指ナデ 内)横ナデ・横板ナデ	①	褐灰色	良	

第2節 遺物

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
				口径	底径	器高					
60 19	I	SR1/③/下層	深鉢	—	—	(5.0)	外)横板ナデ 内)斜め指ナデ	②	にぶい黄褐色	やや良	
60 20	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(5.5)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・縦板ナデ 内)縦板ナデ	②③	橙色	良	
60 21	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(3.0)	口)笠押圧 外)横条痕 内)横指ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	
60 22	I	SR1/①/下層	深鉢	—	—	(4.5)	口)小波状 外)斜め・横条痕 内)斜め指ナデ	②④	黒褐色	良	炭化物付着
61 1	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(5.0)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)横・斜め板ナデ	①③	にぶい褐色	やや良	煤付着
61 2	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(5.2)	口)笠押圧 外)斜め条痕 内)指ナデ・指オサエ	②④	黒褐色	良	
61 3	I	SR1/①/下層	深鉢	—	—	(5.5)	口)笠押圧 外)横板ナデ 内)指頭押圧・横板ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや良	
61 4	I	SR1/①/下層	深鉢	—	—	(6.7)	口)小波状 外)縦条痕 内)横・斜め板ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	
61 5	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.9)	口)笠押圧 外)横板ナデ 内)斜め板ナデ	②	黒色	良	炭化物付着
61 6	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.5)	口)刻目文 外)穿孔・縦条痕 内)指ナデ・縦板ナデ	③	にぶい黄褐色	良	
61 7	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(5.5)	外)横・縦板ナデ 内)斜め板ナデ	②③	褐灰色	良	
61 8	I	SR1/④/下層	深鉢	—	—	(6.0)	口)小波状 外)斜め板ナデ 内)斜め板ナデ	①③	灰褐色	良	炭化物付着
61 9	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(4.1)	口)小波状 外)横板ナデ 内)横板ナデ・ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	
61 10	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.5)	外)縦ケズリ 内)横板ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	
61 11	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(5.9)	口)刻目文 外)縦指ナデ 内)横・斜め指ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	
61 12	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(5.0)	外)縦条痕 内)縦・横板ナデ	②③	灰白色	良	
61 13	I	SR1/①/下層	深鉢	—	—	(6.0)	外)縦条痕 内)横板ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	炭化物付着
61 14	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.0)	口)注ぎ口カ 外)縦条痕 内)横板ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
61 15	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.8)	外)縦条痕 内)指オサエ・横板ナデ	②③	褐灰色	良	
61 16	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.5)	口)小波状 外)縦条痕	②③	褐灰色	良	
61 17	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(8.0)	外)縦ケズリ 内)横板ナデ・指オサエ	②	にぶい橙色	良	
61 18	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(4.8)	口)条線 外)横条痕 内)指ナデ・指オサエ	②③	明黄褐色	良	
61 19	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(3.9)	外)刻目突帯文・横ミガキ 内)指オサエ	②	明褐色	良	
61 20	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(7.5)	外)横板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)指オサエ・横板ナデ	①④	褐色	良	
61 21	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.7)	外)横板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)横指ナデ	②	明黄褐色	良	
61 22	I	SR1/①/上層	深鉢	—	—	(4.5)	外)横指ナデ・ケズリ 内)横板ナデ	②③	褐灰色	やや良	
61 23	I	SR1/③/中層	深鉢	—	—	(4.2)	外)横板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)指ナデ・指オサエ	②③	灰黄褐色	やや良	
61 24	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.4)	外)縦板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)横板ナデ	①④	灰黄褐色	良	
61 25	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(3.8)	外)斜め指ナデ・平行沈線文2条 内)横板ナデ	②	浅黄褐色	やや良	
61 26	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(4.8)	外)縦板ナデ・平行沈線文1条 内)横板ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや良	
61 27	I	SR1/③/下層	深鉢	—	—	(4.3)	外)半截竹管文・縦条痕 内)指ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや良	煤付着
61 28	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(7.5)	外)横ナデ・縦条痕 内)斜め指ナデ	②③	明黄褐色	良	煤付着
61 29	I	SR1/①/中層	深鉢	—	—	(5.2)	外)横板ナデ・縦条痕 内)斜め板ナデ	①	にぶい黄褐色	やや良	
61 30	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(6.7)	外)横板ナデ・縦板ナデ 内)斜め板ナデ	②③	にぶい黄褐色	やや良	
61 31	I	SR1/①/中下層	深鉢	—	—	(8.2)	外)縦板ナデ・斜め条痕 内)縦板ナデ	②③	明黄褐色	良	
61 32	I	SR1/④/下層	深鉢	—	—	(8.3)	外)指ナデ・縦条痕 内)斜め板ナデ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
62	1	I	SR1/①/上層	壺	—	—	(3.9)	口)指頭押圧 外)押圧突帯文・指オサエ 内)指オサエ	②	にぶい 橙色	良	
62	2	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(3.3)	外)押圧突帯文・指オサエ 内)指オサエ	②③	明褐色	良	
62	3	I	SR1/③/下層	壺	—	—	(2.5)	外)刻目突帯文・横ナデ 内)指ナデ	②③	明褐色	良	
62	4	I	SR1/中下層	壺	—	—	(4.3)	外)横ナデ・刻目文 内)指オサエ・ナデ	①③	にぶい黄 橙色	良	
62	5	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(3.5)	外)平行沈線文1条・横ミガキ 内)平行沈 線文1条	②④	黄褐色	良	
62	6	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(3.0)	外)横ミガキ 内)指オサエ	②③	にぶい黄 橙色	良	
62	7	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(3.9)	外)粗い横ミガキ 内)横指ナデ	②	にぶい 橙色	良	
62	8	I	SR1/①/下層	壺	—	—	(3.9)	外)横板ナデ・平行沈線文1条・縦条痕 内)横指ナデ	②③	にぶい黄 橙色	やや良	
62	9	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(2.4)	外)横ナデ・縦ケズリ 内)横ナデ	②③	にぶい黄 橙色	やや良	
62	10	I	SR1/①/中層	壺	—	—	(2.9)	外)ミガキ 内)指オサエ	②④	明褐色	良	
62	11	I	SR1/①/中層	壺	—	—	(4.0)	外)沈線文7条・粘土瘤(刺突入) 内)沈線 文2条	①③	灰褐色	やや良	
62	12	I	SR1/①/中下層	壺	—	—	(4.2)	外)横ミガキ・突帯文上に平行沈線文・沈 線文3条 内)横ミガキ	②③	黄褐色	良	
62	13	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(6.0)	口)波状口縁 外)口縁部:隆帯文・沈線文、 頸部:横指ナデ・隆帯文、体部:平行沈線文 2条 内)指ナデ	①③	にぶい 褐色	良	煤付着
62	14	I	SR1/①/中下層	鉢カ	—	—	(4.4)	外)沈線引きの隆帯文2条 内)剥離	②③	にぶい 褐色	良	
62	15	I	SR1/①/下層	鉢	—	—	(8.0)	外)口縁部:平行沈線文1条・眼鏡状文、体 部:重弧文 内)横指ナデ・横条痕	②	明褐色	良	赤色顔料付着
62	16	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.8)	外)四字文・2条隆線集束 内)指ナデ	①	にぶい 褐色	良	炭化物付着
62	17	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.4)	外)4条隆線集束と三角形挟り 内)横指ナ デ	②	褐色	良	
62	18	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.2)	外)平行沈線文3条・隆線と三角形挟り 内)粘土帯・横指ナデ	②③	褐色	良	
62	19	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.3)	外)4条隆線集束と三角形挟り 内)指オサ エ・指ナデ	②	にぶい 褐色	良	
62	20	I	SR1/①/中層	鉢	—	—	(4.9)	外)4条隆線集束と三角形挟り・平行沈線文 2条 内)横板ナデ	①	褐色	良	煤付着
62	21	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.5)	外)3条隆線集束と三角形挟り 内)横指ナ デ・隆帯文	①③	褐色	良	煤付着
62	22	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.5)	外)3条隆線集束と三角形挟り 内)平行沈 線文2条・指オサエ	②	明褐色	良	
62	23	I	SR1/①/中層	鉢	—	—	(6.0)	外)4条隆線集束と三角形挟り・横指ナデ 内)横指ナデ	①③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
62	24	I	SR1/①/下層	鉢	—	—	(4.5)	外)4条隆線集束と三角形挟り 内)指オサ エ・横板ナデ	①③	にぶい 褐色	良	炭化物付着
62	25	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.5)	外)4条隆線集束と三角形挟り 内)指オサ エ・指ナデ	①	灰褐色	良	
62	26	I	SR1/③/中層	鉢	—	—	(5.2)	外)隆帯文1条・3条隆線集束と2条隆線集束 と三角形挟り・斜め条痕 内)指オサエ	①	褐色	良	
62	27	I	SR1/下層	鉢	—	—	(5.0)	外)指ナデ・5条隆線集束と三角形挟り 内)横指ナデ・横板ナデ・平行凹線文1条	②③	褐色	良	試掘Tr15出土
62	28	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(5.5)	外)平行沈線文3条・5条隆線集束と三角 形挟り・指ナデ 内)指オサエ・横板ナデ	②④	灰褐色	良	
62	29	I	SR1/①/中層	鉢	—	—	(2.9)	外)3条隆線集束と三角形挟り 内)指ナデ	①③	灰褐色	良	
62	30	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.4)	外)多条隆線集束と三角形挟り 内)横指ナ デ	②③	にぶい 褐色	良	
63	1	I	SR1/①	鉢	—	—	(5.5)	口)眼鏡状文 外)横ミガキ 内)横指ナデ	②③	明黄褐色	良	
63	2	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.0)	外)横ミガキ 内)眼鏡状文・指ナデ	②③	明黄褐色	良	煤付着
63	3	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.0)	外)横板ナデ・焼成前穿孔 内)隆帯文2条・ 横指ナデ	③	にぶい 褐色	良	
63	4	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(5.3)	外)ミガキ・指ナデ 内)横板ナデ・弧線文 4条	①③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
63	5	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.9)	外)沈線文1条・横ミガキ 内)横指ナデ	①	暗褐色	やや良	
63	6	I	SR1/③/中層	鉢	—	—	(3.7)	外)ミガキ 内)沈線文3条・横指ナデ	①	灰黄褐色	やや良	煤付着

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
63	7	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.0)	外)隆線2条・横ミガキ 内)横ミガキ	①	黒褐色	良	
63	8	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.6)	外)沈線3条・板ナデ 内)横板ナデ	②	灰褐色	良	
63	9	I	SR1/③/中層	鉢	—	—	(8.3)	口)小波状 外)平行沈線文3条・横指ナデ 内)横ナデ	①③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
63	10	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(5.2)	口)指頭押圧 外)楕円形文 内)指オサエ・ 横条痕	①③	にぶい 褐色	良	
63	11	I	SR1/③/中層	鉢	—	—	(4.0)	外)方形文・指ナデ 内)指ナデ	②③	褐色	良	
63	12	I	SR1/③/中層	鉢	—	—	(2.7)	口)刻目文・ゆるい波状口縁 外)横指ナデ・ 斜め条痕 内)横板ナデ	①③	にぶい黄 褐色	良	
63	13	I	SR1/③/中層	鉢	—	—	(2.5)	口)貝殻刺突 外)横板ナデ 内)横板ナデ	②④	褐色	良	煤付着
63	14	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.0)	外)ミガキ 内)刻目突帯文・横ミガキ	②	にぶい黄 褐色	良	煤付着
63	15	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(6.8)	口)波状口縁・双頭突起 外)体部:斜め板 ナデ・焼成前穿孔 内)縦・横板ナデ	③	明褐色	良	
63	16	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(2.5)	口)小波状 外)指ナデ・焼成前穿孔 内)横板ナデ	②	褐色	やや良	
63	17	I	SR1/①/上層	鉢	—	—	(2.7)	外)指ナデ 内)横指ナデ	①③	明褐色	良	
63	18	I	SR1/①	鉢	—	—	(2.9)	外)横指ナデ 内)横条痕	①③	にぶい 褐色	良	
63	19	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(5.5)	外)斜め条痕後ナデ 内)斜め・横条痕	②③	浅黄褐色	良	
63	20	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(6.4)	口)小波状 外)斜め板ナデ 内)横指ナデ	②④	褐色	良	
63	21	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.9)	外)横板ナデ 内)横指ナデ・指オサエ	①③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
63	22	I	SR1/①/下層	鉢	—	—	(4.1)	口)小波状 外)横ケズリ 内)横ケズリ	①③	にぶい黄 褐色	良	
63	23	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(4.3)	口)小波状 外)横ケズリ 内)横ミガキ	②	明黄褐色	良	
63	24	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.8)	外)縦条痕 内)指ナデ・指オサエ	①③	褐色	良	
63	25	I	SR1/①/中下層	鉢	—	—	(3.6)	口)小波状 外)指ナデ・縦条痕 内)斜め 板ナデ	①③	黒色	良	
63	26	I	SR1/①/中層	鉢	—	—	(4.3)	外)縦条痕・指ナデ 内)斜め指ナデ	①③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
63	27	I	SR1/①/中層	鉢	—	—	(6.5)	外)斜め条痕・指ナデ 内)縦・横条痕	②	にぶい 褐色	良	
63	28	I	SW1	壺	—	—	(5.9)	外)横板ナデ・横条痕・斜めケズリ 内)指 オサエ・横板ナデ	①③	にぶい黄 褐色	やや不良	試掘Tr11 煤付着 植物 圧痕
63	29	I/J11	SW1	鉢	—	—	(5.7)	外)斜行沈線文・隆帯文・2条隆線集束と三 角形挟り 内)斜め板ナデ	①	にぶい黄 褐色	良	
63	30	I/J11	SW1	鉢	—	—	(3.0)	外)4条隆線集束と三角形挟り 内)指オサ エ・指ナデ・平行凹線文1条	①③	にぶい 褐色	良	
63	31	I/J12	SW1	鉢	—	—	(5.2)	外)5条隆線集束と三角形挟り・斜め板ナデ 内)指オサエ・指ナデ	①③	にぶい 褐色	良	
63	32	I/K7	SW1/上層	底部	—	—	(4.5)	(1.8) 外)体部:ナデ、底部:ケズリ 内)ミガキ	②③	にぶい黄 褐色	良	
63	33	I/J10	SW1	底部	—	—	(7.6)	(1.5) 外)体部:平行沈線文2条、底部:指ナデ・匏 オサエ 内)指ナデ	②③	にぶい黄 褐色	良	
64	1	II	SR1/③/下層	深鉢	(37.4)	—	(16.2)	口)小波状 外)口縁部:横板ナデ、体部:縦 条痕 内)横板ナデ・指ナデ	②④	にぶい黄 褐色	やや良	
64	2	II	SR1/下層	深鉢	—	5.3	(15.5)	外)縦条痕、底部側縁:指オサエ、底部:指 ナデ 内)横板ナデ	②④	灰白色	やや良	煤付着
64	3	II	SR1/下層	鉢	(26.4)	—	(14.6)	外)隆線流水文・四字文・横・斜めミガキ 内)口縁部:粘土帯、体部:横指ナデ・指オ サエ	②④	にぶい黄 褐色	やや良	
64	4	II	SR1/下層	底部	—	6.4	(4.9)	外)縦条痕、底部:小石圧痕・指ナデ 内)横・縦板ナデ	②④	灰白色	良	煤付着
64	5	II	SR1/下層	底部	—	8.9	(3.5)	外)指ナデ・指オサエ・縦条痕、底部:指ナ デ 内)指ナデ・条痕	②④	にぶい黄 褐色	やや良	
64	6	II	SR1/下層	深鉢	—	—	(5.9)	口)指頭押圧 外)縦条痕・平行沈線文1条 内)横板ナデ	①	にぶい黄 褐色	良	煤付着
65	1	II	SR1/北岸上層	注口土器	4.6	3.6	7.6	外)口縁部:指オサエ、体部:矢羽根状刺突 文・斜線刺突文・円形浮文(上段3カ所・下 段4カ所、匏刺突)・2条1組三角形区画文・ ミガキ・指オサエ、底部:指ナデ 内)指オ サエ	①④	にぶい黄 褐色	やや良	黒斑 刺突文帯に赤彩
66	1	II	SR2	深鉢	—	—	(4.9)	口)指頭押圧・横条痕 内)指オサエ・ナデ	②③	浅黄色	良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
66	2	II	SR2/上層	深鉢	—	—	(4.5)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・横ケズリ 内)横指ナデ	①④	橙色	良	
66	3	II	SR2/上層	深鉢	—	—	(5.7)	外)横条痕・縦板ナデ 内)斜め指ナデ	①③	灰黄褐色	良	
66	4	II	SR2/上層	深鉢	—	—	(5.5)	口)指頭押圧か 外)横指ナデ・縦条痕 内)指オサエ	①④	にぶい黄 橙色	良	
66	5	II	SR2/下層	壺	—	—	(4.0)	口)指頭押圧 外)押圧突帯文 内)横板ナデ・指オサエ	②	灰白色	良	
66	6	II	SR2/下層	鉢	(27.2)	—	(5.7)	口)眼鏡状文 外)隆帯文・横板ナデ・眼鏡状隆帯文・沈線文 内)凹線文1条・指オサエ・指ナデ	②③	にぶい黄 橙色	良	
66	7	II	SR2/下層	鉢	—	—	(3.3)	外)指ナデ・眼鏡状隆帯文・沈線文 内)指ナデ	①③	にぶい黄 橙色	良	
66	8	II	SR2/上層	鉢	—	—	(4.1)	外)沈線文6条 内)横板ナデ	②③	黒褐色	良	
66	9	II	SR2/上層	鉢	—	—	(3.9)	外)沈線文5条 内)横指ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	
66	10	II	SR2/上層	鉢	—	—	(6.4)	外)四字文(2段)・ミガキ 内)横板ナデ	②③	褐灰色	良	赤色顔料 煤付着
66	11	II	SR2/下層	鉢	—	—	(3.9)	外)四字文 内)横指ナデ	②	灰褐色	良	
66	12	II	SR2/上層	鉢	—	—	(3.9)	外)数条の隆線集束と三角形決り・斜めミガキ・横ナデ 内)斜めナデ	②③	にぶい黄 褐色	良	
66	13	II	SR2/下層	鉢	—	—	(3.0)	外)LR縄文・区画沈線1条・指ナデ 内)指ナデ	②③	にぶい黄 褐色	やや良	
66	14	II	SR2/上層	鉢か	—	—	(2.7)	外)斜め沈線文・縦条痕 内)指オサエ	②	黄褐色	良	
66	15	II	SR2/上層	底部	—	6.1	(5.1)	外)体部:ハケ・条痕、底部:ケズリ 内)ハケ	②③	にぶい黄 褐色	やや不良	
66	16	II	SR2/下層	底部	—	(6.0)	(3.0)	外)体部:条痕、底部:指ナデ	②④	にぶい黄 褐色	不良	
66	17	II/J15	SW1	鉢	—	—	(2.9)	外)隆帯文・平行沈線文3条	②	灰白色	やや良	
66	18	II/J15	SW1	鉢	—	—	(3.0)	外)眼鏡状隆帯文・平行沈線文4条	②③	明褐色	やや良	
66	19	II/I11-14	SW1	鉢	(35.8)	—	(10.6)	外)刻目文2段・2~4条隆線集束と三角形決り・横ミガキ 内)横指ナデ・指オサエ	②③	灰黄褐色	良	
66	20	II/I14	SW1	鉢	—	—	(2.6)	外)4条隆線集束と三角形決り 内)指ナデ	②③	灰黄褐色	良	
66	21	I/I15	SW1	鉢	—	—	(2.2)	外)4条隆線集束と三角形決り 内)指ナデ	②③	灰褐色	良	
66	22	I	SW1	鉢	—	—	(3.7)	外)4条隆線集束と三角形決り・横ミガキ 内)指オサエ・指ナデ	①	褐灰色	良	
66	23	I/I14	SW1	鉢	—	—	(5.0)	外)4条隆線集束と三角形決り・隆線1条・横ミガキ 内)横ミガキ	②③	にぶい黄 褐色	良	
66	24	I/J14	SW1	鉢	—	—	(6.4)	外)隆線3条と5条隆線集束と三角形決り 内)横ナデ	②④	にぶい黄 褐色	良	
67	1	III	SR2/下層	深鉢	(27.8)	—	(18.0)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・斜め条痕 内)ナデ	②③	明黄褐色	やや良	
67	2	III	SR2/下層	壺	—	—	(4.3)	外)横ミガキ 内)横ミガキ・横指ナデ	①③	黒褐色	やや良	黒色研磨 赤色顔料付着
67	3	III	SR2/下層	底部	—	6.6	(6.3)	外)縦条痕、底部:小石圧痕・指ナデ 内)斜め板ナデ	②③	灰黄褐色	やや不良	煤付着
67	4	III	SR2/下層	深鉢	—	—	(4.6)	口)指頭押圧 外)横板ナデ・斜め条痕 内)横指ナデ	②③	灰黄褐色	良	
67	5	III	SR2/下層	深鉢	—	—	(4.7)	口)指頭押圧 外)横板ナデ 内)横指ナデ・指オサエ	②	灰黄褐色	やや良	
67	6	III	SR2	深鉢	—	—	(5.2)	外)縦条痕 内)横・斜め板ナデ	①③	灰白色	良	
67	7	III	SR2/下層	鉢	—	—	(3.0)	外)数条隆線集束と三角形決り 内)指ナデ	②③	浅黄褐色	良	
67	8	III	SR2/下層	鉢	—	—	(2.9)	外)2条隆線集束と三角形決り 内)指ナデ	①	明褐色	やや良	
67	9	III	SR2/下層	鉢	—	—	(2.8)	外)沈線文4条・列点文 内)指ナデ	①	にぶい黄 褐色	やや良	
67	10	III	SR2	鉢	—	—	(3.6)	外)数条隆線集束と三角形決り・ミガキ 内)指ナデ	①③	黒褐色	良	
67	11	III	SR2	鉢	—	—	(4.1)	外)平行沈線文5条・三角形決り 内)頸脚部界:沈線文2条・横ミガキ	①③	褐灰色	良	
67	12	III	SR2	鉢	—	—	(4.9)	外)横ナデ、体部:押圧突帯文・沈線2条 内)指ナデ	②	明褐色	良	
67	13	III	SR2/下層	壺	—	—	(2.7)	外)円形浮文・区画沈線2条・矢羽根状文・多重垂下沈線 内)指ナデ	①	にぶい黄 褐色	良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
67	14	III	SW1	鉢	—	—	(4.2)	外)縦条痕 内)斜め板ナデ	②③	にぶい黄 褐色	良	

第4表 弥生時代～古墳時代の土器観察表

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
72	1	I	SI1	甕	(11.0)	—	(6.5)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	①	灰黄褐色	やや良	煤付着
72	2	I	SI1	甕	(10.9)	—	(3.4)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	灰黄褐色	やや良	煤付着
72	3	I	SI1	甕	(13.5)	—	(9.3)	外)頸部:ハケ 内)体部:ナデ・指オサエ	②③	にぶい黄 褐色	良	
72	4	I	SI1/上層	甕	17.8	—	(8.6)	外)口縁部:擬凹線文7条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①	橙色	良	
72	5	I	SI1/上層	甕	(17.9)	—	(4.8)	外)口縁部:擬凹線文5条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②④	にぶい黄 褐色	良	
72	6	I	SI1/上層	甕	(17.5)	—	(3.8)	外)口縁部:擬凹線文10条、頸部:ナデ 内)体部:ケズリ	②③	明黄褐色	やや良	煤付着
72	7	I	SI1/上層	甕	(11.0)	—	(3.8)	外)口縁部:擬凹線文7条、頸部:ナデ・ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	やや良	
72	8	I	SI1/上層	甕	(17.2)	—	(3.9)	外)口縁部:擬凹線文12条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
72	9	I	SI1/上層	甕	(16.6)	—	(3.8)	外)口縁部:擬凹線文13条、頸部:ナデ 内)体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
72	10	I	SI1/上層	甕	(15.3)	—	(4.6)	外)口縁部:擬凹線文11条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
72	11	I	SI1/上層	甕	(15.2)	—	(5.1)	外)口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
72	12	I	SI1/上層	甕	(16.8)	—	(3.7)	外)口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②③	浅黄褐色	やや良	煤付着
72	13	I	SI1/上層	甕	(15.8)	—	(5.1)	外)口縁部:擬凹線文5条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
72	14	I	SI1/上層	甕	(19.9)	—	(3.9)	外)口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
72	15	I	SI1/上下層	甕	12.0	—	(8.7)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	煤付着
72	16	I	SI1/上層	甕	(9.0)	3.0	11.2	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)体部:ハケ	②③	浅黄色	良	煤付着 黒斑
72	17	I	SI1/上下層	甕	14.7	5.5	20.2	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ、底部:ナデ 内)口～頸部:ナデ、体部:ケズリ・指オサエ	①③	淡黄色	不良	
72	18	I	SI1/上層	壺	(16.0)	3.6	24.0	外)口縁部:ナデ・楕円突文、体部:ハケ、底部:ナデ 内)口～頸部:ナデ、体部:ハケ・指オサエ	②	浅黄褐色	良	炭化物付着
72	19	I	SI1/①/上層	甕	(14.1)	—	(5.1)	外)口縁部:擬凹線文3条 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ・指オサエ	②③	浅黄褐色	やや不良	
72	20	I	SI1/上層	壺	10.0	—	(13.3)	外)ハケ 内)口縁部:ハケ、体部:ナデ	①②	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着 被熱痕
72	21	I	SI1/上層	壺	(12.7)	—	(10.7)	外)口～体部:ハケ 内)口縁部:ナデ・寛オサエ、頸部:ハケ、体部:ケズリ	②	にぶい黄 褐色	良	煤付着
72	22	I	SI1/上下層	壺	12.0	—	(14.0)	外)口縁部:ミガキ、体部:ミガキ 内)ミガキ・ケズリ	①	浅黄褐色	良	
72	23	I	SI1/上層	壺or甕	(14.8)	—	(10.0)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)ハケ・ナデ	②③	浅黄色	やや良	
73	1	I	SI1	高坏	(24.0)	—	(6.6)	外)ミガキ 内)ミガキ	②	にぶい黄 褐色	良	73-2と同一個体
73	2	I	SI1	高坏	(27.0)	—	(6.3)	外)ミガキ 内)ミガキ	②③	にぶい黄 褐色	良	73-1と同一個体
73	3	I	SI1/上層	高坏	—	16.2	(14.8)	外)脚柱～脚裾部:ミガキ、脚端部:沈線文 内)ハケ・ナデ・紋り	②	灰白色	良	煤付着 円形透孔4か所
73	4	I	SI1	器台	—	(16.2)	(4.3)	外・内)摩滅	②③	灰白色	やや良	被熱痕
73	5	I	SI1/上層	鉢	(9.0)	3.4	8.4	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ後ミガキ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ後ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	黒斑 被熱痕
73	6	I	SI1	鉢	(20.9)	—	(6.2)	外)口～頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	灰白色	良	
73	7	I	SI1	鉢	16.8	—	(6.0)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	煤付着

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
73	8	I	SI1/上層	鉢	15.4	3.1	9.3	口)指頭押圧、外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)口~体部:ハケ、底部:指オサエ	②③	にぶい黄 橙色	良	底部穿孔
73	9	I	SI1/上層	底部	—	4.8	(4.0)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)ケズリ	②④	浅黄色	やや不良	煤付着
73	10	I	SI1	底部	—	3.1	(3.9)	外)体部:ナデ、底部:ナデ 内)ナデ	②③	にぶい橙 色	やや良	被熱痕
73	11	I	SI1	底部	—	1.7	(4.0)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)ケズリ・ ナデ	②	褐色	やや良	煤付着
73	12	I	SZ1	壺	11.0	5.3	27.4	外)口~底部:ハケ、頸部:櫛描直線文(2段)、 体部:「傘」型の記号文、底部:ハケ・ナデ 内)口縁部:ハケ、頸部:ハケ	②	橙色	やや良	黒斑
73	13	I	SZ1	壺	(9.8)	5.9	26.0	口)沈線文1条、外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)口縁部:ナデ・指オサエ、頸部:ハケ後 ナデ、体部:ハケ	②	浅黄色	良	
73	14	I	SD5	甗	(37.8)	—	(7.2)	外)口~頸部:ミガキ 内)口縁部:ナデ	②③	灰白色	良	
73	15	I	SD5	甗	(16.0)	—	(5.5)	外)口縁部:擬凹線文5条、頸部:ナデ、体部: ハケ 内)口縁部:ナデ	②③	にぶい黄 橙色	やや良	煤付着
73	16	I	SD6	甗	16.8	—	(6.0)	外)口縁部:擬凹線文7条、頸部:ナデ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい橙 色	やや不良	
73	17	I	SD6	壺	—	—	(5.3)	外)ミガキ 内)ケズリ・ナデ	①②	にぶい黄 橙色	良	
73	18	I	SD6	底部	—	(11.6)	(3.2)	外)ナデ 内)摩滅	②③	浅黄褐色	やや不良	
73	19	I	SD6	脚部	—	6.3	(3.0)	外)板ナデ・指オサエ 内)ナデ	①③	にぶい黄 橙色	良	
73	20	I	SD6	脚部	—	—	(3.8)	外)摩滅 内)指オサエ	②③	灰白色	やや良	
74	1	I	SD8/2層	甗	(17.8)	—	(4.4)	外)口縁部:擬凹線文8条、頸部:ナデ 内)ナデ	②	にぶい黄 橙色	やや良	煤付着
74	2	I	SD12	甗	—	—	(2.5)	外)口~頸部:ナデ・沈線文3条 内)口~頸 部:ナデ	③	にぶい橙 色	良	
74	3	I	SD12/下層	甗	(15.8)	—	(4.7)	外)口縁部:擬凹線文7条、頸部:ナデ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	②	浅黄褐色	良	
74	4	I	SD12/下層	甗	(18.0)	—	(5.8)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸 部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい褐 色	やや不良	
74	5	I	SD12/下層	甗	(16.8)	—	(6.8)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸 部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 橙色	良	
74	6	I	SD12/下層	甗	17.3	—	(8.9)	外)口縁部:ナデ・竹管刺突文2段、頸部:ナ デ、体部:竹管刺突文4段・簾状文・ハケ 内)体部:ナデ	①③	にぶい黄 橙色	良	煤付着
74	7	I	SD12/下層	壺	(20.0)	—	(5.0)	外)口縁部:浮文3本1対・ミガキ、頸部:ナデ・ ミガキ 内)ナデ	②④	橙色	やや不良	
74	8	I	SD12/下層	壺	(13.0)	—	(7.3)	外)口縁部:ナデ、頸部:ハケ・竹管刺突文 (3個) 内)口~頸部:ハケ、頸部:ケズリ	②④	にぶい黄 橙色	不良	煤付着
74	9	I	SD12/下層	壺	(16.0)	—	(7.4)	外)口縁部:擬凹線文3条以上	②④	にぶい黄 橙色	不良	
74	10	I	SD12/上層	器台	(19.8)	—	(3.2)	外)口縁部:ミガキ・ナデ、頸部:ミガキ 内)ミガキ	②③	にぶい橙 色	やや良	黒斑
74	11	I	SD12/下層	高坏	—	—	(10.9)	外)ミガキ 内)ナデ	①	にぶい黄 橙色	やや良	
74	12	I	SD12/下層	鉢	(19.8)	—	(5.0)	外・内)摩滅	②	にぶい黄 橙色	やや良	
74	13	I	SD12/下層	底部	—	2.0	(6.9)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)ケズリ	②	にぶい黄 橙色	良	煤付着
74	14	I	SD12	底部	—	7.5	(5.4)	外)体部:ハケ、底部:ナデ	②③	にぶい橙 色	良	
74	15	I	SD12	底部	—	7.6	(2.8)	外)体部:条痕、底部:ナデ 内)板ナデ	②④	にぶい橙 色	良	
74	16	I	SK1/4層	高坏	(23.2)	—	(4.7)	外)ナデ 内)ナデ	②③	黒色	やや不良	
74	17	I	SK1/3層	把手	—	—	(10.5)	指オサエ・ナデ	②	灰黄色	やや良	
74	18	I	SK4	甗	(17.4)	—	(4.6)	外)口縁部:擬凹線文、頸部:ケズリ 内)体 部:ケズリ・ハケ	②③	灰白色	やや良	
74	19	I	SK4	壺	(10.0)	—	(9.8)	外)ミガキ 内)ナデ	②	にぶい黄 橙色	やや良	
74	20	I	SK4 /3層	鉢	(12.0)	—	(6.2)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)体部:ケ ズリ	②③	にぶい黄 橙色	良	煤付着
75	1	I	SR1/③/中層	甗	—	—	(3.5)	口)窺刻目文 外)ハケ 内)板ナデ	②③	灰黄褐色	良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
75	2	I	SR1/①/上層	甗	—	—	(3.7)	口)櫛刻目文 外)ハケ 内)ハケ・ナデ	②③	橙色	良	
75	3	I	SR1/③④	甗	15.6	—	(21.0)	口)指オサエ 外)頸部:ハケ 内)口~ 頸部:ハケ・指オサエ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄 橙色	不良	煤付着
75	4	I	SR1/③④	甗	19.0	—	(13.0)	口)窺刻目文、外)頸部:ハケ 内)口~ 頸部:ナデ、体部:ハケ	①③	にぶい橙 色	良	
75	5	I	SR1/①/上層	甗	(14.0)	—	(4.7)	口)櫛刺突文 外)口縁部:ナデ、頸部:櫛描 直線文・櫛刺突文 内)口縁部:条痕、体部: ナデ	③	にぶい黄 橙色	良	煤付着
75	6	I	SR1/③④	甗	14.8	—	(12.3)	外)口縁部:ナデ、頸部:ハケ・指オサ エ 内)ハケ	①③	にぶい黄 褐色	不良	煤付着
75	7	I	SR1/③④	甗	(13.8)	—	(6.3)	外)口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ、体部: ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①④	にぶい橙 色	やや不良	煤付着
75	8	I	SR1/③④	甗	(12.0)	—	(7.6)	外)口縁部:擬凹線文3条、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	①④	灰黄褐色	良	煤付着
75	9	I	SR1/③④	甗	(15.8)	—	(4.3)	外)口縁部:擬凹線文3条・2個1対の円形浮 文2か所、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、 体部:指オサエ・ハケ	③	にぶい黄 褐色	良	
75	10	I	SR1/③④	甗	(17.8)	—	(6.3)	外)口縁部:擬凹線文4条、頸部:ナデ、体部: ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ハケ、体部: ケズリ	①③	にぶい褐 色	やや不良	煤付着
75	11	I	SR1/③④	甗	(27.6)	—	(5.0)	外)口縁部:擬凹線文5条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄 褐色	やや良	
75	12	I	SR1/③④	甗	(14.0)	—	(2.4)	外)口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ 内)口~頸部:ナデ	①	灰黄褐色	やや不良	煤付着
75	13	I	SR1/③④	甗	(15.8)	—	(3.9)	外)口縁部:擬凹線文12条、頸部:ナデ 内)体部:ケズリ	②④	浅黄色	良	煤付着
75	14	I	SR1/①/上中層	甗	(27.6)	—	(22.4)	口)矢羽根刺突文 外)体部:条痕 内)板ナ デ・ナデ	①④	浅黄褐色	良	煤付着 75-15と同一個体か
75	15	I	SR1/①	底部	—	(8.0)	5.3	外)条痕 内)ナデ・指オサエ	①③	灰黄褐色	やや良	75-14と同一個体か
75	16	I	SR1/①/右岸上層	甗	15.6	—	(6.9)	口)櫛刺突文 外)体部:櫛刺突文・櫛描直 線文・ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ハ ケ	②③	にぶい黄 褐色	良	
75	17	I	SR1/③④	甗	17.6	—	(4.9)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸 部:ナデ、体部:ケズリ	①④	灰黄褐色	良	
75	18	I	SR1/①/左岸上層	甗	(15.8)	—	(7.4)	外)体部:ハケ 内)体部:ハケ	②	にぶい橙 色	やや良	煤付着
75	19	I	SR1/①/左岸上層	甗	(17.4)	—	(6.0)	外)口~体部:ナデ 内)頸部:ナデ、体部: ケズリ	②④	橙色	やや不良	煤付着
76	1	I	SR1/中下層	壺	—	—	(9.1)	口)刺突文か 外)口縁部:弧線文5本・ハ ケ 内)ハケ	②③	にぶい黄 褐色	やや良	
76	2	I	SR1/①/中層	壺	—	—	(6.6)	外)頸部:ハケ、体部:櫛描直線文・櫛刺突 文 内)口縁部:櫛刺突文、頸部:ハケ	②③	にぶい黄 褐色	不良	
76	3	I	SR1/③④	甗	15.6	—	(5.4)	外)口縁部:櫛刺突文、頸部:ナデ・ハ ケ 内)口縁部:ナデ、体部:ハケ	②④	にぶい黄 褐色	やや良	
76	4	I	SR1/②/上層	壺	15.2	—	(4.3)	外)口縁部:ナデ・窺刻目文 内)口~頸部: ナデ	①③	にぶい黄 褐色	やや不良	
76	5	I	SR1/①/左岸上層	壺	(14.0)	—	(6.5)	口)櫛刺突文 外)口縁部:櫛描波状文2段、 頸部:ハケ後櫛描直線文2段 内)口縁部:ナ デ、頸部:ハケ・板ナデ	②	にぶい黄 褐色	やや良	76-6と同一個体か
76	6	I	SR1/中層	壺	(14.0)	—	(3.4)	口)櫛刺突文 外)口縁部:櫛描波状文2段 内)口縁部:指オサエ	①	にぶい黄 褐色	良	76-5と同一個体か
76	7	I	SR1/①/上層	壺	(15.0)	—	(11.7)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部: ナデ、頸部:指オサエ、体部:ケズリ	②④	にぶい黄 褐色	やや不良	
76	8	I	SR1/③④	壺	(10.3)	3.6	17.6	外)口~体部:ハケ後一部ナデ消し、底部: ナデ 内)ハケ	①③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
76	9	I	SR1/①/上中層	壺	10.1	—	(16.2)	外)口縁部:擬凹線文2条・ナデ、頸部: ハケ・ケズリ 内)口縁部:ナデ、頸部:ハケ、 体部:ケズリ	①④	にぶい橙 色	やや良	煤付着 黒斑
76	10	I	SR1/①/上中層	壺	11.6	—	(21.0)	外)口縁部:ハケ、体部:ハケ後一部ナデ消 し 内)口~体部:ナデ・ハケ	②	にぶい黄 褐色	良	
76	11	I	SR1/①/上層	壺	9.5	3.5	13.4	外)口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ・ハケ、 体部:ハケ、底部:ハケ・ナデ 内)口~頸 部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい橙 色	やや良	黒斑 把手欠損
76	12	I	SR1/①/上層	壺	(11.0)	—	(8.6)	外)口縁部:擬凹線文2条、頸部:粗いハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:指オサエ、体部:ケ ズリ	①③	にぶい黄 褐色	やや良	
76	13	I	SR1/①/左岸上層	壺	(16.0)	—	(5.1)	外)口縁部:擬凹線文複数条・棒状浮文2個1 対、頸部:ハケ・突帯文 内)頸部:ハケ	②	にぶい橙 色	良	煤付着
76	14	I	SR1/③④	台付壺	—	—	—	外)ミガキ・突帯文・棒状浮文3本1対 内) ミガキ	①	浅黄褐色	良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
76	15	I	SR1/③/上層	壺	—	7.8	(27.7)	外) 体部:ハケ、底部:ナデ・植物圧痕内) 板ナデ・ナデ	②④	にぶい黄褐色	やや不良	
76	16	I	SR1/①/上層	壺	—	—	(19.0)	外) ハケ 内) 頸部:ハケ、体部:ケズリ	②	浅黄褐色	やや良	
76	17	I	SR1/①/右岸上層	壺	—	4.1	(19.2)	外) 体~底部:ミガキ 内) 体部:ハケ	②③	灰黄褐色	やや不良	
77	1	I	SR1/③④	高坏	(26.8)	—	(5.4)	外) ミガキ 内) ミガキ	②	橙色	良	
77	2	I	SR1/③④	高坏	(20.0)	—	(5.6)	外) 口縁部:ナデ、坏部:ミガキ 内) ミガキ	①	黄褐色	良	
77	3	I	SR1/①/上層	高坏	(17.8)	—	(6.1)	外) ミガキ 内) ミガキ	①	にぶい黄褐色	良	内外に赤彩
77	4	I	SR1/①/左岸上層	高坏	(13.8)	—	(2.7)	外・内) 摩滅	②	にぶい黄褐色	やや良	
77	5	I	SR1/①/左岸上層	高坏	(13.0)	—	(2.3)	外) 摩滅 内) ミガキ	①	明黄褐色	良	
77	6	I	SR1/③/中層	器台	(19.2)	—	(16.3)	外) ミガキ・一部ハケ 内) ナデ・ケズリ	②④	にぶい橙色	良	円形透孔3か所
77	7	I	SR1/①/上層	器台	17.9	—	(10.7)	外) 口縁部:擬凹線文2条、坏~脚部:ミガキ 内) 坏部:ミガキ、脚部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	円形透孔3か所
77	8	I	SR1/①/右岸上層	器台	(22.8)	—	(3.7)	外) 口縁部:擬凹線文5条、坏部:ミガキ 内) ミガキ	①③	にぶい黄褐色	良	
77	9	I	SR1/③④	器台	(22.6)	—	(6.4)	外) ミガキ 内) ミガキ	①③	にぶい黄褐色	良	煤付着
77	10	I	SR1/①/上層	器台	(28.8)	16.9	18.0	外) 口縁~脚部:ミガキ、脚部:沈線文3条 内) 口縁部:ミガキ、脚部:ハケ、脚部:ナデ・ハケ	①③	にぶい黄褐色	良	円形透孔4か所
77	11	I	SR1/①/左岸上層	器台	—	—	(4.0)	外) ミガキ 内) 摩滅	②	浅黄色	良	透孔複数か所
77	12	I	SR1/①/左岸上層	器台	8.5	—	(1.0)	外・内) 摩滅	②③	浅黄褐色	良	上下2段に円形透孔各3か所
78	1	I	SR1/②/上中層	鉢	(19.6)	6.0	12.3	口) ナデ 外) 頸部:櫛描波状文2段、体部:ハケ、底部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ・ケズリ・ナデ	①③	橙色	不良	
78	2	I	SR1/①/上層	鉢	16.9	2.3	8.3	外) ミガキ 内) ミガキ	②③	にぶい黄褐色	良	
78	3	I	SR1/①/左岸上層	鉢	—	2.2	(4.7)	外) 体部:ミガキ、底部:ナデ 内) ケズリ	②	にぶい黄褐色	やや良	外面赤彩
78	4	I	SR1/①/上層	鉢	(13.0)	—	(6.9)	外) 口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口~体部:ナデ・ハケ	②④	にぶい黄褐色	良	
78	5	I	SR1/①/上層	鉢	13.8	7.5	12.3	外) 口縁部:ナデ、体~脚部:ハケ・ナデ 内) 口縁部:線刻、体部:ハケ、脚部:ナデ・板オサエ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
78	6	I	SR1/①/左岸上層	鉢	(12.8)	—	(9.9)	外) 体部:ハケ 内) 体部:ケズリ	②④	淡黄色	良	黒斑
78	7	I	SR1/③④	把手	—	—	(6.6)	外) ハケ 内) ケズリ	④	灰黄褐色	良	
78	8	I	SR1/③④	鉢	15.2	1.3	9.9	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ、底部:ナデ 内) 体部:ナデ	②④	にぶい黄褐色	やや良	煤付着 底部穿孔
78	9	I	SR1/③④	鉢	17.2	—	(10.3)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:指オサエ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	
78	10	I	SR1/③④	蓋	—	口径3.4	(6.0)	外) ハケ・ナデ 内) 絞り・ハケ	①③	にぶい黄褐色	良	煤付着
78	11	I	SR1/①	蓋	10.6	口径4.0	4.8	外) ハケ・ナデ 内) ハケ	②③	にぶい橙色	良	
78	12	I	SR1/②/上層	蓋	—	口径4.3	(4.3)	外) ナデ 内) ハケ	①③	にぶい黄褐色	良	
78	13	I	SR1/②/上層	蓋	—	—	(2.8)	外) ミガキ・S字スタンプ文・櫛描直線文 内) ナデ	①	にぶい橙色	良	煤付着
78	14	I	SR1/③④	高坏	—	(17.2)	(17.8)	外) ミガキ 内) ハケ・ケズリ	①③	にぶい黄褐色	良	円形透孔4か所
78	15	I	SR1/③④	器台	—	10.3	(13.0)	外) ミガキ 内) ハケ・板ナデ	①	橙色	良	円形透孔3か所
78	16	I	SR1/①/右岸上層	器台	—	18.2	(6.4)	外) ミガキ 内) ハケ・ナデ	②③	にぶい黄褐色	やや良	円形透孔4か所
78	17	I	SR1/①/上層	器台	—	13.6	(15.5)	外) 沈線文8条・沈線文4条・ハケ・ナデ 内) ナデ・板オサエ・絞り・ハケ	②③	にぶい黄褐色	良	
78	18	I	SR1/①/右岸上層	器台	—	(9.0)	(10.2)	外) 脚柱部:ハケ、脚部:ナデ 内) ハケ・ナデ	①③	灰黄色	良	
78	19	I	SR1/④/下層	器台	—	10.5	(8.1)	外) 沈線文7条 内) 絞り・ケズリ	②④	にぶい黄褐色	不良	円形透孔2孔1対で5か所

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
78	20	I	SR1/①/上層	器台	—	(12.0)	(8.8)	外) ハケ 内) ハケ	①③	にぶい黄褐色	やや良	
78	21	I	SR1/①/左岸上層	器台	—	—	(5.6)	外) 摩滅 内) ケズリ・ハケ	②③	浅黄色	やや良	円形透孔3か所
78	22	I	SR1/③④	高坏 or 器台	—	12.6	(3.4)	外) ミガキ 内) ハケ	②	にぶい黄褐色	やや良	
78	23	I	SR1/③/上層	脚部	—	6.5	(3.7)	外) ミガキ 内) ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	台付鉢
78	24	I	SR1/③④	脚部	—	5.0	(3.1)	外) ミガキ・ナデ 内) ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	
78	25	I	SR1/③④	高坏	—	—	(13.1)	外) ミガキ 内) 坏部:ミガキ、脚部:板ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	透孔4か所
78	26	I	SR1/①/左岸上層	器台	—	—	(10.0)	外) ミガキ 内) 板ナデ	②	浅黄色	良	
78	27	I	SR1/③④	器台か	—	—	(8.4)	外) ミガキ 内) 絞り・板ナデ	②	灰白色	やや良	
78	28	I	SR1/③④	底部	—	2.2	(8.4)	外) 体~底部:板ナデ 内) ケズリ・指オサエ	①③	にぶい黄褐色	やや良	煤付着
78	29	I	SR1/③/上層	底部	—	(5.0)	(7.8)	外) ハケ 内) 体部:ハケ、底部:指オサエ	②	浅黄色	良	
78	30	I	SR1/③④	底部	—	3.0	(7.0)	外) ミガキ 内) 体部:ナデ・指オサエ	②	にぶい黄褐色	良	
78	31	I	SR1/③/下層	底部	—	6.6	(3.1)	外) 条痕・指オサエ、底部:小石圧痕・ナデ 内) 板ナデ・ナデ	①④	にぶい黄褐色	良	
78	32	I	SR1/③④	底部	—	5.0	(3.5)	外) 体部:ハケ、底部:ナデ 内) 指オサエ	①③	にぶい黄褐色	やや良	
78	33	I	SR1/③④	底部	—	(6.4)	(4.1)	外) 体部:ハケ、底部:ケズリ・ナデ 内) ナデ	①③	浅黄色	良	
78	34	I	SR1/③④	底部	—	4.4	(3.4)	外) 体部:ハケ、底部:ミガキ 内) ハケ・ナデ	②③	にぶい橙色	良	
78	35	I	SR1/③④	底部	—	3.6	(2.0)	外) 体部:指オサエ、底部:ナデ 内) 指オサエ	④	にぶい黄褐色	やや良	底部穿孔
79	1	I/J14	SW1	甕	(20.0)	—	(3.8)	口) 篋刻目文 外) 頸部:ハケ 内) 口縁部:櫛刺突文、頸部:ハケ	②③	浅黄色	良	煤付着
79	2	I/J11	SW1	甕	(18.8)	3.6	(4.8)	口) 櫛刺突文 外) 頸部:ハケ・沈線文2条 内) 頸部:ハケ	①③	にぶい褐色	やや不良	煤付着
79	3	I/J11	SW1	甕	—	—	—	口) 刻目文、外) 頸部:ハケ 内) 頸部:ハケ	②③	にぶい橙色	やや良	
79	4	I/J11	SW1	甕	—	—	—	外) ナデ 内) 櫛刺突文・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	
79	5	I	SW1	甕	(9.6)	—	(10.8)	外) 頸部:ハケ 内) ハケ・ナデ	①	灰黄色	良	
79	6	I/J11	SW1	甕	(14.0)	—	(7.2)	口) 刻目文、外) 頸~体部:ハケ 内) 頸~体部:指オサエ・ハケ	①③	橙色	やや良	煤付着
79	7	I/J10	SW1	甕	(19.8)	—	(5.7)	口) 刻目文、頸~体部:ハケ 内) ハケ	②④	にぶい褐色	良	
79	8	I/J11	SW1	甕	—	—	(6.2)	口) 刻目文、外) 頸部:ハケ 内) ナデ	②	にぶい褐色	良	煤付着
79	9	I/J11	SW1	甕	(16.0)	—	(3.8)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	
79	10	I/J11	SW1	甕	(17.0)	—	(3.7)	外) 口縁部:ナデ・半裁竹管刺突文、頸部:櫛刺直線文・ハケ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ・ナデ	②③	浅黄色	良	
79	11	I/K12	SW1	甕	—	—	—	外) 口~頸部:櫛刺突文・篋刺直線文・ナデ 内) ナデ・ハケ	②④	にぶい黄褐色	良	
79	12	I/K17	SW1	甕	(15.8)	—	(3.6)	外) ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
79	13	I/K11・12	SW1	甕	(24.6)	—	(12.8)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ	①	にぶい橙色	良	櫛刺突の集中(把手刺離痕)
79	14	I/J11	SW1	甕	(15.0)	—	(12.8)	外) 口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ	②④	にぶい黄褐色	良	煤付着
79	15	I/K7	SW1	甕	(12.8)	—	(8.5)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ナデ・指オサエ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
79	16	I/K7	SW1	甕	(16.0)	—	(7.2)	外) 口縁部:ナデ、体部:ナデ・ハケ 内) 口縁部:ケズリ、体部:ハケ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
79	17	I/K7	SW1	甕	14.0	—	(9.4)	外) 口縁部:ナデ、頸~体部:ハケ 内) 口~頸部:ナデ、体部:ハケ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
79	18	I/J10	SW1	甕	(14.0)	—	(5.1)	外) 口縁部:指オサエ後ナデ、体部:ハケ 内) ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	
79	19	I/J9・10	SW1	甕	(14.8)	—	(6.1)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口~体部:ハケ	①③	にぶい黄褐色	良	煤付着

第4章 遺構と遺物

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
79	20	I/L7	SW1	甕	(14.0)	—	(5.0)	外) 体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ 体部:ケズリ・ナデ	①	にぶい黄褐色	良	煤付着
79	21	I/K11	SW1	甕	(18.0)	—	(4.8)	外) 口縁部:篋刺突文、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	良	
80	1	I/L7	SW1	甕	(15.9)	—	(5.4)	外) 口縁部:擬凹線文4条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい橙色	不良	
80	2	I/K7	SW1	甕	(18.8)	—	(3.4)	外) 口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	3	I/J10・11	SW1	甕	12.3	—	(5.2)	外) 口縁部:擬凹線文4条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	
80	4	I/L7	SW1	壺	(13.8)	—	(2.9)	外) 口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	5	I/J10	SW1	甕	12.7	2.8	20.0	外) 口縁部:擬凹線文11条、体部:ハケ、底部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	明黄褐色	良	煤付着
80	6	I/K7	SW1	甕	17.0	—	(4.7)	外) 口縁部:擬凹線文5条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	7	I/J11	SW1	甕	(15.8)	—	(7.7)	外) 口縁部:擬凹線文6条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	③④	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	8	I/J10	SW1	甕	(17.2)	—	(3.7)	外) 口縁部:擬凹線文6条、頸部:ナデ 内) 口縁部:指オサエ後ナデ、頸部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	9	I/J10	SW1	甕	(13.8)	—	(4.6)	外) 口縁部:擬凹線文6条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	不良	煤付着
80	10	I/K11	SW1	甕	(14.8)	—	(4.4)	外) 口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ、頸部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	灰黄褐色	良	煤付着
80	11	I/L6	SW1	甕	(21.8)	—	(9.3)	外) 口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ、体部:篋刺突文・ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	浅黄褐色	良	80-12と同一個体
80	12	I/L7	SW1	甕	(19.6)	—	(9.0)	外) 口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ、体部:篋刺突文・ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	80-11と同一個体 煤付着
80	13	I/J11	SW1	甕	(20.8)	—	(6.4)	外) 口縁部:擬凹線文6条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 体部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	不良	煤付着
80	14	I/J11	SW1	甕	(17.0)	—	(8.7)	外) 口縁部:擬凹線文7条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	
80	15	I/J11	SW1	甕	(16.8)	—	(5.0)	外) 口縁部:擬凹線文6条 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい橙色	不良	
80	16	I/J11	SW1	甕	(14.0)	—	(6.3)	外) 口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ、体部:ケズリ	②④	黒色	やや良	
80	17	I/J11	SW1	甕	(19.8)	—	(8.8)	外) 口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	18	I/J11	SW1	甕	19.9	—	(5.0)	外) 頸部:ナデ、体部:ハケ、口縁部:擬凹線文7条 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	
80	19	I/K10	SW1	甕	(17.0)	—	(5.2)	外) 口縁部:擬凹線文11条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	浅黄褐色	良	
80	20	I/J11	SW1	甕	(16.0)	—	(4.7)	外) 口縁部:擬凹線文11条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ 体部:ケズリ	②④	灰黄褐色	良	
80	21	I/J12	SW1	甕	(14.7)	—	(4.8)	外) 口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	①③	にぶい橙色	不良	
80	22	I/J11	SW1	甕	(14.8)	—	(3.8)	外) 口縁部:擬凹線文9条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ミガキ、体部:ケズリ	①③	にぶい橙色	やや良	煤付着
80	23	I/J13	SW1	甕	(12.8)	—	(3.5)	外) 口縁部:擬凹線文複数条、頸部:ナデ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①④	にぶい黄褐色	やや良	煤付着
80	24	I/J9	SW1	甕	(13.8)	—	(3.4)	外) 口縁部:ミガキ・三角スタンプ文(三角内に6〜7条の沈線)、頸部:ナデ 内) 口縁部:ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	
80	25	I/L7	SW1	甕	(15.6)	—	(4.1)	外) ナデ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	
80	26	I/J10・11	SW1	甕	(14.0)	—	(10.6)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ	①	にぶい黄褐色	良	煤付着
80	27	I/L6・7	SW1	甕	(14.4)	—	(5.5)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい褐色	やや良	煤付着
80	28	I/J10	SW1	甕	15.8	—	(4.9)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	③	にぶい黄褐色	良	煤付着
81	1	I/J5	SW1	壺	(10.0)	—	(3.8)	口) 櫛刺突文 外) 口縁部:篋刺突文4段・棒状浮文2本1対、頸部:ハケ・櫛刺直線文 内) ナデ	③	にぶい黄褐色	やや良	
81	2	I/K11	SW1	壺	(14.0)	—	(6.8)	外) 口縁部:擬凹線文4条、頸部:ナデ 内) 口縁部:指オサエ後ナデ、頸部:指オサエ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	やや良	

第2節 遺物

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
81	3	I/K7	SW1	壺	(15.3)	—	(4.7)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) ナデ	①④	にぶい黄褐色	良	
81	4	I/K7	SW1	壺	15.6	5.8	25.6	外) 口縁部:ミガキ、頸部:ナデ、体部:ミガキ・板ナデ、底部:ナデ 内) 口縁部:ミガキ、体部:指オサエ・ハケ	②③	褐色	良	煤付着
81	5	I/J11	SW1	壺	(16.0)	—	(14.0)	外) 口縁部:横ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ	①③	にぶい黄褐色	良	煤付着
81	6	I	SW1	壺	(14.2)	—	(6.4)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ後ナデ	②	にぶい黄褐色	良	
81	7	I/K7	SW1	壺	(9.8)	—	(5.9)	外) ミガキ 内) 口縁部:ミガキ、体部:板ナデ	①	明赤褐色	良	赤彩
81	8	I	SW1	壺	15.0	—	(25.0)	外) 口縁部:凹線文3条・ナデ、頸部:ハケ 内) 口縁部:ハケ 内) 口縁部:指オサエ・ナデ、体部:ケズリ	①②	にぶい黄褐色	良	煤付着 黒斑
81	9	I/L5・7	SW1	壺	13.2	3.0	28.5	外) 口縁部:指オサエ、頸部:ハケ、体部:ナデ・ハケ、底部:ナデ 内) 口縁部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	やや良	煤付着
81	10	I/J12	SW1	壺	(9.8)	—	(5.4)	外) 口縁部:擬凹線文4条、頸部:ハケ・ミガキ 内) ナデ	①③	にぶい黄褐色	不良	煤付着
81	11	I/K7	SW1	壺	(12.8)	—	(4.8)	外) 口縁部:ミガキ 内) ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	
81	12	I/K7	SW1	壺	7.9	—	(10.0)	外) ナデ・ミガキ 内) 口縁部:ナデ、体部:ナデ・指オサエ	①	灰黄褐色	良	煤付着
81	13	I/K7	SW1	壺	10.7	—	(5.3)	外) 口縁部:ナデ・竹筥刺突文2個1対、体部:ナデ・ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:指オサエ	①	褐色	良	
81	14	I/K7	SW1	壺	(15.8)	—	(6.2)	外) 口縁部:ハケ 内) ナデ・ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	
81	15	I/L5〜7・K7	SW1	壺	—	—	(6.4)	外) ミガキ 内) 口縁部:ミガキ、体部:ナデ・指オサエ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	
82	1	I/K7	SW1	壺	(17.2)	—	(8.1)	外) 口縁部:ナデ・櫛刺突文、頸部:ナデ、体部:ハケ・櫛刺突文 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ	②③	灰黄色	良	
82	2	I/J11	SW1	壺	(14.0)	—	(5.3)	外) 口縁部:ナデ、頸部:ミガキ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ・櫛刺突文	①③	にぶい褐色	やや不良	
82	3	I/K7	SW1	壺	(15.6)	—	(16.7)	外) 口縁部:ナデ、体部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:ハケ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
82	4	I/J10・11	SW1	壺	11.2	—	(10.1)	外) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ、体部:線刻 内) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ、体部:板ナデ・指オサエ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
82	5	I/K7	SW1	壺	(9.6)	—	(5.1)	外) 口縁部:ミガキ 内) 口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい褐色	良	煤付着
82	6	I/K7	SW1	壺	13.0	—	(11.7)	外) 口縁部:ナデ、頸部:ハケ 内) 口縁部:ナデ、体部:板ナデ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	黒斑
82	7	I/G9	SW1	壺	—	—	—	外) 櫛刺突文 内) ナデ	②④	黒色	やや不良	
82	8	I/K7	SW1	壺	—	—	—	外) 櫛描波状文・直線文	②③	にぶい黄褐色	良	
82	9	I/J11	SW1	壺	—	—	—	外) 櫛描波状文・直線文・ハケ	②③	にぶい黄褐色	良	
82	10	I/L5	SW1	壺	—	—	—	外) 櫛描直線文・刺突文 内) ハケ	②	灰黄褐色	良	
82	11	I/k11・12	SW1	壺	—	—	—	外) 櫛描直線文・刺突文 内) ハケ・ケズリ	①③	にぶい黄褐色	良	
82	12	I/J8・K9	SW1	高坏	32.0	—	(2.8)	外) 口縁部:ミガキ 内) 鋸歯文・渦巻文・スタンプ・ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	
82	13	I/J11・K8	SW1	高坏	(25.8)	—	(6.2)	外) ミガキ 内) ミガキ	②	にぶい黄褐色	やや良	
82	14	I/J11	SW1	高坏	12.8	—	(10.4)	外) 口縁部:ナデ、坏部:ハケ後ミガキ、脚部:ミガキ 内) 坏部:ミガキ、脚部:ナデ・板ナデ	①	にぶい黄褐色	良	
82	15	I/K7	SW1	器台	—	(13.4)	(12.4)	外) 坏部:ハケ、脚柱部:ミガキ、脚裾部:ナデ 内) 坏部:ミガキ、脚部:ケズリ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔3か所
82	16	I	SW1	器台	—	(16.2)	(17.1)	外) 脚部:ミガキ・沈線文5条 内) ケズリ・ミガキ	①②	にぶい黄褐色	良	円形透孔4か所
82	17	I/J11	SW1	器台	(21.6)	—	(3.3)	外) 頸部:ハケ 内) ミガキ	②	灰黄色	良	
82	18	I/L6・7	SW1	器台	—	(16.6)	(12.2)	外) ミガキ 内) ケズリ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔3か所
82	19	I/J11	SW1	器台	(19.8)	—	(7.5)	外) ミガキ 内) ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着 透孔複数か所

第4章 遺構と遺物

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
82	20	I/J10	SW1	器台	(9.8)	—	(7.8)	外)ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ナデ	②	にぶい黄 橙色	良	円形透孔3か所
83	1	I/J9・ 10・K10	SW1	鉢	18.3	—	(10.4)	外)口縁部:擬凹線文1条・笠刻目文、体部: ハケ・櫛描波状文 内)体部:ハケ	①③	橙色	やや不良	
83	2	I/K7	SW1	鉢	11.0	—	(5.5)	外)口縁部:擬凹線文2条、頸部:ナデ、体部: ナデ・櫛刺突文 内)ケズリ・指オサエ	④	灰褐色	良	煤付着
83	3	I/J11	SW1	鉢	(16.8)	—	(5.3)	外)口縁部:ミガキ・綾杉文、体部:ミガキ 内)口縁部:ミガキ、体部:ケズリ	①②	にぶい黄 橙色	やや良	
83	4	I/J11	SW1	鉢	(9.8)	—	(6.0)	外)ナデ 内)ナデ	①④	にぶい黄 橙色	やや良	
83	5	I/L6	SW1	鉢	(16.0)	—	(5.1)	外)口～頸部:ミガキ、体部:ハケ 内)口～ 体部:ミガキ	②	にぶい黄 橙色	良	
83	6	I/J10	SW1	鉢	(11.0)	—	(3.2)	外)口～頸部:ナデ 内)口縁部:指オサエ後 ナデ、体部:ケズリ・指オサエ	①	にぶい黄 橙色	良	
83	7	I/K5	SW1	鉢	(15.8)	—	(4.2)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部: ナデ、体部:指オサエ	②	にぶい黄 褐色	良	
83	8	I/L6	SW1	鉢	(9.4)	—	(5.0)	外)口縁部:ナデ・棒状浮文、体部:ミガキ・ ハケ 内)口～頸部:ナデ、体部:指オサエ	①	にぶい黄 褐色	良	
83	9	I	SW1	鉢	15.2	—	(4.3)	外)口縁部:ナデ、体部:ナデ・ハケ 内)口 縁部:ハケ、体部:ケズリ	②④	灰黄褐色	不良	
83	10	I/K11	SW1	鉢	(15.0)	—	(7.8)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部: 指オサエ・ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	
83	11	I/J11	SW1	手焙形土 器	—	—	(8.1)	外)頸部:ナデ・突帯文(上面に横ハケ)・ 縦ハケ 内)ナデ	②	浅黄色	不良	黒斑
83	12	I/L5	SW1	蓋	口径 2.2	(10.5)	4.6	外)ハケ・ミガキ 内)ハケ	①	にぶい黄 褐色	やや良	
83	13	I/L7	SW1	蓋	口径 3.2	—	(3.6)	外)指オサエ 内)ハケ	①	浅黄褐色	やや不良	
83	14	I	SW1	蓋	口径 4.6	11.8	5.6	外)ナデ・ミガキ 内)ナデ	②	明黄褐色	良	円形透孔1か所黒斑
83	15	I/J5	SW1	蓋	口径 4.4	—	(5.3)	外)ハケ 内)ハケ	①③	にぶい黄 褐色	やや不良	
83	16	I/L7	SW1	蓋	口径 3.7	—	(4.4)	外)ナデ 内)ナデ・指オサエ	②	にぶい黄 褐色	やや不良	
83	17	I/K7	SW1	鉢・壺	—	—	—	外)ナデ・突帯文(刻目) 内)ナデ	②	にぶい黄 褐色	やや良	
83	18	I/K7	SW1	壺か	—	—	—	外)ハケ 内)摩耗	①③	にぶい黄 褐色	やや不良	摘みによる突起
83	19	I/K7	SW1	把手	—	—	—	ナデ	①③	にぶい黄 褐色	良	
83	20	I/J12	SW1	把手	—	—	—	ナデ	①④	にぶい黄 褐色	やや良	
84	1	I/L11	SW1	器台	—	(14.0)	(4.7)	外)ハケ 内)ハケ・指オサエ	③	にぶい黄 褐色	良	黒斑
84	2	I	SW1	器台	—	10.6	(5.4)	外)ミガキ 内)ミガキ・ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	煤付着
84	3	I/J11	SW1	高坏or 器台	—	15.6	(4.4)	外)ミガキ 内)ハケ・ナデ	②	にぶい橙 色	良	円形透孔4か所 被熱痕
84	4	I/L11	SW1	高坏	—	—	(13.3)	外)ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	円形透孔
84	5	I	SW1	器台	—	13.8	(9.6)	外)ミガキ 内)ナデ・ケズリ	③	にぶい黄 褐色	良	円形透孔3か所
84	6	I/L6・7	SW1	器台	—	17.4	(5.5)	外)脚部:ミガキ・沈線文3条・矢羽根文・ S字スタンプ文、脚部:沈線文2条 内)ケ ズリ・ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	円形透孔4か所 煤付着
84	7	I/J10・ 11	SW1	器台	—	(20.0)	(4.2)	外)ミガキ・S字スタンプ文2段・沈線文3条 2段・櫛刺突文 内)ナデ・ミガキ	②	にぶい黄 褐色	良	
84	8	I/J10～ 12	SW1	器台	—	19.0	(5.3)	外)沈線文3条・S字スタンプ文・櫛刺突文・ ミガキ 内)ハケ・ナデ	①③	にぶい黄 褐色	やや不良	円形透孔4か所2段
84	9	I/L6	SW1	器台	—	—	(4.8)	外)ミガキ・沈線文3条・S字スタンプ文 内)ハケ・ナデ	③	にぶい黄 褐色	良	円形透孔4か所
84	10	I/K7	SW1	器台	—	—	—	外)沈線文3条・S字スタンプ文 内)ハケ	②	にぶい黄 褐色	良	
84	11	I/L7	SW1	高坏or 器台	—	(12.6)	(6.6)	外)脚柱～脚部:沈線文7条・ミガキ、脚 部:ナデ 内)ケズリ・ハケ・工具痕	②④	にぶい黄 褐色	良	円形透孔5か所(全体に10 か所程度)
84	12	I	SW1	脚部	—	9.8	(4.0)	外)ミガキ・指オサエ 内)ナデ・ハケ	①②	にぶい黄 褐色	良	
84	13	I	SW1	脚部	—	9.8	(5.5)	外)ハケ 内)ナデ・指オサエ	②	にぶい黄 褐色	良	

第2節 遺物

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
84	14	I/L7	SW1	脚部	—	6.8	(1.5)	外)ハケ・指オサエ 内)ナデ・ハケ	②④	にぶい橙 色	やや不良	被熱痕
84	15	I/J11	SW1	脚部	—	7.8	(4.7)	外)ハケ・ナデ 外)ハケ	②	にぶい橙 色	良	
84	16	I/K7	SW1	高坏	—	—	(9.7)	外)ハケ・ミガキ 内)ナデ・ハケ・紋り	②	にぶい橙 色	良	
84	17	I/J9	SW1	高坏	—	7.8	(9.6)	外)ミガキ 内)ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	
84	18	I/J9	SW1	高坏or 器台	—	—	(7.4)	外)ハケ後ナデ・沈線文6条2段 内)紋り	③	にぶい黄 褐色	良	
84	19	I/K7	SW1	脚部	—	7.6	(5.4)	外)体部:ナデ、脚部:沈線文1条 内)体 部:ハケ、脚部:ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	円形透孔4か所
84	20	I/J11	SW1	底部	—	4.8	(6.3)	外)体部:ハケ・ナデ、底部:ナデ 内)ハケ	③	にぶい黄 褐色	やや良	
84	21	I/J11	SW1	底部	—	2.8	(3.2)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)ケズリ	③	灰黄褐色	やや良	煤付着
84	22	I/L7	SW1	底部	—	(4.0)	(4.2)	外)体部:ハケ、底部:ハケ 内)ケズリ	③④	にぶい黄 褐色	やや良	
84	23	I/L6	SW1	底部	—	(4.8)	(3.8)	外)体部:ハケ、底部:ケズリ 内)ケズリ・ ナデ	②③	灰黄褐色	良	煤付着
84	24	I/L5～7	SW1	底部	—	4.0	(3.4)	外)体部:ハケ、底部:ミガキ 内)ケズリ	③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
84	25	I/K7	SW1	底部	—	4.0	(2.1)	外)体部:ミガキ、底部:ナデ 内)板ナデ	②	にぶい黄 褐色	良	黒斑
84	26	I/K7	SW1	底部	—	2.5	(2.5)	外)体部:ハケ、底部:ケズリ 内)ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	良	炭化物付着
84	27	I/J9・ 10	SW1	底部	—	4.2	(2.5)	外)体部:ミガキ、底部:ミガキ 内)ケズリ	③	灰黄褐色	やや良	煤付着
84	28	I/J8	SW1	底部	—	(4.0)	(2.3)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)ナデ	②	明赤褐色	良	底部に粘土付着
84	29	I/J11・ 14	SW1	底部	—	—	(2.8)	外)体部:ナデ、底部:ナデ 内)指オサエ	①	にぶい黄 褐色	やや良	黒斑 小型土器
84	30	I/J8	SW1	底部	—	(1.2)	(4.3)	外)体部:ハケ 内)ナデ	①	にぶい褐 色	良	底部穿孔
84	31	I/J12	SW1	底部	—	1.6	(2.7)	外)体部:ハケ 内)ナデ	①②	黒色	良	底部穿孔
84	32	I/J9	SW1	底部	—	3.1	(2.4)	外)体部:ハケ・ナデ、底部:ナデ 内)ナデ	③④	橙色	良	底部穿孔 外面に赤彩か
84	33	I/K7	SW1	底部	—	4.3	(1.5)	外)体部:ハケ、底部:ナデ	①②	にぶい黄 褐色	やや不良	底部穿孔
85	1	II/I20	SD2	甕	(16.8)	—	(3.0)	口)指頭押圧 外)体部:ハケ 内)ハケ	②③	灰黄褐色	良	
85	2	II/I21	SD2	鉢	11.9	3.6	6.3	口)指頭押圧 外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)体～底部:指オサエ・ナデ	②	にぶい橙 色	良	舟形
85	3	II/I21	SD3	把手	—	—	(6.3)	ハケ・指オサエ	②③	にぶい黄 褐色	良	
85	4	II/I21	SD3	底部	—	3.7	(5.1)	外)体部:板ナデ、底部:ナデ・指オサエ 内)ナデ・指オサエ	②③	にぶい橙 色	良	煤付着
85	5	II	SD9	甕	(17.8)	—	(10.5)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ・ナデ 内)口～頸部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい橙 色	やや不良	
85	6	II	SD9	甕	(21.8)	—	(14.0)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口～頸 部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい橙 色	不良	
85	7	II	SD9	甕	(15.5)	—	(8.3)	外)口～頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部: ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄 褐色	やや良	煤付着
85	8	II	SD9	高坏	23.4	—	(5.3)	外)ミガキ・ハケ 内)摩耗	②④	にぶい黄 褐色	不良	
85	9	II	SD10	壺	—	—	(4.6)	外)ミガキ 内)ナデ・ハケ	①③	にぶい褐 色	やや良	煤付着
85	10	II	SK1	壺	14.8	—	(11.7)	口)櫛刺突文・ナデ、外)頸部:ハケ、体部: 条痕 内)口～頸部:ナデ、体部:ナデ・指 オサエ	③	橙色	良	
85	11	II	SK1	底部	—	5.7	(2.9)	外)体部:ナデ、底部:ナデ・指オサエ 内)ケズリ・指オサエ	①③	黒褐色	良	
85	12	II	SK5	底部	—	4.8	(3.3)	外)体部:ハケ、底部:ケズリ 内)摩耗	③	浅黄色	良	
85	13	II	SK6	甕	—	6.2	(11.2)	外)体部:ハケ、底部:ハケ 内)ハケ・ナデ	③	にぶい橙 色	やや良	
85	14	II	SK10	壺	(12.5)	6.0	(30.8)	口)ナデ 外)頸部:ハケ、底部:ナデ 内)口縁部:ハケ、頸部:ナデ・指オサ エ	②③	橙色	良	煤付着

第4章 遺構と遺物

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
85	15	II	SK13/上層	甕	(14.2)	—	(6.2)	外)口縁部:ミガキ、頸部:ナデ、体部:ハケ内)口~頸部:ミガキ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
85	16	II	SK13/下層	甕	(17.1)	—	(5.1)	外)口縁部:擬凹線7条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい褐色	良	
85	17	II	SK13/上下層	甕	(18.9)	—	(5.2)	外)口縁部:擬凹線8条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	②③	にぶい褐色	良	煤付着
85	18	II	SK13/上層	甕	(16.8)	—	(6.4)	外)口縁部:ナデ、体部:粗いミガキ 内)口縁部:粗いミガキ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
85	19	II	SK13	甕	(18.0)	—	(5.3)	口)沈線文1条 外)頸部:ナデ、体部:ハケ内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	灰褐色	やや良	煤付着
85	20	II	SK13	壺	(19.9)	—	(3.2)	口)櫛刺突文 外)擬凹線文8条、頸部:ハケ内)ミガキ	②③	にぶい橙色	良	煤付着
85	21	II	SK13	高坏	—	—	(7.5)	外)摩滅 内)ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	
86	1	II	SR1/上層	甕	(16.2)	—	(6.3)	口)ナデ 外)頸~体部:ハケ・ナデ 内)口縁部:ハケ後ナデ、体部:ハケ	①	にぶい黄褐色	良	
86	2	II	SR1/上層	甕	(20.0)	—	(6.6)	口)窠刻目文、外)体部:ハケ 内)ハケ・指オサエ	①④	にぶい黄褐色	良	煤付着
86	3	II	SR1/上層	甕	(11.0)	—	(6.3)	口)ナデ 外)頸~体部:ハケ 内)頸~体部:指オサエ・ハケ	②③	灰黄色	良	穿孔2孔1対が1か所 煤付着
86	4	II	SR1	甕	(22.2)	—	(12.3)	口)櫛刺突文 外)頸部:ハケ、体部:ハケ・櫛刺直線文・櫛刺突文2段 内)口縁部:ハケ、体部:ハケ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
86	5	II	SR1/上層	甕	15.6	—	(7.2)	口)櫛刺突文 外)頸部:ハケ・ハケ後ナデ 内)体部:櫛刺直線文・櫛刺突文 内)ハケ	③	にぶい赤褐色	良	
86	6	II	SR1/上層	甕	14.0	—	(17.9)	口)窠刻目文 外)頸部:ハケ・板オサエ、体部:ハケ 内)口縁部:ハケ、体部:ハケ・ナデ	②③	にぶい黄褐色	やや良	黒斑
86	7	II	SR1/上層	甕	11.7	—	(4.2)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ナデ・指オサエ	②③	にぶい褐色	やや良	
86	8	II	SR1/上層	甕	(15.4)	—	(8.0)	口)ナデ・窠刻目文(一部のみ) 外)体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
86	9	II	SR1/上層	甕	15.4	—	(8.0)	外)口縁部:擬凹線5条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい褐色	やや不良	煤付着
86	10	II	SR1/上層	甕	13.8	—	(5.7)	外)口縁部:擬凹線6条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
86	11	II	SR1/上層	甕	14.2	—	(6.6)	外)口縁部:擬凹線4条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい黄褐色	やや不良	
86	12	II	SR1/上層	甕	9.7	—	(6.4)	外)口縁部:擬凹線7条、頸部:ナデ、体部:櫛刺突文・板ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①④	にぶい黄褐色	やや不良	
86	13	II	SR1/上層	甕	(27.4)	—	(16.0)	外)口縁部:擬凹線10条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	②③	浅黄褐色	良	煤付着
86	14	II	SR1/上層	甕	(22.0)	—	(6.0)	外)口縁部:擬凹線5条、頸部:ナデ 内)口縁部:ナデ、頸部:ケズリ	③	にぶい黄褐色	良	
86	15	II	SR1/上層	甕	14.8	—	(6.3)	外)口縁部:擬凹線7条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ・指オサエ、体部:ケズリ	④	にぶい黄褐色	良	煤付着
86	16	II	SR1/上層	甕	17.0	2.6	21.0	外)口縁部:擬凹線6条、頸部:ナデ、体部:ハケ、底部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
87	1	II	SR1/上層	甕	18.8	—	(22.4)	外)口縁部:擬凹線8条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:指オサエ・ナデ、体部:ケズリ	②③	にぶい黄褐色	良	煤付着
87	2	II	SR1/上層	甕	(19.0)	—	(7.6)	外)口縁部:擬凹線7条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:指オサエ、頸部:ナデ、体部:ケズリ	②④	褐色	良	煤付着
87	3	II	SR1/上層	甕	18.2	—	(7.6)	外)口縁部:擬凹線7条、体部:ハケ 内)体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	良	
87	4	II	SR1/上層	甕	16.6	—	(5.3)	外)口縁部:擬凹線7条、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい褐色	やや良	煤付着
87	5	II	SR1/上層	甕	18.6	—	(5.9)	外)口縁部:擬凹線6条、頸~体部:ナデ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	③	浅黄褐色	やや良	煤付着
87	6	II	SR1/上層	甕	11.3	—	(5.2)	外)口縁部:擬凹線8条、頸部:ミガキ 内)ミガキ	②④	にぶい褐色	良	赤彩
87	7	II	SR1/上層	甕	(11.8)	—	(5.1)	外)口縁部:ミガキ・棒や竹管の刺突文3段・窠刻目文・竹管刺突文・窠刻目文、頸部:ナデ 内)口縁部:ミガキ、体部:ケズリ	②	灰黄色	良	煤付着
87	8	II	SR1/上層	甕	(15.8)	—	(6.5)	外)口縁部:ハケ、頸部:ナデ、体部:ハケ後ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②④	灰白色	やや良	煤付着

第2節 遺物

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
87	9	II	SR1/上層	甕	13.0	—	(8.1)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい黄褐色	良	煤付着
87	10	II	SR1/上層	甕	15.8	—	(6.2)	外)口~頸部:ナデ、体部:板ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②④	にぶい黄褐色	やや良	煤付着
87	11	II	SR1/上層	甕	17.8	—	(8.0)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②③	黒色	良	煤付着
87	12	II	SR1/上層	壺	(9.6)	3.0	11.4	外)口縁部:ナデ、頸~体部:ハケ後ミガキ、底部:ミガキ 内)口縁部:ミガキ、体部:ナデ・ケズリ	①	にぶい黄褐色	良	黒斑
87	13	II	SR1/上層	壺	7.9	2.2	9.2	外)ミガキ 内)口縁部:ミガキ、体部:ケズリ・ハケ	②	にぶい黄褐色	良	体部に打ち欠き痕
87	14	II	SR1/上層	壺	12.4	(3.3)	13.8	外)ミガキ 内)口~頸部:ミガキ、体部:板ナデ・指オサエ	②④	にぶい黄褐色	やや良	
87	15	II	SR1/上層	壺	14.0	5.4	24.0	外)ミガキ・沈線文1条 内)口~頸部:ミガキ、体部:ナデ・指オサエ・ハケ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
87	16	II	SR1/上層	壺	21.2	(7.0)	42.0	外)口縁部:擬凹線文5~8条、頸~体部:ナデ・ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ナデ・ハケ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	
88	1	II	SR1/上層	壺	(10.8)	—	(14.9)	外)口縁部:擬凹線文3条、頸部:刻目突帯文、体部:ミガキ 内)口~頸部:ミガキ、体部:ハケ	②③	にぶい黄褐色	良	
88	2	II	SR1/上層	壺	(11.8)	—	(8.6)	外)口縁部:擬凹線文7条、頸部:櫛刺直線文・ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ハケ・指オサエ	②④	淡黄色	不良	煤付着
88	3	II	SR1/上層	壺	(12.8)	—	(8.8)	外)口縁部:擬凹線文4条、頸部:ナデ・ハケ 内)口縁部:ナデ、頸部:ハケ	②③	浅黄褐色	良	
88	4	II	SR1/上層	壺	14.8	—	(4.0)	外)口縁部:貼付突帯文・擬凹線文2条、頸部:ミガキ 内)ミガキ	②	褐色	やや良	
88	5	II	SR1/上層	壺	10.0	—	(10.6)	外)ミガキ・擬凹線文3条 内)ナデ・ハケ	②	にぶい褐色	良	内面に木片等の付着物
88	6	II	SR1/上層	壺	10.7	—	(15.9)	外)口縁部:ナデ・指オサエ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:指オサエ・ナデ	①	にぶい黄褐色	良	煤付着
88	7	II	SR1/上層	壺	(8.0)	—	(6.9)	外)ミガキ 内)ナデ	②	にぶい黄褐色	良	
88	8	II	SR1/上層	壺	13.3	(5.5)	27.7	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ、底部:指オサエ(剥離か) 内)体部:ハケ・指オサエ	②④	にぶい褐色	やや不良	底部穿孔
88	9	II	SR1/上層	壺	—	—	(12.7)	外)体部:竹管刺突文3段・窠刻目文・櫛刺直線文・ミガキ 内)体部:板ナデ・ハケ	②	淡黄色	やや不良	煤付着
88	10	II	SR1/上層	壺	—	—	(8.1)	外)ミガキ 内)ケズリ	②	灰黄色	良	煤付着 黒斑
88	11	II	SR1/上層	高坏	(16.8)	—	(5.0)	外)口縁部:沈線文3条、体部:ナデ 内)ナデ・ミガキ	①	にぶい黄褐色	良	煤付着
88	12	II	SR1/上層	高坏	(31.0)	—	(5.8)	外)ミガキ・沈線文2条2段・S字スタンプ文 内)ミガキ	①	灰黄褐色	良	外面口縁部に黒漆塗布か
88	13	II	SR1/上層	高坏	29.2	—	(8.0)	外)口~坏部:ハケ後ミガキ 内)ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	
88	14	II	SR1/上層	器台	19.8	—	(9.0)	外)口~坏部:ミガキ 内)ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
88	15	II	SR1/上層	高坏	24.8	—	(6.4)	外)口縁部:ミガキ、坏部:ハケ後ミガキ 内)ミガキ	②	褐色	良	煤付着
88	16	II	SR1/上層	高坏	25.4	—	(16.6)	外)坏~脚部:ミガキ 内)坏部:ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	円形穿孔4か所
88	17	II	SR1/上層	器台か	16.5	18.8	18.5	外)口縁部・脚部:指頭押圧、体部:ハケ 内)ハケ	②④	にぶい黄褐色	良	煤付着
88	18	II	SR1	器台	8.4	—	(6.0)	外)ナデ・ミガキ 内)ミガキ・板ナデ	②	灰黄褐色	良	円形透孔3か所
89	1	II	SR1/上層	鉢	18.6	3.3	8.6	外)口縁部:ナデ・擬凹線文6条、体部:ミガキ、底部:ケズリ 内)ミガキ	②	浅黄褐色	良	底部穿孔
89	2	II	SR1/上層	鉢	(15.9)	—	(9.3)	外)口縁部:擬凹線文6条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ・ハケ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
89	3	II	SR1/上層	鉢	9.5	1.7	6.8	外)口~頸部:ナデ、体部:ナデ・指オサエ、底部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	褐色	良	黒斑
89	4	II	SR1/上層	鉢	(13.0)	—	(8.2)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ・櫛刺突文 内)口縁部:ナデ、体部:ハケ・指オサエ	②	明褐色	良	煤付着
89	5	II	SR1/上層	鉢	10.4	2.3	10.3	口)指頭押圧 外)口縁部:ナデ・指オサエ、頸部:ナデ、底部:ナデ 内)ハケ・ナデ	④	にぶい褐色	良	被熱痕
89	6	II	SR1/上層	鉢	—	14.0	(12.8)	外)口縁部:ナデ・指オサエ 外)脚部:ハケ 内)脚部:指オサエ・板ナデ	②④	灰黄色	やや良	内面付着痕
89	7	II	SR1/上層	鉢	17.2	3.0	12.1	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ、底部:ナデ 内)体部:ケズリ・ナデ	②④	褐色	やや不良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
89	8	II	SR1/上層	鉢	14.4	2.0	12.8	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ、底部:ナデ 内)体部:ナデ・板ナデ	②	淡赤橙色	良	底部穿孔 被熱痕
89	9	II	SR1/上層	鉢	—	1.3	(12.5)	外)体部:ハケ・ミガキ、底部:ナデ 内)ハケ・ケズリ	④	灰黄色	良	打ち欠き転用品か 底部穿孔
89	10	II	SR1/上層	鉢	(17.6)	—	(6.0)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)体部:ケズリ・ナデ	②④	にぶい黄橙色	良	
89	11	II	SR1/上層	鉢	14.3	2.1	5.9	外)ミガキ 内)ハケ後ミガキ	③	にぶい黄橙色	良	煤付着
89	12	II	SR1/上層	鉢	12.9	—	(5.7)	外)口縁部:ナデ、体部:ミガキ 内)口縁部:ミガキ、体部:ケズリ	②③	灰白色	やや良	
89	13	II	SR1/上層	鉢	(11.4)	5.2	8.5	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ、脚部:指オサエ 内)ナデ・指オサエ	②③	灰白色	良	
89	14	II	SR1/上層	小型土器	9.6	4.5	6.0	外)体部:ナデ、脚部:指オサエ 内)板ナデ・指オサエ	②④	暗灰黄色	やや不良	蓋の可能性あり
89	15	II	SR1/上層	小型土器	(6.8)	2.8	6.3	外)口縁部:指オサエ、体部:ハケ、底部:ナデ 内)ハケ・ケズリ・ナデ	②	にぶい黄橙色	良	黒斑
89	16	II	SR1/上層	鉢	9.3	3.7	8.7	外)ミガキ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	黒斑 把手付 被熱痕
89	17	II	SR1/上層	蓋	13.0	摘径4.0	4.8	外)摘:指オサエ、体部:ナデ 内)ハケ・ナデ	②	灰白色	良	
89	18	II	SR1/上層	器台	—	13.4	(11.8)	外)ハケ後ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ナデ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	円形穿孔3か所
89	19	II	SR1/上層	高坏	—	13.6	(11.0)	外)ミガキ 内)ケズリ・ハケ	②	にぶい黄橙色	良	円形穿孔3か所 煤付着
89	20	II	SR1/上層	脚部	—	11.7	(7.9)	外)ハケ・ナデ・沈線文1条 内)脚部:ハケ	②④	にぶい黄橙色	やや不良	黒斑
89	21	II	SR1/上層	脚部	—	11.9	(7.0)	外)ハケ・擬凹線文10条 内)ミガキ	②	浅黄褐色	良	
89	22	II	SR1/上層	脚部	—	6.4	(5.4)	外)ミガキ・擬凹線文3条 内)ナデ	②③	灰白色	やや良	
89	23	II	SR1/上層	底部	—	7.6	(4.0)	外)体部:条痕・指オサエ、底部:ナデ 内)ナデ	②④	にぶい黄橙色	良	
89	24	II	SR1	底部	—	2.5	(6.5)	外)ミガキ・ハケ 内)条痕・ケズリ	①	浅黄褐色	良	煤付着
90	1	II	SR2/上層	甕	—	—	(3.0)	口)櫛刻目文 外)ハケ 内)ハケ・ナデ	②③	にぶい黄橙色	良	
90	2	II	SR2/下層	甕	—	—	(2.4)	口)櫛刻目文 外)ハケ 内)ハケ	①	灰黄褐色	良	
90	3	II	SR2/下層	甕	—	—	(3.3)	口)竹管刻目文・条痕 内)指オサエ	②③	灰黄褐色	良	
90	4	II	SR2/下層	甕	—	—	(2.5)	外)ハケ 内)ハケ	②	橙色	良	
90	5	II	SR2	甕	(16.8)	—	(5.7)	口)沈線文1条、外)頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	①	灰黄褐色	良	
90	6	II	SR2	甕	9.6	2.0	12.4	外)ナデ 内)ナデ	②	にぶい黄橙色	良	煤付着 黒斑
90	7	II	SR2/上層	甕	(17.6)	—	(11.5)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄橙色	やや良	煤付着
90	8	II	SR2/上層	甕	13.9	—	(11.2)	外)口縁部:ナデ、体部:篋刺突文・櫛描波状文・ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	橙色	良	煤付着
90	9	II	SR2/上下層	甕	15.4	—	(15.4)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	灰黄褐色	良	煤付着
90	10	II	SR2/上下層	甕	12.5	—	(8.7)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②	明黄褐色	良	煤付着
90	11	II	SR2	甕	(17.8)	—	(16.0)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ・篋波状文 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ・指オサエ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	
90	12	II	SR2	甕	(15.8)	—	(7.7)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	煤付着
90	13	II	SR2/上層	甕	(15.8)	—	(7.5)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	灰褐色	やや不良	煤付着
90	14	II	SR2/上層	甕	(15.9)	—	(7.4)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄橙色	良	煤付着
90	15	II	SR2/上層	甕	(17.4)	—	(8.6)	外)口~頸部:ナデ、体部:ナデ・ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄橙色	やや良	煤付着
90	16	II	SR2/上層	甕	(26.0)	—	(13.0)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ケズリ	②	にぶい黄橙色	良	煤付着
91	1	II	SR2/下層	壺	—	—	(4.8)	外)条痕・刺突文2段 内)ハケ	②③	にぶい黄橙色	良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
91	2	II	SR2/下層	壺	9.3	—	(16.4)	外)ミガキ 内)口~頸部:ミガキ、体部:ナデ・指オサエ・ハケ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	
91	3	II	SR2/上下層	壺	—	6.5	(19.6)	外)頸部:篋刺突文、体部:ミガキ、底部:指オサエ後ミガキ 内)体部:ハケ、底部:工具痕	②③	にぶい黄橙色	良	黒斑
91	4	II	SR2/上層	壺	(9.8)	—	(4.1)	外)ミガキ 内)口縁部:ミガキ 体部:ケズリ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	黒斑
91	5	II	SR2/上下層	壺	9.5	—	(5.4)	外)ミガキ 内)口~頸部:ミガキ、体部:ハケ	①③	にぶい黄橙色	やや不良	
91	6	II	SR2/上層	壺	(13.5)	—	(5.7)	外)頸部:ハケ・指頭押突文 内)摩耗	①③	にぶい黄橙色	やや不良	
91	7	II	SR2/上層	壺	—	—	(5.0)	外)ミガキ・ナデ 内)ミガキ・指オサエ	①	にぶい黄橙色	良	煤付着
91	8	II	SR2/上下層	壺	(15.8)	—	(18.8)	外)ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ナデ・ケズリ	②	にぶい黄橙色	良	
91	9	II	SR2/上層	壺	13.7	—	(9.7)	外)口縁部:ミガキ・ナデ・ハケ、体部:ハケ後ミガキ 内)口縁部:ミガキ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄橙色	良	煤付着
91	10	II	SR2/上下層	壺	(19.7)	—	(3.9)	外)口縁部:ナデ・棒状浮文(2本以上1対篋刻み)、頸部:ナデ 内)ナデ	②③	にぶい黄橙色	やや不良	
91	11	II	SR2/上下層	壺	(19.7)	—	(4.5)	外)口縁部:ナデ・棒状浮文(2本1対篋刻み) 内)ハケ・ナデ	②③	にぶい黄橙色	不良	
91	12	II	SR2/上層	高坏か	(27.8)	—	(6.9)	外)沈線文12条 内)ミガキ	②	にぶい黄橙色	良	
91	13	II	SR2/上層	高坏	(13.6)	(15.8)	12.5	外)ハケ・ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ハケ・板ナデ	②④	橙色	良	円形穿孔1か所
91	14	II	SR2	器台	8.5	(11.8)	9.4	外)ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ミガキ・板ナデ	②	にぶい黄橙色	良	円形穿孔3か所
91	15	II	SR2/下層	器台	9.2	—	(5.1)	外)ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:指オサエ	①③	にぶい黄橙色	良	円形穿孔3~4か所
91	16	II	SR2/上下層	壺	21.0	—	(32.3)	外)口~頸部:ナデ 体部:ハケ・ケズリ 内)ハケ・ナデ	①②	にぶい黄橙色	良	煤付着
92	1	II	SR2/下層	鉢	9.8	—	9.6	外)口縁部:ナデ、体部:ケズリ後ナデ、底部:ナデ 内)ナデ	②	灰白色	良	
92	2	II	SR2/上層	鉢	(10.8)	4.5	6.7	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ・指オサエ、底部:ナデ 内)体部:ケズリ	①③	灰黄褐色	やや良	煤付着
92	3	II	SR2	鉢	(8.2)	—	(5.3)	外)ミガキ 内)ケズリ後ミガキ	②③	にぶい黄橙色	やや良	円形穿孔2か所(縦方向)
92	4	II	SR2/下層	小型土器	(5.8)	4.1	5.0	外)ナデ・指オサエ 内)ケズリ・指オサエ	②	暗灰黄色	良	
92	5	II	SR2	小型土器	—	4.0	(3.8)	口)篋刻み 外)ナデ・指オサエ 内)ナデ	①	にぶい黄橙色	良	口縁部残存か
92	6	II	SR2/上層	脚部	—	11.6	(6.6)	外・内)磨滅	②④	にぶい黄橙色	やや不良	円形穿孔6か所以上
92	7	II	SR2	脚部	—	(13.2)	(8.6)	外)ミガキ 内)ハケ・ミガキ・板ナデ	①	明黄褐色	良	円形穿孔3か所
92	8	II	SR2	脚部	—	12.4	(7.1)	外)ミガキ 内)ハケ・ナデ・指オサエ	①	にぶい黄橙色	良	円形穿孔3か所
92	9	II	SR2/上層	脚部	(11.7)	10.6	(5.5)	外)ミガキ・ナデ 内)ミガキ・ハケ・指オサエ	①	にぶい黄橙色	良	
92	10	II	SR2/上層	脚部	—	(8.3)	(6.6)	外)ハケ後ミガキ・指オサエ 内)ナデ・ミガキ・指オサエ	①	にぶい黄橙色	良	赤彩
93	1	II/I14	SW1	甕	(18.8)	—	(8.5)	外)口縁部:櫛刻目文、体部:ハケ・櫛描直線文2段・半裁竹管刺突文 内)口縁部:ハケ	①③	橙色	不良	
93	2	II/J13	SW1	甕	(13.8)	—	(5.0)	外)口~頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ハケ、体部:ナデ・ケズリ・ハケ	②	にぶい黄橙色	良	煤付着
93	3	II/I15	SW1	甕	(15.8)	—	(7.8)	外)口縁部:ナデ・篋刺突文、体部:櫛刺突文・ハケ 内)口~頸部:ナデ、体部:ハケ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	煤付着
93	4	II/I15	SW1	甕	28.9	—	(4.6)	外)口縁部:擬凹線文6条 内)頸部:ナデ	①④	橙色	不良	
93	5	II/J15	SW1	甕	(13.4)	(1.5)	13.5	外)体部:ハケ 内)ケズリ	②④	にぶい黄橙色	やや不良	煤付着
93	6	II/J15	SW1	甕	(9.8)	—	(12.3)	外)体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ナデ・ハケ	②	にぶい黄褐色	良	
93	7	II	SW1	甕	(13.0)	—	(9.3)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②④	黒褐色	やや不良	煤付着
93	8	II/J15	SW1	甕	10.1	—	(5.9)	外)ナデ 内)体部:ケズリ・指オサエ	②④	浅黄褐色	やや良	煤付着
93	9	II	SW1	甕	(15.0)	—	(5.6)	外)ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	②④	橙色	やや不良	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
93	10	II	SW1	甕	(17.7)	—	(7.5)	外)ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	不良	煤付着
93	11	II	SW1	甕	(15.6)	—	(13.0)	外)口〜頸部:ナデ、体部:ハケ 内)体部:ケズリ	②	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
93	12	II	SW1	甕	(25.7)	—	(4.6)	外)ナデ 内)ナデ	②④	にぶい黄褐色	やや不良	
93	13	II/J14・I15	SW1	甕	—	5.2	(23.3)	外)体部:ハケ後ナデ、底部:ナデ 内)ケズリ	③④	にぶい黄褐色	良	黒斑 煤付着
93	14	II/J14	SW1	甕	12.5	2.5	11.9	外)口縁部:ナデ、頸部:ナデ、体部:ハケ、底部:ナデ 内)体部:ケズリ・指オサエ	②④	灰白色	良	煤付着
93	15	II/J14・I15	SW1	鉢	(14.6)	—	(8.5)	外)口縁部:ナメハケ後に6条前後のミガキ状の線(縄地風・多段の列点文風)、体部:ハケ 内)ハケ	②③	灰黄褐色	やや良	
93	16	II	SW1	鉢	(15.8)	—	(6.6)	外)ミガキ 内)ナデ	②	にぶい黄褐色	良	
93	17	II	SW1	鉢	(11.8)	—	(5.9)	外)ミガキ 内)口縁部:ハケ、体部:ミガキ	②	橙色	良	
93	18	II/J14	SW1	鉢	10.9	—	8.4	外)口〜頸部:ナデ、体〜底部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ナデ・指オサエ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着 底部穿孔
93	19	II/I15	SW1	鉢	11.3	(5.8)	6.4	外)ミガキ 内)口〜体部:ミガキ、脚部:ハケ	①③	にぶい橙色	やや不良	
93	20	II/J15	SW1	小型土器	(7.1)	3.4	4.9	外・内)摩滅	②③	浅黄褐色	良	
93	21	II	SW1	小型土器	4.5	3.3	4.0	外)ナデ 内)指オサエ	②③	にぶい黄褐色	良	
93	22	II	SW1	蓋	—	摘径4.3	(4.0)	外)体部:ハケ、摘:ナデ、内)ハケ	①③	にぶい橙色	不良	被熱痕
93	23	II	SW1	蓋	—	摘径4.6	(3.9)	外)ナデ 内)ナデ	①③	浅黄褐色	やや不良	
94	1	II	SW1	壺	(12.4)	—	(7.5)	外)口縁部:ナデ、頸〜体部:ハケ 内)体部:ハケ	①③	橙色	不良	煤付着
94	2	II	SW1	壺	(7.2)	2.8	6.3	外)口縁部:擬凹線文3条、頸部:ナデ、体〜底部:ミガキ 内)口縁部:ミガキ、体〜底部:ミガキ・指オサエ	②③	にぶい黄褐色	良	
94	3	II	SW1	壺	16.6	—	(25.8)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ後ミガキ 内)口〜頸部:ハケ後ミガキ、体部:ナデ	②④	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
94	4	II/J14	SW1	壺	(9.8)	—	(11.9)	外)ナデ 内)ケズリ	②	灰白色	やや不良	煤付着
94	5	II	SW1	壺	13.8	—	(8.2)	外)口縁部:擬凹線文 内)頸部:ケズリ	④	明黄褐色	良	
94	6	II	SW1	壺	(12.8)	—	(5.5)	外)口〜頸部:ナデ、体部:ハケ 内)ナデ	②	にぶい黄褐色	良	
94	7	II/I15	SW1	壺	15.2	—	(6.4)	外)口縁部:ナデ・刻目突帯文 内)口〜頸部:ナデ、体部:指オサエ	②④	にぶい橙色	やや不良	
94	8	II	SW1	壺	(14.0)	—	(9.3)	外)体部:ハケ 内)頸部:ナデ、体部:ケズリ	②④	橙色	やや良	
94	9	II	SW1	壺	10.8	4.4	(25.3)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ、底部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ケズリ・指オサエ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着 底部に圧痕
94	10	II	SW1	壺	21.1	—	(12.0)	外)口縁部:ナデ、頸部:指頭押突帯文・ハケ、体部:ハケ後ナデ 内)口〜頸部:ミガキ・ナデ、体部:ハケ・ナデ・指オサエ	②③	明黄褐色	良	
94	11	II	SW1	壺	23.0	—	(7.5)	外)突帯文・ミガキ 内)磨滅	②	にぶい黄褐色	良	
94	12	II/I15・16	SW1	壺	—	—	(5.9)	外)口縁部:ナデ、頸部:ミガキ 内)口縁部:口縁部彫痕(ハケ痕)、頸部:ハケ	①	明黄褐色	良	
94	13	II	SW1	壺	—	—	(8.6)	外)ハケ 内)ナデ・指オサエ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
94	14	II	SW1	鉢	(17.8)	—	(7.4)	外)ミガキ 内)ミガキ	②③	橙色	良	
94	15	II/I・J15	SW1	器台	—	16.9	(19.2)	外)口縁部:擬凹線文11条、脚柱部:ミガキ、脚部:擬凹線文11条・S字スタンプ文 内)脚部:ナデ・指オサエ	②③	にぶい黄褐色	やや不良	赤彩 円形透孔4か所
94	16	II	SW1	器台	27.6	—	(9.0)	外)口縁部:擬凹線文9条・S字スタンプ文・擬凹線文4条・ミガキ、坏部:ミガキ 内)ミガキ	②③	にぶい黄褐色	良	
94	17	II/I15	SW1	器台	(19.2)	—	(12.0)	外)口縁部:ナデ、坏〜脚部:ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ナデ	①	にぶい黄褐色	良	円形透孔3か所
94	18	II	SW1	器台	7.7	—	(5.1)	外)ミガキ 内)坏部:ミガキ、脚部:ケズリ	①③	にぶい橙色	やや不良	円形透孔3か所
95	1	II	SW1	高坏or器台	—	—	(9.9)	外・内)摩滅	①③	にぶい橙色	やや不良	円形透孔3か所 黒斑

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				口径	底径	器高						
95	2	II	SW1	器台	—	—	(9.7)	外・内)摩滅	①③	橙色	不良	円形透孔3か所
95	3	II	SW1	高坏	—	—	(12.4)	外)ミガキ 内)ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	円形透孔2孔1対(4か所)
95	4	II	SW1	器台	—	—	(12.2)	外)ミガキ 内)ナデ	①③	にぶい黄褐色	良	円形透孔4か所
95	5	II	SW1	器台	—	(19.8)	(5.0)	外)脚部:沈線文2条・S字スタンプ文2段、脚部:ナデ 内)ハケ	②③	にぶい黄褐色	やや良	外面に赤彩
95	6	II	SW1	器台	—	14.0	(8.8)	外)ミガキ 内)ナデ・指オサエ	①③	橙色	やや不良	円形透孔4か所
95	7	II	SW1	脚部	—	(11.8)	(6.2)	外)ハケ 内)ハケ	②	にぶい橙色	やや良	円形透孔5か所か
95	8	II/I15	SW1	底部	—	5.0	(2.4)	外)ナデ 内)ケズリ	②④	浅黄褐色	やや良	黒斑 底部穿孔
95	9	II/I15	SW1	底部	—	5.0	(3.1)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)ナデ	②③	にぶい黄褐色	良	底部「×」線刻
95	10	II	SW1	鉢	—	2.5	(6.5)	外)体部:ハケ、底部:ケズリ 内)ハケ・ケズリ	②③	灰黄褐色	やや不良	底部穿孔
95	11	II/J15	SW1	鉢	—	1.5	(6.5)	外・内)摩滅	②	にぶい黄褐色	やや不良	黒斑 底部穿孔
96	1	III	SR2/上層	壺	(20.0)	—	(6.3)	外)口〜頸部:ナデ・鋭刺突文、体部:櫛描直線文 内)ナデ・ハケ	①	浅黄褐色	やや不良	
96	2	III	SR2/上層	壺	(14.5)	—	(7.9)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ・指オサエ、体部:ケズリ後ナデ	①	明黄褐色	良	
96	3	III	SR2/上層	甕	(20.8)	—	(8.3)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ハケ後ナデ、体部:ケズリ	①	にぶい橙色	良	煤付着
96	4	III	SR2/上層	壺	(25.0)	—	(11.7)	外)口縁部:擬凹線文か、体部:櫛描直線文・鋭刺突文・2条平行沈線文 内)口縁部:ハケ・ナデ、体部:ケズリ	②	橙色	良	
96	5	III	SR2/上層	高坏	—	(11.4)	(9.3)	外)ハケ・ミガキ 内)ナデ	①	明黄褐色	良	円形透孔4か所
96	6	III	SR2/上層	脚部	—	9.5	(6.6)	外)ハケ・ナデ・指オサエ 内)ナデ・ハケ	①	にぶい橙色	良	
97	1	VI	SI1/上層	甕	(16.8)	—	(4.3)	外)口縁部:擬凹線文6条、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ、体部:ハケ、頸部:ケズリ	①③	にぶい黄褐色	不良	煤付着
97	2	VI	SI1/上層	甕	(17.9)	—	(4.0)	内)口縁部:ナデ 内)体部:ケズリ	①③	にぶい橙色	不良	
97	3	VI	SI1	壺	(12.7)	—	(5.6)	外)口縁部:ナデ 内)磨滅	①③	にぶい橙色	不良	煤付着
97	4	VI	SI1/SP50	甕	(24.7)	—	(8.9)	外)磨滅 内)口縁部:ナデ	①③	にぶい橙色	不良	
97	5	VI	SI1/上層	甕	(9.4)	—	(8.0)	外)口縁部:ナデ、体部:ハケ 内)口縁部:ナデ 体部:ナデ・指オサエ	①③	橙色	やや不良	
97	6	VI	SI1/上層	器台	(8.6)	—	(4.3)	外)ミガキ 内)ミガキ・ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	円形透孔3か所
97	7	VI	SI1/上層	底部	—	1.2	(3.8)	外)磨滅 内)ケズリ	①④	にぶい黄褐色	不良	底部穿孔
97	8	VI	SI1/上層	底部	—	6.0	(2.0)	外)体部:ハケ・ナデ、底部:ナデ 内)ハケ	①③	にぶい橙色	やや不良	黒斑
97	9	VI	SI1/上層	底部	—	5.0	(2.5)	外)体部:ハケ、底部:ナデ 内)磨滅	①④	褐色	やや不良	
97	10	VI	SI2/下層	甕	(15.8)	—	(5.4)	外)口縁部:擬凹線文、頸部:ナデ、体部:ハケ 内)体部:ケズリ	①③	にぶい橙色	不良	

第5表 律令期の土器観察表

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	種別	器種	法量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
98	1	III	SD1	須恵器	坏B蓋	—	摘径2.4	(19.0)	外)摘:回転ナデ(擬宝珠型)、天井〜体部:回転ヘラケズリ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
98	2	III	SD1	須恵器	坏B蓋	(12.8)	摘径(2.4)	3.0	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体〜口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	
98	3	III	SD1	須恵器	坏B蓋	11.8	摘径2.1	2.1	外)摘:擬宝珠型、天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体〜口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①	灰白色	良	内面が転用硯
98	4	III	SD1	須恵器	坏B蓋	18.0	—	1.6	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体〜口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
98	5	III	SD1	須恵器	坏B蓋	(22.0)	—	(2.6)	外)天井〜体部:回転ヘラ切り後ナデ、底部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
98	6	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B蓋	(21.0)	—	(2.9)	外)天井部:回転ナデ後ケズリ、底部:回転ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	転用硯か
98	7	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B蓋	(14.0)	—	(1.9)	回転ナデ	①③	灰白色	良	
98	8	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B蓋	16.7	—	(2.2)	外)天井部:回転ナデ・回転ヘラケズリ、体 ~口縁部:回転ナデ(内)回転ナデ・ナデ	③	黄灰色	良	摘欠損
98	9	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B蓋	(20.0)	—	(2.1)	回転ナデ	①	灰白色	やや良	
98	10	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	(11.8)	(8.2)	4.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後未調整・貼付高台(内)回転ナデ(工具 か)	③	灰白色	良	外面底部に墨痕 (転用硯)
98	11	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	14.5	9.7	5.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・高台貼付後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書 外 面に降灰
98	12	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	(15.8)	(9.9)	5.3	口~体部:回転ナデ(外)底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)底部:回転ナデ後ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
98	13	Ⅲ	SD1/下層	須恵器	坏B身	11.8	7.8	3.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨痕(転 用硯)
98	14	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	(11.5)	(7.3)	3.7	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	①③	黄灰色	良	
98	15	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	13.3	9.2	4.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨痕(転 用硯) 降灰
98	16	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	(16.0)	(11.5)	5.4	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	①③	灰白色	良	底部に墨書
98	17	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	(16.0)	(11.0)	6.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ナデ・ 貼付高台(内)回転ナデ	①	灰色	良	
98	18	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	12.5	9.2	3.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・高台貼付後ナデ(内)回転ナデ	①③	黄灰色	良	底部に墨書 付 着物あり
98	19	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	(11.2)	(6.4)	4.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	①	青灰色	良	底部に墨書
98	20	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	—	(10.0)	(1.3)	外)回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台(内)回 転ナデ	①	灰白色	良	底部内面に墨痕 (転用硯) 底 部に墨書
98	21	Ⅲ	SD1	須恵器	坏B身	—	6.9	(1.3)	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書 高 台に溶着あり
98	22	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(13.0)	(9.2)	3.6	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①	灰色	良	外面に降灰
98	23	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(12.2)	(9.5)	3.7	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	
98	24	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(11.0)	(7.8)	4.4	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	
98	25	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(12.7)	(9.7)	3.2	口~体部:回転ナデ(外)底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)転用硯(墨痕 マメツ)	①③	黄灰色	やや良	
98	26	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(12.0)	(8.8)	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	②③	灰色	良	
98	27	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(16.0)	(12.6)	2.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	③	灰白色	やや不良	底部に墨書
98	28	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	12.6	8.7	3.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	④	灰色	良	内面に墨痕か
98	29	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	13.1	9.0	3.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	
98	30	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(12.9)	(8.4)	3.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①	灰白色	やや良	
98	31	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(12.8)	(7.0)	2.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後備状工具ナデ・ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
98	32	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	12.7	7.2	3.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①	黄灰色	良	底部に墨書
98	33	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	13.6	8.7	3.0	口~体部:回転ナデ(外)底部:回転ヘラ切 り時ヘラ差し込み(内)底部:回転ナデ後工 具ナデ	①	灰白色	やや良	底部に墨書
98	34	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	13.4	8.2	3.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
99	1	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	13.4	8.6	3.4	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
99	2	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(14.0)	(8.1)	3.4	口~体部:回転ナデ(外)底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)底部:ナデ	①	灰白色	やや良	底部に墨書
99	3	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	13.8	9.7	2.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	②	褐灰色	良	底部に墨書
99	4	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(13.8)	(7.4)	3.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り(内)回転ナデ	①③	オリーブ 灰色	良	底部に墨痕(転 用硯)

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
99	5	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	13.6	8.8	3.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後未調整(内)回転ナデ	①③	灰オリー ブ色	良	
99	6	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	12.3	8.4	3.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後工具ナデ(内)回転ナデ、底部:ロクロ ナデ	③	灰色	良	歪み
99	7	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	(13.0)	(8.4)	3.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後未調整(内)回転ナデ・ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
99	8	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	—	(2.5)	(6.0)	回転ナデ(外)底部:回転ヘラ切り後ナデ	①	灰白色	やや良	底部に墨書
99	9	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	—	(7.0)	(1.9)	外)体~底部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰白色	やや良	底部に墨書
99	10	Ⅲ	SR1	須恵器	坏A	—	(6.0)	(2.1)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 黄子状圧痕(内)回転ナデ	①③	灰白色	やや不良	底部に墨書
99	11	Ⅲ	SD1	須恵器	坏A	—	(8.0)	(1.4)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 未調整(内)回転ナデ・ナデ	①③	灰白色	やや不良	底部内面に墨痕 (転用硯) 底 部に墨書
99	12	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	15.8	12.8	2.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	②③	黄灰色	良	口縁部一部に自 然釉付着
99	13	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.6)	(12.8)	2.3	口~体部:回転ナデ(外)底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)底部:回転ナデ後ナデ	①	灰色	良	
99	14	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.4)	(12.3)	2.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	③	灰色	良	
99	15	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(17.0)	(14.0)	2.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①	黄灰色	良	
99	16	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	16.0	13.0	2.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①	灰白色	良	
99	17	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	16.8	13.4	2.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・工具ナデ(内)回転ナデ、底部: ナデ	③	灰色	良	底部に墨書 内 面転用硯か
99	18	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	16.9	13.5	2.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	
99	19	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(16.0)	(12.0)	2.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部内面に墨付 着(転用硯)
99	20	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	16.2	13.0	2.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ・工具ナデ	①③	黄灰色	良	底部に墨書 降 灰付着
99	21	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.8)	(11.8)	2.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ、底部:ナデ	③	灰色	良	底部に墨書
99	22	Ⅲ	SD1/下層	須恵器	盤A	15.3	13.3	2.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・ケズリ(内)回転ナデ、底部:ナ デ	②	褐灰色	良	底部に墨書
99	23	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	16.3	13.7	2.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・工具痕(内)回転ナデ後工具ナ デ	①③	灰白色	やや不良	底部に墨書
99	24	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	15.2	11.7	1.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
99	25	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.5)	(13.2)	2.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ・工具痕	①③	灰白色	やや良	底部に墨書
99	26	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(16.1)	(13.0)	2.3	外)回転ヘラ切り後ナデ(内)回転ナデ・ナ デ	①③	灰白色	良	底部に墨書
100	1	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.4)	(14.2)	2.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ、ナデ	①③	灰色	良	外面底部に墨書 降灰
100	2	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.8)	(12.2)	2.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後未調整・貼付高台(内)底部:ナデ	③	灰色	良	全体に歪み
100	3	Ⅲ	SD1	須恵器	盤A	(15.9)	(12.0)	2.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ(内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
100	4	Ⅲ	SD1	須恵器	盤B	(21.0)	(18.0)	4.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ後ナデ	②③	灰白色	良	
100	5	Ⅲ	SD1	須恵器	盤B	(17.8)	(13.6)	5.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台(内)回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
100	6	Ⅲ/ H30	SD1	須恵器	盤B	(21.8)	(15.3)	4.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・貼付高台・中央未調整 (内)回転ナデ	③	黄灰色	やや不良	焼き歪み
100	7	Ⅲ	SD1	須恵器	盤B	—	(18.0)	(2.8)	外)体~底部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・高台貼付後ナデ(内)回転ナデ・ 工具ナデ	②③	灰色	良	外面に降灰 底 部に墨痕(転用 硯)
100	8	Ⅲ	SD1	須恵器	碗B	14.3	8.4	4.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切 り後ナデ・高台貼付後ナデ・工具痕 (内)回転ナデ	①③	灰色	良	外面に降灰付着 歪み
100	9	Ⅲ	SD1	須恵器	碗B	(17.0)	(8.0)	3.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ナデ・ 貼付高台(内)回転ナデ	①③	灰色	良	

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
					口径	底径	器高					
100 10	III	SD1	須恵器	椀B	16.8	8.9	6.2	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ、貼付高台 内)回転ナデ	②③	灰色	良	口縁一部に降灰
100 11	III	SD1	須恵器	椀B	19.5	10.4	7.3	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り・高台貼付後ナデ 内)回転ナデ	②③	灰色	良	底部に墨書
100 12	III	SD1	須恵器	鉢	(13.8)	—	(7.5)	回転ナデ	①③	灰色	良	
100 13	III	SD1	須恵器	台付壺	—	(9.5)	(8.7)	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	やや不良	外面に降灰 内面に火ぶくれ
100 14	III	SD1	須恵器	短頸壺	6.4	6.5	6.0	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	①	灰色	良	内外面に降灰
100 15	III	SD1	須恵器	短頸壺	(10.0)	(7.4)	6.4	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①	黄灰色	良	外面に降灰
100 16	III	SD1	須恵器	壺	—	—	(11.2)	回転ナデ 外)沈線2条	②③	灰色	良	降灰
100 17	III	SD1	須恵器	瓶	—	—	(6.1)	外)体部:回転ナデ・沈線4条、把手:ナデ・指オサエ 内)回転ナデ	①③	灰白色	やや良	
100 18	III	SD1	須恵器	長頸瓶	(10.0)	—	(8.3)	回転ナデ	①	灰白色	良	降灰
100 19	III	SD1	須恵器	高坏	—	—	(10.8)	外)回転ナデ 内)上部不明・下部回転ナデ	②	青灰色	良	
100 20	III	SD1	須恵器	短頸壺	(8.9)	(11.0)	14.3	外)口～頸部:回転ナデ、体部:回転ヘラケズリ・沈線3条、底部:回転ナデ・指オサエ 内)回転ナデ	②	灰白色	良	内面に降灰 外面に一部降灰
100 21	III	SD1	須恵器	瓶	—	6.4	(2.0)	回転ナデ	①③	灰色	良	転用硯(内面に墨痕) 外面に一部降灰
100 22	III	SD1	須恵器	瓶	—	—	(2.7)	回転ナデ	①③	灰色	良	外面に降灰
100 23	III	SD1	須恵器	壺	—	(9.0)	(2.0)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
100 24	III	SD1	須恵器	甕	—	—	(10.0)	外)口～体部:回転ナデ、体部:櫛描波状文6条2段・間に沈線1条 内)回転ナデ後ナデ	②	灰色	良	内面口縁上部に降灰
101 1	III	SD1	須恵器	甕	(23.8)	—	(10.6)	外)口～頸部:回転ナデ、肩部:タタキ後カキ目 内)回転ナデ・当て具痕(同心円文)	①③	灰色	良	
101 2	III	SD1	須恵器	甕	(18.6)	—	(16.5)	外)口～体部:回転ナデ、体部:カキ目(ハケ目か) 内)回転ナデ	③	灰色	良	降灰 外面に溶着物
101 3	III	SD1	土師器	鍋	(19.7)	—	(2.5)	外)ナデ 内)口縁部:ハケ・横ナデ、頸部:横ハケ	②④	灰白色	良	
101 4	III	SD1	土師器	甕	(13.7)	—	3.8	外)内)ナデ	①	灰黄褐色	良	外面に煤付着 口縁に一部炭化物付着
101 5	III	SD1	土師器	甕	(12.0)	—	3.8	外)内)横ナデ	①	暗黄褐色	良	
101 6	III	SD1	土師器	甕	(11.2)	—	(3.9)	外)横ナデ 内)口縁部:ハケか、頸～体部:横ナデ	①③	にぶい黄橙色	良	
102 1	III	SR1	須恵器	坏B身	(12.0)	(9.0)	4.0	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
102 2	III	SR1	須恵器	坏B身	(16.1)	(12.2)	5.7	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
102 3	III	SR1	須恵器	坏B身	—	(10.0)	(2.1)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
102 4	III	SR1	須恵器	坏B身	—	(9.0)	(2.8)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	良	転用硯
102 5	III	SR1	須恵器	坏A	(12.3)	(8.9)	3.1	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	良	
102 6	III	SR1	須恵器	坏A	(12.0)	(7.9)	3.5	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①	灰色	やや不良	
102 7	III	SR1	須恵器	坏A	(15.0)	(8.9)	3.4	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ、工具痕 内)回転ナデ	①	灰色	やや良	
102 8	III	SR1	須恵器	坏A	(13.0)	8.3	3.4	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
102 9	III	SR1	須恵器	坏A	(13.5)	(8.7)	3.1	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ(糞子状圧痕か) 内)回転ナデ	①③	黄灰色	良	底部に墨書
102 10	III	SR1	須恵器	坏A	(16.4)	(13.7)	2.7	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ(工具痕) 内)回転ナデ	①	灰オリーブ色	やや良	底部に墨書
102 11	III	SR1	須恵器	坏A	(12.0)	(8.0)	3.2	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
102 12	III	SR1	須恵器	坏A	13.3	7.2	3.4	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①	明オリーブ灰色	やや良	底部に墨書

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
					口径	底径	器高					
102 13	III	SR1	須恵器	盤B	(16.4)	(13.7)	2.7	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	②	黄灰色	良	2本1対の蓋を内外に巡らせて焼成した痕跡あり
102 14	III	SR1	須恵器	盤B	(17.8)	(14.3)	2.4	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
102 15	III	SR1	須恵器	盤B	(15.8)	(12.2)	2.1	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	良	
102 16	III	SR1	須恵器	壺	—	—	(10.3)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ、底部:指オサエ	②④	黄灰色	良	高台?欠損
102 17	III	SR1	須恵器	蓋	(12.0)	(12.5)	3.2	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①	灰色	良	外面に自然袖付着
102 18	III	SX1	須恵器	坏A	(16.0)	(8.0)	3.9	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	
102 19	III	SX1	須恵器	坏A	(16.0)	(7.0)	3.0	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	②	灰白色	やや不良	
102 20	III	SR2	須恵器	坏A	12.5	8.1	2.9	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ(糞子状圧痕か) 内)回転ナデ	②③	灰色	良	底部に墨書
102 21	III	カクラン	須恵器	坏B身	(12.8)	(7.9)	4.2	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	②	灰白色	良	
102 22	III	SX1	須恵器	坏B身	—	(12.0)	(5.8)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ(糞子状圧痕か) 内)回転ナデ	②	灰色	良	外面に一部降灰
102 23	III	カクラン	須恵器	盤B	(16.0)	(13.8)	2.4	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①	灰白色	良	
102 24	III	SX1	須恵器	盤B	(17.8)	(15.2)	2.6	外)口～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	外面に一部降灰 底部に墨書
103 1	IV	SR1/③/1・2層	須恵器	坏B蓋	(19.4)	摘径2.9	2.9	外)摘～口縁部:回転ナデ、天井部:回転ヘラ切り 内)天井～口縁部:回転ナデ	②③	灰色	良	擬宝珠型摘
103 2	IV	SR1/②	須恵器	坏B蓋	(12.2)	摘径2.4	2.6	外)天井部:ヘラケズリ後ナデ、体部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	擬宝珠型摘 内面に一部墨付着
103 3	IV	SR1/④	須恵器	坏B蓋	12.8	摘径2.2	2.9	外)摘:ナデ 天井部:回転ヘラ切り後ナデ 体部:回転ヘラケズリ 口縁部:横ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	内面に転用硯 擬宝珠型摘
103 4	IV	SR1/②③/1・2層	須恵器	坏B蓋	13.0	摘径2.8	3.0	外)天井～体部:回転ヘラ切り後ナデ、口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	やや不良	内面に墨痕 降灰
103 5	IV	SR1/③	須恵器	坏B蓋	(13.6)	摘径2.9	2.8	外)摘～口縁部:回転ナデ、天井部:回転ヘラ切り 内)天井～口唇部:回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨書 擬宝珠型摘
103 6	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏B蓋	14.2	摘径2.7	3.0	外)天井部:ヘラ切り後回転ナデ、体部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	擬宝珠型摘み 外面摘み横に墨書 内面全体に墨痕
103 7	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏B蓋	(13.2)	—	(1.5)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ・中央に櫛状工具痕か、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	内面に煤付着
103 8	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏B蓋	15.8	—	(1.9)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ・工具痕、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ・中央に工具痕	①③	灰色	良	
103 9	IV	SR1/②	須恵器	坏B蓋	15.9	—	2.1	外)体～底部:回転ナデ、天井部:回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ、天井部:工具ナデ	①③	灰色	良	内面に墨書
103 10	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏B蓋	(17.8)	—	(1.9)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ、天井部:指ナデ	②	灰色	良	天井部に墨書
103 11	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏B蓋	(11.9)	—	(1.8)	外)天井～体部:回転ヘラ切り後ナデ、口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	摘欠損 内面に煤付着
103 12	IV	SR1/②③/1層	須恵器	坏B蓋	(13.8)	—	(2.2)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	やや不良	摘欠損 降灰
103 13	IV	SR1/②/2層	須恵器	坏B蓋	13.0	—	2.4	外)天井部:回転ヘラ後未調整、体部:回転ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	摘欠損
103 14	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏B蓋	20.0	—	(3.9)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	摘欠損
103 15	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏B蓋	(13.2)	—	(18.4)	回転ナデ 外)天井部:回転ヘラケズリ	②③	灰色	やや良	
103 16	IV	SR1/④/2層	須恵器	坏B蓋	(15.9)	—	(2.3)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	口縁部に降灰 摘欠損
103 17	IV	SR1/④/1・2層	須恵器	坏B蓋	(17.4)	—	(2.4)	外)天井～体部:回転ヘラ切り、口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ・ナデ	②③	青灰色	やや良	摘欠損 降灰
103 18	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏B蓋	(15.9)	—	(2.7)	口縁部:回転ナデ 外)天井部:回転ヘラケズリ 内)天井部:ナデ	②③	灰色	良	摘欠損
103 19	IV	SR1/③/1層	須恵器	坏B蓋	(14.8)	—	(1.6)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体～口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	やや良	摘欠損 降灰

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
103	20	IV	SR1/③	須恵器	坏B蓋	12.6	—	1.6	外)天井部:回転ヘラケズリ、体部:回転ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	摘欠損
103	21	IV	SR1/①	須恵器	坏B蓋	(13.9)	—	(1.9)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、口縁部: 回転ナデ 内)回転ナデ	①③	褐灰色	良	摘欠損 外面に 墨書
103	22	IV	SR1/②	須恵器	坏B身	(15.0)	(10.8)	5.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	②	灰色	良	
103	23	IV	SR1/②/2層	須恵器	坏B身	(14.8)	(10.0)	5.4	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデか・高台貼付 内)回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
103	24	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏B身	(12.6)	9.0	4.5	口~体部:回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り 後未調整・貼付高台 内)底部:平坦なロ クロナデ	②	灰色	良	
103	25	IV	SR1/④	須恵器	坏B身	(12.2)	(8.2)	4.1	口~体部:回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り 後ナデ・高台貼付後ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
103	26	IV	SR1/①	須恵器	坏B身	(12.4)	(7.7)	4.3	口~体部:回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り 後ナデ・高台貼付後ナデ 内)底部:中央 に工具痕	①③	灰色	やや不良	底部に墨書
103	27	IV	SR1/④	須恵器	坏B身	12.8	8.4	4.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・高台貼付後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	やや良	
103	28	IV	SR1/②	須恵器	坏B身	(12.8)	(8.8)	4.6	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後未調整・貼付高台歪む 内)回転ナデ	②	灰色	やや不良	底部に墨書 降 灰
103	29	IV	SR1/④/2層	須恵器	坏B身	12.4	9.0	4.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	②	灰色	良	降灰 底部にへ ラ記号
103	30	IV	SR1	須恵器	坏B身	(12.6)	(7.6)	3.6	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・貼付高台 内)回転ナデ	②③	灰色	良	
103	31	IV	SR1/③	須恵器	坏B身	13.2	8.7	3.6	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・高台貼付後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	
103	32	IV	SR1/①②/1・ 2層	須恵器	坏B身	(18.4)	(12.5)	7.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・高台貼付後ナデ 内)口~底部: 回転ナデ	①③	灰色	良	
103	33	IV	SR1/④	須恵器	坏B身	12.0	7.8	4.2	外)口~体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り 後ナデ・工具痕・高台貼付後ナデ 内) 回転ナデ	①③	灰色	良	
103	34	IV	SR1/①	須恵器	坏B身	11.0	6.4	3.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・高台貼付後ナデ 内)口~底部: 回転ナデ	①③	灰白色	やや良	墨書あり
103	35	IV	SR1/①~④/1 層	須恵器	坏B身	—	11.3	(4.4)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 未調整・高台貼付 内)回転ナデ・ナデ	②	灰色	やや良	底部に墨書 降 灰
103	36	IV	SR1/③/3層	須恵器	坏B身	—	8.8	(2.0)	回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り後ナデ・ 高台貼付	②	黄灰色	やや良	底部に墨書
103	37	IV	SR1/③	須恵器	坏A	(11.0)	(7.5)	(3.1)	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後未調整 内)回転ナデ	①	灰色	良	
103	38	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏A	11.4	9.0	3.3	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後板状工具痕 内)回転ナデ	①	灰白色	不良	
103	39	IV	SR1/②③/1層	須恵器	坏A	11.4	8.0	3.4	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	②	灰白色	不良	
103	40	IV	SR1/③	須恵器	坏A	12.2	9.7	3.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①④	灰色	良	
103	41	IV	SR1/④	須恵器	坏A	12.9	9.5	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後未調整 内)回転ナデ	②③	灰黄色	やや良	降灰
103	42	IV	SR1/④	須恵器	坏A	12.7	8.0	3.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	②③	灰色	良	
104	1	IV	SR1/①	須恵器	坏A	(12.9)	8.4	3.6	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・糞子状圧痕 内)回転ナデ	②③	灰白色	やや良	
104	2	IV	SR1/②/1・2 層	須恵器	坏A	12.9	7.4	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・中央に一方方向工具痕 内)回転 ナデ	②	灰白色	やや不良	
104	3	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏A	(12.8)	(8.0)	(2.4)	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①③	褐灰色	良	内面底部にター ル付着 外面に 煤付着
104	4	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏A	(12.8)	(7.2)	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	②③	灰色	良	底部に墨書
104	5	IV	SR1/④	須恵器	坏A	(12.4)	(8.6)	3.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・工具痕 内)回転ナデ、底部:ロ クロナデ	①③	灰白色	不良	底部に墨書 降 灰
104	6	IV	SR1/①	須恵器	坏A	(12.8)	(8.2)	2.7	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後未調整 内)回転ナデ	②	灰色	やや良	墨書「井」か 口縁部に降灰か
104	7	IV	SR1/①④	須恵器	坏A	12.3	8.6	3.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	良	底部に墨書
104	8	IV	SR1/④	須恵器	坏A	(12.8)	(9.0)	3.1	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・工具痕 内)口~底部:回転ナデ	①③	灰白色	やや不良	底部に墨書 降 灰

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
104	9	IV	SR1/②	須恵器	坏A	12.0	7.8	2.8	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
104	10	IV	SR1/①/2層	須恵器	坏A	(11.9)	(8.0)	3.1	口~体部:回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)底部:中央に工具痕	①③	灰色	良	底部に墨書
104	11	IV	SR1/③	須恵器	坏A	(12.9)	(7.2)	4.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	②③	灰白色	やや不良	底部に墨書
104	12	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏A	(13.8)	(9.0)	2.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後櫛状工具?ナデ 内)回転ナデ	①	灰白色	不良	底部に墨書
104	13	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏A	(13.5)	(8.6)	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰白色	良	底部に墨書 内 面に墨痕
104	14	IV	SR1/③/1・2 層	須恵器	坏A	(14.8)	(8.9)	3.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ・ナデ	②	灰黄色	不良	内外面に一部墨 痕か 底部に墨 書
104	15	IV	SR1/②	須恵器	坏A	(13.9)	(7.6)	2.5	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ、底部:ナデ	①③	灰白色	良	底部に墨書
104	16	IV	SR1/③	須恵器	坏A	14.0	9.8	2.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
104	17	IV	SR1/①/2層	須恵器	坏A	13.3	8.6	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・糞子状圧痕 内)回転ナデ・内 面に漆塗布・中央部に漆ハケ痕	①	灰色	良	煤付着 漆塗布 か
104	18	IV	SR1/③/1層	須恵器	坏A	12.4	7.8	3.4	口~体部:回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り 後未調整 内)回転ナデ	①	灰白色	やや不良	
104	19	IV	SR1/④	須恵器	坏A	(12.8)	(8.8)	2.9	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ・工具痕 内)口~底部:回転ナデ	①③	灰色	良	
104	20	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏A	(15.9)	(8.2)	4.2	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	転用硯
104	21	IV	SR1/③/1層	須恵器	坏A	(12.0)	(8.0)	3.0	外)口~体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 後未調整・糞子状圧痕 内)回転ナデ後 ナデ	①③	灰白色	不良	底部に墨書 内 面に墨痕あり 糞子状圧痕
104	22	IV	SR1/③	須恵器	坏A	—	7.0	(2.1)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
104	23	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏A	—	(9.2)	(2.4)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ヘラナデ 内)回転ナデ・中央に強いロ クロナデ	②	灰黄色	やや不良	底部に墨書
104	24	IV	SR1/③	須恵器	坏A	—	8.0	(2.4)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ	①③	灰色	良	墨書
104	25	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏A	—	(8.0)	(2.0)	体部:回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り後 工具ナデ 内)底部:回転ナデ後ナデ	②	灰白色	やや良	底部に墨書 内 面に転用硯
104	26	IV	SR1/③	須恵器	坏A	—	9.4	(2.6)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 未調整 内)回転ナデ	②	灰色	良	墨書
104	27	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.6)	外)回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ	①	灰白色	やや良	底部に墨書
104	28	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.6)	外)回転ヘラ切り後未調整 内)回転ナデ	①	灰白色	良	底部に墨書
104	29	IV	SR1/④	須恵器	坏or盤	—	—	(1.4)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 指ナデ 内)回転ナデ・中央に指ナデ	①	灰黄色	不良	底部に墨書
104	30	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.8)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ヘラナデ 内)回転ナデ、強いロクロナ デ	②	灰色	良	
104	31	IV	SR1/③	須恵器	坏or盤	—	—	(0.6)	外)回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ・一 方向ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
104	32	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏or盤	—	(9.4)	(2.4)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ	①	灰黄色	不良	底部に墨書
104	33	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(2.0)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ、底部:一方方向ナ デ	②	灰色	良	底部に墨書 へ ラ記号
105	1	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.3)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ、底部:一方方向ナ デ	①	灰色	良	底部に墨書
105	2	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.6)	外)回転ヘラ切り後ナデ 内)回転ナデ・ナ デ	②	灰黄色	やや不良	底部に墨書
105	3	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.2)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 未調整 内)回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
105	4	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.7)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ヘラナデ 内)回転ナデ、底部:一方方向 ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
105	5	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏or盤	—	(9.0)	(1.3)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨
105	6	IV	SR1/①/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.6)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 未調整 内)回転ナデ・強いロクロナ デ	①	灰色	良	底部に墨書
105	7	IV	SR1/④	須恵器	坏or盤	—	(10.0)	(3.3)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ナデ 内)回転ナデ・平滑なロクロナ デ	①	灰色	良	底部に墨書
105	8	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	(7.4)	(1.3)	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後 ヘラナデ 内)回転ナデ、底部:一方方向 ナデ	②	灰白色	良	底部に墨書 内 面に墨痕か

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
					口径	底径	器高					
105 9	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.9)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	②	灰白色	良	底部に墨書
105 10	IV	SR1/④/2層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.6)	外) 回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ・一方向ナデ	①	灰色	良	底部に墨書 面が転用硯
105 11	IV	SR1/③	須恵器	坏or盤	—	(10.0)	(1.2)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	②	灰色	やや良	底部に墨書
105 12	IV	SR1/③/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.9)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・糞子状圧痕 内) 回転ナデ	①	灰白色	不良	底部に墨書
105 13	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.1)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	②	灰白色	良	底部に墨書
105 14	IV	SR1/③/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.9)	外) 回転ヘラ切り後ナデ・糞子状圧痕 内) 回転ナデ	②	灰黄色	やや不良	底部に墨書
105 15	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.0)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
105 16	IV	SR1/④/2層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.4)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後一方向ヘラナデ 内) 回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
105 17	IV	SR1/②/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.3)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書 面に墨痕か
105 18	IV	SR1/④/1層	須恵器	坏or盤	—	(8.0)	(1.5)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ	②	灰色	不良	墨書
105 19	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.7)	外) 回転ヘラ切り後ナデ・中央にヘラナデ 内) 回転ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
105 20	IV	SR1/①/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(1.4)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ヘラナデ 内) 回転ナデ、底部:指ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
105 21	IV	SR1/②	須恵器	坏or盤	—	—	—	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ヘラナデ 内) 回転ナデ	①	灰白色	良	底部に墨書
105 22	IV	SR1/②	須恵器	坏or盤	—	—	(6.9)	外) 回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①	灰白色	良	底部に墨書
105 23	IV	SR1/③/2層	須恵器	坏or盤	—	(10.0)	(0.9)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ・一方向ナデ	③	灰色	良	底部に墨書
105 24	IV	SR1/②	須恵器	坏A	—	(9.4)	(2.4)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後工具ナデ 内) 回転ナデ	①	灰白色	良	底部に墨書
105 25	IV	SR1/③/1層	須恵器	坏or盤	—	—	(0.6)	外) 回転ヘラ切り後ナデ・中央にヘラナデ 内) 回転ナデ	②	灰白色	良	底部に墨書
105 26	IV	SR1/①/1層	須恵器	盤A	(13.8)	(10.8)	2.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・工具痕 内) 回転ナデ・中央に工具ナデ	①③	灰色	良	降灰
105 27	IV	SR1/③/1層	須恵器	盤A	13.8	10.5	2.1	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①	灰白色	良	
105 28	IV	SR1/②/1層	須恵器	盤A	(15.9)	(13.0)	2.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・工具痕 内) 回転ナデ	①③	灰色	良	転用硯
105 29	IV	SR1/①④/1層	須恵器	盤A	(16.9)	(12.0)	2.4	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 底部:ナデ	①③	灰色	良	
105 30	IV	SR1/③/1層	須恵器	盤A	(15.7)	(12.0)	2.0	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ・ナデ・糞子状圧痕 内) 底部:ナデ	②③	灰色	やや不良	底部に墨書
105 31	IV	SR1/④	須恵器	盤A	16.0	13.8	2.3	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:ヘラ切り後ナデ 内) 底部:ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
105 32	IV	SR1/④	須恵器	盤A	18.0	15.2	2.5	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・糞子状圧痕か 内) 回転ナデ	②④	灰色	良	底部に墨書
105 33	IV	SR1/①④	須恵器	盤A	(15.8)	(14.0)	2.2	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ・工具痕 内) 底部:工具痕	①③	灰色	やや良	墨書あり
105 34	IV	SR1/④	須恵器	盤A	18.5	16.0	2.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨書 転用硯(内面)
105 35	IV	SR1/②/1層	須恵器	盤A	(15.8)	(11.4)	2.3	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、底部:ナデ	②	灰色	良	底部に墨書
105 36	IV	SR1	須恵器	盤A	(14.0)	(10.0)	2.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、底部:中央にナデ	①③	灰白色	良	底部に墨書
105 37	IV	SR1/③/2層	須恵器	盤A	(14.8)	(11.2)	16.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①③	褐色	良	転用硯 降灰
105 38	IV	SR1/③/1層	須恵器	盤A	13.9	10.0	2.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、底部:ナデ	①	灰白色	やや良	
105 39	IV	SR1/②③/1～3層	須恵器	盤A	13.9	8.2	2.0	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①③	灰白色	やや良	底部に墨書(転用硯)
105 40	IV	SR1/②/1層	須恵器	盤A	(15.8)	(10.0)	2.2	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①	灰白色	やや不良	底部に墨書
106 1	IV	SR1/④	須恵器	盤A	14.9	11.7	1.9	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、底部:ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
					口径	底径	器高					
106 2	IV	SR1/①	須恵器	盤B	(18.8)	14.6	3.2	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後未調整・高台貼付・爪状圧痕 内) 回転ナデ後ナデ	③	灰色	良	降灰
106 3	IV	SR1/④	須恵器	盤B	(23.4)	(17.9)	5.0	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内) 底部:ナデ	①③	灰色	良	
106 4	IV	SR1/④	須恵器	盤B	(19.9)	(15.0)	3.3	ロ～体部:回転ナデ 内) 底部:回転ヘラケズリ、貼付高台	②	灰色	やや良	
106 5	IV	SR1/④	須恵器	盤B	(21.0)	15.2	(3.5)	外) ロ～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・工具痕・高台貼付後ナデ 内) 回転ナデ、底部:工具痕	②③	灰白色	不良	底部に墨書か
106 6	IV	SR1/④	須恵器	盤B	(20.0)	(15.0)	3.5	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ	②④	灰色	良	内面転用硯か
106 7	IV	SR1/①	須恵器	椀B	(13.7)	(6.8)	5.2	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内) 底部:ナデ	①③	灰白色	不良	
106 8	IV	SR1	須恵器	椀B	(16.9)	(9.9)	5.7	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後未調整・貼付高台	①	灰色	やや良	底部に墨書 内面に煤付着
106 9	IV	SR1/②④/1・2層	須恵器	椀B	(16.8)	8.4	5.5	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ、高台:接地面を工具ナデ 内) 底部:ナデ	②	灰色	良	底部に墨書 降灰 一部火膨れ
106 10	IV	SR1/③	須恵器	椀B	(13.4)	(7.8)	5.3	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内) 底部:ロクロナデ	③	灰色	良	降灰
106 11	IV	SR1/②	須恵器	椀B	(15.8)	8.8	5.0	ロ～体部:回転ナデ 外) 底部:回転ヘラ切り後板ナデか・貼付高台 内) 底部:ナデ	①	灰黄色	不良	墨書
106 12	IV	SR1/②③/1層	須恵器	椀B	14.8	7.9	5.5	外) ロ～体部:ナデ、底部:回転ヘラ切り後糞子状圧痕・貼付高台 内) 回転ナデ	①③	灰色	やや良	底部に墨書 降灰
106 13	IV	SR1/1層	須恵器	椀B	—	(8.0)	(3.3)	外) 回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後未調整・高台貼付 内) 回転ナデ・ナデ	②③	灰色	良	底部に墨書
106 14	IV	SR1/②③/1層	須恵器	椀B	—	7.6	(3.6)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内) 回転ナデ	①	灰色	良	底部に墨書
106 15	IV	SR1/②/2層	須恵器	椀B	—	6.8	(1.9)	外) 回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ後糞子状圧痕・高台貼付 内) 回転ナデ・ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書
106 16	IV	SR1/②	須恵器	椀B	—	(6.8)	(5.1)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内) 回転ナデ	①③	灰褐色	不良	体部外面に墨書 煤付着
106 17	IV	SR1/③/1層	須恵器	椀B	—	(7.0)	(3.4)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内) 回転ナデ	①③	灰色	良	底部に墨書「 内面に煤付着
106 18	IV	SR1/②/1層	須恵器	大平鉢	(30.0)	—	10.0	外) 口縁部:回転ナデ、体部:回転ヘラケズリ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・高台貼付後ナデ 内) ロ～体部:回転ナデ	②	灰白色	やや不良	
106 19	IV	SR1/1層	須恵器	椀B	—	8.7	(4.3)	外) 回転ナデ・高台貼付 内) 脚部:回転ナデ	②③	灰色	良	内面に墨痕あり
106 20	IV	SR1/②/1層	須恵器	椀B	—	—	(4.1)	回転ナデ 外) 高台貼付	②	灰色	良	
106 21	IV	SR1/④/1層	須恵器	壺蓋	15.1	摘径 3.4	5.0	外) 天井部:回転ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ	①③	灰色	良	擬宝珠型摘
106 22	IV	SR1/③④/2層	須恵器	短頸壺	4.1	—	(3.4)	回転ナデ	①③	黄灰色	良	降灰
106 23	IV	SR1/②/1層	須恵器	短頸壺	(9.6)	—	(3.5)	回転ナデ	①③	灰色	良	自然釉付着
106 24	IV	SR1/①/1層	須恵器	短頸壺	(9.4)	—	(12.8)	外) 口縁部:横ナデ、頸部:火膨れ、体部:回転ナデ・工具ナデ 内) 回転ナデ	②	灰色	良	外面に降灰
106 25	IV	SR1/①	須恵器	瓶	(9.2)	—	(8.8)	外) 自然釉付着 内) 回転ナデ	②③	灰白色	やや良	
106 26	IV	SR1/①	須恵器	瓶	(10.4)	—	(19.7)	外) ロ～頸部:回転ナデ・沈線2条、肩部:沈線1条、体部:回転ヘラケズリ 内) 回転ナデ	①③	灰白色	やや良	降灰
107 1	IV	SR1/②	須恵器	瓶	—	6.8	(11.2)	外) 頸～体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後未調整・高台貼付 内) 頸部:回転ナデ	②	灰黄色	良	自然釉
107 2	IV	SR1/①③/1・2層	須恵器	平瓶	—	(13.2)	(11.8)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ・貼付高台 内) 回転ナデ	①③	灰色	やや良	頸部接合痕あり、 把手・頸部欠損 外面に降灰
107 3	IV	SR1	須恵器	浄瓶	—	—	(9.8)	回転ナデ	②	暗灰黄色	良	外面に自然釉付着
107 4	IV	SR1	須恵器	高坏	—	—	(9.4)	外) 回転ナデ 内) 指ナデ・回転ナデ	②	灰色	良	降灰
107 5	IV	SR1/④	須恵器	高坏	—	—	(9.9)	外) 坏部:マメツ、脚部:回転ナデ 内) 回転ナデ	①③	灰黄色	やや良	
107 6	IV	SR1/③	須恵器	瓶	—	7.8	(3.8)	外) 体部:回転ナデ、底部:回転糸切り後未調整 内) 回転ナデ	②	灰色	良	

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
107	7	IV	SR1/④/1・2層	須恵器	横瓶	(11.3)	—	19.0	口縁部:横ナデ 外)体~底部:タタキ後カキ目 内)頸部:指オサエ、体~底部:ナデ	①	灰白色	良	胴部側面を粘土板10.5cmで閉塞しカキ目 肩部に降灰
107	8	IV	SR1/①④/1層	須恵器	双耳瓶	—	(11.2)	(14.8)	外)体部:回転ナデ・ケズリ、耳部:貼付後ナデ 内)体部:回転ナデ	①③	灰色	やや良	降灰
107	9	IV	SR1/③	須恵器	甕	35.7	—	(2.2)	内外面に自然袖付着	②	灰色	良	降灰
107	10	IV	SR1/③/3層	須恵器	甕	(25.0)	—	(9.9)	口~頸部:回転ナデ 外)体部:カキ目後タタキ目 内)体部:当て具痕(同心円文)	①	灰色	良	内面に墨痕か降灰
107	11	IV	SR1/③/1層	須恵器	甕	(23.6)	—	(8.5)	口縁部:回転ナデ 外)体部:タタキ後ナデ 内)当て具痕(同心円文)	③	灰色	良	
107	12	IV	SR1/①/1層	須恵器	甕	(19.9)	—	(12.9)	外)自然袖付着 内)口~肩部:回転ナデ、体部:当て具痕(同心円文)	②③	灰白色	良	降灰
107	13	IV	SR1/①	須恵器	鉢	(22.4)	—	(5.5)	回転ナデ	②③	灰色	良	
107	14	IV	SR1/③④/1・2層	須恵器	鉢	(22.8)	—	(14.6)	外)口縁部:ナデ、体部:カキ目 内)ナデ	①③	にぶい黄褐色	不良	口縁内部に降灰
107	15	IV	SR1/④/1層	須恵器	鉢	(22.8)	—	(9.1)	回転ナデ 内)ナデ	②	灰色	良	
107	16	IV	SR1/④	須恵器	鉢	(27.8)	—	(13.4)	外)口~体部:回転ナデ、体部下:ケズリ 内)回転ナデ	②③	灰黄色	不良	
108	1	IV	SR1/②/1・2層	土師器	甕	19.0	—	(15.8)	外)口縁部:ナデ、体部上半:カキ目、体部下半:タタキ 内)ナデ	①③	にぶい橙色	やや不良	煤付着
108	2	IV	SR1/①/2層	土師器	甕	(19.8)	—	(8.3)	外)口~頸部:横ナデ、体部:カキ目 内)口~頸部:カキ目、体部:横ナデ・ハケ・指オサエ	②④	にぶい黄褐色	良	外面に黒斑
108	3	IV	SR1/②	土師器	甕	(16.0)	—	(5.8)	外)口~頸部:横ナデ、体部:カキ目 内)口~体部:カキ目	②	灰白色	やや不良	外面に煤付着
108	4	IV	SR1/④	土師器	甕	(17.9)	—	(4.2)	外)口縁部:ナデ、体部:カキ目 内)ハケ(カキ目か)	②	明褐色	やや不良	
108	5	IV	SR1/②	土師器	甕	(19.7)	—	(6.5)	外)口~頸部:ナデ、体部:カキ目 内)横ハケ	①③	にぶい橙色	やや不良	煤付着
108	6	IV	SR1/②	土師器	甕	(31.6)	—	(7.6)	外)口縁部:凹線2条、体部:カキ目後タタキ 内)ナデ	①③	にぶい黄褐色	不良	内外面に煤付着
108	7	IV	SR1/④	土師器	甕	(22.8)	—	(5.0)	外)横ナデ 内)カキ目	②	にぶい黄褐色	良	内面に煤付着
108	8	IV	SR1/③	土師器	甕	—	—	(11.2)	外)口~頸部:横ナデ、体部:カキ目・タタキ 内)口縁部:ナデ、頸部:カキ目、体部:横ハケ	①	にぶい黄褐色	良	
108	9	IV	SR1/③	土師器	甕	(11.8)	—	(2.9)	外)頸部:横ナデか	①	にぶい橙色	やや不良	
108	10	IV	SR1/③/1層	土師器	甕	(13.8)	—	(4.7)	横ナデ	①	にぶい黄褐色	良	
108	11	IV	SR1/④/1層	土師器	甕	(13.8)	—	(5.2)	外)横ナデ 内)横ナデ、体部:指オサエ	②③	にぶい黄褐色	良	
108	12	IV	SR1/④	土師器	甕	—	—	(6.6)	外)体部:横ナデ、底部:ケズリ 内)横ナデ	①③	にぶい黄褐色	不良	煤付着
108	13	IV	SR1/③	土師器	高坏	—	—	(3.8)	回転ナデ	①③	浅黄褐色	良	赤彩
109	1	V/C53	遺物包含層	須恵器	坏B蓋	(12.8)	—	(1.0)	外)天井部:回転ヘラ切り後ナデ、体~口縁部:回転ナデ 内)回転ナデ	①	黄灰色	良	外面に降灰
109	2	VI	SI2/下層	須恵器	椀B	—	(5.8)	(1.6)	回転ナデ	①③	黄灰色	良	
109	3	V/C53	盛土	須恵器	盤B	—	(6.6)	(3.0)	回転ナデ 外)底部:回転ヘラ切り後ヘラ起こし 内)底部:ロクロナデ	②	灰色	良	
109	4	VI	SI2/下層	須恵器	椀B	—	(7.0)	(2.3)	回転ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	
109	5	VI	SI2/下層	須恵器	椀B	—	(6.2)	(2.8)	回転ナデ	①③	黄灰色	やや良	
109	6	VI	SI2	土師器	椀B	(9.7)	4.8	2.2	外)坏部:回転ナデ、底部:回転糸切り・工具痕 内)回転ナデ	①	橙色	やや不良	底部拓本あり
109	7	V/B53		土師器	盤B	10.6	4.8	2.6	マメツ 底部:回転糸切り	②	明褐色	不良	
109	8	V/B52		土師器	鉢か	—	(6.8)	(2.6)	マメツ	③	浅黄褐色	不良	

第6表 中・近世の土器・陶磁器観察表

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
110	1	IV	SR1/③	越前焼	甕	(48.8)	—	(23.4)	外)横ナデ 内)ナデ・指オサエ	②④	灰白色	良	外面に降灰
110	2	IV	SR1/③	越前焼	甕	(48.8)	—	(15.4)	外)ナデ・線刻 内)ナデ	②④	にぶい黄褐色	良	
110	3	IV	SR1/①/1層	越前焼	甕	—	—	(4.5)	横ナデ	②③	にぶい褐色	良	
110	4	IV/G34	盛土	越前焼	甕	—	—	(11.6)	ナデ	①③	にぶい赤褐色	良	降灰
110	5	IV	SR1/②/2層	越前焼	鉢	(17.0)	(8.2)	7.6	ナデ	①③	灰褐色	良	
110	6	IV	SR1	越前焼	播鉢	—	—	(4.8)	口~体部:回転ナデ 内)すり目・ヘラ記号	②④	橙色	やや不良	窯印か
110	7	IV	SR1/③/1層	越前焼	播鉢	—	—	(8.2)	外)ナデ 内)すり目	①③	にぶい褐色	良	
110	8	IV/F35	1層	越前焼	播鉢	—	—	(4.2)	外)ナデ 内)すり目:単位10本	①③	にぶい赤褐色	良	
110	9	IV/G37		越前焼	播鉢	—	—	(6.0)	外)ナデ 内)すり目:単位9本	①③	明赤褐色	良	
110	10	IV	SR1	越前焼	播鉢	—	—	(8.2)	外)口~体部:ナデ、体部:ケズリ 内)すり目	①②	灰褐色	良	
110	11	IV/F36	盛土	越前焼	播鉢	—	(22.0)	(9.5)	外)ナデ 内)すり目:単位10本	①③	橙色	良	
110	12	IV/G37		越前焼	播鉢	—	(18.2)	(5.0)	外)ナデ 内)すり目:単位10本	①③	明赤褐色	良	
110	13	IV/F33	1層	越前焼	壺	(9.6)	(11.8)	11.7	ナデ	②	にぶい赤褐色	良	体部下から底部にかけ降灰
110	14	IV	SR1	瓦質土器	鍋	(27.7)	—	(4.7)	口縁部:横ナデ 外)体部:指オサエ・工具痕 内)体部:横ハケ	②	浅黄褐色	良	
110	15	IV	SR1/②/1層	瓦質土器	鍋	(32.0)	—	(5.1)	外)口~頸部:横ナデ、体部:指オサエ 内)口~頸部:ハケ、体部:ナデ	②	オリーブ黒色	やや不良	
110	16	IV	SR1/③	瓦質土器	鍋	(28.0)	—	(6.2)	外)口縁部:沈線1条、体部:ナデ・指オサエ 内)ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
110	17	IV	SR1/④/1層	瓦質土器	鍋	—	—	(3.9)	横ナデ	②	オリーブ黒色	やや不良	
110	18	IV	SR1/③	瓦質土器	鍋	(28.6)	—	(6.3)	ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
110	19	IV	SR1/②/1層	瓦質土器	鍋	(28.6)	—	(6.6)	ナデ	①③	にぶい黄褐色	やや不良	煤付着
110	20	IV	SR1/④/1層	瓦質土器	鍋	—	—	—	外)植物状の浮文 内)回転ナデ	②	オリーブ黒色	やや不良	
110	21	IV	SR1/④	青磁	碗	13.2	5.0	7.6		①	青緑色	良	内外貫入
110	22	IV	SR1	青磁	碗	—	(6.0)	(3.2)		①	青緑色	良	見込みに印花文か 内外貫入
110	23	IV	SR1/③/1層	瀬戸美濃焼	天目碗	(11.8)	—	(3.0)		①	暗褐色	良	内外面に鉄軸
110	24	IV	SR1/②/1層	瀬戸美濃焼	天目碗	(11.8)	—	(3.9)		①	暗褐色	良	内外面に鉄軸
110	25	IV/G37		唐津焼	鉄軸碗	—	(5.0)	(4.0)		①	暗褐色	良	外面内部から内面にかけ鉄軸
110	26	IV	SR1/②/1層	瀬戸美濃焼	皿	(8.9)	(6.0)	(1.6)	外)底部:糸切り	②	暗褐色	良	口縁部から内外に鉄軸
110	27	IV	SR1/①/1層	青磁		—	3.7	(1.9)		②	青緑色	良	内外貫入
110	28	IV/G37		白磁	端反皿	(11.6)	—	(2.1)		①	乳白色	良	内外面に透明釉か
110	29	IV	SR1	瀬戸美濃焼	鉢	(14.6)	—	(8.4)		②	浅黄色	良	内外貫入
110	30	IV	SR1/④	伊万里焼	碗	—	(4.9)	(2.9)	外)陶胎染付	②	灰色	良	陶胎染付 内外貫入
111	1	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	7.6	6.2	1.5	外)口縁部:面取り・ナデ、底部:指オサエ・ナデ 内)口縁部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ・ナデ	①	浅黄褐色	不良	
111	2	IV	SR1/③/1層	土師器	土師質皿	(8.8)	(7.8)	(1.3)	外)口~体部:1段横ナデ、底部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:横ナデ、底部:ナデ	①	にぶい橙色	やや不良	
111	3	IV	SR1/③/1層	土師器	土師質皿	(7.8)	(6.2)	1.3	口~体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい橙色	不良	底部に穿孔1か所
111	4	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(7.7)	(6.8)	1.5	口~体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	浅黄褐色	不良	

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
111	5	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	7.8	6.6	1.3	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	灰白色	やや不良	
111	6	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(7.8)	(6.6)	1.4	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	浅黄橙色	不良	
111	7	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(7.8)	(4.0)	(1.7)	外)口～体部:1段横ナデ、底部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:横ナデ、底部:多方向ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	8	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(8.1)	(5.3)	1.5	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	灰白色	やや不良	
111	9	IV	SR1/④/1層	土師器	土師質皿	(9.4)	(7.2)	(1.6)	口縁部:横ナデ 外)底部:指オサエ・ナデ 内)底部:ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	10	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(7.6)	(7.0)	1.5	外)口縁部:面取り、体部:1段横ナデ、底部:1方向ナデ 内)口～体部:横ナデ、底部:指オサエ・ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	11	IV	SR1	土師器	土師質皿	(7.7)	(7.6)	1.6	外)口縁部:面取り・横ナデ、底部:指オサエ 内)口縁部:ナデ、底部:指オサエ	①	灰白色	やや不良	
111	12	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(6.8)	(5.6)	1.5	マメツ	①	灰白色	不良	
111	13	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(7.8)	(7.0)	(1.4)	口～体部:横ナデ 外)底部:1方向ナデ 内)底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	14	IV	SR1	土師器	土師質皿	8.0	7.0	1.5	口縁部:ナデ、底部:指オサエ・ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	15	IV/F34	1層	土師器	土師質皿	(8.0)	(7.2)	(1.5)	外)口縁部:横ナデ、底部:ナデ後指オサエ 内)横ナデ・指オサエ・ナデ上げ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	16	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(8.8)	(7.8)	1.0	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	17	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(7.8)	(6.2)	0.9	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	18	IV	SR1/②/2層	土師器	土師質皿	(8.2)	(4.4)	1.7	内)口～体部:横ナデ、底部:ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	
111	19	IV/F35	1層	土師器	土師質皿	(13.0)	(11.4)	(2.4)	外)強いナデによる凹線・ナデ後指オサエ、底部:ナデ後指オサエ 内)口～底部:横ナデ後指オサエ、底部:ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	
111	20	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(12.8)	(8.6)	1.9	外)口～体部:1段ナデ、底部:指オサエ後ナデ 内)口～体部:横ナデ、底部:ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	21	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(12.8)	(8.8)	(2.1)	底部:指オサエ後ナデ 外)口縁部:ツマミナデ、体部:横ナデ 内)口～体部:横ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	
111	22	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(13.8)	(11.0)	2.3	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	灰白色	不良	
111	23	IV	SR1/③/2層	土師器	土師質皿	(13.6)	(10.0)	(8.0)	外)口縁部:ツマミナデ、体部:2段ナデ、底部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:横ナデ、底部:ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	24	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(17.8)	(14.8)	2.4	外)口縁部:ツマミナデ、体部:2段横ナデ、底部:ナデ 内)口～体部:横ナデ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	25	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(13.4)	(10.4)	2.7	口～体部:横ナデ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	26	IV	SR1/②	土師器	土師質皿	(12.6)	(9.0)	2.5	外)2段ヨコナデ、底部:1方向ナデ 内)横ナデ・指オサエ、底部:指オサエによる歪み	①	浅黄橙色	やや不良	
111	27	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(12.8)	(8.6)	2.7	底部:ナデ 外)口縁部:ツマミナデ、体部:横ナデ 内)口～体部:横ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	
111	28	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(11.0)	(8.1)	2.7	外)口～体部:1段横ナデ 底部:ナデ 内)口～体部:横ナデ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	29	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(12.8)	(9.0)	(2.1)	底部:指オサエ後ナデ 外)口～体部:1段横ナデ 内)口～体部:横ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	
111	30	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(13.8)	(9.6)	(2.5)	口～体部:横ナデ 外)底部:ナデ 内)底部:指オサエ後ナデ	①	灰白色	やや不良	
111	31	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	(10.6)	(6.6)	1.8	口～体部:横ナデ・指オサエ、底部:指オサエ後ナデ	①	にぶい黄橙色	不良	
111	32	IV	SR1/③/1層	土師器	土師質皿	(9.8)	(7.8)	2.3	外)口～体部:1段横ナデ 内)口～体部:横ナデ、底部:ナデ	①	灰白色	不良	
111	33	IV/G34	盛土	土師器	土師質皿	(9.0)	(5.5)	(1.8)	外)口縁部:横ナデ、底部:ナデ後指オサエ 内)口～底部:つまみ上げ、底部:ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	
111	34	IV	SR1/①	土師器	土師質皿	6.7	3.0	1.7	外)口縁部:横ナデ、一部面取り、体部:指オサエ 内)口縁部:面取り、底部:ナデ	①	にぶい黄橙色	不良	
111	35	IV/G34	盛土	土師器	土師質皿	(7.0)	(4.7)	(1.2)	口縁部:横ナデ 外)底部:ナデ後指オサエ 内)底部:指ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	歪みあり
111	36	IV/G37		土師器	土師質皿	(10.0)	(7.4)	(1.5)	口縁部:横ナデ 外)底部:ナデ後指オサエ 内)底部:指オサエ	①	浅黄橙色	やや不良	口縁部内外タール付着
111	37	IV/G37		土師器	土師質皿	(10.0)	(9.2)	(1.6)	ナデ後指オサエ	①	浅黄橙色	やや不良	口縁部内外タール付着

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径	器高						
111	38	IV/G37		土師器	土師質皿	(10.0)	(8.4)	(1.6)	外)口縁部:横ナデ、底部:ナデ後指オサエ 内)口～底部:ナデ、底部:指オサエ	①	浅黄橙色	やや不良	口縁部内外タール付着
111	39	IV/G34	盛土	土師器	土師質皿	(18.6)	(4.4)	(2.0)	指オサエ 口縁部:つまみ上げ	①	灰白色	不良	口縁部内外タール付着
111	40	V/A54	4層	越前焼	播鉢	(27.8)	—	(4.2)	外)横ナデ 内)櫛目7本	②	灰褐色	良	
111	41	V/C52		越前焼	播鉢	—	(11.8)	(5.9)	外)ナデ・縄目痕 内)ナデ・櫛目8本	②	にぶい黄橙色	良	
111	42	V/B54	遺物包含層	越前焼か	底部	—	(11.8)	(5.6)	外)斜めナデ・横ナデ・指オサエ 内)ナデ	②	にぶい黄橙色	良	灰釉
111	43	V/A54	4層	伊万里焼	碗	(9.8)	—	(5.0)	陶胎染付 貫入	①	灰色	良	
111	44	V/B52	遺物包含層	伊万里焼	碗	—	(4.0)	(3.3)	白釉か 内面に貫入	①	灰白色	良	
111	45	V/B52	盛土	瀬戸美濃焼	碗	—	(4.8)	(2.7)	施釉 貫入	①	浅黄色	良	
111	46	V/C51	盛土	唐津焼	皿	—	4.8	(1.5)	外)体部:ナデ、底部:回転系切り 内)ナデ・降灰(灰釉)	①	暗赤褐色	良	内部に砂目4か所
111	47	V	4層	土師器	土師質蓋	(24.8)	—	(3.4)	ナデ	②	橙色	やや良	煤付着
111	48	V/C52		土師器	土師質皿	(9.8)	(6.8)	(1.5)	外)口～体部:横ナデ、底部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ツマミナデ、体～底部:ナデ	①	浅黄橙色	やや不良	
111	49	V/B52		土師器	土師質皿	(10.8)	(7.6)	(1.5)	横ナデ 外)底部:指オサエ後ナデ 内)底部:ナデ	①	淡黄色	やや不良	口縁部に灯芯油痕あり
111	50	V/B53		土師器	土師質皿	7.2	4.0	1.2	口縁部:タール痕、体部:横ナデ 外)底部:回転系切り 内)底部:のの字ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	口縁部に灯芯油痕あり
111	51	V/B52	盛土	土師器	土師質皿	(8.8)	(6.2)	(1.5)	外)口縁部:横ナデ、体部:1段ナデ、底部:ナデ後指オサエ 内)口～体部:横ナデ、底部:ナデ	②	浅黄橙色	やや不良	
111	52	V/B52		土師器	土師質皿	(9.8)	(5.0)	(1.7)	外)口縁部:タール痕、体部:横ナデ、底部:ナデ 内)口縁部:横ナデ、底部:のの字ナデ	①	にぶい黄橙色	やや不良	口縁部に灯芯油痕あり
111	53	VI	SI2	白磁	碗	(15.8)	—	(2.9)		①	灰白色	良	透明釉

第7表 土製品観察表

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	法量(cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				長さ	最大幅	最大厚						
112	1	I	SR1/③/中央部3層	土偶	(7.6)	6.3	1.9	胸・肩部:隆帯・刺突文、胴部:竹管状工具による刺突文・4条沈線文(2組)・縦ナデ、脚部底面:篋描き沈線	①③	灰黄色	良	頭部欠損

【凡例】(第2～7表)

※「口径」・「底径」の括弧内は復元径、「器高」の括弧内は残存高を示す。

※「胎土」の①～④は、①:砂粒(径2mm以下)を少量混、②:砂粒(同左)を多量混、③:小石(径2mm以上)を少量混、④:小石(同左)多量混を示す。

第8表 石器・石製品観察表

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	法量(cm)			重量 (g)	石質	遺存	備考	
					長さ	幅	厚さ					
113	1	I/M-L-1 ～3	側溝/黒褐色土	石器	石鏃	3.8	1.6	0.4	1.9	チャート	完形	有茎
113	2	I	SR1/④/下層	石器	2次調整剥片	7.2	3.6	1.0	20.0	安山岩	完形	
113	3	I/L6	SR1/③/1層	石器	管玉製作工程品	3.1	2.5	1.8	12.4	緑色凝灰岩	完形	荒削り工程段階
113	4	I	SR1/①/下層	石器	削器	9.1	7.1	1.4	98.8	安山岩	完形	
113	5	I	SW1	石器	打製石斧	15.1	11.3	1.5	280.0	安山岩	略完形	撥形 刃部摩耗
113	6	I	SR1/①/下層	石器	打製石斧	15.3	10.5	3.6	530.0	閃緑岩	略完形	撥形 基部一部欠
113	7	I/J3	SR1/①/下層	石器	打製石斧	14.7	9.9	2.2	350.0	安山岩	略完形	分銅形 刃部摩耗
113	8	I	SD12	石器	打製石斧	10.9	8.9	1.6	210.0	安山岩	基部を一部欠	撥形 再加工品か
113	9	I	SR1/③/下層	石器	打製石斧	9.1	5.3	2.0	140.0	安山岩	基部のみ	
113	10	I	SR1/③④	石器	打製石斧	9.2	7.3	2.4	200.0	安山岩	基部のみ	
113	11	I	SR1/③/中層	石器	打製石斧	9.7	8.0	3.8	412.1	安山岩	基部のみ	
113	12	I	SR1/①/中下層	石器	打製石斧	9.4	9.1	1.5	170.0	安山岩	基部のみ	
113	13	I/J11	SW1	石器	打製石斧	7.8	14.3	2.5	330.0	安山岩	刃部のみ	
114	1	I II/ J15	SW1	石器	磨製石斧	14.6	7.1	5.4	812.0	砂岩	刃部欠	II区出土破片と接合 被熱 敲石に転用か
114	2	I	SR1/①/上層	石器	磨製石斧	12.1	6.8	4.0	505.9	安山岩	刃部欠	

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石質	遺存	備考
					長さ	幅	厚さ				
114 3	I	SD12	石器	磨製石斧	9.8	7.3	3.8	420.5	安山岩	基部欠	
114 4	I	SR1/①/上層	石器	磨製石斧	8.0	4.9	2.9	171.1	安山岩	完形	煤付着
114 5	I	SR1/③/下層	石器	磨製石斧	8.1	5.0	2.7	161.2	安山岩	基部欠	
114 6	I/J11	SW1	石器	磨製石斧	8.4	3.7	2.1	98.7	砂岩	刃部欠	
114 7	I	SR1/①/中下層	石器	磨製石斧	6.0	4.9	3.1	161.2	安山岩	基部のみ	
114 8	I	SR1/①/上層	石器	磨製石斧	7.1	5.3	3.8	114.3	安山岩	基部のみ	
114 9	I	SR1/③④	石器	石鏢	9.3	7.9	2.5	337.3	安山岩	完形	
114 10	I	SR1/③/下層	石器	石鏢	5.9	6.1	6.3	283.5	安山岩	完形	円礫使用
114 11	I/K7	SW1	石器	石鏢	11.1	7.8	2.9	304.5	安山岩	完形	
114 12	I/K7	SW1	石器	石鏢	5.9	7.0	1.2	59.4	凝灰岩	完形	
115 1	I	SR1/④/下層	石器	磨石類	9.9	7.2	4.3	360.0	安山岩	3/4	磨痕・敲打痕・凹部
115 2	I	SR1/①/下層	石器	磨石類	8.4	7.5	4.5	370.9	安山岩	完形	敲打痕・凹部
115 3	I	SR1/①/中層	石器	磨石類	9.0	7.8	5.3	549.2	安山岩	完形	敲打痕のみ
115 4	I	SD12	石器	磨石類	6.7	8.2	6.0	406.0	安山岩	1/2	敲打痕のみ
115 5	I	SR1/①/中層	石器	磨石類	5.1	7.4	4.5	228.9	流紋岩	1/3	磨痕・敲打痕 被熱
115 6	I	SR1/③/中層	石器	磨石類	5.2	6.1	2.6	103.3	砂岩	残欠	磨痕・敲打痕
115 7	I	SR1/③④	石器	磨石類	11.2	7.3	4.1	515.5	砂岩	完形	敲打痕のみ
115 8	I	SR1/①/中下層	石器	磨石類	8.2	5.8	4.4	225.3	流紋岩か	2/3	敲打痕のみ
115 9	I	SR1/①/上層	石器	磨石類	9.2	4.9	3.7	243.8	安山岩	完形	敲打痕のみ
115 10	I	SR1/①/中層	石器	磨石類	12.3	6.1	4.0	403.5	安山岩	完形	敲打痕のみ
115 11	I/J11	SW1	石器	磨石類	5.7	5.0	4.0	154.2	安山岩	完形	敲打痕のみ
115 12	I/J10	SW1	石器	磨石類	8.0	5.2	2.8	128.7	安山岩	1/4	磨痕 凹部
116 1	I	SW1	石器	砥石	12.4	4.1	3.5	226.2	砂岩	略完形	砥面5面 溝、線状痕あり
116 2	I/J11	SW1	石器	砥石	5.2	3.0	2.8	66.1	砂岩	略完形	砥面4面
116 3	I/L5	SW1	石器	砥石	5.1	4.8	5.0	147.7	砂岩	略完形	砥面4面 断面V字の溝あり
116 4	I	SR1/①/上層	石器	砥石	7.0	4.5	3.5	158.7	凝灰岩類	略完形	砥面4面
116 5	I	SW1	石器	砥石	3.1	3.5	3.3	64.3	砂岩	完形	砥面6面 桶状の溝あり
117 1	I	SR1/③④	石器	台石・石皿類	13.3	12.5	6.2	1349.4	砂岩	残欠	正面に磨痕と凹部 裏面・下端の一部磨痕
117 2	I	SR1/③/中層	石器	台石・石皿類	12.2	11.2	4.3	714.1	安山岩	残欠	正面に磨痕 被熱痕
117 3	I	SI1/下層	石器	台石・石皿類	16.1	12.0	4.9	953.7	安山岩	約1/2	正面に磨痕 裏面・下端に磨痕
117 4	I	SI1/下層	石器	台石・石皿類	15.7	16.3	10.6	3884.0	凝灰岩	残欠	正面に磨痕 裏面は摩耗か
118 1	II	SR1/下層	石器	打製石斧	21.8	14.7	4.2	1314.7	安山岩	略完形	撥形 風化
118 2	II	SR1/上層	石器	打製石斧	22.2	12.7	3.2	1149.5	安山岩	完形	撥形 刃部わずかに摩耗
118 3	II	SR1/下層	石器	打製石斧	16.0	7.9	3.6	566.4	安山岩	刃部・左側縁欠	撥形
118 4	II	SR1/下層	石器	打製石斧	16.9	10.1	1.9	429.9	安山岩	略完形	撥形 刃部やや摩耗
118 5	II	SR1/下層	石器	打製石斧	18.3	13.2	1.9	630.8	安山岩	略完形	分銅形 刃部摩耗
118 6	II	SR1/上層	石器	打製石斧	16.2	11.4	2.3	560.4	安山岩	基部のみ	基部正面摩耗あり
118 7	II	SW1	石器	磨製石斧	4.7	4.4	3.0	90.2	砂岩	刃部のみ	刃部摩耗
118 8	II/I16	SR2	石器	管玉製作工程品	3.1	2.8	1.5	11.7	緑色凝灰岩	完形	形削工程段階
119 1	II	SR2/上層	石器	磨石類	5.9	5.1	3.7	165.8	安山岩	完形	敲打痕・凹部
119 2	II	SR1/上層	石器	磨石類	8.9	8.7	4.7	559.2	安山岩	完形	磨痕・敲打痕・凹部
119 3	II	SR1/下層	石器	磨石類	8.8	9.5	5.0	641.1	安山岩	約1/2	磨痕・敲打痕・凹部
119 4	II	SR1/下層	石器	磨石類	12.1	11.1	7.2	1302.7	安山岩	完形	磨痕
119 5	II	SR1/下層	石器	磨石類	8.9	10.0	5.3	483.0	安山岩	約1/2	磨痕・敲打痕・凹部 被熱
119 6	II/I14	SW1	石器	磨石類	9.2	9.9	6.1	641.0	安山岩	約1/2	敲打痕・凹部
119 7	II	SR1/下層	石器	磨石類	9.6	3.8	4.2	226.3	安山岩	完形	磨痕
119 8	II	SW1	石器	磨石類	19.5	8.5	5.9	1393.4	安山岩	完形	敲打痕 被熱
119 9	II	SW1	石器	磨石類	15.1	7.0	6.0	856.4	安山岩	完形	敲打痕
119 10	II	SD8	石器	磨石類	10.9	4.6	3.6	285.2	安山岩	端部欠	敲打痕
119 11	II	SW1	石器	磨石類	18.4	6.1	4.5	746.2	安山岩	端部欠	敲打痕
120 1	II	SR2	石器	砥石	14.6	12.4	10.2	2428.1	砂岩	残欠	砥面3面
120 2	II	SR1/上層	石器	砥石	10.3	6.8	3.7	331.1	砂岩	残欠	砥面2面
120 3	II/I16	SW1	石器	砥石	13.0	7.1	7.2	757.2	砂岩	残欠	砥面1面 被熱
120 4	II	SR2	石器	砥石	10.4	8.4	5.5	826.4	安山岩	残欠	砥面2面
120 5	II	SR2	石器	砥石	9.5	6.2	5.5	432.8	凝灰岩	残欠	砥面4面
120 6	II	SR2/上層	石器	砥石	6.8	3.4	2.9	84.3	安山岩	略完形	砥面3面 溝あり 被熱
120 7	II	SD3	石器	砥石	5.3	2.9	2.6	53.2	砂岩	略完形	砥面4面 溝あり
120 8	II/I17-18	SW1	石器	砥石	5.0	3.0	3.0	48.9	砂岩	残欠	砥面2面 溝あり
120 9	II/I16	SW1	石器	砥石	6.2	4.4	2.4	103.0	凝灰岩	残欠	砥面4面
120 10	II	SR2	石器	砥石	9.7	4.9	3.2	246.1	砂岩	略完形	砥面4面 被熱

挿図番号	地区／グリッド	遺構／地点／層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石質	遺存	備考
					長さ	幅	厚さ				
121 1	II	SR1/下層	石器	石冠	6.7	8.6	5.5	444.8	安山岩	完形	敲打成形後研磨
121 2	II	SR1/上層	石器	石棒	10.2	3.7	2.9	129.7	砂岩	端部欠損	
122 1	III	SR2/上層	石器	尖頭器	4.2	2.5	1.1	11.9	安山岩	基部のみ	風化 摩耗
122 2	III	SR2/上層	石器	管玉製作工程品	5.3	5.1	4.1	86.5	緑色凝灰岩	完形	石核段階
122 3	III	SR2/下層	石器	打製石斧	8.7	8.9	1.5	165.0	安山岩	基部のみ	板礫素材
122 4	III	SR2/下層	石器	打製石斧	10.0	9.6	1.5	195.5	安山岩	基部のみ	板礫素材
122 5	III	SR2/下層	石器	打製石斧	8.5	8.1	2.8	266.5	安山岩	刃部のみ	刃部の摩耗顕著
122 6	III	SD1	石器	磨製石斧	15.8	6.9	4.7	777.0	安山岩	刃部欠	刃部再生途中か
122 7	III	SR2/下層	石器	磨製石斧	7.1	6.2	3.6	282.5	安山岩	刃部・基部欠	敲石に転用か
122 8	III	SR2/上層	石器	砥石	5.6	5.5	5.1	139.9	砂岩	残欠	砥面3面
122 9	III	SR2/下層	石器	磨石類	7.4	8.0	4.7	318.5	安山岩	約1/2	磨痕・敲打痕・凹部
122 10	III	SR2/中層	石器	磨石類	13.3	9.2	4.0	796.5	安山岩	完形	磨痕・敲打痕
122 11	III	SR2/中層	石器	磨石類	10.3	10.1	5.6	837.0	安山岩	完形	磨痕・敲打痕
123 1	III	SD1	石器	磨石類	17.9	6.5	4.6	761.5	安山岩	完形	磨痕・敲打痕
123 2	III	SR2/下層	石器	磨石類	12.7	11.0	7.5	1397.4	安山岩	完形	磨痕・敲打痕
123 3	VI	SI1	石器	石鏢	2.6	1.6	0.4	1.2	安山岩	完形	有茎
123 4	IV	SR1/②/1層	石器	砥石	5.6	4.0	2.7	76.5	凝灰岩	残欠	砥面4面
123 5	IV	SR1/②/1層	石器	砥石	11.3	6.0	4.8	520.0	凝灰岩	略完形	砥面4面 溝あり
123 6	VI	下段部表土	石製品	五輪塔	径 19.7	高 12.8	頂部径 13.2	底部径 12.1	緑色凝灰岩	略完形	水輪 梵字『バン』？

第9表 木製品観察表

挿図番号	地区／グリッド	遺構	地点／層位	種別	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考
						長さ	幅	厚さ			
124 1	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	直柄平鋸	30.4	17.0	2.0	板目 横木取り	アカガシ亜属	泥除け装着孔2か所 着柄角度60°
124 2	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	直柄平鋸	25.3	18.9	2.1	板目	アカガシ亜属	頭部欠損 刃部に三角形の透孔
124 3	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	直柄平鋸	25.5	8.3	1.5	板目	アカガシ亜属	欠損大
124 4	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	鋸柄	23.2	2.8	2.3	芯なし丸木	スギ	炭化部分あり
124 5	I	SR1	東岸/暗褐色土	木製品	鋸未成品	33.2	22.0	2.7	板目 横木取り	アカガシ亜属	
124 6	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	鋸未成品	35.0	21.8	3.1	板目	アカガシ亜属	
124 7	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	平鋸	21.2	7.3	2.0	板目 縦木取り	アカガシ亜属	
124 8	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	鋸柄 把手	11.5	2.5	2.4	みかん割	ツバキ属	中央に長方形の柄穴
125 1	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	田下駄	29.6	18.5	2.1	板目	スギ	長方形の両面穿孔4か所
125 2	I/K10	SR1	①/上層黒色土	木製品	木庖丁	6.7	6.9	1.1	板目	クワ属	径1cmの紐孔1か所残存 炭化
125 3	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	木庖丁	9.3	5.4	1.0	板目	サイカチ	径0.8cmの紐孔(欠損で半割れ)
125 4	I/J11	SR1	①/上層黒色土	木製品	木庖丁	10.1	5.8	1.0	板目	ケヤキ	紐孔2か所
125 5	I/L6	SR1	③/上層黒色土	木製品	木庖丁	8.7	5.1	0.9	板目	ケヤキ	径0.8cmの穿孔1か所残存
125 6	I/K11	SR1	東端/黒色土	木製品	木庖丁	6.3	4.4	0.9	板目	クワ属	炭化部分あり
125 7	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	竪杵	38.1/32.8	8.1/5.6	6.6/3.9	芯去削出	アカガシ亜属	大きく折損・朽ちている
125 8	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	杵	40.4	3.3	2.8	板目	スギ	
125 9	I	SR1	①/黒色土	木製品	杵	36.7	1.7	1.6	芯去削出	スギ	約2.3×0.7cmの柄穴中央に径5mmの木釘残存 被熱
125 10	I	SR1	東端/黒色土	木製品	紡錘車	6.1	4.9	0.8	板目	アカガシ亜属	中央に径0.8cmの穿孔
125 11	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	布巻具	45.9	3.9	1.3	板目	スギ	
125 12	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	腰掛	44.1	11.5	高 21.4	板目 縦木取り	カツラ	
125 13	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	火鑽臼	9.7	2.5	1.7	不明	カツラ	
126 1	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	田舟	172.0	45.3	高 9.5	芯去削出	スギ	船底の前後に方形の抉り各2か所あり

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考	
						長さ	幅	厚さ				
127	1	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	網枠	29.5	2.6	2.6	芯持ち材	カヤ	透孔2か所残存 炭化部分あり
127	2	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	網枠	27.4	1.8	1.4	芯持ち材	イヌマキ	外面が面取りされる
127	3	I	SR1	③/1層	木製品	盾	7.0	2.6	0.6	板目 縦木取り	モミ属	表裏に赤彩あり
127	4	I	SR1	②/4層	木製品	盾	21.0	7.4	0.7	板目 横木取り	スギ	径0.3cmの小孔が2列残存
127	5	I	SR1	②/5層	木製品	矢柄	17.3	1.0	1.0	芯持ち材	ツバキ属	先端に樹皮を巻き付け
127	6	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	弓未成品	149.6	3.5	3.9	芯持ち材	イヌガヤ	工具の削り痕1か所
127	7	I	SR1	①/暗灰色土	木製品	弓未成品	128.4	3.1	3.5	芯持ち材	未鑑定	
127	8	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	弓未成品	132.5	8.3	3.9	芯持ち材	未鑑定	
127	9	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	弓か?	84.1	3.0	3.3	芯持ち材	イヌガヤ	先端加工有 弓の再利用か
127	10	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	弓	74.9	2.3	2.4	芯持ち材	未鑑定	欠損あり
127	11	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	弓	125.9	2.8	2.9	芯持ち材	イヌガヤ	弾欠損
127	12	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	武器形	33.0	4.1	1.2	板目	スギ	
128	1	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	蓋	15.5	15.0	高さ 3.6	板目	トチノキ	摘みは断面方形 炭化部分あり
128	2	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	椀	口径 10.2	底径 8.3	器高 7.5	横木取り	ケヤキ	
128	3	I	SR1	③	木製品	底板	6.3	5.0	0.7	板目	コナラ属	木釘痕6カ所?
128	4	I	SR1	東岸暗褐色土	木製品	桶	10.5	9.4	2.9	板目	スギ	底部に木釘痕2か所 わずかに赤色顔料遺存
128	5	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	桶	23.3	14.3	2.2	板目	スギ	
128	6	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	桶	23.2	11.4	2.3	板目	スギ	
128	7	I	SR1	東岸暗褐色土	木製品	桶	16.7	4.1	3.5	板目	スギ	
128	8	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	底板	24.5	8.3	0.9	板目	スギ	
128	9	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	底板	19.0	7.1	1.4	板目	スギ	補修孔4孔 側面に木釘痕1か所 炭化部分あり
128	10	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	部材(箱)	15.8	2.8	0.5	板目	スギ	納結合 穿孔3か所
128	11	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	部材(箱)	14.2	16.8	1.1	板目	スギ	炭化部分あり
128	12	I	SR1	②/東岸暗褐色土	木製品	部材(箱)	6.9	13.9	1.0	板目	スギ	穿孔2か所 台形上の上下辺に紐か け状の溝が2条ずつ
128	13	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	部材(箱)	31.8	10.1	0.4	板目	スギ	大小の穿孔 傷または線刻?多数 炭化部分あり
129	1	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	10.0	2.4	1.4	芯持ち材	イヌマキ	端部紐掛け状
129	2	I	SR1	①/縄文包含層	木製品	棒状部材	17.8	2.0	1.2	芯持ち材	スギ	両端部紐掛け状
129	3	I	SR1	④	木製品	棒状部材	15.5	4.9	4.0	板目	スギ	栓か 軸部長5.7cm、幅2.3cm、厚 2.6cm
129	4	I	SR1	③	木製品	棒状部材	10.9	2.5	2.3	板目	スギ	把手未成品か
129	5	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	13.0	3.3	2.3	板目	アカガシ亜属	柄端部か
129	6	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	棒状部材	26.1	1.7	1.2	板目	スギ	わずかに赤色顔料遺存
129	7	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	17.2	4.8	3.2	板目	クリ	炭化部分あり
129	8	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	15.1	6.0	2.9	板目	アカガシ亜属	
129	9	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	棒状部材	37.7	3.8	2.7	板目	スギ	
129	10	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	22.4	2.2	2.0	板目	スギ	幅2.5cmの浅い溝状の加工
129	11	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	棒状部材	30.6	2.1	1.3	板目	スギ	片端に納溝 わずかに赤色顔料遺 存 炭化あり

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考	
						長さ	幅	厚さ				
129	12	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	31.1	3.1	2.4	板目	スギ	納溝 穿孔あり
130	1	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	棒状部材	76.7	3.5	3.2	追板目	スギ	片端破損 先端加工あり
130	2	I	SR1	④	木製品	棒状部材	64.5	2.3	1.9	割材削出	スギ	
130	3	I	SR1	④	木製品	棒状部材	62.7	2.45	1.6	板目	未鑑定	下端を薄くする
130	4	I/J10	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	33.2	4.9	4.3	丸木	ツバキ属	杭状
130	5	I	SR1	東岸/暗褐色土	木製品	棒状部材	77.2	5.1	2.8	割材削出	未鑑定	先端加工あり
130	6	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	棒状部材	124.0	2.8	2.8	芯無みかん割	スギ	炭化部分あり 頭部削り出し
130	7	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	棒状部材	80.5	7.4	4.3	板目	ケヤキ	両端を斜めに面取り
130	8	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	杭	83.8	6.5	5.6	割材削出	未鑑定	炭化部分あり
130	9	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	丸木	83.3	8.9	9.1	芯持ち材	未鑑定	炭化部分あり
130	10	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	杭	79.3	7.2	7.3	みかん割	未鑑定	先端加工あり 頭部のような削り 出し
130	11	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	杭	87.3	6.8	5.1	芯無みかん割	未鑑定	角材か 先端加工あり
130	12	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	杭	67.9	4.8	5.0	みかん割	アスナロ属	先端加工有 中央に約9cm長の大き な切り欠き
131	1	I	SR1	①/暗灰色土	木製品	板材	67.8	7.6	1.5	板目	未鑑定	
131	2	I	SR1	①/暗灰色土	木製品	板材	20.9	6.3	2.0	板目	未鑑定	炭化あり 131図3と同じ地点
131	3	I/J11	SR1		木製品	板材	35.4	4.2	1.1	板目	スギ	穿孔5か所 未貫通1か所
131	4	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	板材	53.5	6.6	4.0	板目	未鑑定	炭化あり 建材か
131	5	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	角材	54.0	11.4	5.3	板目	スギ	
131	6	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	角材	58.6	4.8	4.5	芯去削出	未鑑定	
131	7	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	板材	58.4	7.3	2.4	板目	未鑑定	先端反り有り 傷多数
131	8	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	板材	63.0	6.6	1.1	板目	未鑑定	片端を斜めに面取り
131	9	I	SR1	①/1層(黒色土)	木製品	板材	6.4	7.1	2.7	板目	スギ	わずかに赤色顔料遺存
131	10	I	SR1	①/上層黒色土	木製品	切断材	17.7	6.5	5.1	板目	クリ	炭化あり
132	1	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	梯子	45.2	13.5	11.1	芯去削出	ヒサカキ属	裏面広く炭化
132	2	I	SR1	③/1層	木製品	角材	108.2	6.7	5.1	芯無みかん割	スギ	両端に加工あり 本来は柄か
132	3	I	SR1	③/1層	木製品	板材	140.4	16.3	2.3	板目	未鑑定	両端欠損
132	4	I	SR1	③	木製品	板材	154.6	21.2	6.2	板目	未鑑定	炭化あり 脚のような削り出しが 2本
132	5	I	SR1	①/暗灰色土	木製品	板材	81.7	15.1	2.9	板目	スギ	炭化部分あり 両端を面取り
132	6	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	棒材	208.6	6.9	6.6	芯無みかん割	アスナロ属	
133	1	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	不明部材	9.5	14.6	7.0	板目縦木取り	スギ	突起部厚3.0cm 精製品
133	2	I/J11	SR1		木製品	不明部材	13.1	6.0	3.4	板目	スギ	
133	3	I	SR1	①/東岸暗褐色土	木製品	不明部材	4.7	3.2	2.8	板目	スギ	炭化部分あり 上下に穿孔が16か所ずつ廻る
133	4	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	樹皮材	10.1	5.1	0.1	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ
133	5	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	樹皮材	5.7	2.6	0.1	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ
133	6	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	樹皮材	12.5	5.6	0.02	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ
133	7	I	SR1	③/上層黒色土	木製品	樹皮材	18.5	3.9	0.02	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考
						長さ	幅	厚さ			
133	8	I/J11		黒褐色土	木製品 結合補助材	25.1	頭部幅 4.5	頭部高 1.7	柁目 縦木取り	ヤマグワ	軸部：幅4.0cm、厚2.7cm 炭化部分あり
133	9	I/J11		黒褐色土	木製品 結合補助材	25.9	頭部幅 5.0	頭部高 2.3	柁目 縦木取り	ヤマグワ	軸部：幅4.0cm、厚2.5cm 炭化
133	10	I/K11		黒褐色土	木製品 桶	25.7	3.2	3.4	板目	スギ	炭化部分あり
133	11	I	SD6		木製品 棒状部材	17.2	1.4	0.8	芯去削出	スギ	端部は円錐状 両側面に挟り 半裁品か
133	12	I/J11		黒褐色土	木製品 差物 部材	28.6	2.0	高 3.4	板目 横木取り	スギ	穿孔および穿孔跡あり
133	13	I	SI1	下層	木製品 腰掛	47.0	8.1	高 21.1	芯去削出	サカキ	
134	1	II	SR1	②	木製品 鋸柄	78.8	3.0	2.6	芯去削出	ムクロジ	134図2の柄 数値は破片接合状態
134	2	II	SR1	②	木製品 直柄平鋸	29.0	10.0	2.6	柁目	アカガシ亜属	出土時は134図1の柄の一部が残存 数値は身部のみ 着柄角度 126°
134	3	II	SR1	②	木製品 直柄鋸	15.5	8.6	2.0	板目	アカガシ亜属	隆起部片 柄穴径4.6cm
134	4	II	SR1	①西/下層	木製品 木鎌	30.9	3.9	1.7	柁目	スギ	
134	5	II	SR1	②/2層	木製品 田下駄	57.0	5.8	1.3	板目	スギ	両端に径1.0cmの円形穿孔 その間に1辺1.3cmの方形穿孔10か所
134	6	II	SR1	①西/下層	木製品 木庖丁	13.0	4.9	1.2	柁目	サイカチ	紐孔2か所 略完形
135	1	II	SR1	②/2層	木製品 布巻具	45.5	3.7	1.8	柁目 縦木取り	ヒノキ	
135	2	II	SR1	②/2層	木製品 布巻具	40.2	4.4	1.6	板目	スギ	
135	3	II	SR1	②	木製品 布巻具	20.0	2.4	1.4	板目	スギ	
135	4	II	SR1	②/2層	木製品 腰当	48.0	8.0	2.7	板目 横木取り	スギ	
135	5	II	SR1	①西/下層	木製品 盾	23.6	7.9	1.0	板目	モミ属	径0.2cmの小孔が0.6~0.8mm間隔で並ぶ 列間は6cmで4列残存 赤彩
135	6	II	SR1	②/4層	木製品 弓	129.8	2.5	2.7	芯持ち材	イヌマキ	完存
136	1	II	SR1	②/2層	木製品 板材	26.6	4.3	0.6	板目 横木取り	スギ	中央に挟り 木釘痕4か所
136	2	II	SR1	②/2層	木製品 板材	13.0	3.3	0.6	柁目	スギ	
136	3	II	SR1	①/5層	木製品 板材	8.5	7.4	1.5	追柁目	ヤナギ属	
136	4	II	SR1	②/2層	木製品 板材	28.7	6.2	1.2	板目	スギ	貫通孔3か所
136	5	II	SR1	①西/下層	木製品 板材	26.6	2.8	0.9	板目	スギ	割り1か所
136	6	II/I19	SR1	②/4層	木製品 杭材	29.4	2.7	1.6	板目	スギ	炭化部分あり
136	7	II	SR1	黒色土	木製品 板材	33.8	5.1	2.0	板目	スギ	釘穴1か所 片側面に切り欠き2か所
136	8	II	SR1	②/2層	木製品 角材	76.3	4.7	4.6	芯無みかん割	未鑑定	
136	9	II	SR1	②/2層	木製品 棒状部材	70.2	3.9	2.2	板目	未鑑定	柄か
136	10	II	SR1	②/2層	木製品 板材	49.8	2.5	1.1	板目	スギ	布巻具か
136	11	II	SR1	試掘T1-19/中層 灰褐色土	木製品 板材	64.3	5.9	1.8	柁目	スギ	納溝?2か所
136	12	II	SR1	②	木製品 板材	65.0	9.4	1.0	柁目	スギ	風化激しい
136	13	II	SR1	①西/下層	木製品 棒状部材	66.9	2.2	1.85	板目	アスナロ属	先端加工あり
136	14	II	SR1	②/2層	木製品 棒状部材	51.2	4.0	2.9	板目	スギ	
137	1	II	SR1		木製品 杭	139.3	5.8	5.3	みかん割	未鑑定	炭化あり 片端欠損 先端加工あり
137	2	II	SR1	①西/下層	木製品 杭	133.1	6.3	4.2	みかん割	未鑑定	先端加工有
137	3	II	SR1		木製品 杭	148.2	16.8	14.0	丸木	クリ	先端加工65.2(全体の4割)
137	4	II	SR1	①西/下層	木製品 梯子	62.5	11.9	5.8	芯材	ハンノキ属	足掛け1か所残存 最下部に径1cmの穿孔

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考
						長さ	幅	厚さ			
137	5	II	SR1	上層黒色土	木製品 梯子	59.0	18.4	6.3	板目	スギ	足掛け幅4.0cm
138	1	II	SR2	北	木製品 泥除	21.45	6.8	1.5	板目	アカガシ亜属	方形孔2か所
138	2	II	SR2	北	木製品 田下駄	23.2	4.3	1.7	板目	スギ	約1.5×1.5cmの方形の穿孔
138	3	II	SR2	②	木製品 不明部材	5.6	3.4	2.8	板目	トネリコ属	炭化部分あり
138	4	II	SR2	北	木製品 鳥形	40.8	7.4	1.3	板目	スギ	側面穿孔か
138	5	II	SR2	②	木製品 舟形	29.3	6.9	1.2	芯去削出	スギ	船首部未貫通孔 船尾部貫通孔あり
138	6	II	SR2	②	木製品 棒状部材	21.0	2.2	1.1	柁目	スギ	径0.2cmの穿孔が約7cm間隔で3か所 紐通しか
138	7	II	SR2		木製品 棒状部材	25.4	3.2	1.7	板目	エゴノキ属	
138	8	II	SR2	北	木製品 板材	29.6	3.2	0.8	板目	スギ	
139	1	II/K14	SR3		木製品 木鎌	8.3	8.9	2.1	柁目	アカガシ亜属	柄の径：2.4×1.7cm
139	2	II/K14	SR3		木製品 柄	45.1	4.2	4.8	板目	スギ	炭化部分あり
139	3	II/K14	SR3		木製品 横杓子	27.0	10.9	身部高 7.3	板目 横木取り	シラキ	柄部：両面から菱形の穿孔 取り付け角度10° 身部長12.6cm
139	4	II/K14	SR3		木製品 高杯	15.0	4.9	3.8	横木取り	ケヤキ	
139	5	II	SR3		木製品 不明部材	7.8	5.7	5.8	横木取り	ケヤキ	突帯4条 挽物か
139	6	II/K14	SR3		木製品 武器形	26.0	2.2	0.9	柁目	ヒノキ属	炭化部分あり
139	7	II/K14	SR3		木製品 線刻板	45.5	7.9	1.5	柁目	スギ	片面に同心円状の線刻 穿孔1か所と紐擦れ痕
139	8	II	SR3		木製品 結合補助材	22.4	4.3	3.6	芯去削出	モチノキ属	
139	9	II/J14	SR3	黒色土	木製品 不明部材	10.5	3.6	3.2	板目	ツバキ属	断面円形
139	10	II/J14	SR3	黒色土	木製品 不明部材	7.9	3.8	3.5	芯持ち材	ヒサカキ属	断面多角形状 中心に径0.3cmの穿孔あり
139	11	II/J14	SR3		木製品 網杵	48.3	3.0	2.1	芯持丸木	イヌガヤ	径0.4mm程度の紐孔4か所 139-12と同一部材
139	12	II//J14	SR3		木製品 網杵	43.4	2.7	2.1	芯持丸木	イヌガヤ	径0.4mm程度の紐孔3か所
140	1	II/K14	SR3		木製品 板材	55.2	17.7	2.1	板目	スギ	径1.5cmの穿孔2か所
140	2	II	SR3	①/黒色土	木製品 板材	29.3	14.7	0.9	板目	スギ	炭化部分あり
140	3	II	SR3		木製品 棒状部材	30.8	2.7	2.4	柁目	スギ	頭部紐掛け状
140	4	II/K15	SR3		木製品 棒状部材	61.8	8.9	1.2	板目	スギ	納溝両端に1か所ずつ 片側に釘穴
140	5	II	SR3		木製品 棒状部材	78.4	2.9	2.6	板目	スギ	柄穴1か所
140	6	II/K14	SR3		木製品 棒状部材	92.6	4.1	2.8	板目	未鑑定	下端をへら状に加工 片側に径0.5cmの穿孔1か所
140	7	II	SR4		木製品 棒状部材	40.1	3.2	2.0	柁目	ケンボナン	切り欠き1か所 穿孔1か所(釘穴か)
140	8	II	SR4		木製品 棒状部材	36.6	3.1	1.9	柁目	トネリコ属	
140	9	II	SR4		木製品 杭	72.6	9.4	4.5	みかん割	クリ	炭化部分あり
140	10	II	SR4		木製品 杭	97.3	9.5	3.0	板目	クリ	先端加工あり
140	11	II	SR4		木製品 杭	103.1	6.4	5.3	みかん割	トネリコ属	角材 先端加工あり
141	1	II	SK13		木製品 盤	44.0	36.5	0.5	板目	エノキ属	器高3.1cm
142	1	III	SR1		木製品 人形	19.4	3.5	0.4	板目	スギ	頭部欠損
142	2	III	SR1		木製品 板材	15.5	2.3	0.7	柁目	ヒノキ属	側面に幅1.5cmの切り欠き1か所
142	3	III	SR1		木製品 板材	11.0	4.3	0.3	板目	ヒノキ属	穿孔1か所

挿図 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考	
						長さ	幅	厚さ				
142	4	Ⅲ	SR1		木製品	板材	15.0	21.5	4.8	板目	スギ	
142	5	Ⅲ	SR1		木製品	板材	30.2	21.5	5.95	板目	スギ	断面三角形の突起あり
142	6	Ⅲ	SR1		木製品	板材	40.7	8.5	3.5	板目 横木取り	スギ	6.0×4.7cmの楕円孔
142	7	Ⅲ	SR1		木製品	板材	39.5	17.5	3.4	板目 縦木取り	スギ	方形2か所 円形?1か所の穿孔
142	8	Ⅲ	SR2	㊸/緑灰色粘土・植物層	木製品	弓	86.9	1.6	2.4	芯持ち材半割	イヌガヤ	弭は一端のみ残存
142	9	Ⅲ	SD1		木製品	板材	17.9	4.6	1.2	板目	スギ	穿孔2か所
142	10	Ⅲ	SD1		木製品	板材	52.8	6.3	2.8	板目	スギ	
143	1	Ⅲ	SD1		木製品	木簡	13.1	1.1	0.4	板目	スギ	墨書「風被一石一八」
143	2	Ⅲ	SD1		木製品	板材	11.7	2.95	0.95	板目	スギ	穿孔2か所
143	3	Ⅲ	SD1	㊸/上層	木製品	板材	20.3	3.3	0.4	板目 縦木取り	ヒノキ	
143	4	Ⅲ	SD1		木製品	曲物	16.6	1.1	0.4	板目	ヒノキ属	穿孔2か所
143	5	Ⅲ	SD1		木製品	底板	20.5	14.8	0.8	板目 縦木取り	ヒノキ	側面に釘痕3か所
143	6	Ⅲ	SD1	㊸/上層	木製品	底板	15.5	5.1	0.7	板目	スギ	側面に釘痕2か所
143	7	Ⅲ	SD1		木製品	底板	15.6	5.5	0.7	板目	スギ	側面に釘痕3か所 片面と側面の一部に炭化あり
143	8	Ⅲ	SD1		木製品	底板	16.2	6.4	0.9	板目	スギ	側面に釘痕3か所
143	9	Ⅲ	SD1	㊸/上層	木製品	底板	13.45	6.95	0.7	板目	アスナロ属	側面に釘痕2か所
143	10	Ⅲ	SD1	㊸/上層	木製品	火鑽臼	22.4	2.9	2.0	板目	スギ	部材を転用か
143	11	Ⅳ	SR1	㊸/1層と盛土との層理面	木製品	木簡	38.1	0.7	1.8	板目	未鑑定	墨書「廿八日寺口料米式客」
143	12	Ⅳ	SR1	㊸	木製品	馬形	16.4	3.8	0.4	板目 縦木取り	スギ	
143	13	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	人形	16.7	3.7	0.4	板目 縦木取り	スギ	頭～胴部片
143	14	Ⅳ	SR1	㊸/1層	木製品	把	13.1	3.2	0.7	板目	スギ	半身のみ 径0.3cmの目釘痕あり
143	15	Ⅳ	SR1	㊸	木製品	棒状部材	17.0	1.2	1.25	板目	スギ	片側が先細りとなる
143	16	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	棒状部材	14.0	2.5	2.0	板目	スギ	端部は断面方形(柄か)となる
143	17	Ⅳ	SR1	㊸/黒色粘土	木製品	板材	16.1	5.6	0.7	板目	スギ	
143	18	Ⅳ	SR1	㊸/1層	木製品	板材	27.7	3.7	0.6	板目	スギ	穿孔1か所
144	1	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	棒状部材	39.5	2.7	2.1	板目	スギ	柄：長1.8cm、厚0.7cm
144	2	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	棒状部材	57.4	4.1	2.0	板目	未鑑定	
144	3	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	板材	63.8	6.4	2.3	板目	未鑑定	
144	4	Ⅳ	SR1	㊸/1層	木製品	板材	39.8	3.9	0.7	板目	スギ	下方は側面を削いで尖らせる
144	5	Ⅳ	SR1	㊸/1層	木製品	板材	56.4	4.05	1.0	板目	スギ	側面に切り欠き2か所
144	6	Ⅳ	SR1	㊸/1層	木製品	板材	65.4	12.1	2.7	追板目	未鑑定	片端欠損
144	7	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	板材	64.4	10.7	2.6	板目	未鑑定	
144	8	Ⅳ	SR1	㊸/1層	木製品	板材	67.5	10.4	2.5	板目	未鑑定	
144	9	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	板材	134.8	10.6	2.4	板目	未鑑定	両端欠損
144	10	Ⅳ	SR1	㊸/2層	木製品	板材	201.4	16.5	3.1	追板目	未鑑定	片側欠損

第5章 自然科学分析

第1節 土壌分析

本節では、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区で検出した弥生時代中期から古墳時代前期にかけての自然流路や溝の堆積物を対象に、古環境（堆積環境や古植生）に関わる資料の作成を目的として、土壌分析（珪藻分析・花粉分析・種実遺体分析・樹種同定）の分析結果を報告する。土壌分析にあたっては、平成28年度と平成29年度の各年度の委託事業として実施したため（平成28年度はパリノ・サーヴェイ株式会社、平成29年度は一般社団法人文化財科学研究センター）、本節では平成28年度実施の分析報告と平成29年度実施の分析報告を区別して報告する。

1 試料

1) 平成28年度（第10・11表）

試料は、Ⅱ区SR1・SR2およびⅢ区SD1より採取した土壌および木材化石である。採取位置については、第4章第1節の挿図に掲示した（Ⅱ区SR1：第33図、Ⅱ区SR2：第38図、Ⅲ区SD1：第42図）。以下に、各遺構の概要および採取試料の内訳を記す。

A. Ⅱ区SR1

自然流路であるSR1は、Ⅱ区北半部を蛇行するように検出されている。Ⅱ区中央付近の西壁に作製されたSR1の土層断面の調査所見によれば、下位より、SR1形成以前の堆積層（X1～X3層）、弥生時代中期の遺物包含層を含む堆積層（C層）、弥生時代後期～古墳時代前期の堆積層（A層）、およびC層の上位、A層の下位にあたる堆積層（B層）に大きく区分されている（第33図）。

なお、前述したSR1の土層断面を対象とした試料採取時の観察によれば（第11表）、SR1形成以前とされる堆積層のうち、X1層は葉層が認められる褐灰色～灰褐色泥、X2層は灰色泥、黄色灰泥などの偽礫（ブロック）、木材化石や種実遺体などが混じる、淘汰の悪い灰色砂質泥～泥質砂、X3層は木材化石、種実遺体および葉片などの大型植物遺体が多く混じる褐色～褐灰色泥からなる。なお、X2層は、X1層を削剥して形成されており、X3層下位には中粒砂～粗粒砂からなる砂層が確認されているため、X2層に類する堆積層は北側に連続していると推定される。

C層は、X3層の褐色～褐灰色泥の上位から、みかけ塊状をなす青灰色泥までの層準に相当し、詳細には青灰色泥より下位の堆積層と青灰色泥層とに区分される。青灰色泥より下位の堆積層は、灰白色～黄色灰色泥（一部固結する）の偽礫が混じる灰色泥からなり、側方（南側）では灰白色～黄色灰色泥（一部固結する）の偽礫をはじめ、木材化石や種実遺体などが混じる、淘汰の悪い灰色泥質砂～砂質泥などが認められる。青灰色泥は、観察範囲内では厚さ数cm程度の極細粒砂および極細粒砂～細粒砂からなる砂層を挟在する。

B層は、下位より、黄灰色泥の偽礫や大型植物化石が混じる灰色～褐灰色泥、泥および極細粒砂の互層からなる堆積層、みかけ塊状をなす灰（白）色泥とやや暗色を呈する灰～暗灰色泥からなる。

A層は、B層の泥および極細粒砂の互層に相当する層準を基底として、下位より、植物遺体が混じる褐色～灰褐色泥、管状酸化鉄が発達する黒色～黒褐色泥からなる。なお、A層の基底付近には土器片や木材化石が集中する箇所が確認されており、調査所見では同箇所付近は弥生時代後期～古墳時代前期の遺物多量包含層とされている。

第10表 平成28年度土壌分析試料一覧表

試料番号	旧試料番号	地区	遺構	層名(大別・細別)	土質	土層の時期										
1	1	II区	SR1	X層	X1層	暗灰黄色粘質土	弥生時代中期以前(無遺物層)									
2	2				X2層	灰色粘質土										
3	3				X3層	灰黄褐色粘質土										
4	4															
16	16															
17	17															
19	19															
21	21															
22	22			C層	19層	黄灰色粘質土	弥生時代中期									
23	23					26b層		黄灰色粘質土								
24	24					25層		黒褐色粘質土								
25	25					20e層		黄灰色粘質土								
26	26					20d層		灰色粘質土								
5	5					B層		16d層	黄灰色粘質土	弥生時代中期以降						
6	6			16c層	黒褐色粘質土											
18	18			14d層	灰色砂質土											
27	27			14c層	灰色砂質土											
28	28			13層	灰色粘質土											
29	29			12層	黒色粘質土											
30	30			11層	褐灰色粘質土											
37	37			10層	黒褐色粘質土											
7	7			14b層	灰色砂質土											
8	8			16d層	褐灰色粘質土											
9	9			16c層	黒褐色粘質土											
10	10			16a層	黄灰色粘質土											
11	11			14b層	灰色砂質土											
12	12			A層	8層		黒褐色粘質土		弥生時代後期～古墳時代前期							
13	13						6b層				褐灰色粘質土					
14	14						3層				黒褐色粘質土					
15	15						1層				黒褐色粘質土					
31	31						8層				黒褐色粘質土					
38	38						7層				黒褐色粘質土					
39	39			6b層	褐灰色粘質土											
40	40			X層	X3層	灰黄褐色粘質土	弥生時代中期以前(無遺物層)									
41	41							C層	19層	黄灰色粘質土	弥生時代中期					
32	32											B層	16c層	黒褐色粘質土	弥生時代中期以降	
33	33			A層	8層	黒褐色粘質土	弥生時代後期～古墳時代前期									
34	34							A層	6b層	褐灰色粘質土	弥生時代後期～古墳時代前期					
35	35											7層	黒褐色粘質土			
36	36			8層	黒褐色粘質土											
42	42					14c層	灰色砂質土							弥生時代中期以降		
43	43														16b層	黄灰色粘質土
44	44															
45	45							14c層	灰色砂質土							
46-1	S1-1									16c層	黒褐色粘質土					
46-2	S1-2			16c層	黒褐色粘質土											
46-3	S1-3	16c層	黒褐色粘質土													
47	S2					16c層	黒褐色粘質土									
48-1	S3-1											16c層	黒褐色粘質土			
48-2	S3-2							16c層	黒褐色粘質土							
49	S4									16c層	黒褐色粘質土					
50	W1			16c層	黒褐色粘質土											
51	W2	16c層	黒褐色粘質土													
52	W3					16c層	黒褐色粘質土									
53	W4											16c層	黒褐色粘質土			
54	W5							16c層	黒褐色粘質土							
55	W6									16c層	黒褐色粘質土					
56	W7			16c層	黒褐色粘質土											
57	W8	16c層	黒褐色粘質土													
58	W9					16c層	黒褐色粘質土									
59	W10											16c層	黒褐色粘質土			
60	W11							16c層	黒褐色粘質土							
61	W12									16c層	黒褐色粘質土					
62	W13			16c層	黒褐色粘質土											
63	W14	16c層	黒褐色粘質土													
64a	W15a					16c層	黒褐色粘質土									
64b	W15b											16c層	黒褐色粘質土			
65	W16							16c層	黒褐色粘質土							
66	W17									16c層	黒褐色粘質土					
67	W18			16c層	黒褐色粘質土											
68	W19	16c層	黒褐色粘質土													
69	W20					16c層	黒褐色粘質土									
70	W21											16c層	黒褐色粘質土			
71a	W22a							16c層	黒褐色粘質土							
71b	W22b									16c層	黒褐色粘質土					
72	W23			16c層	黒褐色粘質土											
73	W24	16c層	黒褐色粘質土													
74	W25					16c層	黒褐色粘質土									
75	W26											16c層	黒褐色粘質土			
76	W27							16c層	黒褐色粘質土							
77	W28									16c層	黒褐色粘質土					
78	W29			16c層	黒褐色粘質土											
79	1	II区	SR2											10層	暗灰黄色粘質土	弥生時代後期～古墳時代前期
80	2					8a層	黒褐色粘質土									
81	3					5層	黒色粘質土									
82	4					4層	褐灰色粘質土									
83	1	III区	SD1			基盤層	—	奈良・平安時代以前(無遺物層)								
84	2			2層	灰オリーブ色粘質土	奈良・平安時代										
85	3			1層	黒褐色粘質土	—										
86	4			耕作土	—	近現代										

第11表 平成28年度土壌試料の土質観察表

試料番号	地区	遺構	層名	土質	試料番号	地区	遺構	層名	土質	
1	II区	SR1	X1層	灰色～褐灰色泥	32	II区	SR1	8層	灰色～褐灰色泥の偽礫、植物片が混じる褐色～灰褐色泥	
2				褐灰色～灰褐色泥	33			6b層	青灰色～灰色泥の偽礫、植物片が混じる褐色泥	
3				褐灰色～灰褐色泥	34			3層	植物片が混じる褐色泥	
4			X2層	灰褐色泥の偽礫、木片などが混じる灰色泥	35			1層	管状酸化鉄が発達する、黒色～黒褐色泥	
5			19層	青灰色泥の偽礫、木材化石や種実遺体などの大型植物遺体が混じる、淘汰の悪い、灰色砂質泥～泥質砂	36			19層	褐灰色～灰褐色泥の偽礫、木材化石などが混じる灰色泥	
6					青灰色泥の偽礫、木材化石や種実遺体などの大型植物遺体が混じる、淘汰の悪い、やや砂分が混じる灰色泥					37
7			16d層	黄灰色泥の偽礫、木材化石が混じる灰色～褐灰色砂混じり泥	38			16d層	青灰色泥・黄灰色泥の偽礫、木材化石が混じる褐色～灰褐色泥	
8			16c層	黄灰色泥の偽礫、木材化石が混じる灰色泥	39			16c層	木材化石などの大型植物遺体が混じる、淘汰の悪い、褐灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥	
9					塊状をなす灰色泥					40
10			14d層	砂泥互層(泥層部)	41			14b層	褐灰色～灰褐色泥の偽礫が混じる灰色砂(極細粒砂)	
11			14c層	砂泥互層(泥質砂部)	42			8層	土器片や木材化石が含まれる、白色粒子が混じる暗褐灰色泥(遺物多量包含層)	
12			13層	みかけ塊状をなす灰色泥	43			7層	白色粒子が混じる暗褐灰色泥	
13			12層	暗灰色泥	44			6b層	黒色～黒褐色泥の偽礫が混じる暗褐灰色泥	
14			11層	みかけ塊状をなす灰色泥	45			X3層	大型植物遺体が混じる褐灰色～灰褐色泥	
15			10層	暗灰色泥	46-1					
16			X3層	葉理構造が認められる褐灰色泥	46-2					
17			X3層	葉理構造が認められる灰褐色泥	46-3					
18			26b層	灰白色～黄灰色泥の偽礫が混じる灰色泥	47			19層	青灰色泥の偽礫、木材化石や種実遺体などの大型植物遺体が混じる、淘汰の悪い、灰色砂質泥～泥質砂	
19			X3層	みかけ塊状をなす灰褐色泥	48-1			16c層	木材化石などの大型植物遺体が混じる、淘汰の悪い、褐灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥	
21					中粒砂～粗粒砂			48-2	16b層	木材化石などの大型植物遺体が多量混じる、淘汰の悪い、褐灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥
22			X3層	大型植物遺体が混じる褐灰色～灰褐色泥	49			8層	土器片や木材化石が含まれる、白色粒子が混じる暗褐灰色泥(遺物多量包含層)	
23					大型植物遺体が混じる灰色～褐灰色泥			79	10層	木片(板状木製品)を含む細礫混じり泥質砂
24					大型植物遺体が混じる褐色～灰褐色泥			80	8a層	木片などの大型植物遺体が混じる暗灰色極細粒砂
25			X3層	大型植物遺体が混じる褐色～灰褐色泥	81			5層	暗褐色泥(シルト質)	
26					大型植物遺体が混じる褐色～灰褐色泥			82	4層	暗褐色泥(粘土質)
27			25層	種実遺体などの大型植物遺体が混じる、極細粒砂～細粒砂の薄層が挟在する褐灰色～灰褐色泥	83			基盤層	青灰色泥(基盤層)	
28			20e層	みかけ塊状をなす青灰色～褐灰色泥	84			2層	礫や植物遺体が多く混じる暗褐色泥	
29			20e層	層厚1cm程度の砂層(極細粒砂～細粒砂)が挟在する灰色泥	85			1層	大型植物遺体が多く混じる暗褐色～赤褐色泥	
30			20d層	みかけ塊状をなす青灰色泥	86			耕作土	褐色を帯びる灰色泥	
31			14b層	木材化石が混じる灰色砂質泥～泥質砂						

土壌試料の採取は、現地での観察所見をもとに、可能な限り各層準を対象として実施している。また、種実遺体分析試料（試料番号46～49）については、木材化石や種実遺体などの大型植物遺体が多く混じる層準を対象とし、さらに層位関係も踏まえ、土層断面の4箇所より採取している。今回の分析には、前述したSR1の埋積過程の区分および現地での観察所見などを参考として、土壌試料16点（試料番号1・3・6・13・15・17・18・22・28・30・33・35・36・38・40・42）を供している（第10表）。

また、木材化石については、現地での担当者との打合せに基づき、大径の木材化石（第4章第1節第33図の斜線網掛け）や木製品と思われる木材は採取の対象外とし、この他に確認された芯持丸木を呈する木材化石を主な採取対象としている。なお、木材化石の採取は、現地にて形状や大きさを記録した後、大型の資料は数cm程度のブロックとして採取し、小径木はそのまま取り上げている。現地で採取した木材化石は計31点（試料番号50～78）であり、分析にはSR1の埋積過程の区分および形状や大きさなどの観察所見をもとに選択した20点を供している（第10表）。なお、木材化石の観察所見は、結果とも併記したので参照されたい（第20表）。

B. II区SR2

弥生時代後期～古墳時代前期の自然流路とされるSR2の埋積物は、作製された土層断面では7層準に区分されている。最下部は垂角礫を主体とする砂礫からなり、これより上位には、みかけ塊状をなす青灰色細粒砂、木片（板状木製品）を含む細礫混じり泥質砂（極細粒砂～細粒砂）、木片などの大型植物遺体が混じる暗灰色極細粒砂、灰色泥の偽礫が混じる暗灰色砂（極細粒砂）、暗褐色泥（シルト質、粘土質の2層準に区分される）が堆積する。

試料の採取は、以下の4層準（木片（板状木製品）を含む細礫混じり泥質砂；試料番号79、木片などの大型植物遺体が混じる暗灰色極細粒砂；試料番号80、暗褐色泥（シルト質）；試料番号81、暗褐色泥（粘土質）；試料番号82）を対象としている。分析には、発掘調査担当者の指示に基づき、試料番号81・82の2点を供している。

C. III区SD1

出土遺物から奈良・平安時代と推測されるSD1は、作製された土層断面では4層準に区分されている。SD1の基底は青灰色泥からなり、これより上位には、基盤層に由来すると考えられる青灰色泥の偽礫や上位の暗褐色泥の偽礫混じる層準、灰～青灰色のシルト礫や植物遺体が多く混じる暗褐色泥、大型植物遺体が多く混じる暗褐色～赤褐色泥、酸化鉄の発達により褐色を帯びる灰色泥からなる。

試料の採取は、以下の4層準（青灰色泥（基盤層）；試料番号83、礫や植物遺体が多く混じる暗褐色泥；試料番号84、大型植物遺体が多く混じる暗褐色～赤褐色泥；試料番号85、褐色を帯びる灰色泥；試料番号86）を対象としている。分析には、発掘調査担当者の指示に基づき、試料番号84・85の2点を供している。

2）平成29年度（第12表）

III区の珪藻分析・花粉分析・種実遺体分析として試料（堆積物）10点（試料番号1～10）、樹種同定として試料（木材）6点（試料番号3～5・7～9）を供した。

IV区の珪藻分析・花粉分析・種実遺体分析として試料（堆積物）8点（試料番号11～18）、樹種同定として試料（木材）11点（試料番号19～29）を供した。

採取位置については、III区SR2は第4章第1節の第43図、IV区SR1は第5章第154・161図に掲示した。

第12表 平成29年度土壌分析試料一覧表

試料番号	旧試料番号	地区	遺構	層名（大別・細別）		土質	土層の時期
1	1	III区	SR2	A層	5層	黒色粘質土	弥生時代後期～古墳時代前期
2	2			間層1（洪水層）	9層	灰黄褐色粘質土	弥生時代中期
3	3			B層	16層	黒褐色粘質土	弥生時代中期
4	4				20層	褐灰色粘質土	
5	5				23層	灰色粘質土	
6	6			間層1（洪水層）	11層	暗灰黄色粘質土	弥生時代中期
7	7			間層2（洪水層）	27層	灰黄褐色粘質土	弥生時代中期以前（無遺物層）
8	8			C層	28層	黄灰色粘質土	
9	9				30層	オリブ黒色砂質土	
10	10				33層	黄灰色粘質土	
11	1	IV区	SR1	1b層		黒褐色粘質土	奈良・平安時代
12	2			2a層		黒褐色ピート	
13	3			3b層		暗褐色粘土	奈良・平安時代以前（無遺物層）
14	4			4a層		褐灰色粘土	
15	5			5層		にぶい黄褐色粘土	
16	6			6層		にぶい黄褐色粘土	
17	7			7層		褐灰色粘土	
18	8			8層		にぶい黄褐色粘土	
19	1			3b層		暗褐色粘土	
20	2			4a層		褐灰色粘土	
21	3			5層		にぶい黄褐色粘土	
22	4			6層		にぶい黄褐色粘土	
23	5			6層		にぶい黄褐色粘土	
24	6			2a層		黒褐色ピート	奈良・平安時代
25	7			2a層		黒褐色ピート	
26	8			4a層		褐灰色粘土	奈良・平安時代以前（無遺物層）
27	9			2a層		黒褐色ピート	奈良・平安時代
28	10			6層		にぶい黄褐色粘土	奈良・平安時代以前（無遺物層）
29	11			5層		にぶい黄褐色粘土	

2 分析方法

1）珪藻分析

A. 平成28年度

湿重約5gをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4～5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプレウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数する（化石の少ない場合は、この限りではない）。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種などの重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot（2000）、Hustedt（1930-1966）、Krammer and Lange-Bertalot（1985-1991）、Desikachary（1987）などを参考にする。群集解析にあた

り個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性についても生態分類し表に示す。

堆積環境の変遷を考察するために、珪藻化石が100個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成する。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、1%以上の出現率を示す分類群についてのみ表示する（図中の●印は、総数が100個体以上産出した試料うち1%未満の種を、+印は総数100個体未満の場合の産出を示す）。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示する。

B. 平成29年度

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌や岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度や酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

- i) 試料から1 cm³を採量
- ii) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら一晩放置
- iii) 上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（5～6回）
- iv) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥
- v) マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
- vi) 検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

2) 花粉分析

A. 平成28年度

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980a）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の変遷図として表示する。図表中で複数の種類を－（ハイフン）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあることから、出現した種類を＋（プラス）で表示するに留めている。

B. 平成29年度

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。しかし花

粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- i) 試料から1 cm³を採量
- ii) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
- iii) 水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- iv) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- v) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- vi) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- vii) 沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
- viii) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本や島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、中村（1974・77）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

3) 種実遺体分析

A. 平成28年度

土壌試料から種実遺体を分離・抽出するために、試料200ccを水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに移して、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。多量の種実遺体が確認される試料は、50cc毎に分割して水洗し、抽出同定個数の上限を100個程度とする。残りの試料からは、新たに確認される分類群や保存状態が良好な分類群を抽出同定対象とする。

大型植物遺体の同定は、現生標本や笠原（1982）や藤下（1984）、石川（1994）、角野（1994）、谷城（2007）、中山ほか（2010）、鈴木ほか（2012）、勝山（2015）などを参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表と図で示す。また、主な分類群の写真を添付し、栽培種等の保存状態が良好な種実遺体の大きさ等をデジタルノギスで計測した結果を一覧表に併記して同定根拠とする。実体顕微鏡下による区別が困難な複数分類群間は、－（ハイフン）で結んで表示する。分析残渣は、一覧表の下部に定性的な量比を＋（プラス）で示す。

分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸保存する。分析残渣は袋に入れて保管する。

B. 平成29年度

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べることで、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

- i) 試料500cm³から20cm³に水を加え放置し、泥化
- ii) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別
- iii) 残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

4) 樹種同定

A. 平成28年度

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995-1999）を参考にする。

B. 平成29年度

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）によって40～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

3 珪藻分析の結果

1) 平成28年度（第145・146図、第13・14表）

珪藻化石の産出状況は、試料の多くが100個体以上産出したが、Ⅱ区SR1の試料番号13・30と、Ⅱ区SR2の試料番号81・82、およびⅢ区SD1の試料番号84は低率であり、Ⅱ区SR1の試料番号15は無化石であった。以下、地点毎に産状を述べる。

A. Ⅱ区SR1 X1～X3層（試料番号1・3・17・22）

X1層の2試料（試料番号1・3）の珪藻化石の産状は、いずれも200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多いことから、不良である。産出した分類群は、淡水生種と主として、極低率に汽水生種および淡水～汽水生種が産出する。

珪藻化石が比較的多く検出された試料の淡水生の群集の特徴については、生態性（珪藻の3つの適応性：水中の塩分・pH・流水に対する適応性）について整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。

まず、塩分に対する適応性は、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれたほうがよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いあるいは低いといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも

第13表 平成28年度珪藻分析結果一覧表

種 類	生態性		環境指標値																					
	塩分	pH	流水	1層	3層	6層	8層	10層	12層	16a層	16b層	19層	20e層	20d層	26b層	X3層	X3層	XI層	XI層	Ⅱ区SR2	Ⅲ区SD1			
				36	35	33	42	15	13	40	38	30	28	6	18	17	22	3	1	82	81	85	84	
<i>Navicula peregrina</i> (Ehr.) Kuetzing	Meh		ind																					
<i>Navicula peregrina</i> var. <i>hankensis</i> Skvortzow	Meh	al-1	ind																					
<i>Nitzschia lorentziana</i> var. <i>subtilis</i> Grunow	Meh	al-bi	ind																					
<i>Amphora fontinalis</i> Hustedt	Ogh-Meh	al-bi	l-ph																					
<i>Arcomoneis sphagnumphora</i> (Kuetz.) Pfitzer	Ogh-Meh	al-bi	ind																					
<i>Bacillaria paradoxa</i> (Gmelin)	Ogh-Meh	al-bi	ind																					
<i>Navicula carinata</i> (Ehr.) Ralfs	Ogh-Meh	al-bi	ind																					
<i>Navicula halophila</i> (Grun.) Cleve	Ogh-Meh	al-bi	ind																					
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-Meh	ind	ind																					
<i>Nitzschia paucica</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-Meh	ind	ind																					
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Achnanthes clerei</i> var. <i>rostrata</i> Hustedt	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes japonica</i> H. Kobayasi	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes lanceolata</i> var. <i>elliptica</i> Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes lapidosa</i> Krasske	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes subhadsonis</i> Hustedt	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Achnanthidium minutissimum</i> (Kuetz.) Czarn	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	Ogh-Meh	al-1	l-bi																					
<i>Amphora affinis</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Amphora inarionensis</i> Kramer	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Amphora ovalis</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Amphora</i> spp.	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Atacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-Meh	al-1	l-bi																					
<i>Atacoseira</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Caloneis leptosoma</i> Kramer & Lange-Bertalot	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>intermedia</i> A.Mayer	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Caloneis</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>hattoriiana</i> Meister	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Cocconeis pediculus</i> Ehrenberg	Ogh-Meh	al-bi	ind																					
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cocconeis</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Cratichia cuspidata</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-Meh	al-1	ind																					
<i>Cymbella amphioxys</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella heteroplectra</i> var. <i>azizor</i> Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella minuta</i> Hilse ex Rabenhorst	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerwald	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella tumida</i> (Greb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Diatoma ehrenbergii</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Diatoma</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Diploneis oblongella</i> (Naeg.) Cleve-Euler	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-Meh	unk	unk																					
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Epithemia turgida</i> var. <i>westermanni</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					
<i>Eunotia arcus</i> Ehrenberg	Ogh-Meh	al-1	l-ph																					

種 類	生態性		II KSR1																II KSR2				III KSD1		
	堆分	pH	1層	3層	5層	8層	10層	12層	13層	14層	16層	16d層	20層	20e層	19層	25h層	X3層	X3層	X1層	X1層	4層	5層	1層	2層	
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-11	36	35	33	42	15	13	40	38	30	28	6	18	17	22	3	1	2						
<i>Eunotia exigua</i> (Breb.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-11							1																
<i>Eunotia faba</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-11							1																
<i>Eunotia formica</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-11																							
<i>Eunotia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-11							1																
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-11							1																
<i>Eunotia lunaris</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-11							7																
<i>Eunotia pectinialis</i> (Billwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-11							16																
<i>Eunotia pectinialis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-11							19																
<i>Eunotia pectinialis</i> var. <i>undulata</i> (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-11							4																
<i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-11	13						4																
<i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bideus</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-11							5																
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	22						8																
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-unk	unk							1																
<i>Fragilaria intermedia</i> Grunow	Ogh-unk	unk							1																
<i>Fragilaria ulna</i> (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-unk	unk							6																
<i>Fragilaria ulna</i> var. <i>arcus</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-unk	unk	3						6																
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen	Ogh-unk	unk							1																
<i>Fragilaria vaucheriae</i> var. <i>capitata</i> (Grun.) Patrick	Ogh-unk	unk							2																
<i>Fragilaria virescens</i> var. <i>capitata</i> Oestrup	Ogh-unk	unk							1																
<i>Fragilaria</i> spp.	Ogh-unk	unk	18						9																
<i>Fragilariforma virescens</i> (Ralfs) Williams & Round	Ogh-unk	unk							1																
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwaites) De Toni	Ogh-unk	unk							2																
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk							2																
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-unk	unk							27																
<i>Gomphonema angustum</i> C. Agardh	Ogh-unk	unk							3																
<i>Gomphonema augur</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk							3																
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-unk	unk							3																
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk							1																
<i>Gomphonema parvum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-unk	unk							8																
<i>Gomphonema quadrangulatum</i> (Oestr.) Wislouch	Ogh-unk	unk							26																
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk							1																
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	1						3																
<i>Grossigema scalarioides</i> (Rabenh.) Cleve	Ogh-unk	unk							4																
<i>Grossigema</i> spp.	Ogh-unk	unk							2																
<i>Hantzschia arcus</i> (Ehr.) Patrick	Ogh-unk	unk							2																
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-unk	unk							14																
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>capitata</i> Muller	Ogh-unk	unk							3																
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>minor</i> Grunow	Ogh-unk	unk							3																
<i>Hantzschia vivax</i> (W. Smith) M. Pregallo	Ogh-unk	unk							3																
<i>Karayevia clevei</i> (Grun.) Bukhtiyarova	Ogh-unk	unk							1																
<i>Laticula mutica</i> (Kuetz.) D. G. Mann	Ogh-unk	unk							1																
<i>Melosira varians</i> C. Agardh	Ogh-unk	unk							1																
<i>Meridion circulare</i> (Grev.) C. Agardh	Ogh-unk	unk							4																
<i>Meridion circulare</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) Van Heurck	Ogh-unk	unk							12																
<i>Navicula angusta</i> Grunow	Ogh-unk	unk							2																
<i>Navicula bryophila</i> Boye-Petersen	Ogh-unk	unk							6																
<i>Navicula confervacea</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula contenta</i> fo. <i>biceps</i> (Arn.) Hustedt	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula cryptocapitata</i> Kuetzing	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula digitaria</i> (Grev.) Ralfs	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula digitaria</i> (Grev.) Ralfs	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-unk	unk							14																
<i>Navicula katschyi</i> Grunow	Ogh-unk	unk							7																
<i>Navicula lapidosa</i> Krasske	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula lapidosa</i> Krasske	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula meniscoides</i> Schumann	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula mobilensis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula protracta</i> (Grun.) Cleve	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula viridula</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-unk	unk							1																
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk							1																

種 類	生態性		II KSR1																II KSR2				III KSD1		
	堆分	pH	1層	3層	5層	8層	10層	12層	13層	14層	16層	16d層	20層	20e層	19層	25h層	X3層	X3層	X1層	X1層	4層	5層	1層	2層	
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk																							
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-unk	unk																							
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-unk	unk																							
<i>Neidium productum</i> (W. Smith) Cleve	Ogh-unk	unk																							
<i>Neidium</i> spp.	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia debilis</i> (Arn.) Grunow	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia fonticola</i> Grunow	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia palustris</i> Hustedt	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia palustris</i> Hustedt	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia sigmoidea</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia umbonata</i> (Ehr.) Lange-Bertalot	Ogh-unk	unk																							
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk																							
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith	Ogh-unk	unk																							
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk																							
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Hustedt	Ogh-unk	unk																							
<i>Pinnularia divergens</i> W. Smith	Ogh-unk	unk																							
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk																							

第14表 平成28年度珪藻分析結果一覧凡例

塩分：塩分濃度に対する適応性	pH：水素イオン濃度に対する適応性	流水：流水に対する適応性
Euh：海水生種	al-bi：真アルカリ性種	l-bi：真止水性種
Euh-Meh：海水生種-汽水生種	al-il：好アルカリ性種	l-ph：好止水性種
Meh：汽水生種	ind：pH不定性種	ind：流水不定性種
Ogh-Meh：淡水生種-汽水生種	ac-il：好酸性種	r-ph：好流水性種
Ogh-hil：貧塩好塩性種	ac-bi：真酸性種	r-bi：真流水性種
Ogh-ind：貧塩不定性種	unk：pH不明種	unk：流水不明種
Ogh-hob：貧塩嫌塩性		
Ogh-unk：貧塩不明種		

【環境指標種】

- A:外洋指標種, B:内湾指標種, C1:海水藻場指標種, C2:汽水藻場指標種, D1:海水砂質干潟指標種, D2:汽水砂質干潟指標種, E1:海水泥質干潟指標種, E2:汽水泥質干潟指標種, F:淡水底生種群(以上、小杉1988)
 G:淡水浮遊性種群, H:河口浮遊性種群, J:上流性河川指標種, K:中～下流性河川指標種, L:最下流性河川指標種群,
 M:湖沼浮遊性種, N:湖沼沼沢湿地指標種, O:沼沢湿地付着生種, P:高層湿原指標種群, Q:陸域指標種群(以上、安藤1990)
 S:好汚濁性種, U:広適応性種, T:好清水性種(以上、Asai and Watanabe1995)
 R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内1991)

重要な要素である。結果としては、貧塩不定性種が優占するが、貧塩嫌塩性種も10%程度産出する。

次にpHに対する適応性は、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。結果は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も10%程度産出する。

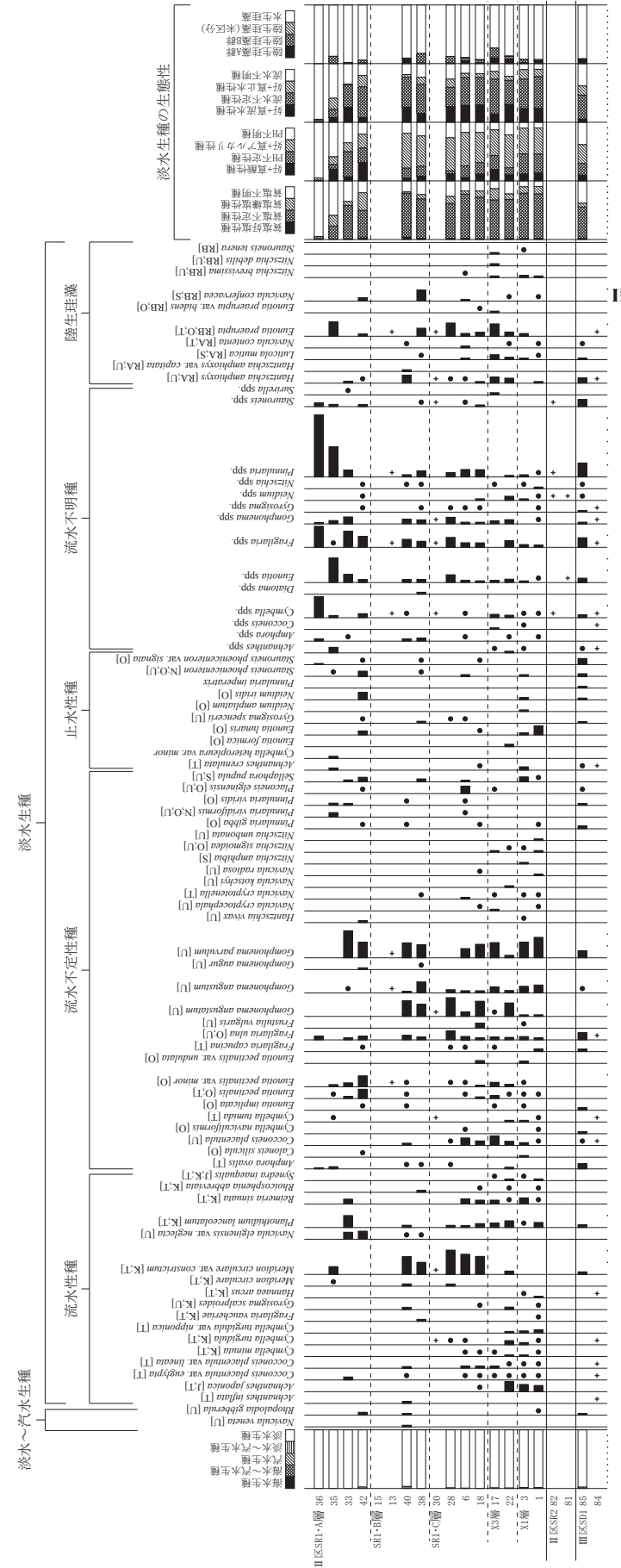
流水に対する適応性は、流れのある水域の基物(岩石・大型の藻類・水生植物など)に付着生育する種群であり、特に常時流のあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。結果は、流水不定性種が優占するが、流水性種と止水性種も産出し、それぞれ30%程度、20%程度産出する。

なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。本試料では水生珪藻が優占し、陸生珪藻の産出は低率である。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の、*Achnanthes japonica*、*Cymbella turgidula*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Planothidium lanceolatum*、*Reimeria sinuata*、淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustum*、*Gomphonema parvulum*、淡水生種で止水生種の*Eunotia lunaris*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Stauroneis* spp. などである。

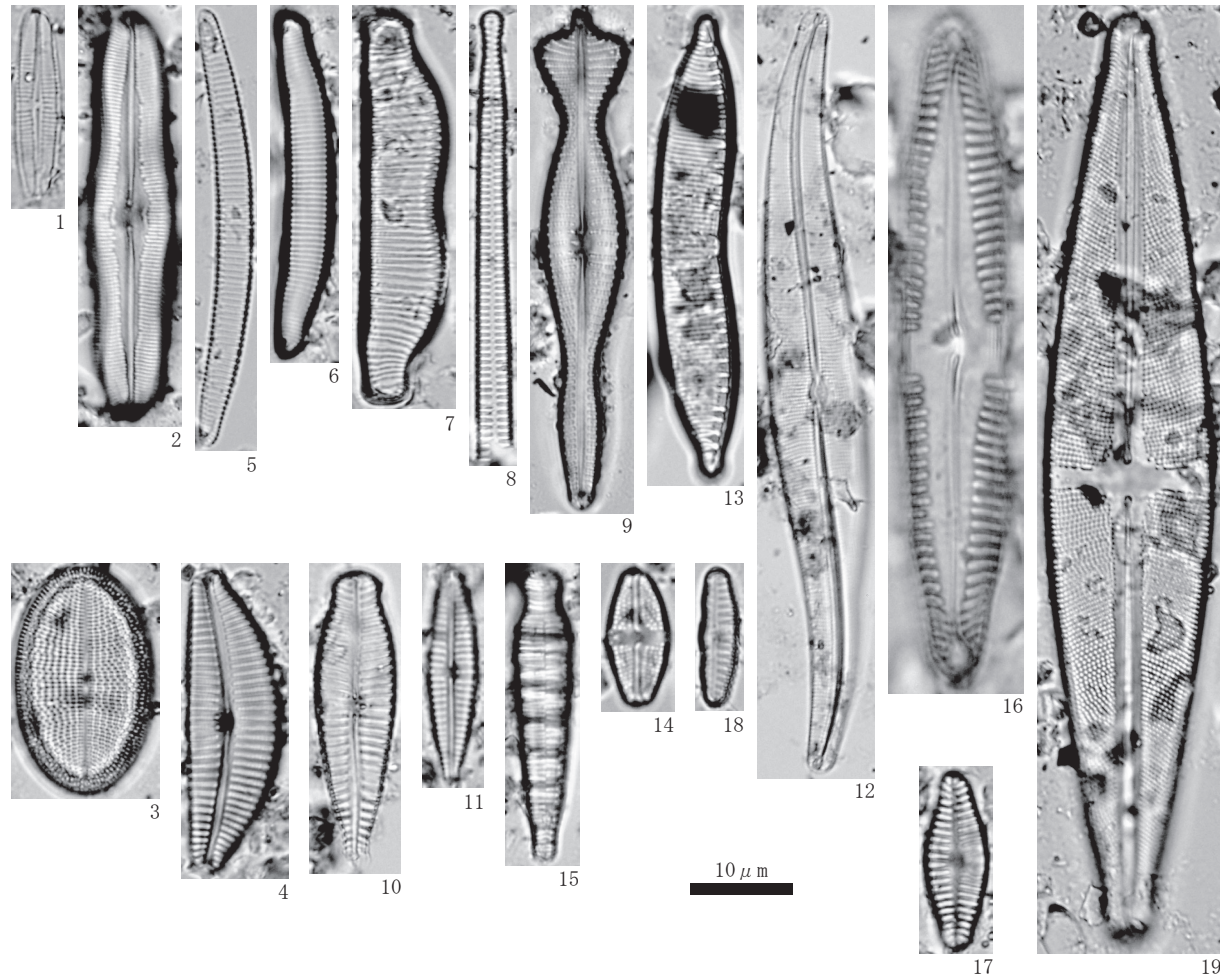
X 3層の試料番号22からは、139個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は貧塩不定性種が優占する。pHに対する



海水～汽水～淡水生種産出率・各種産出率・壳形産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。●=1%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

- 【環境指標種】
 A:外洋指標種, B:内湾指標種, C1:海洋藻場指標種, C2:汽水藻場指標種, D1:海水砂質干潟指標種, D2:汽水砂質干潟指標種, E1:海水泥質干潟指標種, E2:汽水泥質干潟指標種, F:淡水底生種群(以上、小杉1988)、G:淡水浮遊性種群, H:河口浮遊性種群, J:上流性河川指標種, K:中～下流性河川指標種, L:最下流性河川指標種群, M:湖沼浮遊性種, N:湖沼沼沢湿地指標種, O:沼沢湿地付着生種, P:高層湿原指標種群, Q:陸域指標種群(以上、安藤1990)、S:好汚濁性種, U:広適応性種, T:好清水性種(以上、Asai and Watanabe1995)、RI:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内1991)



1. *Achnanthes japonica* H.Kobayasi (Ⅱ区SR1;3)
2. *Caloneis silicula* (Ehr.) Cleve (Ⅱ区SR1;40)
3. *Cocconeis placentula* (Ehr.) Cleve (Ⅱ区SR1;40)
4. *Cymbella turgidula* Grunow (Ⅱ区SR1;3)
5. *Eunotia lunaris* (Ehr.) Grunow (Ⅱ区SR1;3)
6. *Eunotia pectinalis* (Dillwyn) Rabenhorst (Ⅱ区SR1;3)
7. *Eunotia praerupta* Ehrenberg (Ⅱ区SR1;3)
8. *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot (Ⅱ区SR1;40)
9. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg (Ⅱ区SR1;3)
10. *Gomphonema angustatum* (Kuetz.) Rabenhorst (Ⅱ区SR1;3)
11. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (Ⅱ区SR1;3)
12. *Gyrosigma spencerii* (W.Smith) Cleve (Ⅱ区SR1;40)
13. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (Ⅱ区SR1;40)
14. *Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann (Ⅱ区SR1;3)
15. *Meridion circulare* var. *constrictum* (Ralfs) Van Heurck (Ⅱ区SR1;40)
16. *Pinnularia gibba* Ehrenberg (Ⅱ区SR1;3)
17. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot (Ⅱ区SR1;3)
18. *Reimeria sinuata* (Greg.) Kociolek et Stoermer (Ⅱ区SR1;3)
19. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg (Ⅱ区SR1;3)

第146図 平成28年度珪藻化石写真

適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も10%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も40%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の、*Achnanthes japonica*、*Cymbella turgidula*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Meridion circulare* var. *constrictum*、*Planothidium lanceolatum*、淡水生種で流水不定性種の*Cocconeis placentula*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Stauroneis* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*、*Eunotia praerupta*などである。

同じくX3層の試料番号17からは、200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も20%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占するが、陸生珪藻も30%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の、*Cocconeis placentula* var. *lineata*、*Planothidium lanceolatum*、*Reimeria sinuata*、淡水生種で流水不定性種の*Cocconeis placentula*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Stauroneis* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*、*Luticola mutica*、*Eunotia praerupta*などである。

B. Ⅱ区SR1・C層 (試料番号6・18・28・30)

C層の試料番号6・18からは、いずれも200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も40%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circulare* var. *constrictum*、*Planothidium lanceolatum*、*Reimeria sinuata*、淡水生種で流水不定性種の*Cocconeis placentula*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*、*Eunotia praerupta*などである。

同じくC層の試料番号28からは、106個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も40%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circulare* var. *constrictum*、*Planothidium*

lanceolatum、淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp.、陸生珪藻の*Eunotia praerupta*などである。

同じくC層の試料番号30からは珪藻化石が少なく、30個体のみ産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

低率ながら産出した種は、淡水生種で流水性種の*Cymbella turgidula*、*Meridion circularae* var. *constrictum*、淡水生種で流水不定性種の*Gomphonema angustatum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Stauroneis* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*などである。

C. II区SR1・B層（試料番号13・15・38・40）

B層の試料番号38からは、116個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が多く認められることから、極不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も20%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circularae* var. *constrictum*、淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp.、陸生珪藻の*Eunotia praerupta*などである。

同じくB層の試料番号40からは、200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が多く認められることから、極不良～極々不良である。産出した珪藻の分類群は、淡水生種を主として、極低率に汽水生種および淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も30%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circularae* var. *constrictum*、*Planothidium lanceolatum*、淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*などである。

同じくB層の試料番号13からは31個体のみ産出し、試料番号15は無化石であった。試料番号13の保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が多く認められることから、極不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

低率ながら産出した種は、淡水生種で流水性種の*Cymbella turgidula*、*Meridion circularae* var. *constrictum*、*Planothidium lanceolatum*、淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp.、陸生珪藻の

*Hantzschia amphioxys*などである。

D. II区SR1・A層（試料番号33・35・36・42）

A層の試料番号42からは、200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占するが、嫌塩性種も30%程度産出する。pHに対する適応性は、好酸性種が30%程度、真アルカリ性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、止水性種と流水性種も産出しており、それぞれ20%程度、10%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、淡水生種で流水不定性種の*Eunotia pectinalis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema parvulum*、*Sellaphora pupula*、淡水生種で止水性種の*Eunotia lunaris*、*Neidium iridis*、*Stauroneis phoenicenteron*、淡水生種で流水不明種の*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Stauroneis* spp.などである。

同じくA層の試料番号33からは、117個体産出した。保存状態は壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、PH不定性種が優占するが、好アルカリ性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も30%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は極低率にしか産出しない。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Cocconeis placentula* var. *euglypta*、*Navicula elginensis* var. *neglecta*、*Planothidium lanceolatum*、*Reimeria sinuata*、淡水生種で流水不定性種の*Eunotia pectinalis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema parvulum*、*Sellaphora pupula*、淡水生種で流水不明種の*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Gomphonema* spp.、*Stauroneis* spp.などである。

同じくA層の試料番号35からは、105個体産出し、保存状態は壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した珪藻の分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不明種が優占するが、貧塩嫌塩性種も20%程度産出する。pHに対する適応性は、PH不明種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。次に流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好止水性種と好流水性種も産出しており、それぞれ20%程度、10%程度産出する。本試料では水生珪藻が優占するが、陸生珪藻も10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circularae* var. *constrictum*、淡水生種で流水不定性種の*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Pinnularia viridiformis*、*Pinnularia viridis*、淡水生種で止水性種の*Achnanthes crenulata*、淡水生種で流水不明種の*Eunotia* spp.、*Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp.、*Stauroneis* spp.、陸生珪藻の*Eunotia praerupta*などである。

同じくA層の試料番号36からは100個体産出し、保存状態は壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が認められることから、極不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不明種が優占する。pHに対する

適応性は、pH不明種が優占する。流水に対する適応性は、流水不明種が優占する。また、本試料では水生珪藻のみが産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水不定性種のFragilaria ulna、淡水生種で流水不明種のEunotia spp.、Gomphonema spp.、Pinnularia spp.、Stauroneis spp.などである。

E. II区SR2 (試料番号81・82)

試料番号81・82の珪藻の産状は、ほぼ同様の傾向を示し、いずれも10個体未満しか産出しなかった。保存状態は、壊れた殻が多く、溶解の痕跡が多く、殻に認められることから、極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

低率ながら産出した種は、淡水生種で流水不明種のCymbella spp.、Neidium spp.、Pinnularia spp.、Stauroneis spp.などである。

F. III区SD1 (試料番号84・85)

試料番号84は珪藻化石が少なく、46個体のみ産出である。保存状態は、壊れた殻が多いことから、不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

低率ながら産出した種は、淡水生種で流水性種のCocconeis placentula var. euglypta、淡水生種で流水不明種のFragilaria spp.などである。

試料番号85からは134個体産出した。保存状態は壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が認められることから、極々不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不明種が優占する。pHに対する適応性は、PH不明種が優占するが、好アルカリ性も30%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不明種が優占する。また、本試料では水生珪藻が優占するが、陸生珪藻も10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水不定性種のFragilaria ulna、淡水生種で流水不明種のEunotia spp.、Gomphonema spp.、Pinnularia spp.、Stauroneis spp.などである。

2) 平成29年度 (第147～149図、第15表)

A. III区SR2・C層 (試料番号8～10)

下位から陸生珪藻が33%から42%を占める。陸生珪藻のAchnanthes minutissimaが優占種が優占する。真・好流水性種では、Achnanthes lanceolataなど中～下流性河川指標種の出現率が比較的高い。沼沢湿地付着生種もCocconeis placentulaが出現する。流水不定性種では、Fragilaria capucinaなどが出現する。

B. III区SR2間層2 (洪水層) (試料番号7)

陸生珪藻が38%と多いが、真・好流水性種が31%に増加する。陸生珪藻のAchnanthes minutissimaが優占するが、真・好流水性種では、中～下流性河川指標種のAchnanthes lanceolata、Cymbella sinuata、Cymbella turgidula、沼沢湿地付着生種のCocconeis placentulaの出現率がやや高い。流水不定性種では、Fragilaria capucinaなどが出現する。

C. III区SR2・B層 (試料番号3～5)

下位の試料番号5は、試料番号7と類似した組成を示し、陸生珪藻のAchnanthes minutissimaが優占するが、真・好流水性種では、中～下流性河川指標種のAchnanthes lanceolata、Cymbella sinuata、Cymbella turgidula、沼沢湿地付着生種のCocconeis placentulaの出現率がやや高い。流水不定性種では、Fragilaria capucinaなどが出現する。

第15表 平成29年度珪藻分析結果一覧表

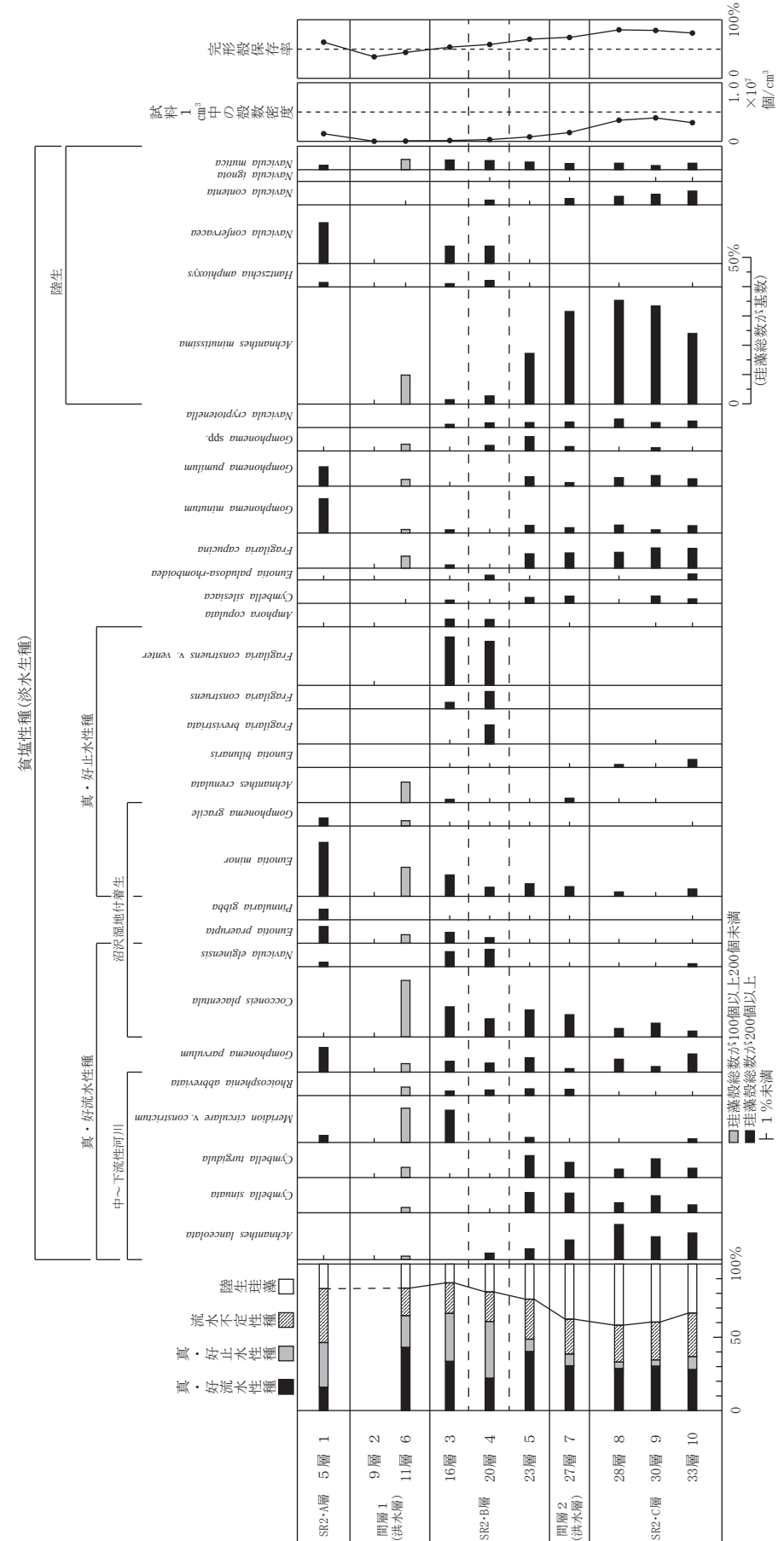
種類	III区SR2										IV区SR1							
	5層	9層	16層	20層	23層	11層	27層	28層	30層	33層	1b層	2a層	3b層	4a層	5層	6層	7層	8層
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
貧塩性種 (淡水性種)																		
Achnanthes crenulata			3	2	1	12	5	1	1			2	27	8	1	1		1
Achnanthes exigua				1			2	3			1			1	1		1	
Achnanthes hungarica				1			1			1	13							
Achnanthes inflata	1		1	1	1			1					1					1
Achnanthes lanceolata	3	1		7	13	2	22	49	28	37	51	1		2	10	41	9	17
Achnanthes minutissima		3	4	9	60	17	104	145	121	98	18			7	48	103	9	32
Achnanthes sp.							1											
Actinella brasiliensis								1										
Amphora copulata	3	2	7	8			1		1	1	8	3	9	3	5			
Amphora fontinalis				1		3	7				1			1				
Amphora montana									1		62						4	
Amphora ovalis				1										1				
Amphora spp.						2		3	2	2	1							
Amphora veneta							2							2				
Aulacoseira alpigena					1													
Aulacoseira ambigua				5	10													
Caloneis bacillum					2						1				2	1	1	2
Caloneis silicula					1			1	2	1	2				1			
Cocconeis disculus																		1
Cocconeis placentula	1	3	28	20	32	33	25	12	17	8			10	45	28	29	4	10
Cymbella cistula											1		1					
Cymbella cuspidata											1		1	1				
Cymbella gracilis																1		
Cymbella minuta								3										1
Cymbella naviculiformis	1		1	3	1		1		1	1	4							
Cymbella silesiaca			3	2	7	1	8	3	9	6	2	1		2	15	27	2	3
Cymbella sinuata				2	24	3	22	14	21	11	1			4	39	24	5	5
Cymbella tumida				2	4	1	1		2	3			5	17	3	2		1
Cymbella turgidula		1	2	2	26	6	17	12	23	13				40	58	46	2	6
Diatoma mesodon					5		1	2	2	3				4		3		
Diatoma tenuis									1	2								
Diatomella balfouriana							1								1			
Diploneis elliptica												1	1					
Diploneis pseudovalis												2						4
Diploneis spp.																		1
Epithemia adnata			1				1	1					1	1				
Eunotia arcus						1				1								
Eunotia bilunaris				1	3			1	4	2	11	1	1	2	3	2	8	21
Eunotia minor	61	6	20	10	15	17	11	6	2	10		3	8	12	5	7	5	14
Eunotia paludosa-rhomboidea	2	3	2	5	3			2		8						4	6	12
Eunotia pectinalis	7												1	1	1		1	
Eunotia praerupta	19	3	10	6	2	5	3	1	1	1		6	18	53	8	3	17	39
Eunotia spp.	1				1							1			1	1	2	
Fragilaria brevistriata				1	21					1								
Fragilaria capucina		1	3	3	17	7	17	22	25	27	13			18	28	46	12	15
Fragilaria construens				6	19													
Fragilaria construens v. venter			3	45	48													
Fragilaria elliptica					2													
Fragilaria exigua				2	1					1							2	
Fragilaria parasitica												8						
Fragilaria spp.										1								
Frustulia vulgaris			1	1	2		4	2	4	1	3						7	1
Gomphonema acuminatum	7				1			1	1		1	1	1	2	1			
Gomphonema angustatum					1	1	1				1			1		2	1	
Gomphonema angustum	2	1	2	1	2					1				1				1
Gomphonema augur	2		1										2					
Gomphonema clevei	7	1	3	1	3					1		7	13	8	1	2	5	
Gomphonema gracile	9		2	3	1	3	1				2	3	1	2	1		3	10
Gomphonema minutum	39		3	3	9	2	6	11	4	10	14	2	3	6	14	21	27	
Gomphonema olivaceum							1	2	1	1					2	4	2	1
Gomphonema parvulum	28	4	10	10	17	5	4	18	7	25	54	1		4	13	13	17	16
Gomphonema pumilum	22		2		11	4	4	12	13	10				25	14	24	21	23
Gomphonema spp.	2	1	2	6	17	4	5	2	4	3	3			9	6	8		
Gomphonema truncatum						1												
Gyrosigma spp.							1				1	1		1	1	1	13	
Hantzschia amphioxys	5	1	3	7	2	1		1		1	18	6	12		1	1	1	3
Meiosira varians								1	1								2	
Meridion circulare v. constrictum	8	2	30	3	6	20	1	1		5		1	1	3	1	1		1
Navicula americana				1	2													
Navicula atomus																	4	
Navicula bacillum						1		1										
Navicula cobnii								1		1								
Navicula confervacea	46	2	16	19	1						11							
Navicula contenta				5	3	1	7	12	13	19	10	1				16	50	84
Navicula cryptocephala										1						2	1	
Navicula cryptotenella			3	5	6		6	12	6	9	1				8	17	11	6
Navicula cuspidata	1										1							
Navicula elginensis	5		14	19	2		1	1	2	4	45	1		2	1	2	1	
Navicula gallica				1			1	1	1	1	5			1			1	
Navicula goeppertiana					2			1		2			1	4	1	3	6	9
Navicula ignota				3			1		1	1	1						1	
Navicula kotschyi					3		1	4	3	3	4					1	2	2
Navicula laevisissima				1	2	1					2		1			1	1	2
Navicula margalithii											2							10
Navicula mutica	5		9	10	9	6	7	9	5	9	10	10	30	4	3	1	8	11

種類	Ⅲ区SR2										Ⅳ区SR1							
	5層	9層	16層	20層	23層	11層	27層	28層	30層	33層	1b層	2a層	3b層	4a層	5層	6層	7層	8層
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
<i>Navicula mutica</i> v. <i>ventricosa</i>									1					1				
<i>Navicula muticoides</i>																	10	16
<i>Navicula pseudoacceptata</i>																	3	
<i>Navicula pupula</i>			1	4				1	1	3	17	1			2	1	1	2
<i>Navicula radiosa</i>								1	1	1								
<i>Navicula spp.</i>			1		1		1	3	2	4	2					1	2	2
<i>Navicula veneta</i>			1	1			1	7	2	4	43					6		
<i>Navicula viridula</i>										1								
<i>Navicula yuraensis</i>							4	3										
<i>Neidium affine</i>											1						1	
<i>Neidium alpinum</i>				1	4	1					2				1	2	1	
<i>Neidium ampliatum</i>	1				1				1	1	4			3	1	2		
<i>Nitzschia amphibia</i>				1			1				12							
<i>Nitzschia clausii</i>									2							4	12	8
<i>Nitzschia debilis</i>							1	1		1	1							
<i>Nitzschia levidensis</i>										1								
<i>Nitzschia nana</i>								1		3				1	2	4		
<i>Nitzschia palea</i>									2	5	9				3	6		
<i>Nitzschia paleacea</i>										2								
<i>Nitzschia spp.</i>			1			1	7	4	1	3					1	5		
<i>Orthoseira dendroteres</i>					1													
<i>Orthoseira rooseana</i>			1		2													
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	1									1		1						1
<i>Pinnularia aestuarii</i>												1						
<i>Pinnularia appendiculata</i>								1		1	3							
<i>Pinnularia braunii</i>																1		
<i>Pinnularia brevicostata</i>																		1
<i>Pinnularia divergens</i>	1						1			2	1	7		1			2	
<i>Pinnularia gibba</i>	12		1	1	2		1			3				3	1		1	
<i>Pinnularia hemiptera</i>	1	1									1		2		2			
<i>Pinnularia lagerstedtii</i>				1	1						2				1			3
<i>Pinnularia major</i>	1																	
<i>Pinnularia microstauron</i>	8									3		1		3	3			
<i>Pinnularia nodosa</i>	2									1	3					1	7	1
<i>Pinnularia obscura</i>										1	1					1		
<i>Pinnularia schoenfelderi</i>				1		2	1		1		44						4	1
<i>Pinnularia schroederii</i>			1	1	2	1	2				4							
<i>Pinnularia spp.</i>	1						2			1	3	1				3	1	
<i>Pinnularia subcapitata</i>				1	1					1	5		1				2	
<i>Pinnularia viridis</i>	8		1	2				1		1			22			1	1	
<i>Rhicosphenia abbreviata</i>			4	6	8	5	7	3	3	3		1	24	11	8	1	2	
<i>Rhopalodia gibba</i>			2															
<i>Rhopalodia gibberula</i>				1								1		1		1		8
<i>Stauroneis acuta</i>											1							
<i>Stauroneis anceps</i>														1	1			
<i>Stauroneis lauenburgiana</i>					1						1			1				
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>								1		1	1		2	2	1			
<i>Stauroneis smithii</i>					3		1	1	2	2					2		1	
<i>Surirella angusta</i>									3		6						1	
<i>Surirella ovata</i>										1	2							
<i>Surirella tenera</i>										1	1							
<i>Synedra ulna</i>				1	2	1	2	2	1	1			4	22	6	3	1	1
<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>			3	3	1	2		3					1					
合計	332	39	273	321	347	171	329	410	361	406	554	46	182	348	363	519	344	441
未同定	3		3	12	7	4	6	3	8	7	6	8	9	3	6	8	6	5
破片	206	66	241	241	175	219	142	84	81	121	184	201	442	257	148	133	88	162
試料1cm ² 中の殻数密度	1.3	7.8	1.4	3.0	7.6	3.5	1.5	3.6	4.0	3.2	7.0	1.1	3.8	3.4	2.8	5.1	1.4	5.5
完形殻保存率 (%)	61.9	37.1	53.4	58.0	66.9	44.4	70.2	83.1	82.0	77.3	75.3	21.2	30.2	57.7	71.4	79.8	79.9	73.4

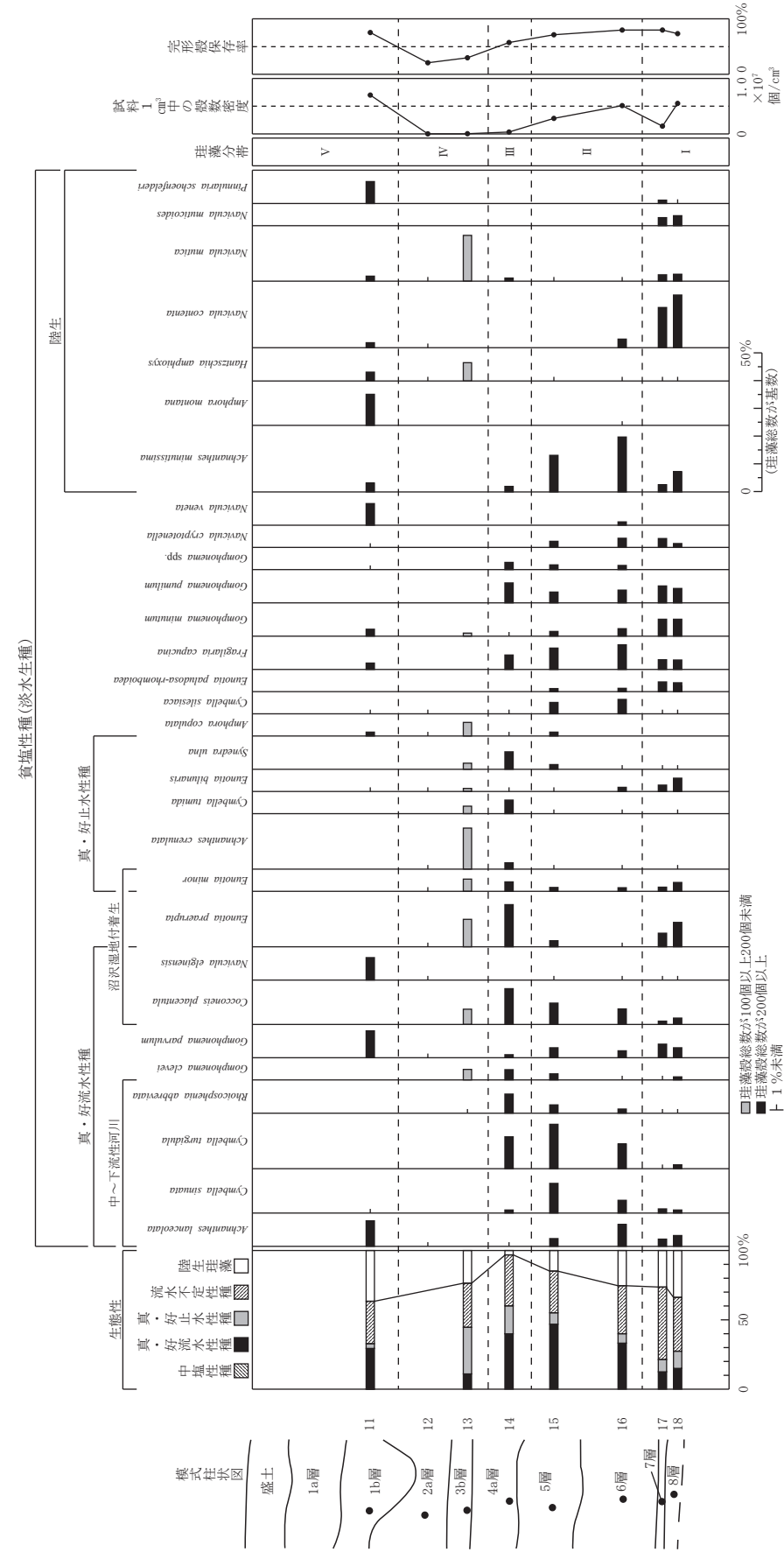
試料番号4では、真・好止水性種のFragilaria construens v. venterを主にFragilaria brevistriata、Fragilaria construensの真・好止水性種の出現率が高くなり約40%を占める。真・好流水性種と陸生珪藻は激減するが、沼沢湿地付着生種のNavicula elginensisや陸生珪藻のNavicula confervaceaは増加する。試料番号3は、試料番号4と類似するが、真流水性種で中～下流性河川指標種のMeridion circulare v. constrictumや流水不定性種で沼沢湿地付着生種のEunotia praeruptaのは増加する。

D. Ⅲ区SR2間層1（洪水層）（試料番号2・6）

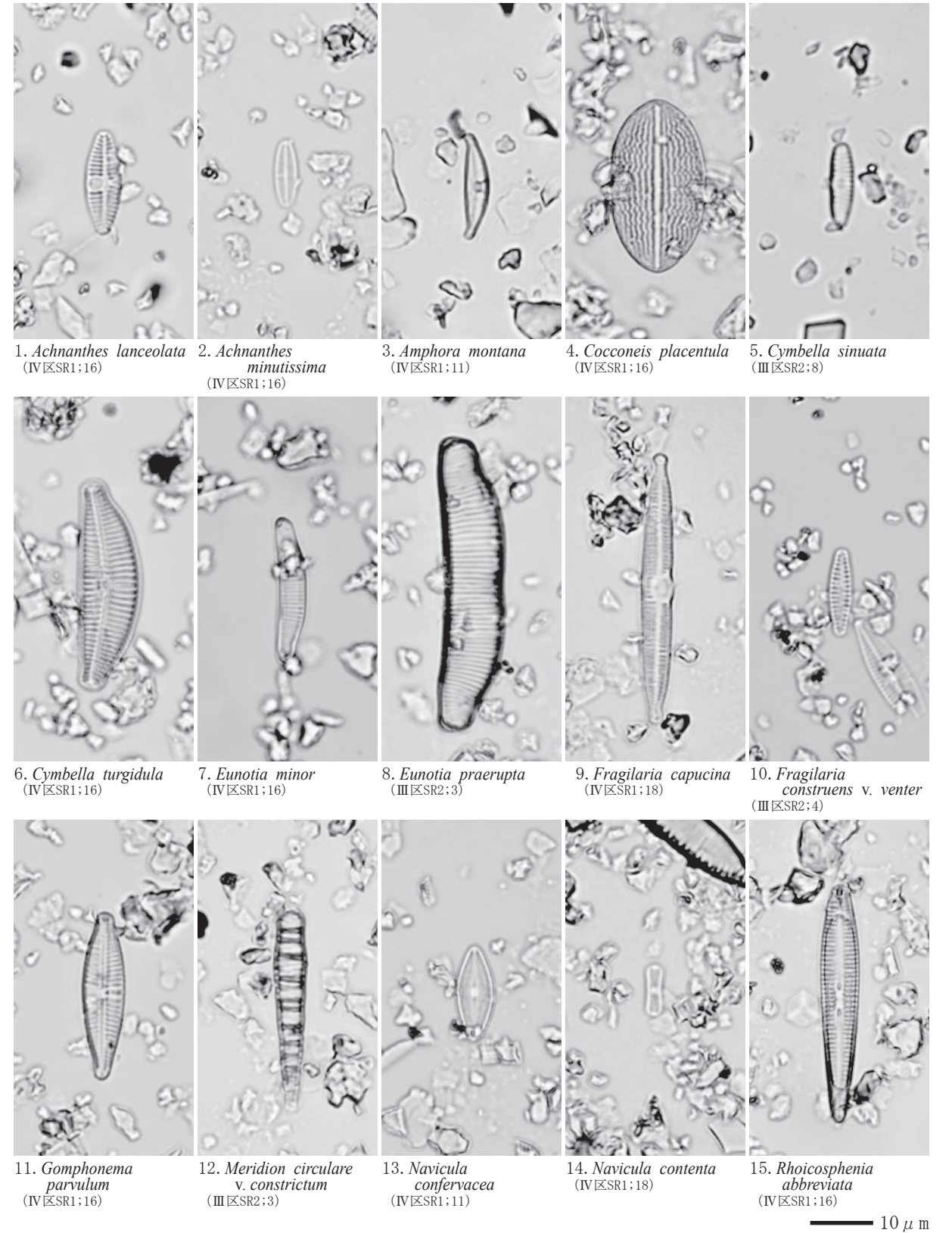
試料番号6では珪藻密度がやや低く、真・好流水性種が増加し40%以上を占める。真・好流水性種では、沼沢湿地付着生種のCocconeis placentula、中～下流性河川指標種のMeridion circulare v. constrictumが比較的多い。真・好止水性種では、沼沢湿地付着生種のEunotia minor、好止水性種のAchnanthes crenulata、陸生珪藻のAchnanthes minutissimaがやや増加する。試料番号2では、密度が極めて低く、珪藻はほとんど検出されないが、沼沢湿地付着生種のEunotia minor、好流水性種の



第147図 平成29年度Ⅲ区珪藻化石群集変遷図



第148図 平成29年度IV区珪藻化石群集変遷図



第149図 平成29年度珪藻化石写真

Gomphonema parvulumなどがわずかに出現する。

E. Ⅲ区SR2・A層（試料番号1）

流水不定性種が37%、真・好止水性種が30%、陸生珪藻が17%、真・好流水性種が16%を占める。出現率が高いのは好止水性種で沼沢湿地付着生種のEunotia minorで、Gomphonema gracile、Eunotia praerupta、Pinnularia gibbaが伴われる。流水不定性種では、Gomphonema minutum、Gomphonema parvulumが比較的多く、陸生珪藻ではNavicula confervaceaの出現率が高い。

F. Ⅳ区SR1 7・8層 I帯（試料番号17・18）

流水不定性種が約40%と優勢であり、陸生珪藻、真・好流水性種、真・好止水性種と続く。陸生珪藻のNavicula contentaが最も出現率が高く、流水不定性種のGomphonema minutum、Gomphonema pumilumや沼沢湿地付着生種のEunotia praerupta、好止水性種のEunotia bilunaris、好流水性種のGomphonema parvulum、中～下流性河川指標種のAchnanthes lanceolataなどがやや低率に出現する。

G. Ⅳ区SR1 5・6層 II帯（試料番号15・16）

真・好流水性種の占める割合が40%前後に増加する。中～下流性河川指標種のCymbella sinuata、Cymbella turgidula、Achnanthes lanceolata、沼沢湿地付着生種のCocconeis placentulaが増加する。陸生珪藻ではAchnanthes minutissimaの出現率が高くなり、流水不定性種では、Fragilaria capucina、Cymbella silesiaca、Gomphonema pumilum、Navicula cryptotenellaが比較的多い。

H. Ⅳ区SR1 4a層 III帯（試料番号14）

真・好流水性種が40%と流水不定性種が37%を占め優勢である。真・好流水性種では、中～下流性河川指標種のCymbella turgidula、Rhoicosphenia abbreviata、沼沢湿地付着生種のCocconeis placentula、好流水性種のGomphonema parvulumの出現率がやや高い。流水不定性種では、沼沢湿地付着生種のEunotia praeruptaが比較的多く、Gomphonema pumilum、Fragilaria capucinaが伴われる。

I. Ⅳ区SR1 2a・3b層 IV帯（試料番号12・13）

真・好流水性種が減少し低率になる。好止水性種のAchnanthes crenulataを主にSynedra ulna、沼沢湿地付着生種のEunotia minorが出現し、陸生珪藻のNavicula mutica、Hantzschia amphioxys、流水不定性種で沼沢湿地付着生種のEunotia praeruptaやAmphora copulataが出現する。試料番号12では密度が極めて低く、珪藻はほとんど検出されない。

J. Ⅳ区SR1 1b層 V帯（試料番号11）

陸生珪藻が約40%で優勢になる。特に優占する種は認められず、陸生珪藻では、Amphora montana、Pinnularia schoenfelderiiが比較的多く、Achnanthes minutissima、Hantzschia amphioxysなどが伴われる。真・好流水性種では、中～下流性河川指標種のAchnanthes lanceolata、好流水性種のGomphonema parvulum、沼沢湿地付着生種のNavicula elginensis、流水不定性種のNavicula venetaが出現する。

4 花粉分析の結果

1) 平成28年度（第150～152図、第16表）

花粉化石は、ほとんどの試料より豊富に産出し、保存状態も全体的に良好である。以下、地点毎に産状を述べる。

A. Ⅱ区SR1 X1～X3層（試料番号1・3・17・22）

X1層（試料番号1・3）、およびX3層（試料番号17・22）の4試料では、いずれも木本花粉が優占し、スギ属、クルミ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが多く産出し、サワグルミ属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ属、トチノキ属、トネリコ属などを伴う。草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科などがやや多く産出する。この他、ガマ属、ミクリ属、オモダカ属、イボクサ属、コウホネ属、ゴキヅル属などの水湿地生草本、サンショウモなどの水生シダ類も産出する。

B. Ⅱ区SR1・C層（試料番号6・18・28・30）

C層の4試料では、試料番号30は花粉化石の産出が少なく定量解析に至らなかったが、他の3試料より多産した種類などが検出されることから、基本的には同様の群集組成を示していると思われる。試料番号30を除く3試料は、いずれの試料も木本花粉の出現率が高い。スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属などが多く産出し、マツ属、クルミ属、アカガシ亜属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属などを伴う。層位変化についてみると、ハンノキ属が増加傾向を示す一方、コナラ亜属は減少傾向にある。草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節などが多く認められ、ミズバショウ属、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ヒシ属、ゴキヅル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属、サンショウモ、アカウキクサ属などの水湿地生シダ類も産出する。

C. Ⅱ区SR1・B層（試料番号13・15・38・40）

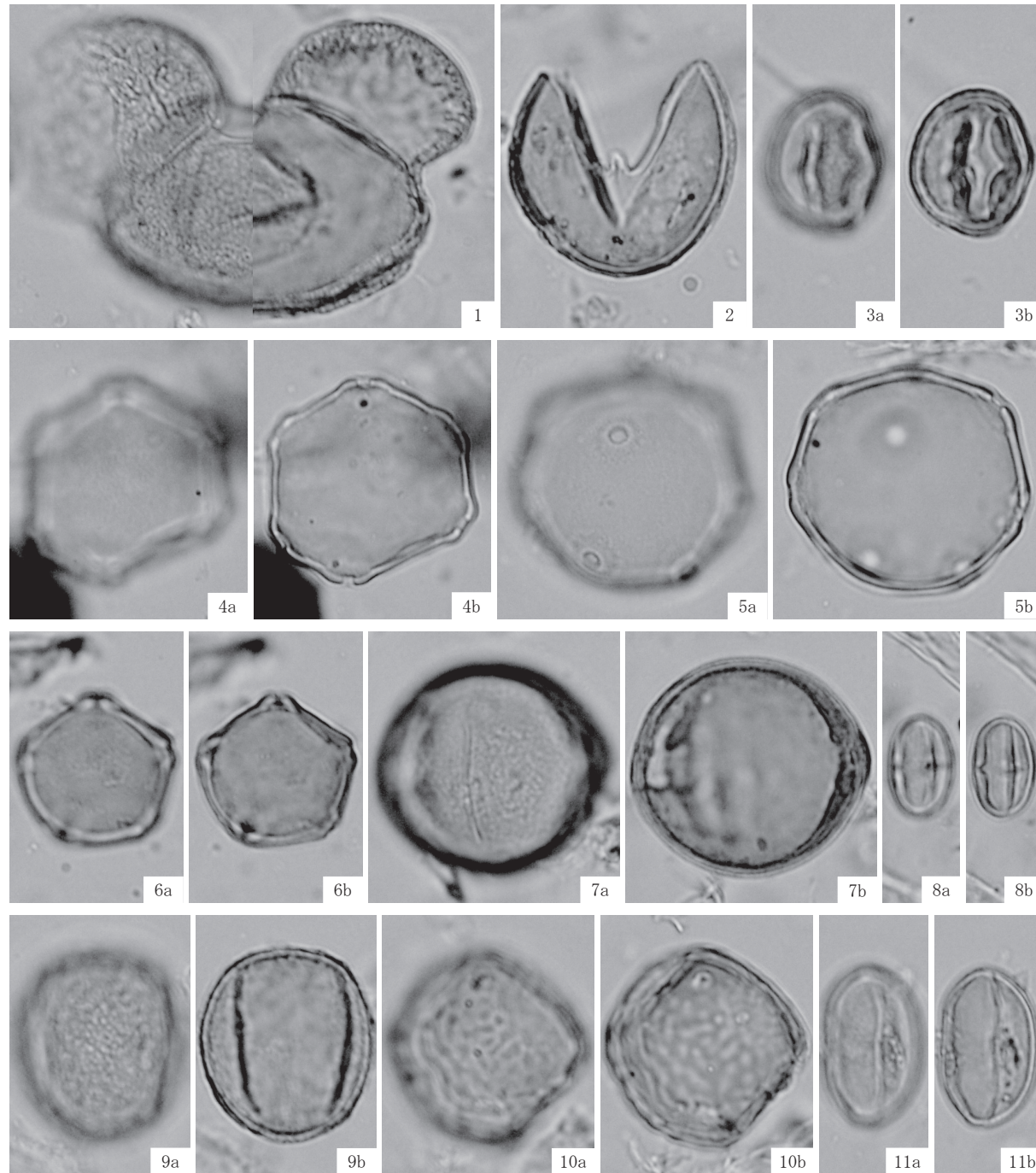
B層の4試料は、X1・3層およびSR1・C層と比較すると草本花粉の出現率がやや高率となる。木本花粉は、スギ属とハンノキ属が多産し、マツ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属などを伴う。草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科が多く、クワ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属、キク亜科などを伴う。イネ科には、栽培種であるイネ属に形態が類する個体（以下、イネ属型）も認められる。イネ科全体に占めるイネ属型の割合は、試料番号38が13.9%、試料番号40が6.6%、試料番号15が4.7%である。この他、ミズバショウ属、ガマ属、ミクリ属、ヒルムシロ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ヒシ属、ゴキヅル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属などの水湿地生シダ類も産出する。

D. Ⅱ区SR1・A層（試料番号33・35・36・42）

A層の4試料は、試料番号42より上位の3試料において木本花粉の出現率が高くなる。木本花粉は、ハンノキ属が最も多く産出し、上位の層準に向かって増加傾向を示す。次いでスギ属が多く、マツ属、クマシデ属-アサダ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属、モチノキ属などを伴う。草本花粉は、SR1・B層と同様にイネ科、カヤツリグサ科が多く、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科などを伴う。なお、イネ科にはイネ属型も認められ、イネ属型の割合は試料番号42が12.8%、試料番号33が10.2%、試料番号35が22.6%、試料番号36が25.8%である。この他、ミズバショウ属、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ミツガシワ属、ゴキヅル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属、サンショウモなどの水湿地生シダ類も産出する。

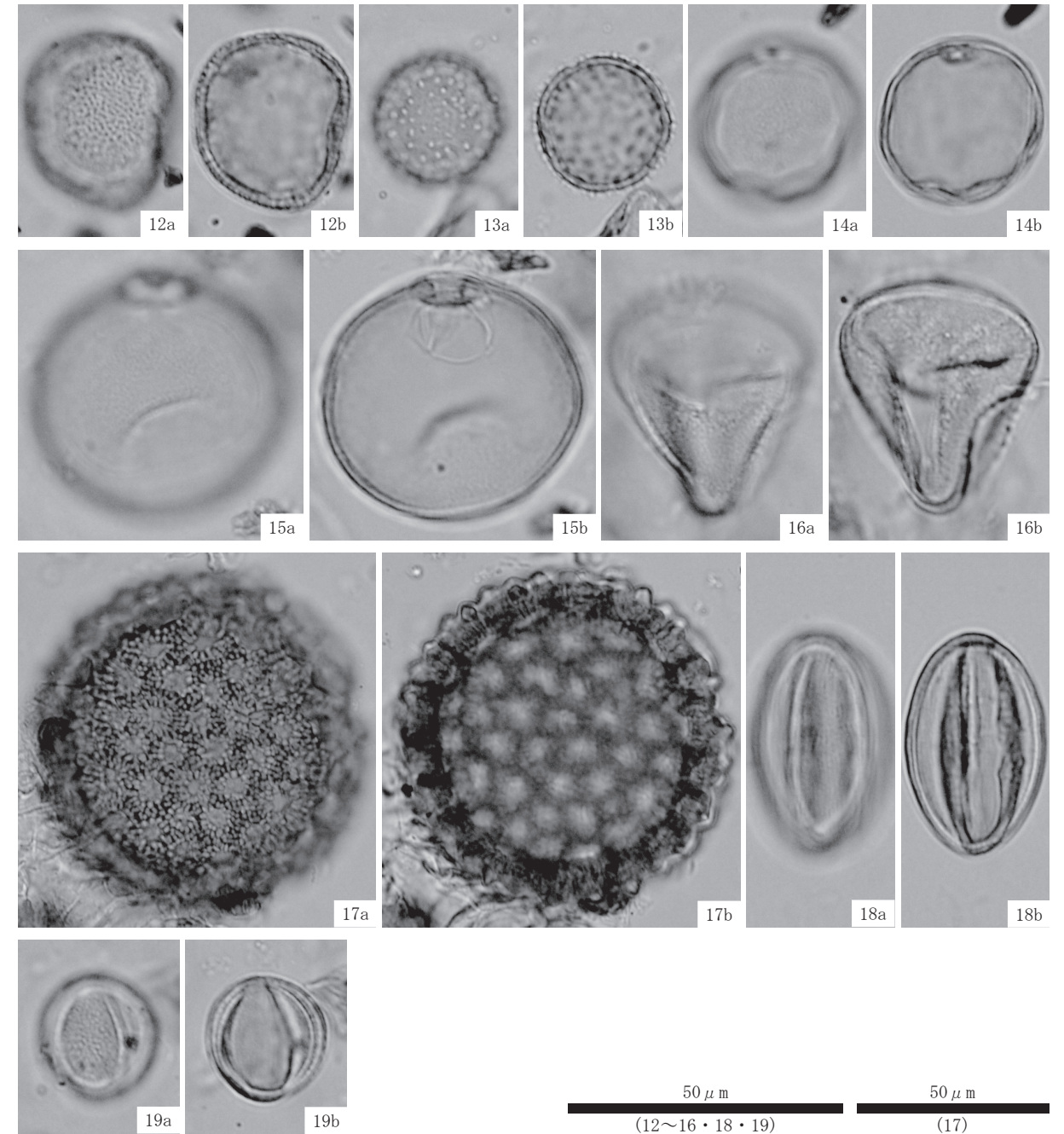
第16表 平成28年度花粉分析結果一覧表

種類	II区SR1													II区SR2		III区SD1				
	1層	3層	6層	8層	10層	12層	16a層	16b層	20d層	20e層	19層	26b層	X3層	X3層	X1層	X1層	4層	5層	1層	2層
木本花粉	36	35	33	42	15	13	40	38	30	28	6	18	17	22	3	1	82	81	85	84
マキ属	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-
モミ属	1	1	2	3	5	2	5	4	-	3	1	-	-	-	1	1	1	3	-	-
ツグ属	1	-	2	1	2	2	2	1	-	-	-	5	1	4	2	1	-	1	1	-
マツ属単維管束亜属	-	1	2	1	1	1	1	1	-	1	1	2	-	-	1	3	-	-	1	-
マツ属複維管束亜属	5	2	13	3	5	2	7	8	-	4	4	4	1	1	1	1	1	6	6	-
マツ属(不明)	4	3	6	7	7	12	5	7	-	17	8	2	4	5	4	4	7	6	9	-
コウヤマキ属	-	1	2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	1	-	2	-	-	3	1	-
スギ属	51	39	63	38	68	77	43	57	2	47	34	65	28	13	20	32	98	146	71	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2	-	6	6	8	11	2	5	-	4	8	7	5	6	8	10	5	1	3	-
ヤナギ属	-	-	1	1	-	-	1	1	-	7	2	1	-	1	4	2	-	-	-	-
ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
サワグルミ属	5	2	4	3	2	1	1	8	-	1	1	9	7	10	14	14	-	-	3	-
クルミ属	1	1	3	3	1	-	1	12	-	6	5	11	15	33	13	19	1	1	1	-
クマシダ属-アサダ属	6	4	8	10	2	2	3	10	1	3	13	1	9	9	8	3	3	7	2	-
カバノキ属	2	1	1	1	4	-	3	-	1	4	2	-	2	-	2	3	1	2	1	-
ハンノキ属	152	120	109	72	76	56	47	39	7	61	21	41	12	18	18	29	91	29	64	-
ブナ属	23	20	24	20	24	13	14	37	2	9	29	10	38	18	35	30	17	61	16	1
コナラ属コナラ亜属	9	10	9	12	14	19	21	47	5	27	30	15	30	62	30	43	12	17	14	-
コナラ属アカガシ亜属	9	12	12	20	21	13	17	18	-	16	19	16	10	14	11	8	21	24	15	-
クリ属	2	1	1	3	2	1	3	2	6	35	4	13	4	1	2	2	2	3	2	-
シイ属	-	-	-	1	-	-	2	1	-	4	-	2	1	1	-	3	3	1	1	-
ニレ属-ケヤキ属	11	5	16	18	8	17	14	29	1	4	24	4	9	18	17	19	6	34	13	-
エノキ属-ムクノキ属	-	-	4	3	4	2	9	13	-	2	8	4	10	15	8	7	-	3	2	-
ヤドリギ属	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
サクラ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
サンショウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カラスザンショウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ属	-	1	1	-	1	-	-	-	-	1	2	1	2	8	2	6	-	-	1	-
アカメガシワ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
シラキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	2	3	2	1	1	-	-	2	-	-	-	-	1	-	2	1	1	1	2	-
モチノキ属	9	13	5	3	2	2	-	1	-	-	2	-	1	-	-	-	9	4	3	1
カエデ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	2	-	1	1	2	-	-	-
トチノキ属	1	2	1	2	3	-	1	-	-	8	1	12	6	5	18	8	1	2	1	-
ブドウ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ノドウド属	1	-	1	-	-	-	2	1	-	2	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-
ツタ属	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウコキ科	-	2	1	-	2	1	-	2	-	3	1	1	2	5	-	1	1	1	-	-
ミズキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エゴノキ属	1	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-	1	4	2	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	5	-
トネリコ属	1	-	1	1	1	-	-	-	-	2	1	1	9	2	9	-	-	-	-	-
ニワトコ属	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ガマズミ属	-	-	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
草本花粉	-	-	-	1	1	1	4	-	1	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズバショウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ガマ属	2	1	1	6	6	1	5	6	1	1	2	-	2	-	-	-	1	1	-	-
ミクリ属	1	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
ヒルムシロ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
サジメモダカ属	-	1	1	2	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
オモダカ属	1	3	1	2	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	4	1	2	-
イネ科(イネ属型)	16	7	5	13	6	-	8	15	-	-	-	-	-	-	-	-	9	1	9	-
他のイネ科	46	24	44	89	121	47	113	93	6	22	73	8	7	17	10	3	108	66	77	2
カヤツリグサ科	15	4	12	24	30	39	23	33	6	22	23	9	6	4	5	6	29	24	17	1
イボクサ属	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	-	-	-	2	3	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	1	2	-
クワ科	3	-	2	-	4	2	5	5	-	-	4	-	1	1	3	2	4	-	3	-
ギンギク属	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	3	3	9	3	15	9	3	7	-	9	4	1	4	-	-	-	1	12	14	-
タデ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科	-	-	-	-	-	-	1	-	2	4	-	3	1	-	1	-	1	-	2	-
ナデシコ科	-	-	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-
コウホネ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-
キンボウゲ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3	-
アブラナ科	-	2	1	5	5	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	5	2	2	-
バラ科	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
マメ科	-	-	1	1	-	-	1	-	2	-	1	3	1	-	-	-	-	-	2	-
トリフネソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミソハギ属	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
キカシグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒシ属	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
アカバナ属-ミズユキノシタ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	1	-	1	5	1	1	3	1	-	2	3	-	-	-	-	2	5	1	2	-
ミツガシワ属	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シソ科	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-
ヤエムグラ属-アカネ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゴキソル属	3	7	9	2	3	3	10	13	1	8	11	1	3	8	2	30	7	11	7	-
ヨモギ属	3	-	4	2	1	3	5	5	-	4	1	2	2	-	2	1	5	12	5	-
オナモミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キク亜科	3	1	2	2	3	2	1	2	1	3	1	1	-	-	-	1	1	1	4	1
タンポポ科	1	1	1	-	-	2	-	2	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
不明花粉	7	9	12	12	7	4	12	13	3	11	4	2	9	10	10	7	8	4	3	-
シダ類胞子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒカゲカズラ属	1	-	-	1	1	2	1	2	-	5	-	1	-	1	-	1	-	-	1	-
ゼンマイ属	-	-	1	1	2	3	-	2	-	3	-	-	-	4	2	1	1	2	3	-
イノモトソウ属	-	-	1	-	-	-	1	2	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	3
ミズワラビ属	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウモ	-	-	-																	



- 1. マツ属 (Ⅱ区SR1;35)
- 2. スギ属 (Ⅱ区SR1;22)
- 3. コナラ属アカガシ亜属 (Ⅱ区SR1;22)
- 4. サワグルミ属 (Ⅱ区SR1;3)
- 5. クルミ属 (Ⅱ区SR1;22)
- 6. ハンノキ属 (Ⅱ区SR1;3)
- 7. ブナ属 (Ⅱ区SR1;22)
- 8. クリ属 (Ⅱ区SR1;28)
- 9. コナラ属コナラ亜属 (Ⅱ区SR1;22)
- 10. ニレ属-ケヤキ属 (Ⅱ区SR1;22)
- 11. トチノキ属 (Ⅱ区SR1;22)

50 μm
(1~11)



- 12. ガマ属 (Ⅱ区SR1;28)
- 13. オモダカ属 (Ⅱ区SR1;3)
- 14. イネ科 (Ⅱ区SR1;28)
- 15. イネ科(イネ属型) (Ⅱ区SR1;35)
- 16. カヤツリグサ科 (Ⅱ区SR1;35)
- 17. サナエタデ節-ウナギツカミ節 (Ⅱ区SR1;35)
- 18. ゴキヅル属 (Ⅱ区SR1;22)
- 19. ヨモギ属 (Ⅱ区SR1;28)

50 μm
(12~16・18・19) 50 μm
(17)

第152図 平成28年度花粉化石写真-2

E. Ⅱ区SR2 (試料番号81・82)

花粉化石は、試料番号81・82のいずれからも豊富に産出し、保存状態も比較的良好である。群集組成は木本花粉の出現率が高く、スギ属が多産し、試料番号82ではハンノキ属も多く産出する。この他、マ

第151図 平成28年度花粉化石写真-1

ツ属、クマシデ属ーアサダ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ属、モチノキ属などを伴う。草本花粉は、イネ科が最も多く産出する。また、イネ科花粉にはイネ属型も認められ、その割合は試料番号81が1.5%、試料番号82が7.7%程度である。この他、カヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属などを伴い、ガマ属、ミクリ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ヒシ属、ゴキヅル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属などの水湿地生シダ類も産出する。

F. Ⅲ区SD1 (試料番号84・85)

試料番号84は花粉化石の産出状況が悪く、保存状態も悪い。木本花粉はブナ属、モチノキ属などが、草本花粉はイネ科、カヤツリグサ科、キク亜科などが産出するが、それぞれ1～2個体程度である。

試料番号85は花粉化石が豊富に産出し、保存状態も試料番号84と比較すると良好である。木本花粉の出現率が高く、スギ属、ハンノキ属が多産し、マツ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ属などを伴う。草本花粉は、イネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ヨモギ属などを伴う。また、イネ属型も認められ、その割合は10.5%である。この他、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ゴキヅル属などの水湿地生草本も産出する。

2) 平成29年度 (第153～156図、第17表)

A. Ⅲ区SR2・C層 (試料番号8～10)

下位の試料番号10では、樹木花粉の占める割合が高く約80%を占める。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属アカガシ亜属、トチノキの出現率がやや高く、クルミ属、スギ、エノキ属ームクノキ、クマシデ属ーアサダ、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科、ヨモギ属、イネ科が低率に出現する。試料番号9になると樹木花粉の占める割合が65%になり、樹木・草本花粉の割合が増加する。樹木花粉のハンノキ属、コナラ属アカガシ亜属が減少し、スギ、トチノキ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属は微増する。樹木・草本花粉のクワ科ーイラクサ科の出現率が比較的高い。上部の試料番号8では、樹木花粉が77%を占めるようになりコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クルミ属が増加する。樹木・草本花粉では、比較的出现率の高かったクワ科ーイラクサ科が減少しニワトコ属ーガマズミ属が増加する。

B. Ⅲ区SR2間層2 (洪水層) (試料番号7)

ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属の出現率がやや高く、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、クルミ属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、トチノキ、ブドウ属などが多様に出現する。他に樹木・草本花粉のクワ科ーイラクサ科の出現率が比較的高い。

C. Ⅲ区SR2・B層 (試料番号3～5)

下位の試料番号5では、ハンノキ属が優占する。スギ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属ームクノキ、トチノキの出現率がやや高い。試料番号4では、樹木花粉が87%を占め、クリが高率に出現する。草本花粉では、イネ科にイネ属型が伴われるようになり、カヤツリグサ科が伴われる。試料番号3では、クリが激減し、ハンノキ属、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属の出現率がやや高く、ブナ属、エノキ属ームクノキ、トチノキが低率に出現する。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ科 (イネ属型を含む)、ゴキヅルが低率に出現し、オモダカ属、ヒシ属が検出される。

D. Ⅲ区SR2間層1 (洪水層) (試料番号2・6)

試料番号6では、密度が極めて低く花粉はほとんど検出されないが、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜

第17表 平成29年度花粉分析結果一覧表

種類	Ⅲ区SR2										Ⅳ区SR1							
	5層	9層	16層	20層	23層	11層	27層	28層	30層	33層	1b層	2a層	3b層	4a層	5層	6層	7層	8層
樹木花粉	1	2									11	12	13	14	15	16	17	18
マキ属		2												2				1
モミ属	1		2		1							1	1	1				
ツガ属	1	2							1		1		1					1
マツ属複維管束亜属	4	1	4	1			4	1	3	6	2	5	5	1	1	2	1	1
マツ属単維管束亜属	1													1				
スギ	56	42	46	14	37	2	15	15	24	12	46	58	80	39	26	25	8	56
コウヤマキ									1	2	1							
イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科	15	18	25	9	15	2	16	12	5	4	8	16	22	19	34	8	9	25
ヤナギ属	2	2				2	2	12	2	1		1		3	12	4	1	3
クルミ属	2	4	4	1	6		16	38	11	15		4	4	18	19	7	6	15
サワグルミ		1	1	1	4		1	7	2	6		2	2	6	7	1	2	
ノグルミ	1																	
ハンノキ属	35	60	80	29	157	11	71	30	23	47	137	142	156	89	19	95	169	52
カバノキ属	1	1			3		2	1	3	1	1	2			4	2		
ハシバミ属														1				
クマシデ属ーアサダ	2	4	2	3	2	1	6	5	5	10	3	5	4	5	9	2	5	8
クリ	7	15	35	216	9	3	4	3	17	2	6	20	21	15	4	6	8	16
シイ属	1	7	6	1	3		4	2	5	5	8	6	16	4	1	3	2	3
ブナ属	11	13	9	3	6		11	9	14	6	2	4	9	12	13	8	11	6
コナラ属コナラ亜属	45	55	50	6	28	4	48	51	16	9	10	27	46	32	37	33	9	25
コナラ属アカガシ亜属	50	35	39	9	34	1	21	33	6	39	19	17	25	32	34	19	30	50
ニレ属ーケヤキ	11	4	3	2	8	1	11	11	11	4	4	5	14	17	33	6	1	2
エノキ属ームクノキ	23	11	12	4	25		18	12	7	12	4	4	3	17	14	3	13	22
アカメガシワ	1																	
サンショウ属												1	1					
キハダ属									1						2		2	3
ウルシ属	2	1	1															
モチノキ属	1	1	1				5			1	4							
ニシキギ科	1				1		1	2			1							
カエデ属		2	1		3		1			2				2	1	1		
トチノキ	4	6	15	9	18	3	24	22	35	24	2	7	21	35	37	16	14	15
ムクロジ属	1						1		1									
ブドウ属			1		2		17						2		1		2	
ノブドウ	1		1		1		2											
ミズキ属							1						1					
ツツジ科		1																1
ハイノキ属	4																	
エゴノキ属	1	2	1					1		1			1					
モクセイ科		1		1	1					2								
トネリコ属	3	3	5		6		2	4	3	5				1	6		32	1
樹木・草本花粉	14	10	8	5	10	1	24	19	34		13	3	1	12	4	9	4	8
クワ科ーイラクサ科					1		1	1	1					1		2		
ユキノシタ科							4									1		
バラ科							1	2								1		
マメ科	1						1									1		
ウコギ科					1			2		3			1	2	1			
ゴマノハグサ科							1											
ニワトコ属ーガマズミ属	2			1			3	20	1					2				
草本花粉	13	4	2										1					1
ガマ属ーミクリ属		1																
サジオモダカ属																		
オモダカ属			1										3	2	1			
イネ科	79	17*	12	11	3		3	5	1	3	67	17	7	2	4	2		1
イネ属型	2	4	10	6							18	2	3					
カヤツリグサ科	66	4	23	10	27		5	4	6	6	13	56	73	71	8	73	20	55
イボクサ													2					
ネギ属							1											
タデ属										1								
タデ属サナエタデ節	2	1	1		2		1				5		4	1		2		1
ギンギン属	3		1	1						1		2			1	1		
アカザ科ーヒユ科	1					2	1	2					1	5		2		
ナデシコ科				1							1	1						
キンボウグ属								1		1	1							
カラマツソウ属								1	1						1			
アブラナ科											2	1						
ツリフネソウ属	6				1		1	3	2		2	2	2	1				
ヒシ属			1															
アカバナ科		1									2							
チドメグサ亜科											2							
セリ亜科	6	1	5	1	2				1		3		1	2		5		
ナス科										2								
ゴキヅル	12	10	8		5		2	3				1	5	13	8	1	6	13
タンポポ科				1												1		
キク亜科	2	1	1		1						5	1		1		1		
オナモミ属	1																	
ヨモギ属	10	1	3		2	1	1	2	8	3	16	5	5	4	2	3	5	4
シダ植物胞子																		
単条溝胞子	12	15	23	8	11	23	26	14	40	36	76	40	15	23	17	22	5	5
三条溝胞子	1	2	3	2	3	4	2	2	9	6	8	2	6	3	9	3	1	

種類	Ⅲ区SR2										Ⅳ区SR1							
	5層	9層	16層	20層	23層	11層	27層	28層	30層	33層	1b層	2a層	3b層	4a層	5層	6層	7層	8層
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
樹木花粉	286	296	344	309	372	30	304	271	195	217	259	327	437	350	314	242	326	305
樹木・草本花粉	17	10	8	6	12	1	34	44	36	3	13	3	2	17	5	13	4	8
草本花粉	203	28	68	31	43	3	16	20	20	16	146	88	107	102	25	91	31	75
花粉総数	506	334	420	346	427	34	354	335	251	236	418	418	546	469	344	346	361	388
試料1cm ² 中の花粉密度	3.0	4.4	2.5	2.7	1.2	2.9	7.4	8.4	2.1	3.0	8.2	6.5	5.6	4.0	3.9	2.7	1.2	2.9
	×10 ⁵	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ²	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴
未同定花粉	9	13	11	7	16	2	13	14	8	15	4	4	4	6	12	8	7	8
シダ植物胞子	13	17	26	10	14	27	28	16	49	42	84	42	21	26	26	25	6	5
寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
回虫卵											2							
毛細線虫属卵																		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
試料1cm ² 中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0
											×10				×10			
石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
微細炭化物・微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
微細植物遺体 (×10 ³)																		
未分解遺体片	9.4	3.4	2.7	2.7	2.5		1.0	1.1	0.8	5.6	5.7	5.7	2.9	3.1	6.9	6.3	0.3	1.9
分解質遺体片	25.0	3.4	3.4	6.1		0.8	1.6	1.1	2.1	0.6	24.1	19.5	5.2	4.4	2.3	2.5	4.4	1.9
炭化遺体片	7.8	0.6				0.4	0.5	0.6	0.4		5.7	2.3		0.6	1.1		1.3	1.9

*:集塊

属、クリ、トチノキなどがわずかに出現する。試料番号2では、スギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属の出現率がやや高く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クリ、ブナ属、エノキ属-ムクノキが低率に伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ科（イネ属型を含む）、ゴキヅル、ガマ属-ミクリ属が低率に出現する。

E. Ⅲ区SR2・A層（試料番号1）

草本花粉が増加し約40%を占める。樹木花粉では、スギ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属の出現率がやや高く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、エノキ属-ムクノキ、ニレ属-ケヤキが出現する。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科を主にガマ属-ミクリ属、ゴキヅル、ヨモギ属、ツリフネソウ属、セリ亜科が低率に出現する。

F. Ⅳ区SR1 6層から8層 I帯（試料番号16~18）

樹木花粉が80%前後を占める。樹木花粉では、ハンノキ属の出現率が高く、スギ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属の出現率がやや高く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ、トチノキが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科を主にゴキヅル、ヨモギ属が出現する。

G. Ⅳ区SR1 5層 II帯（試料番号15）

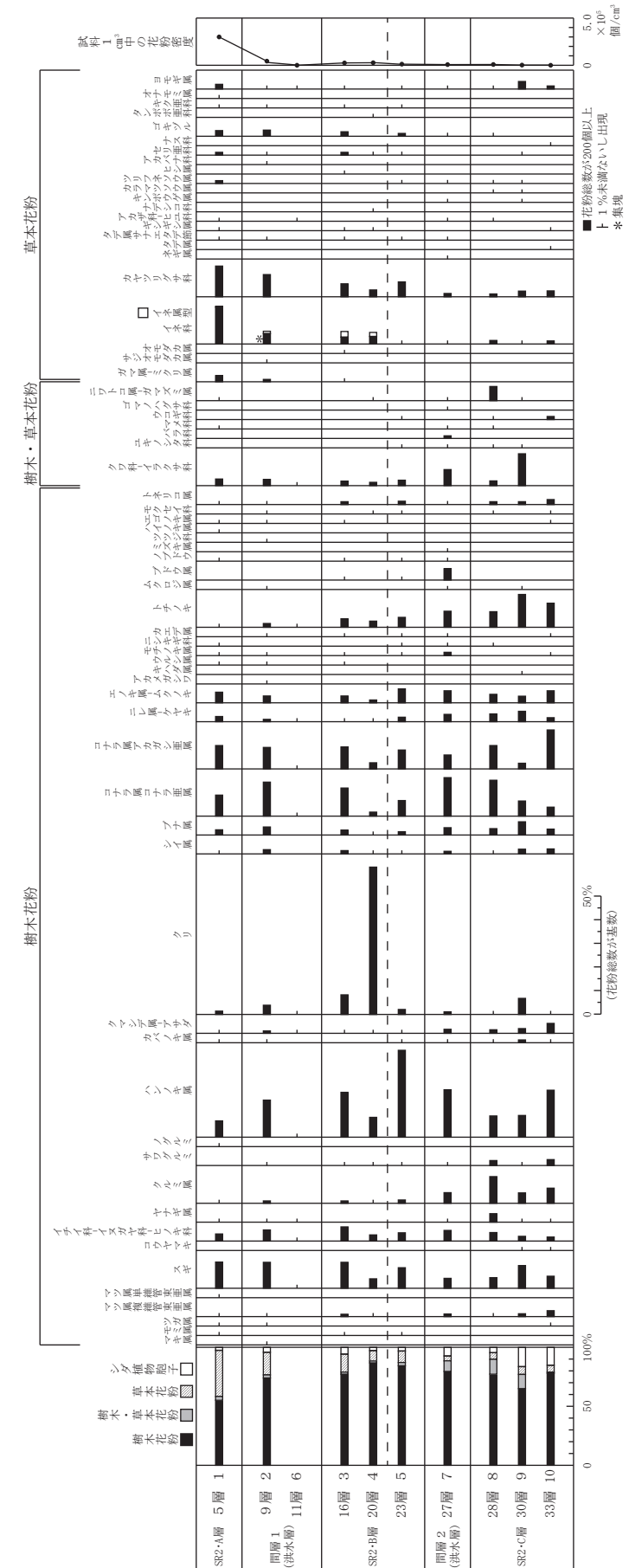
ハンノキ属がやや低率になり、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキ、クルミ属、ブナ属、針葉樹のイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科やスギの出現率がやや高い。草本花粉は低率でイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が出現する。

H. Ⅳ区SR1 2a層から4a層 III帯（試料番号12~14）

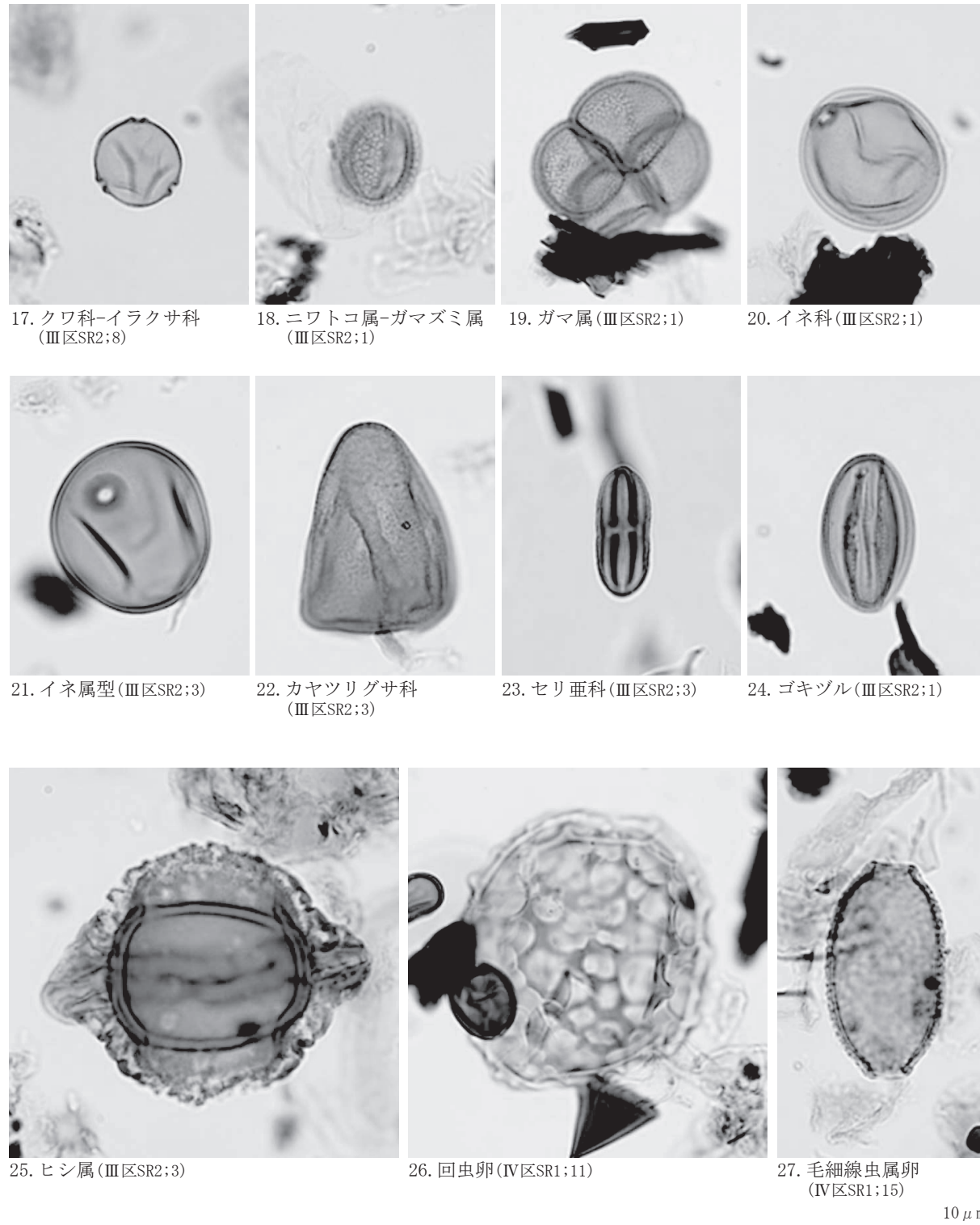
樹木花粉の占める割合が草本花粉より高く、ハンノキ属、スギが上位に向かって増加する。コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキは減少する。草本花粉では、カヤツリグサ科が比較的多い。他にクリおよびイネ科は微増する。

I. Ⅳ区SR1 1b層 IV帯（試料番号11）

樹木花粉が52%、草本花粉が29%を占める。樹木花粉では、ハンノキ属の出現率がやや高く、次いでスギ、コナラ属アカガシ亜属が多い。草本花粉では、イネ科にイネ属型が伴われ、ヨモギ属、カヤツリ



第153図 平成29年度Ⅲ区花粉化石群集変遷図



第156図 平成29年度花粉化石写真-2

グサ科が伴われる。わずかに回虫卵が検出される。

5 種実遺体分析の結果

1) 平成28年度 (第157~159図、第18表)

分析に供された4試料を通じて、裸子植物1分類群(針葉樹のイヌガヤ)の葉が7個、被子植物101

分類群(広葉樹のオニグルミ、ハンノキ属、ナラガシワ、コナラ属、クリ、ムクノキ、クワ属、カジノキ、マタタビ近似種、マタタビ属、ヒサカキ属、ノイバラ節、コクサギ?、サンショウ、キハダ、イロハモミジ類、メグスリノキ近似種、カエデ属(カジカエデ?、偏平細身、偏平)、トチノキ、ケンボナシ属?、クマヤナギ属、ノブドウ、ブドウ科、キブシ、ミズキ、タラノキ、ツツジ科、エゴノキ、ムラサキシキブ属、キリ、ニワトコ、草本のサジモモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、コバノヒルムシロ近似種、ヒルムシロ属(A、B)、コナギ近似種、イボクサ、イネ、イネ科(イヌビエ属?、シバ類?、他)、ミクリ属、アゼスゲ類、ヌカスゲ類、スゲ属(A、B、他)、ウキヤガラ、フトイ近似種、サンカクイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ属、カヤツリグサ科、カナムグラ、ミズ属、カラムシ属、ギシギシ属、ミゾソバ、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属(2面平滑、3面平滑、3面粗面)、アカザ属、タガラシ、キンボウゲ属、ハスノハカズラ-ツヅラフジ、コウホネ属、ミズオトギリ、アブラナ科、ヤブヘビイチゴ近似種、クサネム、ヒメミカンソウ、ツリフネソウ、スマレ属、ゴキヅル、スズメウリ、マクワ・シロウリ型、メロン類、ミズユキノシタ、チドメグサ属、ヤブジラミ属、セリ科、オカトラノオ属、キランソウ属、エゴマ、シソ属、シソ属-イヌコウジュ属、シロネ属、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、カノコソウ属、タカサブロウ、メナモミ属、ヤブタビラコ)の種実が755個の、計762個の大型植物遺体が同定された。分析残渣は、植物片(木材、炭化材、広葉樹の葉片、双子葉類の葉、芽、蘚苔類の茎・葉など)を主体とし、この他に昆虫類、二枚貝類の殻皮、砂礫類なども確認された。なお、試料番号46-2や試料番号47では木本類が多く、試料番号48-2や試料番号49では昆虫類が多い。

大型植物遺体の出土個数は、試料番号46-2(200cc/222g)が112個(木本78個・草本34個)、試料番号47(100cc/135g)が122個(木本72個・草本50個)+33個(100cc/129g:木本25個・草本8個)、試料番号48-2(100cc/116g)が270個(木本7個・草本263個)+25個(100cc/125g:木本2個・草本23個)、試料番号49(50cc/59g)が157個(木本5個・草本152個)+43個(150cc/189g:木本9個・草本34個)である。試料番号46-2と試料番号47は木本を主体とする組成、試料番号48-2と試料番号49は草本を主体とし、多くの水湿地生植物や栽培種を含む組成からなる。

栽培種は、試料番号49よりイネの穎が17個(2個炭化)、試料番号48-2よりキリの種子が1個、イネの穎が14個、マクワ・シロウリ型を含むメロン類の種子が3個、試料番号47よりエゴマの果実が2個の他、試料番号47~49より栽培の可能性があるシソ属の果実が3個、試料番号48-2と試料番号49よりシソ属-イヌコウジュ属の果実が32個確認された。なお、試料番号49より11個確認されたイネ科(イヌビエ属?)は、栽培種のヒエに由来する可能性があるが、湿生草本のイヌビエとの区別が難しいことから、本報告では野生種と一括して取り扱っている。

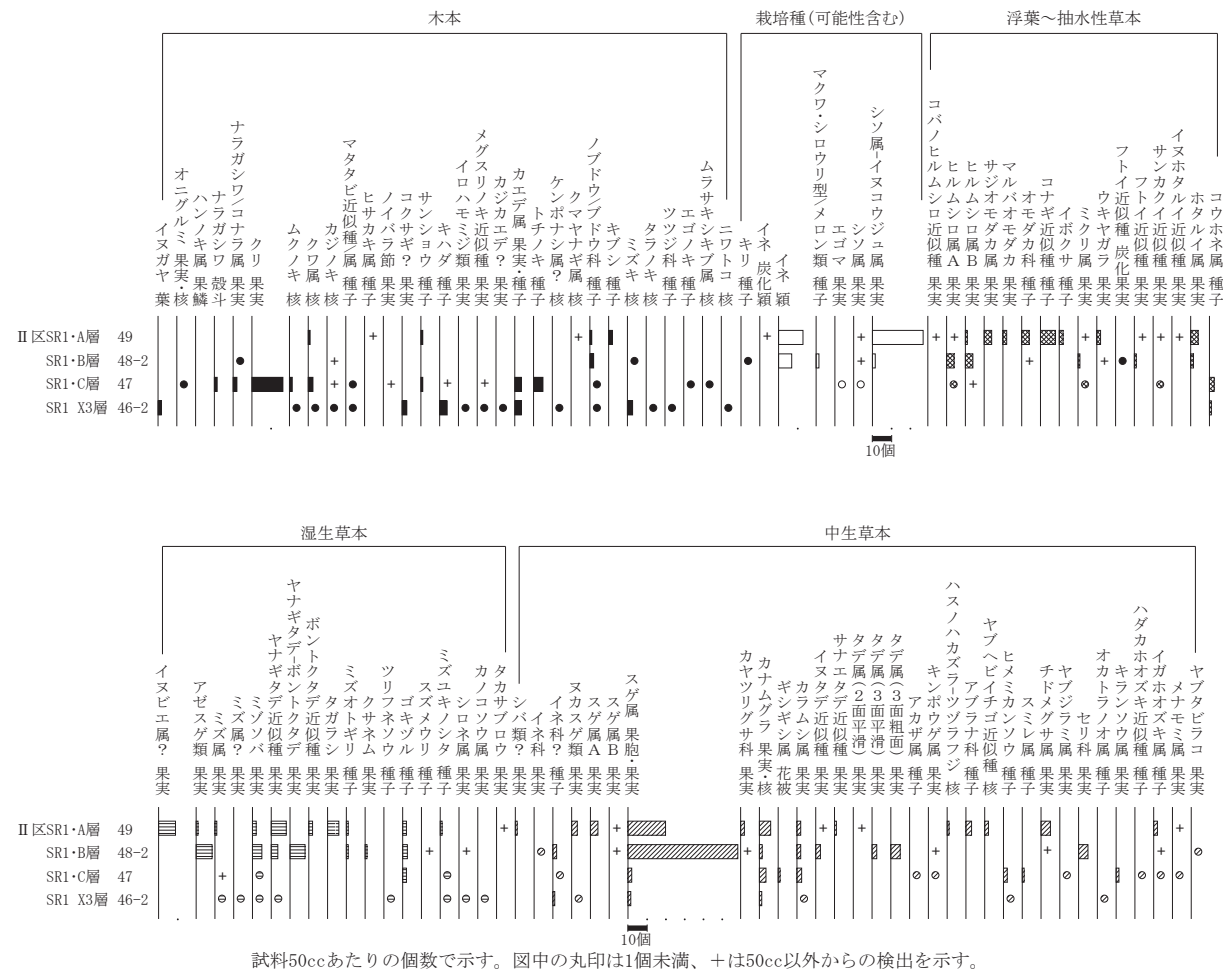
栽培と栽培の可能性を除いた大型植物遺体群は、木本は、常緑小高木~低木のイヌガヤ、ヒサカキ属、落葉高木のオニグルミ、ハンノキ属、ナラガシワ、コナラ属、クリ、ムクノキ、クワ属、カジノキ、キハダ、イロハモミジ類、メグスリノキ近似種、カエデ属(カジカエデ?、偏平細身、偏平)、トチノキ、ケンボナシ属?、ミズキ、落葉小高木のエゴノキ、落葉小高木または低木のキブシ、落葉低木のノイバラ節、コクサギ?、サンショウ、クマヤナギ属、タラノキ、ツツジ科、ムラサキシキブ属、ニワトコ、落葉藤本のマタタビ近似種、マタタビ属、ノブドウ、ブドウ科が確認され、分類群数、個数ともに試料番号48-2と試料番号49で減少する。河畔林要素を主体とし、林縁や二次林などの明るく開けた場所を好んで生育する樹種から構成される。

第18表 平成28年度種実分析結果一覧表

分類群	部位・状態	II区SR1				備考		
		8層 49	16b層 48-2	19層 47	X3層 46-2			
木本								
イヌガヤ	葉(頂部)	破片	-	-	-	3		
	葉	破片	-	-	-	4		
	核	破片	-	-	1	-	半分, 基部果実残存	
オニグルミ	果鱗	完形	-	6	-	-		
ハンノキ属	殻斗	破片	-	-	3	-		
ナラガシワ	果実(頂部)	破片	-	-	1	-		
コナラ属 (ナラガシワ?)	果実(基部)	破片	-	-	3	-		
コナラ属	果実	破片	-	1	-	-		
クリ	果実(基部)	破片	-	-	6	6		
	果実	破片	-	-	27	15	最大17.70mm	
ムクノキ	核	破片	-	-	3	-		
クワ属	核	完形	1	-	-	3		
		破片	-	-	2	-		
カジノキ	核	完形	-	-	1	-		
		破片	-	-	1	-		
マタタビ近似種	種子	破片	-	-	-	1	長さ1.77mm	
マタタビ属	種子	破片	-	-	1	-		
ヒサカキ属	種子	破片	-	1	-	-		
ノイバラ節	果実	破片	-	-	-	1		
コクサギ?	果実	破片	-	-	-	10		
サンショウ	種子	破片	1	-	-	2		
キハダ	種子	破片	-	-	-	1		
イロハモミジ類	果実	完形	-	-	-	1		
メグスリノキ近似種	果実	完形	-	-	-	1	粗面, 厚みがある	
カエデ属 (カジカエデ?)	果実	完形	-	-	-	2		
カエデ属 (偏平細身)	果実	完形	-	-	-	1		
カエデ属 (偏平)	果実	完形	-	-	-	4		
	果実・種子	破片	-	-	2	-		
		完形	-	-	1	-		
	種子	完形	-	-	1	-	扁平	
		破片	-	-	3	-	扁平	
トチノキ	種子	破片	-	-	10	-	最大15.55mm	
ケンボナシ属?	核	完形	-	-	-	1	長さ5.77mm, 幅5.12mm, 厚さ2.72mm	
クマヤナギ属	核	完形	-	2	-	-		
ノブドウ	種子	破片	-	1	1	1		
ブドウ科	種子	破片	1	-	3	-		
キブシ	種子	破片	2	-	-	-		
ミズキ	核	破片	-	1	-	-	11	
タラノキ	核	完形	-	-	-	-	2	
ツツジ科	種子	完形	-	-	-	-	1	
エゴノキ	種子	破片	-	-	1	-		
ムラサキシキブ属	核	完形	-	-	1	-		
キリ	種子	完形	-	1	-	-		
ニワトコ	核	完形	-	-	-	1		
草本種実								
サジオモダカ属	果実	完形	4	-	-	-		
マルバオモダカ	果実	完形	1	2	-	-	浮葉~抽水性多年草	
		破片	1	-	-	-		
オモダカ科	種子	完形	4	-	1	-		
コバノヒルムシロ近似種	果実	完形	-	1	-	-		
ヒルムシロ属A	果実	完形	-	1	5	3	1	大型
	果実(背面)	破片	-	-	3	-	-	小型
ヒルムシロ属B	果実	破片	1	-	6	-	2	
	果実(背面)	破片	-	-	2	-	-	
コナギ近似種	種子	完形	8	-	-	-	-	
イボクサ	種子	完形	1	1	-	-	-	
		破片	1	-	-	-	-	
イネ	穎(基部)	破片	-	1	2	-	-	残存長3mm
	穎	破片	13	1	12	-	-	
	炭化穎(基部)	破片	-	1	-	-	-	
	炭化穎	破片	-	1	-	-	-	
イネ科 (イヌビエ属?)	果実	完形	-	2	-	-	-	
		破片	9	-	-	-	-	
イネ科 (シバ類?)	果実	完形	1	1	-	-	-	
イネ科	果実	完形	-	-	1	-	-	
イネ科?	種子	完形	-	-	4	-	1	4
ミクリ属	果実	完形	-	2	1	2	1	-
		破片	-	-	1	-	-	-
アゼスグ類	果実	完形	1	-	15	-	-	-
		破片	-	-	2	-	-	-
ヌカスグ類	果実	完形	-	-	-	-	-	1
		破片	3	-	-	-	-	-
スグ属A	果実	破片	4	-	-	-	-	3面大型, 果皮厚い
スグ属B	果実	完形	-	2	1	-	-	3面, 頂部伸びる
スグ属	果胞	完形	-	-	1	1	-	-
	果胞・果実	完形	-	-	2	-	-	-
	果実	完形	11	-	50	-	1	-
		破片	9	-	64	-	3	-
ウキヤガラ	果実	完形	2	-	1	-	-	3面, 複数種
フトイ近似種	果実	完形	-	1	1	-	-	長さ2.50mm
		破片	1	-	1	-	-	-
	炭化果実	完形	-	-	1	-	-	-
サンカクイ近似種	果実	完形	-	1	-	1	-	長さ:49:3.04mm, 47:2.70mm
イヌホタルイ近似種	果実	完形	-	1	-	-	-	-

分類群	部位・状態	II区SR1				備考		
		8層 49	16b層 48-2	19層 47	X3層 46-2			
ホタルイ属	果実	完形	4	-	1	1	-	-
		破片	-	-	2	-	-	-
カヤツリグサ科	果実	完形	2	1	-	1	-	-
カナムグラ	果実・核	破片	-	1	-	-	-	-
	核	完形	-	-	-	-	2	-
		破片	6	-	3	1	7	-
ミズ属	果実	完形	1	-	-	-	-	1
ミズ属?	果実	完形	-	-	-	-	-	2
カラムシ属	果実	完形	1	-	-	2	3	-
		破片	1	-	4	-	2	-
ギシギシ属	花被	完形	-	-	-	-	2	-
	果実	完形	-	1	2	-	-	-
		破片	2	1	8	-	1	-
イヌタデ近似種	果実	完形	-	-	-	1	-	-
		破片	-	1	5	-	-	-
ヤナギタデ近似種	果実	完形	2	1	2	1	-	-
		破片	6	-	5	-	-	2
ヤナギタデ-ポントクタデ	果実	破片	-	-	16	-	-	-
ポントクタデ近似種	果実	破片	2	-	-	-	-	-
サナエタデ近似種	果実	完形	1	-	-	-	-	-
タデ属(2面平滑)	果実	完形	-	1	-	-	-	-
タデ属(3面平滑)	果実	完形	-	-	1	-	-	-
		破片	-	-	4	-	-	-
タデ属(3面粗面)	果実	破片	-	-	10	-	-	-
アカザ属	種子	破片	-	-	-	1	-	-
タガラシ	果実	完形	3	-	-	-	-	-
		破片	3	-	-	-	-	-
キンボウゲ属	果実	完形	-	-	1	1	-	-
ハスノハカズラ-ツツラフジ	核	破片	1	-	-	-	-	-
コウホネ属	種子	破片	-	-	-	5	-	4
ミズオトギリ	種子	完形	1	1	2	1	-	-
アブラナ科	種子	完形	3	-	-	-	-	-
ヤブヘビイチゴ近似種	核	完形	-	1	-	-	-	-
		破片	2	-	-	-	-	-
クサネム	果実	破片	-	-	2	-	-	-
ヒメミカンソウ	種子	完形	-	-	-	3	1	1
		破片	-	-	-	1	-	-
ツリフネソウ	種子	破片	-	-	-	-	-	1
スマレ属	種子	完形	-	-	-	-	1	-
		破片	-	-	-	1	-	-
ゴキソル	種子	破片	2	-	5	-	4	-
スズメウリ	種子	破片	-	-	1	-	-	-
マクワ・シロウリ型	種子	破片	-	-	1	-	-	-
メロン類	種子	破片	-	-	2	-	-	-
ミズユキノシタ	種子	完形	1	-	-	-	1	-
チドメグサ属	果実	完形	-	1	-	-	-	-
		破片	5	-	1	-	-	-
ヤブジラミ属	果実	完形	-	-	-	1	-	-
セリ科	果実	完形	-	-	9	-	-	-
		破片	-	-	1	-	-	-
オカトラノオ属	種子	完形	-	-	-	-	-	1
キランソウ属	果実	完形	-	-	-	2	-	-
		破片	-	-	-	1	-	-
エゴマ	果実	破片	-	-	-	1	1	-
シソ属	果実	完形	-	1	-	1	-	-
シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	4	2	-	-	-	-
		破片	23	-	3	-	-	-
シロネ属	果実	完形	-	-	1	-	-	1
ハダカホオズキ近似種	種子	破片	-	-	-	1	-	-
イガホオズキ属	種子	完形	-	-	1	1	-	-
		破片	2	-	-	-	-	-
カノコソウ属	果実	完形	-	-	-	-	-	1
タカサプロウ	果実	完形	-	1	-	-	-	-
メナモミ属	果実	完形	-	-	-	1	-	-
		破片	-	1	-	-	-	-
ヤブタバコ	果実	完形	-	-	1	-	-	-
合計			5	9	7	2	72	25
木本葉・種実			153	34	263	23	49	8
草本種実			158	43	270	25	121	33
合計			158	43	270	25	121	33
分析残渣 ¹⁾								
木材			++	-	+++	-	+++	-
炭化材			+	-	++	-	+	-
広葉樹の葉片			+	-	-	-	+	+++
双子葉類の葉			-	-	+	-	+	+
芽			+	-	+	-	+	++
植物片			+++	-	+++	-	+++	-
蘚苔類の茎・葉			+	-	+	-	+	++
昆虫類			++	-	++	-	+	+
二枚貝類の殻皮			-	-	+	-	+	-
砂礫類			-	-	-	-	+	-
分析量			50	150	100	100	100	200
			59	189	116	125	135	229
抽出同定対象 ²⁾			A	B	A	B	A	B

1) -:未検出, +:少量, ++:中量, +++:多量.
2) A:全分類群, B:新たな分類群など



第157図 平成28年度種実遺体群集変遷図

草本は、浮葉植物のコバノヒルムシロ近似種、ヒルムシロ属 (A、B)、抽水植物のサジオモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、コナギ近似種、イボクサ、ミクリ属、ウキヤガラ、フトイ近似種、フトイ近似種、サンカクイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ属、コウホネ属、湿生植物のイネ科 (イヌビエ属?)、アゼスゲ類、ミズ属、ミゾソバ、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、タガラシ、ミズオトギリ、クサネム、ツリフネソウ、スミレ属、ゴキヅル、スズメウリ、ミズユキノシタ、シロネ属、カノコソウ属、タカサブロウなどの水湿地生植物や、湿った場所にも乾いた場所にも生育可能な中生草本のイネ科 (シバ類?、他)、ヌカスゲ類、スゲ属 (A、B、他)、カヤツリグサ科、カナムグラ、ギシギシ属、カラムシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属 (2面平滑、3面平滑、3面粗面)、アカザ属、キンボウゲ属、ハスノハカズラーツツラフジ、アブラナ科、ヤブヘビイチゴ近似種、ヒメミカンソウ、チドメグサ属、ヤブジラミ属、セリ科、オカトラノオ属、キランソウ属、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、メナモミ属、ヤブタバコが確認され、分類群数、個数ともに試料番号48-2と試料番号49で増加する。

2) 平成29年度 (第160~163図、第19表)

A. Ⅲ区SR2・C層 (試料番号8~10)

下部の33層 (試料番号10) では、樹木種実が比較的多く、オニグルミ破片1、ハンノキ属16、クマシデ属2、ヤマグワ4、コブシ破片3、アカメガシワ破片4、クマヤナギ属5、ノブドウ1、ブドウ科破



- 1. イヌガヤ 葉 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 2. オニグルミ 核 (基部果実残存) (Ⅱ区SR1;47)
- 3. ハンノキ属 果鱗 (Ⅱ区SR1;49)
- 4. クリ 果実 (Ⅱ区SR1;47)
- 5. ナラガシワ 殻斗 (Ⅱ区SR1;47)
- 6. クワ属 核 (Ⅱ区SR1;47)
- 7. カジノキ 核 (Ⅱ区SR1;48-2)
- 8. マタタビ近似種 種子 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 9. ヒサカキ属 種子 (Ⅱ区SR1;49)
- 10. キハダ 種子 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 11. イロハモミジ類 果実 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 12. メグスリノキ近似種 果実 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 13. カエデ属 (カジカエデ?) 果実 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 14. カエデ属 果実 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 15. カエデ属 果実 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 16. トチノキ 種子 (Ⅱ区SR1;47)
- 17. ケンボナシ属? 核 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 18. クマヤナギ属 核 (Ⅱ区SR1;49)
- 19. ミズキ 核 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 20. タラノキ 核 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 21. ツツジ科 種子 (Ⅱ区SR1;46-2)
- 22. ムラサキシキブ属 核 (Ⅱ区SR1;48-2)
- 23. キリ 種子 (Ⅱ区SR1;47)
- 24. ニワトコ 核 (Ⅱ区SR1;46-2)

第158図 平成28年度種実遺体写真-1



- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 25. サジオモダカ属 果実(Ⅱ区SR1;49) | 26. マルバオモダカ 果実(Ⅱ区SR1;49) |
| 27. マルバオモダカ 果実(Ⅱ区SR1;49) | 28. コバノヒルムシロ近似種 果実(Ⅱ区SR1;49) |
| 29. ヒルムシロ属 果実(Ⅱ区SR1;48-2) | 30. イボクサ 種子(Ⅱ区SR1;49) |
| 31. コナギ近似種 種子(Ⅱ区SR1;49) | 32. イネ 穎(Ⅱ区SR1;49) |
| 33. イネ科(イヌビエ属?) 果実(Ⅱ区SR1;49) | 34. ミクリ属 果実(Ⅱ区SR1;48-2) |
| 35. アゼスゲ類 果実(Ⅱ区SR1;48-2) | 36. スゲ属 果胞・果実(Ⅱ区SR1;48-2) |
| 37. スゲ属 果実(Ⅱ区SR1;49) | 38. フトイ近似種 果実(Ⅱ区SR1;48-2) |
| 39. サンカクイ近似種 果実(Ⅱ区SR1;49) | 40. ウキヤガラ 果実(Ⅱ区SR1;49) |
| 41. カナムグラ 果実・核(Ⅱ区SR1;49) | 42. カラムシ属 果実(Ⅱ区SR1;48-2) |
| 43. ミゾソバ 果実(Ⅱ区SR1;49) | 44. ヤナギタデ近似種 果実(Ⅱ区SR1;49) |
| 45. サナエタデ近似種 果実(Ⅱ区SR1;49) | 46. タガラシ 果実(Ⅱ区SR1;49) |
| 47. コウホネ属 種子(Ⅱ区SR1;46-2) | 48. ミズオトギリ 種子(Ⅱ区SR1;48-2) |
| 49. クサネム 果実(Ⅱ区SR1;48-2) | 50. ヒメミカンソウ 種子(Ⅱ区SR1;47) |
| 51. スズメウリ 種子(Ⅱ区SR1;48-2) | 52. マクワ・シロウリ型 種子(Ⅱ区SR1;48-2) |
| 53. ミズユキノシタ 種子(Ⅱ区SR1;47) | 54. チドメグサ属 果実(Ⅱ区SR1;49) |
| 55. セリ科 果実(Ⅱ区SR1;48-2) | 56. エゴマ 果実(Ⅱ区SR1;47) |
| 57. シソ属 果実(Ⅱ区SR1;48-2) | |

第159図 平成28年度種実遺体写真-2

片1、ミズキ1、ムラサキシキブ属1、オオカメノキ破片2が検出され、草本種実ではスゲ属1、カナムグラ破片7が検出された。30層(試料番号9)では、樹木種実のヤマグワ1、マタタビ1が検出され、28層(試料番号8)では草本種実のスゲ属1が検出された。

B. Ⅲ区SR2間層2(洪水層)(試料番号7)

27層(試料番号7)では、特徴的に樹木種実のニワトコが8とやや多く、他はハンノキ属1、コナラ属コナラ亜属幼果1、ヤマグワ1、コブシ破片1、ノブドウ1、ブドウ属1、ムラサキシキブ属1で、草本種実ではヒユ属1、ヤマゴボウ属2が検出された。

C. Ⅲ区SR2・B層(試料番号3~5)

下部の23層(試料番号5)は種実は少なく、樹木種実のハンノキ属3、ムクノキ1、破片3、カジノキ2、キハダ2、マタタビ2、ミズキ1、エゴノキ破片1、草本種実のスゲ属1、カヤツリグサ科1、タデ属1が検出される。20層(試料番号4)、16層(試料番号3)にかけては、上位に向かってエゴノキ属(9から17)とヤマグワ(3から8)が顕著に増加し、草本でカヤツリグサ科やスマレ属が増加する。また、コナラ属コナラ亜属の果皮片や殻斗、幼果が検出される。20層(試料番号4)では他に樹木種実のオニグルミ1、コナラ属破片9、ヤマグワ3、キイチゴ属2、マタタビ1、ヒサカキ1、エゴノキ1、破片8、ニワトコ1、樹木・草本を含むウコギ科1、スゲ属3、カヤツリグサ科13、タデ属2、タデ属サナエタデ節2、カタバミ属3、スマレ属1、キランソウ属4、シソ属2が検出された。16層(試料番号3)では他に樹木種実のコブシ1、破片1、クマヤナギ属2、ノブドウ2、破片1、ブドウ属破片1、エゴノキ3、破片14、樹木・草本を含むウコギ科1、草本種実のヘラオモダカ1、タデ属1、キランソウ属1、シソ属2が検出される。

D. Ⅲ区SR2間層1(洪水層)(試料番号2・6)

11層(試料番号6)では、樹木・草本を含むウコギ科1、草本種実のスゲ属1がわずかに検出された。9層(試料番号2)では、エゴノキ6、破片19とスマレ属8と多く、他に樹木種実のヤマグワ1、カエデ属1、マタタビ1、ムラサキシキブ属1、草本種実のオモダカ属1、カヤツリグサ科6、タデ属1が検出される。

E. Ⅲ区SR2・A層(試料番号1)

カヤツリグサ科が127と極めて多く、他に樹木種実のカジノキ1、草本種実のミクリ属6、スゲ属9、スマレ属4、シソ属2が検出される。

F. Ⅳ区SR1 6層(試料番号16)

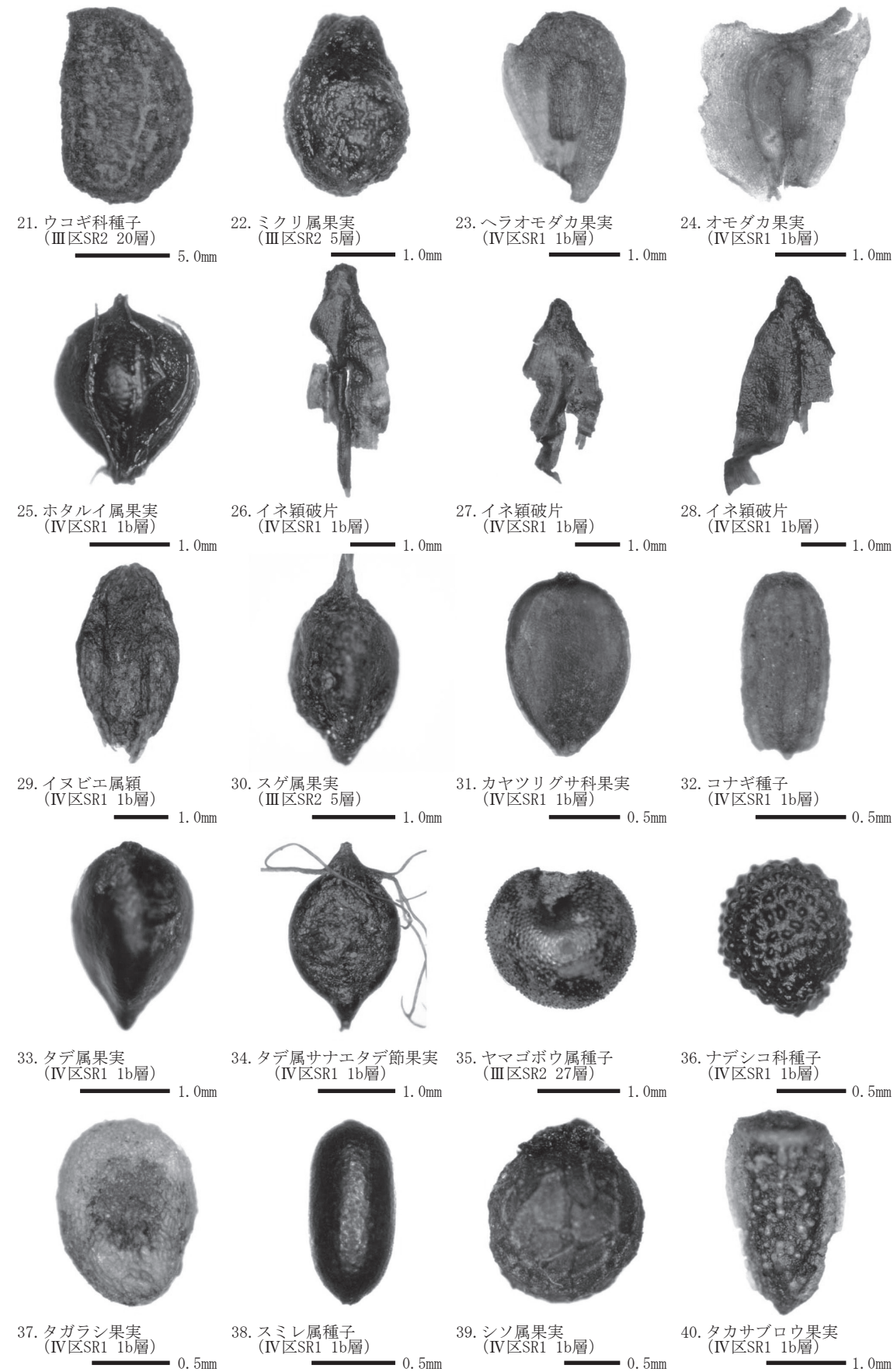
草本種実ばかりで、スゲ属8とやや多く、他にヘラオモダカ1、オモダカ属1、ミゾソバ1、スマレ属1が同定された。

G. Ⅳ区SR1 3b層から5層(試料番号13~15)

5層(試料番号15)からは草本種実のスマレ属1が検出され、4a層(試料番号14)からは草本種実のカヤツリグサ科5が検出された。3b層(試料番号13)は草本種実のオモダカ属1、カヤツリグサ科8、キジムシロ属1、スマレ属7、シソ属1が検出された。

H. Ⅳ区SR1 2a層(試料番号12)

草本ばかりで、オモダカ属2、ホタルイ属2、スゲ属21、イボクサ1、タデ属1、スマレ属36が検出された。



第163図 平成29年度種実遺体写真-2

I. IV区SR1 1b層 (試料番号11)

水生の草本種実が多く、ヘラオモダカ3、オモダカ1、オモダカ属2、イネ穎52、イヌビエ属穎14、ウキアガラ1、ホタルイ属92、スゲ属1、カヤツリグサ科21、コナギ9、イボクサ5、タデ属8、タデ属サナエタデ節2、アカザ属3、ナデシコ科54、タガラシ64、キジムシロ属8、スミレ属12、アブラナ科4、セリ亜科2、シソ属38、イヌホウズキ3、ナス科1、タカサブロウ22が検出される。樹木種実のヤマグワ3、キイチゴ属1、ムラサキシキブ属1が検出される。

6 樹種同定の結果

1) 平成28年度 (第164~166図、第20表)

自然木は、針葉樹1分類群(スギ)と広葉樹15分類群(ヤナギ属、ハンノキ属ハンノキ亜属、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、エノキ属、ツバキ属、イヌエンジュ属、キハダ、カエデ属、ツルウメモドキ属、コシアブラ、エゴノキ属、トネリコ属、ムラサキシキブ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴などを記す。

- ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属
軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。
- ・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科
散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。
- ・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus* subgen. *Alnus*) カバノキ科
散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと集合放射組織とがある。
- ・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科
散孔材で、道管は単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織までである。
- ・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科
放射孔材で、道管は単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。
- ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属
環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。
- ・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科
環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で鞘細胞が認められる。
- ・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科
散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は

第20表 平成28年度樹種同定結果一覧表

遺構・層位	試料番号	形状	直径 ¹⁾ (cm)	結果	
II区SR1	3層	ミカン割状	(>1.5)	ヤナギ属	
	3層	芯持丸木	6	—	
	6b層	芯持丸木	8×10	スギ	
	6b層	芯持丸木	5	ハンノキ属ハンノキ亜属	
	6b層	芯持丸木	9	ヤナギ属	
	7層	芯持丸木	4×9	ブナ属	
	8層	芯持丸木	3	—	
	8層	芯持丸木	3×4	ムラサキシキブ属	
	14c層	芯持丸木	8	ヤナギ属	
	14c層	芯持丸木	7×8	ヤナギ属	
	16b層	芯持丸木	4	—	
	14d層	芯持丸木	5×6	ヤナギ属	
	14c層	芯持丸木	4	エゴノキ属	
	16c層	芯持丸木	3×4	—	
	16c層	64a	分割材状	(>4.2)	コシアブラ
	16c層	64b	芯持丸木	2	—
	16c層	65	芯持丸木	4	—
	19層	66	半裁状	10	トネリコ属
	19層	67	ミカン割状	(>6)	エノキ属
	19層	68	芯持丸木	4.5	ツルウメモドキ属
	19層	69	分割材状	(>8)	—
	19層	70	半裁状	(3)	クリ
	19層	71a	芯持丸木	1	キハダ
	19層	71b	芯持丸木	3×4	イヌエンジュ属
	19層	72	分割材状	(>4)	—
	X2層	73	芯持丸木	4×5	—
	30層	74	芯持丸木	4	—
	30層	75	芯持丸木	5×6	ツバキ属
30層	76	芯持丸木	4×5	—	
X3層	77	半裁状	(4.5)	コナラ属アカガシ亜属	
X3層	78	半裁状	12	カエデ属	

1) 括弧内の数値は半径を示す。

第21表 平成29年度樹種同定結果一覧表

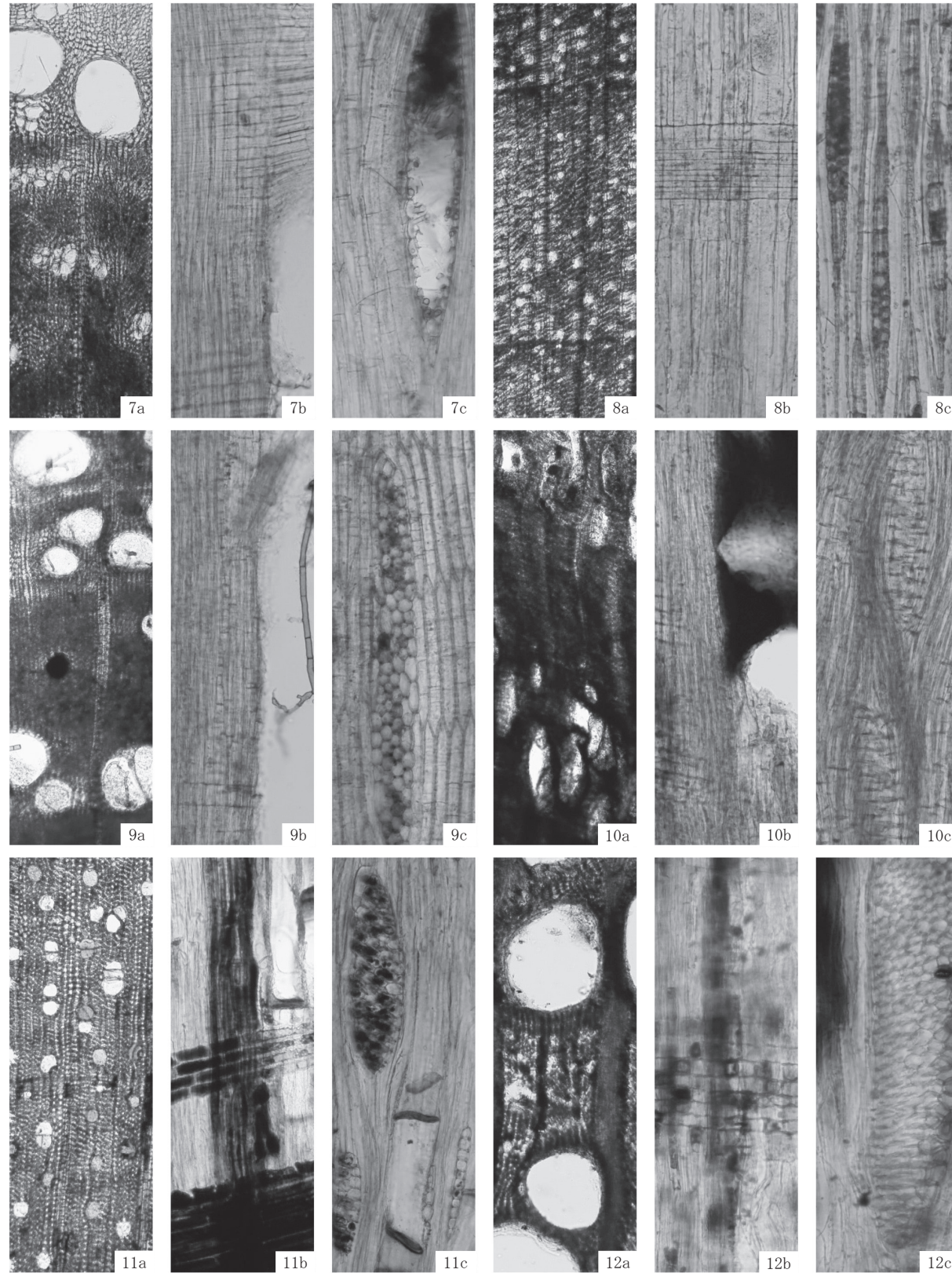
遺構・層位	試料番号	結果	遺構・層位	試料番号	結果		
III区SR2	16層	3	クリ	IV区SR1	24	ヤナギ属	
	20層	4	クルミ属		2a層	25	ミズキ属
	23層	5	ムクノキ			27	クマシデ属クマシデ節
	27層	7	クルミ属		3b層	19	タブノキ
	28層	8	クルミ属		4a層	20	タブノキ
	30層	9	モクレン属			26	クスノキ科
			5層		21	カキノキ属	
					29	クマシデ属クマシデ節	
			6層		22	クスノキ科	
					23	カキノキ属	
					28	ハンノキ属	



1. スギ(II区SR1;52) 2. ヤナギ属(II区SR1;50)
 3. ハンノキ属ハンノキ亜属(II区SR1;53) 4. ブナ属(II区SR1;55)
 5. コナラ属アカガシ亜属(II区SR1;77) 6. クリ(II区SR1;70)
 a:木口, b:柾目, c:板目

100 μm: 2~6a
 100 μm: 1a・2~6b・c
 100 μm: 1b・c

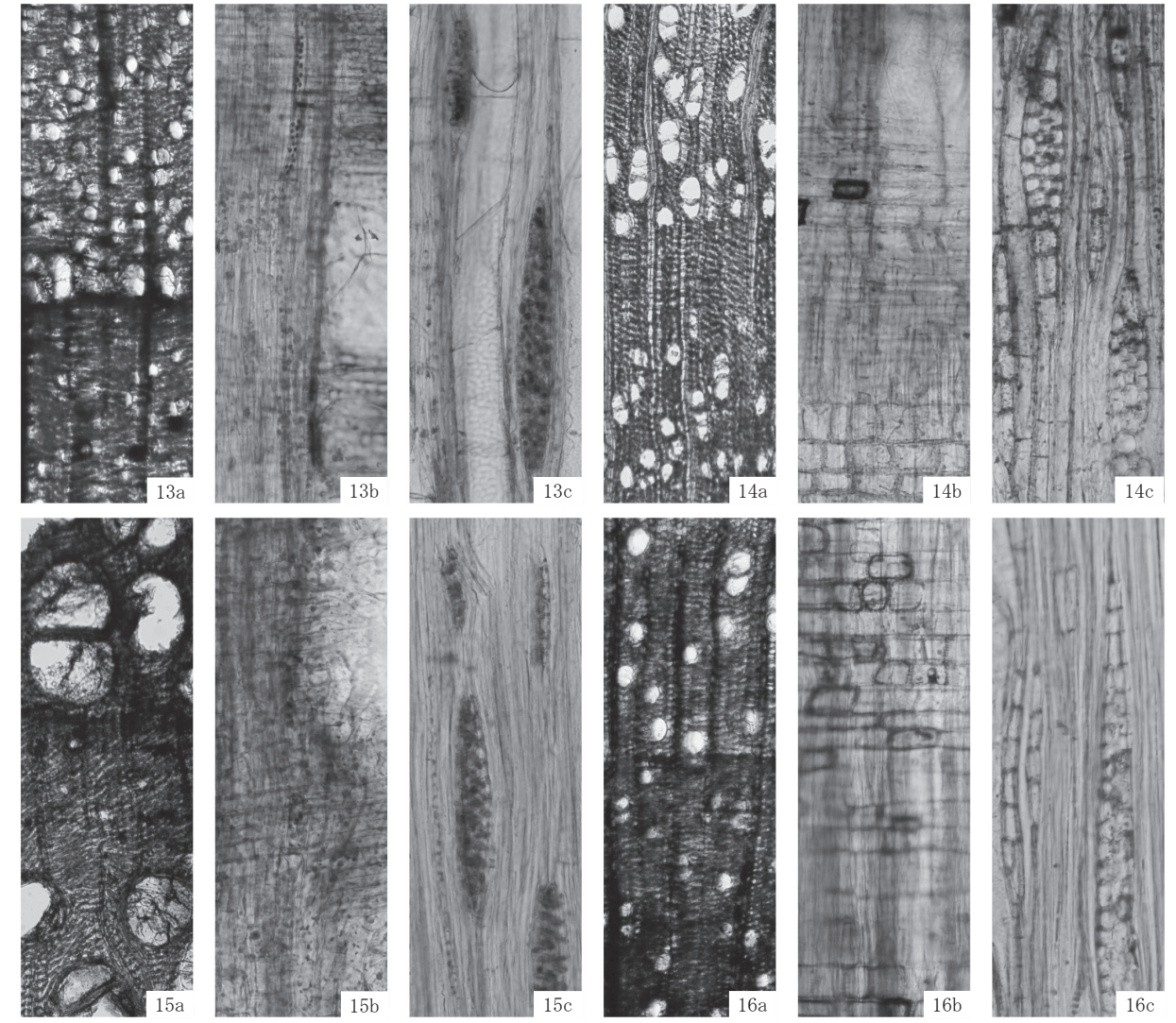
第164図 平成28年度木材断面写真-1



7. エノキ属(Ⅱ区SR1;67) 8. ツバキ属(Ⅱ区SR1;75)
 9. イヌエンジュ属(Ⅱ区SR1;71b) 10. キハダ(Ⅱ区SR1;71a)
 11. カエデ属(Ⅱ区SR1;78) 12. ツルウメモドキ属(Ⅱ区SR1;68)
 a:木口, b:柾目, c:板目

100 μm: a
 100 μm: b・c

第165図 平成28年度木材断面写真-2



13. コシアブラ(Ⅱ区SR1;64a) 14. エゴノキ属(Ⅱ区SR1;62)
 15. トネリコ属(Ⅱ区SR1;66) 16. ムラサキシキブ属(Ⅱ区SR1;57)
 a:木口, b:柾目, c:板目

100 μm: a
 100 μm: b・c

第166図 平成28年度木材断面写真-3

階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。放射組織には結晶が認められる。

- ・イヌエンジュ属 (Maackia) マメ科
 環孔材で、孔圏部は2-4列、孔圏外で緩やかに径を減じた後、多数の道管が集まって接線方向、斜方向に複合して帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。小道管は層階状に配列し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性～同性、1-6細胞幅、1-60細胞高。軸方向柔組織は、周囲状およびターミナル状。
- ・キハダ (Phellodendron amurense Ruprecht) ミカン科キハダ属
 環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外でやや急激に径を減じたのち塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-40細胞高。